

令和7年度 第4回加西市総合政策審議会

次 第

日時：令和7年9月25日（木）午後2時～

場所：加西市役所 5階 大会議室

開 会

1 会長あいさつ

2 議 事

（1）実施計画における評価・検証結果への対応について…【資料①】【資料②】

※ 例年実施している部会長からの報告は議事の都合上、省略させていただきます。

（2）後期基本計画の策定における審議会の進行等要領について…【参考資料①】

（3）後期基本計画の施策目標等における審議について…【資料③】【資料④】【参考資料②～④】

※ 3つの部会に分かれて意見交換を行います（部会分けは変更ありません）。

3 その他

閉 会

【次回開催予定】

令和7年度 第5回加西市総合政策審議会

日時：令和7年10月27日（月）14:00～

場所：加西市役所 5階 大会議室

令和7年度 第4回加西市総合政策審議会 出席者名簿

■審議会委員

氏 名	団 体 名	役 職	備 考
荒木 努	加西空き家相談室	代表	
大野 聖佳	NPO法人加西市国際交流協会	ジェネラルリーダー	
岡 信義	加西市区長会	富田地区代表区長	
岡田 美香	女性農業者	代表	
小川 仁郎	加西市シニアクラブ連合会	会長	
杉本 昇平	加西商工会議所青年部	会長	
谷勝 公代	加西市くらしと生活を守る会	会長	
辻 さやか	加西市連合PTA	副会長	
東根 光児	北条金融協会	会長	
中野 重美	加西市スポーツ推進委員会	副委員長	
濱本 泰秀	加西商工会議所	会頭	
樋口 真史	加西市労働者福祉協議会	会長	欠席
藤井 良子	賀茂幼児園PTA	会長	
和田 真理子	兵庫県立大学 国際商経学部	准教授	

(計14名 敬称略 五十音順)

■事務局

氏 名	所 属 ・ 役 職 名
高見 昭紀	政策部長
柿本 尚一	政策部政策課長
高橋 知弘	政策部政策課 課長補佐
谷口 成俊	政策部政策課 係長
香川 理宇	政策部政策課 主任
別名 柁哉	政策部政策課 主事
三宅 里彩	政策部政策課 主事

外部評価に対する今後の対応について
(令和6年度 政策・施策評価)

令和6年度 政策・施策評価結果

政策ごとの施策評価については、いずれも単年度の指標達成率のほか事業内容・規模等にも考慮しながら「A（目標を上回って達成）」、「B（目標を達成）」、「C（目標を下回っている）」、「D（目標を大きく下回っている）」の4段階区分で評価しています。

（評価結果一覧）

政策	区分	A	B	C	D
1 新しい家族と出会い、 育むための支援の充実	内部評価		2	1	
	外部評価		3		
2 子どもの教育の充実	内部評価		3		
	外部評価		3		
3 生涯にわたって学び、 楽しめる環境づくり	内部評価		2	1	
	外部評価		3		
4 くらしを支える福祉・ 医療の充実	内部評価		3		
	外部評価		3		
5 農業の再生と活性化	内部評価		3		
	外部評価		3		
6 商工業の振興と新展開	内部評価	1	2		
	外部評価		3		
7 地域資源の活用と 人の流れの創出	内部評価		2	1	
	外部評価		2	1	
8 安全・安心に暮らせる 環境の充実	内部評価		3		
	外部評価		3		
9 快適な都市空間の創出	内部評価		2		
	外部評価		2		
10 安全性と利便性が確保された都 市基盤の整備	内部評価	1	1	1	
	外部評価	1	2		
11 協創のまちづくりの推進	内部評価		3		
	外部評価		3		
12 お互いを認め、 尊重し合える社会の実現	内部評価		3		
	外部評価	1	2		
13 効率的で持続可能な 行財政の推進	内部評価	1	2		
	外部評価	1	1	1	
合 計	内部評価	3	31	4	0
	外部評価	3	33	2	0

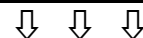
外部評価に対する今後の対応について

政策		施策	個票 ページ	主管部課		内部評価		
				部名	課名	指標	KPI達成度 (R6)	内部評価
7	地域資源の活用と人の流れの 創出	⑳	73	政策部	政策課	UJIターン者数（新規申請者数）	39.4%	D
		㉑	74	産業部	ふるさと振興課	加西市若者世帯持家促進補助金助成件数	92.5%	C
						新婚世帯向け家賃補助金新規助成件数	78.5%	
						新婚新生活支援事業補助金助成件数	29.6%	
		㉒	75	産業部	ふるさと振興課	お試し滞在施設設置数	100.0%	A
		㉓	76	地域部	まちづくり課	移住相談件数	321.1%	
						若者チャレンジ事業	0.0%	C

行政内部による評価検証 (1次評価)	総合評価	C：目標をやや下回って達成
	R6取組状況	●移住・定住の支援について、UJIターン促進補助金、若者定住促進住宅補助事業、新婚世帯向け家賃補助事業等を実施した。令和6年度は、若者定住促進住宅補助について外国人の利用者が増加している。一方で結婚新生活支援事業の活用が進まなかった。 ●移住相談施策の強化として、ワンストップ窓口での移住相談対応や相談会、ワークショップ等の開催に加え、移住検討者向けSNS「SMOUT」の使用により、気軽に相談できる環境が整ったことで相談件数が大幅に増加した。



審議会による外部評価 (2次評価)	総合評価	C：目標をやや下回って達成
	R6取組状況	●UJIターン促進補助金については、年齢制限を設けると、対象制限年齢に近づいた段階でUターンを検討する若者にとって、十分な後押しにならない可能性がある。そこで、補助期間については「補助の受給開始から一定年数」または「30歳に達するまで」のいずれか長い期間を適用するとのどうか。若い世代をUターンさせるには、奨学金の返済支援に以外の制度を設けてもよいのではないか。（政策課） ●新婚世帯向け家賃補助金について、どの年齢の夫婦であっても、一度定住することで派生効果が期待できるはずであるため、年齢制限の撤廃を提案する。（ふるさと振興課）



審議会の意見・提案等に対する今後の対応策など		
	↓ ↓ ↓ (政策課) ●UJIターン促進補助金制度は、就職から結婚までの期間に支援を行うことで移住定住を促進することを目的としている。従来の制度設計では所得超過により対象外となる方があり、本来の趣旨にそぐわないとの指摘を踏まえ、令和7年度に所得制限を廃止する方針である（令和8年度申請分から適用）。また、本市では結婚期・子育て期に対する支援施策が他市に比べて充実していることから、それぞれの支援対象期間が重複せず、かつ切れ目ない支援を行えるよう対象期間を整理した。ご指摘のとおり本制度は奨学金貸与を受けていない方には支援が及ばないため、より効果的な移住定住促進施策を引き続き検討する。	
	(ふるさと振興課) ●新婚世帯向け家賃補助制度は、若者世帯への支援が発端となっている。県内の類似制度はいずれも夫婦の年齢が合計で80歳以下の年齢制限を設けられていることから、近隣市町の動向を注視しつつ、年齢制限の撤廃について検討を進める。また、近隣市町と比較して支援内容は充実しているものの、対象世代への周知に課題があるため、今後はホームページでの見せ方を工夫するなど、より効果的な広報に努める。	

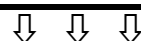
外部評価に対する今後の対応について

政策		施策	個票 ページ	主管部課		内部評価		
				部名	課名	指標	KPI達成度 (R6)	内部評価
13	効率的で持続可能な行財政の 推進	③	132	政策部	情報課	AI議事録の利用	90.4%	B
		③	133	政策部	総務課（議会事務局）	複写機等の印刷枚数	119.1%	B
		③	134	政策部	情報課	住民票・印鑑証明のコンビニ交付等の発行枚数	56.4%	C

行政内部による評価検証 （１次評価）	総合評価	B：ほぼ目標を達成					
	R6取組状況	●ICTの利活用として、AI議事録の活用に加えて、ビジネスチャットツールに実装したAIチャットボットの活用などにより、業務の効率化が図られている。また、文書のデータ管理、議会資料の完全ペーパーレス化等により、コピー使用枚数は減少傾向にある。 ●行政手続きのオンライン化として、住民票等のオンライン申請が可能となったが、発行枚数が目標を下回っており、自動交付機からの移行が想定通りには進んでいない。R7年度の自動交付機撤去に向けて、コンビニ交付とオンライン交付の活用推進に取り組む。					



審議会による外部評価 （２次評価）	総合評価	C：目標をやや下回って達成					
	R6取組状況	●ICTの利活用について、新たに設定しているKPI「AI議事録の利用回数」は、AIを活用した業務効率化の進捗を測る指標であるため、全ての会議においてAI議事録が活用されるべきである。会議の開催数が目標値を下回っている場合は、AI議事録の利用回数が目標に達しないこともやむを得ないが、会議数が目標値を上回っている場合、目標未達であることに疑問が残る。（情報課） ●行政事務文書の電子化を進めているなか、議会資料の完全ペーパーレス化が進んだことを評価する。（総務課・議会事務局） ●自動交付機を撤去することで、窓口対応の負担が増加する可能性が懸念される。また、利用されている方もいるため、撤去に関する広報等を行っていただきたい。（情報課）					



審議会の意見・提案等に対する今後の対応策など	（情報課）						
	●AI議事録は会議の議事録作成を大幅に効率化するものであり、議事録が必要なすべての会議で使用されることが望ましいのはご指摘のとおりである。庁内で開催される全ての会議数の把握は困難であるため、目標数はR 5 年度の実績を基準に利用増の見込み数としている。近年増加しているオンライン会議ツールは、AI議事録を用いなくとも自動で文字起こしが可能であり、これらの活用をさらに進め業務効率化に取り組んでいく。 ●コンビニ交付やオンライン交付については、自動交付機の撤去に向けて市民部とも連携して丁寧な情報発信に努める。						

第 6 次加西市総合計画（実施計画）
政策評価シート

基本方針・政策・施策										担当部会 1		
基本方針	1 子育てを応援し、暮らしを愉しむ											
政策	1 新しい家族と出会い、育むための支援の充実											
施策	① 結婚・妊娠・出産支援の充実 ② 地域ぐるみの子育て支援の推進 ③ 子育て環境の充実											
未来の加西の姿												
家族や子どもを持ちたい希望に対し、切れ目ない支援で叶えられるまちを目指します。												
評価検証												
施策	行政内部による評価検証（１次評価）						審議会による外部評価（２次評価）					
① （ア～ウ） 評価シート 1～4	■ 出逢いサポートセンター事業 イベントやセミナー開催により、お見合い機会と成婚数は微増したが、参加者不足でイベントが中止になることもあり、参加者の増加に取り組む必要がある。 ■ 子育て支援施策の推進 子どもサポートセンターを設置し、健康課と子育て支援課が連携して妊産婦相談を実施した。電子母子手帳にオンライン相談や予約システムを導入し、登録者増加と利用促進を図った。令和７年度より5歳児健診の実施を予定している。 ■ 産後ケアの充実 委託施設数が増えたこと、「お試し利用券」をすべての産婦に配布したことなどから、利用者数が大幅に増えた。						■ 出逢いサポートセンター事業 県の行っているAIを活用したマッチング事業等により、出逢いサポートセンターでフォローしきれていない層に対してアプローチをしているということであるが、今後も継続実施していただきたい。 ■ 子育て支援施策の推進 妊娠中の相談支援率は、令和4年度以降97～99%と高水準で推移しており、相談支援体制が充実されてきていることを評価する。 ■ 市立加西病院の医師確保 医学生向けの奨学金貸与と制度による貸与者が、加西病院に来てもらえるよう、引き続き神戸大学とも連携を図るようお願いする。					
	総合評価	B…ほぼ目標を達成					総合評価	B…ほぼ目標を達成				
	② （ア～エ） 評価シート 5～12	■ 子育て世帯への負担軽減 「子育て応援5つの無料化」を継続実施し、子育て世帯の負担軽減を図った。学童保育園では高学年児童に待機児童が生じたため、受け皿の充実に努める。また、令和6年度より母子父子自立支援プログラム事業を実施し、自立促進に向けた相談支援を行ったほか、児童養護施設に加え、里親がで子供を一時的に預かることができるようにしたため、利用が大幅に増加した。 ■ 子育て応援プロモーション 検索連動広告により移住への関心が強い顕在層に広報するほか、近隣住民にはSNS広告による潜在層の掘り起こしを行った。また、結婚世代の親にあたる世代へのプロモーションを強化した。						■ 子育て応援プロモーション フォロワー数が伸びているのは評価する。InstagramだけでなくThreads（スレッド）を活用した情報発信を期待する。 ■ かさいすく子育て定期便事業 定期訪問による見守り支援を行うことで、虐待の早期発見に繋がることもあるため継続的に実施していけるようお願いする。				
総合評価	B…ほぼ目標を達成					総合評価	B…ほぼ目標を達成					
③ （ア～ウ） 評価シート 13～15	■ 保育受け入れ体制の整備 療育事業を直営とするともに、ほくぶキッズの広場事業と統合して「ねひめキッズ（児童療育室）」を開設し、支援を要する児童の早期発見、園との連携強化を図った。加配職員の充実のほか、保育教諭の確保に向けて補助金を交付した。また、使用済おむつについて保護者の負担軽減のため、こども園での処分費補助金を創設した。 ■ アスモの運営 全体入場者数は昨年度比105.1%となり、一時預かり保育はレポート利用者が増加している。令和6年度は子育て相談を開始するなど、利用者への新たなアプローチを実施した。テレワークセンターは交流イベント、パソコン教室を実施し、利用促進を図った。						■ 待機児童対策 保育施設に空きはあるものの、特定のこども園への入所希望により、待機している乳幼児以外に待機児童がいないという点を評価する。 ■ アスモの活性化 遊戯施設の利用者数は増加傾向にあり、施設に活力がみられるが、テレワークセンターは稼働率が下がってきている。イベントの開催や利用条件の緩和といった利用促進に向けた取組が実施されており、利用者増加に向けた努力は継続すべきである。					
	総合評価	C…目標をやや下回って達成					総合評価	B…ほぼ目標を達成				
	目標を達成するための主な指標（KPI）											
指標		区分	基準値(R元)	R3	R4	R5	R6	R7	単位	区分		
合計特殊出生率	目標			—	—	—	—	1.83	人	単年		
	実績		1.28	0.91	1.11	1.12	1.05					
	達成度			50%	61%	61%	57%					
※15～49歳までの日本人女性の年齢別出生率を合計したもの												
		目標										
		実績										
		達成度										

基本方針・政策・施策										担当部会 1	
基本方針		1 子育てを応援し、暮らしを愉しむ									
政策		2 子どもの教育の充実									
施策		④ 教育の質の向上 ⑤ 教育環境の充実 ⑥ 地域で子どもを守り、育てる仕組みの充実									
未来の加西の姿											
自ら学び行動する能力を身につけ、子どもの可能性を広げられるまちを目指します。											
評価検証											
施策		行政内部による評価検証（１次評価）						審議会による外部評価（２次評価）			
④ (ア～エ)	評価シート	■教育の質の向上 外国語教育アドバイザーを新たに配置し、外国語担当職員への研修や指導を充実させた。また、初めて実施したイングリッシュキャンプは、課題を整理して次年度も継続予定である。部活動指導員の活用はできているが、外部人材の活用方法を検討していく必要がある。 ■小・中学校の連携強化 小中のオープンスクールにおいて相互授業参観を行い、児童生徒だけでなく職員間や学校間の共通理解につなげた。また、教員の授業力、教師力の向上や不登校など教育的課題に応じた講座を開設し、社会の変化に伴う多様で複雑化する教育ニーズへの対応を図った。 ■ICT教育 ICT支援員からの自発的な研修や助言等もあり、より高いレベルの活用を目指すことができた。						■外国語教育 現在は、小学生の段階から英語学習が始まっているが、「学ぶこと自体」が目的となってしまうと、なかなか身につかない。児童の学習意欲を引き出すよう工夫が求められる。 児童の中には「外国語」という科目で英語を学んでいる理由について理解できていない児童もいる。諸外国にルーツを持つ児童が増えていることも考慮すると、英語を学校で学ぶ意義等についても伝えていく必要があるだろう。			
		総合評価	B…ほぼ目標を達成					総合評価	B…ほぼ目標を達成		
⑤ (ア～イ)	評価シート	■教育環境の整備 学校再編を見据えた改修計画に基づいて、照明器具更新や体育館トイレ改修、図書室空調整備等の工事を行った。 ■小・中学校の再編方針 総合教育会議（2回）において学校再編や跡地活用について協議し、タウンミーティングでの説明、意見交換のほか、地元団体や学校施設を利用する団体等からも意見を聞き取った。また、統合泉小学校や統合中学校の開校に向けた委員会を開催し、必要な整備に着手した。						■通学支援輸送業務・小学校遠距離通学児童支援 学校再編を見据えたスクールバス整備の準備を進めている点は評価する。夏季のみであるが、学校から3km以上離れた地域に住む児童を対象にした通学バスの運行については他の方法があるのではないかと。 ■小・中学校の再編 統廃合については、保護者や地域住民の意見を踏まえながら進めていくようお願いする。			
		総合評価	B…ほぼ目標を達成					総合評価	B…ほぼ目標を達成		
⑥ (ア～ウ)	評価シート	■子どもを守り育てる仕組みづくり 泉中と善防中に校内フリースクールを開室し、全中学校区に設置することができた。スクールソーシャルワーカーの増員により、面談や家庭訪問など、より手厚い支援ができるようになったが、全国・県と比較して不登校生の割合が高く、継続的に支援を実施する。 ■地域との連携 オープンスクールや学校運営協議会を実施し、地域に信頼される学校づくりを推進した。また、土曜チャレンジ学習については、事務負担軽減を図る観点から実施教室数は減ったが、目標通りの6小学校区で実施することができた。						■校内フリースクール 全中学校区に校内フリースクールが整備され、無料で利用できる点は評価できる。不登校児童にとっての居場所となる大切な場所となるので、継続して実施いただきたい。 ■地域人材活用・土曜チャレンジ・学校支援活動事業 地域にいる様々な人材と、出会い、会話を交わす機会を持てることは有意義である。今後もこうした取り組みを継続して進めていくことを望む。			
		総合評価	B…ほぼ目標を達成					総合評価	B…ほぼ目標を達成		
目標を達成するための主な指標（KPI）											
指標		区分	基準値(R元)	R3	R4	R5	R6	R7	単位	区分	
全国学力・学習状況調査において全国平均点を上回った教科数		目標		—	—	—	—	3	教科	単年	
		実績	1	3	1	0	0				
		達成度		100%	33%	0%	0%				
※全国学力・学習状況調査による小学生（国語・算数）、中学生（国語・数学）の4教科のうち、全国平均点を上回った教科数											
児童・生徒用PCの使用率		目標		—	—	—	—	100	%	単年	
		実績	0	49.29	49.9	48.9	51.1				
		達成度		49.3%	49.9%	48.9%	51.1%				
※ 1年間に個人用PCを使用した延児童・生徒数÷（5/1現在の児童・生徒数×登校日数）											

基本方針・政策・施策										担当部会 1	
基本方針	1 子育てを応援し、暮らしを愉しむ										
政策	3 生涯にわたって学び、楽しめる環境づくり										
施策	⑦ 生涯学習の充実 ⑧ 芸術・スポーツの振興 ⑨ 健康増進の推進										
未来の加西の姿											
生涯、学びやスポーツを楽しみ、日常生活やまちづくりに活かせるまちを目指します。											
評価検証											
施策	行政内部による評価検証（1次評価）						審議会による外部評価（2次評価）				
⑦ (ア～イ) 評価シート 26～27	■公民館活動の充実 市民教養講座では、防災の備えに特化した講座や草刈り機の取り扱い講座を開催し、好評であった。また、各町が取り組む住民参加の交流事業等に対する補助として、社会教育推進補助金を新設し、22町に補助した。 ■図書館サービスの拡充 定期イベントに加え、プログラミング教室や親子落語会を開催した。また、ホームページや館内で電子図書館サービスの利用方法などを分かりやすく伝える動画を放映し、サービスの普及に努めた。						■公民館主催講座 公民館主催講座の総数は減少傾向にあるものの、市民から講座企画を募集する「公民館講座ドラフト会議」の実施や、市民自らが講師となって講座を開くなど、創意工夫を凝らした取り組みにより、講座の種類・受講者数は増加している。加えて、市民の満足度も高く、公民館活動への意欲的な参加が見られる点については評価に値する。				
	総合評価	C…目標をやや下回って達成					総合評価	B…ほぼ目標を達成			
⑧ (ア～イ) 評価シート 28～32	■芸術・スポーツの推進 ジュニア向けのスポーツ教室開催等により、スポーツ少年団への加入を促し、スポーツ団体の活性化に繋げた。また、ニュースポーツ教室が幅広い層への参加機会を創出した。 従来の芸術文化に触れる機会に加え、新たに文芸展WEB投稿講座を開催し、電子フォーム投稿の活用を推進した。 ■施設整備 市内施設の老朽化に伴い、総合運動公園整備に係る基本構想・基本計画の策定を開始した。 ■伝統文化継承 R6年度より補助制度を新設し、5団体が活用した。						■文化・スポーツ活動の参加者数 文化・スポーツ活動の参加者数は、当初の目標値を下回っているものの、多種多様なスポーツ教室の開催をされている。特にニュースポーツの分野では参加者が増加傾向にある。今後は、参加者数が目標に達していない要因を分析し、その結果に基づいた効果的な対策を講じることが求められる。 ■狂言活動への支援 令和5年度に播磨国風土記事業は終了したが、引き続き狂言活動を継続している団体に対しては、生涯学習・人材育成の観点から、「生涯学習事業補助制度」により支援が行われている。また、令和6年度に創設された「次代へつなぐ伝統文化継承補助制度」では、戦前以前から地域に根付いてきた伝統文化の維持・継承を目的として、現在5団体に対し補助を実施している。				
	総合評価	B…ほぼ目標を達成					総合評価	B…ほぼ目標を達成			
⑨ (ア～イ) 評価シート 33～38	■運動ポイント事業 マイナ保険証の利用に対してポイントを付与するなど、事業内容の充実と新規利用者の獲得を図った。歩数やアンケート、体力測定結果の分析から高齢者の健康づくりに成果がみられる。 ■がん検診・特定健診勧奨 がん検診の無料クーポン配布や乳がん・子宮頸がん等の受診勧奨を行い、受診率は微増で推移している。特定検診においては、みなし健診を新たに実施したことで受診率が伸びたが、県目標値を下回っており、引き続き受診勧奨を行う。 ■食育推進事業 こどもの健診や健康相談等で啓発したほか、フレイル予防の栄養教育を実施した。また、食育イベントの実施による普及を行った。						■がん検診無料クーポン券の利用 クーポン券の利用対象となる医療機関が、加西市内および近隣市町の一部のクリニックに限られていることが、がん検診の受診率が低迷している要因の一つと考えられる。市外に勤務する方にとっては、勤務先周辺にかかりつけ医があることが多く、近隣市町の医療機関も対象とするよう拡充を望む。				
	総合評価	B…ほぼ目標を達成					総合評価	B…ほぼ目標を達成			
目標を達成するための主な指標（KPI）											
指標		区分	基準値(R元)	R3	R4	R5	R6	R7	単位	区分	
加西市立図書館の来館者数		目標		—	—	—	—	22	万人	単年	
		実績	21	17.4	17.6	19.2	19.3				
		達成度		79%	80%	87%	88%				
※公共図書館調査による年間来館者数											
文化・スポーツ活動の参加者数		目標		—	—	—	—	270	千人	単年	
		実績	188	141	171	168	174				
		達成度		52.2%	63.3%	62.2%	64.4%				
※体育施設・市民会館・公民館の年間利用者											

基本方針・政策・施策										担当部会 1		
基本方針		1 子育てを応援し、暮らしを愉しむ										
政策		4 くらしを支える福祉・医療の充実										
施策		⑩ 高齢者福祉の推進 ⑪ 障がい福祉・地域福祉の充実 ⑫ 保健・医療体制の確保										
未来の加西の姿												
市民が生涯にわたって、健康で自分らしく暮らすことのできるまちを目指します。												
評価検証												
施策		行政内部による評価検証（１次評価）						審議会による外部評価（２次評価）				
⑩ (ア～イ) 評価シート 39～41	■ 高齢者支援の充実 配達員不足等により配食事業の利用者が減少している。R5年度開始の補聴器購入補助には見込みを上回る申請があった。R6年度より市民養老金の支給金額を増額した。また、新型コロナワクチン予防接種をR6年度より定期接種化し助成を開始したが、流行が落ち着いていることもあり接種率は下がった。带状疱疹ワクチンについてはR7年度より定期接種化予定である。 ■ 高齢者の地域活動の推進 シルバー人材センター会員数は年々減少していたが、R6年度については増加した。また、きずなカフェ等の「通いの場」の開催回数が増加しており、R7年度から補助制度開始を予定している。						■ 市民養老金 近年では、88歳まで存命の方が珍しくなくなってきており、長寿を祝う趣旨で実施されている祝金支給事業については、事業の縮小を検討し、その財源を子育て世帯への給付等、他の重点施策へ振り向けるという考え方も一案である。 ■ シルバー人材センター 会員となったことで、生きがいを感じるようになったという声も聞かれており、働く高齢者にとつてのみならず、地域社会にとつても意義のある取り組みとなっている。一方で、求められている人材像や業務内容が十分に周知されていないことから、会員登録に至っていない方もいる可能性がある。今後は、より多くの方に活動内容を理解してもらえよう、情報発信の工夫や周知方法の充実をお願いする。					
	総合評価	B…ほぼ目標を達成					総合評価	B…ほぼ目標を達成				
⑪ (ア～ウ) 評価シート 42～44	■ 要配慮者の地域生活移行や社会参加の促進 善防園の老朽化による大規模修繕を実施した。また、独立型短期入所施設を整備し、グループホームや短期入所をスムーズに利用できるような体験の機会の場を確保した。 ■ 生活困窮支援 就労体験を受け入れてもらえても直接雇用につながる企業が少なく、就労支援による就職者は目標に達しなかった。一方、こども食堂の利用者数は増加が続いている。						■ 障がい福祉と地域福祉の充実 就労継続支援事業の利用者数、こども食堂利用者の増加など、どの事業も一定の成果が出ている。今後も継続して取組をお願いする。					
	総合評価	B…ほぼ目標を達成					総合評価	B…ほぼ目標を達成				
⑫ (ア～イ) 評価シート 45～48	■ 新病院建設に向けて R5年度に立ち上げた検討委員会による協議を経て、R7年1月に「新病院基本構想・基本計画」がまとまり市長へ答申した。また、地域医療室を中心に病棟連携・病診連携を進め、紹介率は向上したが、目標達成には至らなかった。 ■ 各種機関との連携 医師会や歯科医師会との連携により、保険事業検討会や休日診療体制の維持を行うことができた。また、地域包括ケアシステム推進部会を開催し、医療・介護の連携強化を図った。						■ 地元医師会との連携 既に連携を提案している加西病院内のMRIなどの設備を院外検査で活用する取り組みのほか、加西病院では通訳システムを導入し外国人への対応が可能な体制を構築していることをクリニックに周知し、更なる連携強化を模索してほしい。 ■ 地域包括ケアシステム推進部会・保健医療福祉推進協議会 制度、問題が複雑に絡み合う中、今後も医療・介護・福祉の各分野の連携強化をお願いする。					
	総合評価	B…ほぼ目標を達成					総合評価	B…ほぼ目標を達成				
目標を達成するための主な指標（KPI）												
指標		区分	基準値(R元)	R3	R4	R5	R6	R7	単位	区分		
要介護認定率	目標		—	—	—	—	—	21.2	%	単年 減少指標		
	実績	20.3	19.4	19.2	19.2	19.4						
	達成度		108.5%	109.4%	109.4%	108.5%						
※認定者数（第1号）÷第1号被保険者数												
市立加西病院への紹介率	目標		—	—	—	—	—	50	%	単年		
	実績	44	43	33	40	44						
	達成度		86.0%	66.0%	80.0%	88.0%						
※受診患者のうち、他の医療機関から紹介されて来院した患者の割合												

基本方針・政策・施策										担当部会 2	
基本方針	2 活力とにぎわいのあるまちを育む										
政策	5 農業の再生と活性化										
施策	⑬ 農業従事者の確保と育成 ⑭ 農業経営の支援 ⑮ 農業環境の充実										
未来の加西の姿											
加西の特産品を生産する喜び、やりがいのある農業が展開されるまちを目指します。											
評価検証											
施策	行政内部による評価検証（１次評価）						審議会による外部評価（２次評価）				
⑬ (ア～イ) 評価シート 49～50	■ 農産物の連携・加工品開発 意欲ある6次産業実践者に対して、ふるさと財団の支援事業を活用したブランドのブラッシュアップと販路拡大の支援、県補助メニューを活用した東京での展示会出展支援を行った。 ■ 農業従事者の確保 新たに2名の新規就農者（ぶどう、花き）を認定した。また、認定期間中の新規就農者12名に対し、経営強化や施設整備の支援を行うとともに、就農研修生として5名（水稲等、ぶどう、いちご）を受入れ、内2名は新規就農支援事業の研修受入補助を行った。						■ 農産品のブランド化 農林水産大臣賞を受賞している「トマトの一番星」などブランド化されており、引き続きブランド形成の支援をお願いする。 ■ 農業の維持発展 農業就業者数が減っている状況の中、また県内での1農家あたりの工作面積が小さいということからも、農業の維持発展を長期的に目指すためには、経営体の規模拡大を進めるとともに、農地の集積・集約に取り組む営農法人等に対して重点的に支援をしていくことが望まれる。				
	総合評価	B・・・ほぼ目標を達成					総合評価	B・・・ほぼ目標を達成			
⑭ (ア～ウ) 評価シート 51～53	■ 農業経営支援 農地集積協力を活用して新たに1集落2.9haの追加集積を行った。また、高機能トラクターやコンバイン、ドローンなどのスマート農機等への補助を通じて集落営農組織や認定農業者の大規模化、経営効率化を推進した。 ■ ぶどう生産推進 ぶどう棚の新設、改修に加え、老木からの改植や新植を補助し、ニーズが高く収益が見込める大粒系品種への移行を推進した。 ■ 地産地消の推進 生産者及びJAの協力により学校給食に多くの農産物が提供された。播磨農業高校や市内認定農業者が実証栽培した有機米の給食提供について調整を進めた。						■ 農業経営支援 スマート農機等への補助の採択基準には、農地集積面積等を加点ポイントとしていることは評価する。今後、機械購入者は他の農地でも活用する等も採択の基準として検討してはどうか。 ■ 地元農産物のブランディング 農産物の種類ごとのパンフレットだけでは時期やターゲットが絞られるため、加西ブランドとして売り出せるような、様々な農産物がまとめられているパンフレットがあれば年間を通してアピールしやすいのではないかと。 ■ 地産地消の推進 播磨農業高校と連携した校外学習を行うなど、児童・生徒が実際に農産物の栽培を体験することで、食育や地産地消の理解が高まると考える。				
	総合評価	B・・・ほぼ目標を達成					総合評価	B・・・ほぼ目標を達成			
⑮ (ア～ウ) 評価シート 54～56	■ スマート農業の推進 いちごハウスの高機能ファン導入や集落営農組織の高機能コンバインの導入、認定農業者の農業等散布用ドローンの導入を支援した。 ■ 環境保全型農業の推進 かさい農業塾でみどり認定やJクレジットの勉強会を行い、環境創造型農業の普及推進と農業経営の安定化に取り組んだ。 ■ 有害鳥獣対策 イノシシやシカ、アライグマ等の捕獲を行いつつ、被害軽減に向けて金網柵や電気柵等を設置した。スクミリンゴガイ対策として、薬剤の補助を実施した。						■ 多面的機能支払交付金事業 多面的機能支払交付金により、農用地の保全管理が着実に進められている点は意義深い。一方で、交付金の活用が一部の活動組織の継続に繋がっており、結果として組織体制の見直しが進みにくい面も見受けられる。今後は、活動組織の集約・再編なども視野に入れた前向きな検討を期待する。				
	総合評価	B・・・ほぼ目標を達成					総合評価	B・・・ほぼ目標を達成			
目標を達成するための主な指標（KPI）											
指標		区分	基準値(R元)	R3	R4	R5	R6	R7	単位	区分	
担い手への集積面積	目標		—	—	—	—	—	1,400	ha	単年	
	実績	1,215	1,255	1,255	1,256	1,258					
	達成度		89.6%	89.6%	89.7%	90%					
※認定農業者、認定新規就農者、集落営農組織が集積している農地の合計面積											
農地の活用率	目標		—	—	—	—	—	91	%	単年	
	実績	89	87	87	87	88					
	達成度		95.6%	95.6%	95.6%	96.7%					
※作付面積÷農地面積											

基本方針・政策・施策										担当部会 2	
基本方針	2 活力とにぎわいのあるまちを育む										
政策	6 商工業の振興と新展開										
施策	⑯ 商工業の振興 ⑰ 創業支援と働く場の拡大 ⑱ 雇用・勤労者福祉の充実										
未来の加西の姿											
商工業の振興により地域経済を活性化し、働きたいと思われるまちを目指します。											
評価検証											
施策	行政内部による評価検証（1次評価）						審議会による外部評価（2次評価）				
⑯ (ア〜ウ) 評価シート 57〜60	■産業振興、デジタル化 新産業創出支援事業により、市内事業者のデジタル化を推進し、事業の効率化及び生産性の向上を図った。 ■地域通貨「なっぴ〜Pay」による消費喚起 ポイント還元キャンペーンのほか、ふるさと産品抽選キャンペーンなどの多様なコンテンツを追加し、地域通貨流通量の拡大を図った。あわせて、なっぴ〜商品券による消費喚起に取り組んだ。 ■魅力ある商業施設、宿泊施設の誘致 企業立地促進優遇制度を拡充するとともに、加西インター第1期地区地区計画を商業施設が立地可能となるよう変更した。北条町駅周辺において、工業地域を近隣商業、準工業地域へ変更した。また、西笠原町地区での店舗建築可能な床面積を引き上げた。						■魅力ある商業施設の誘致 市街地での商業店舗誘致を年1件と目標に掲げているものの、目標達成には至っていない状況である。今後の対応改善等を図る等により進められたい。 ■用途地域変更、商業施設等の立地促進 令和6年度において、地区計画の変更による規制緩和が新たに進められたことにより、店舗の出店可能性が高まった点を評価する。				
	総合評価	B…ほぼ目標を達成					総合評価	B…ほぼ目標を達成			
⑰ (ア〜エ) 評価シート 61〜65	■創業支援と働く場の拡大 かさい創業塾やビジネスグランプリなどを通じて、創業・起業を目指す人の支援を行い、コンテスト後も参加者同士のコミュニティが形成され、継続して交流が図れている。定住自立圏の取組として、創業に関する基礎知識、事業承継、ブランディングなど幅広く学ぶ機会を提供した。 ■加西インター産業団地の整備 1期事業において、1-2工区のリスパック(株)が操業を開始し、1-1工区で2社が建築工事を開始した。2工区では3社が進出企業を公表し、造成工事を開始した。4工区では造成工事が完了し、7社に用地を引き渡し、5社が建築工事を開始した。						■空き店舗活用補助事業 北条旧市街地は道が狭いことと駐車場がないことが課題であり、駐車場を確保することで空き店舗への出店が増えるのではないかと。 ■加西インター産業団地の整備 順調に進んでいるため、引き続き取り組んでもらいたい。				
	総合評価	A…目標を大きく上回って達成					総合評価	B…ほぼ目標を達成			
⑱ (ア〜ウ) 評価シート 66〜68	■雇用の促進 JOBフェアを2回開催したほか、オンライン企業説明会で学生と企業が交流する場をつくり、市内における雇用の促進を図った。 ■兵庫労働局との連携 雇用対策協定のもと、求職者の就職支援に取り組み、必要に応じて福祉関係部署等と連携し、就労に向けたサポートを行っている。 ■UJIターンによる就労促進 市内の優良企業を訪れる小学生向けツアーを開催した。						■雇用の促進 市内で開催している就職セミナーには、参加者の関心を引くようなブランド力が不足しているため、多くの求職者が都市部等での開催されるセミナーに流れている状況である。結果的に、就職活動のタイミングを逃した一部の求職者が、加西市のセミナーに参加される印象がある。 また、参加者の希望する企業にも偏りが見られ、一部の企業ブースにはほとんど参加者が集まらない課題も見受けられる。就職セミナーを開催すること自体が目的化してしまい、雇用促進という本来の目的が十分に達成されていないように感じる。 加えて、求職者が減っていることへの対策も考えるべきではないかと。 ■UJIターンによる就労促進 結婚を機に市外に転出される方が多いため、引き続き転出抑制につながる支援をお願いする。				
	総合評価	B…ほぼ目標を達成					ような	B…ほぼ目標を達成			
目標を達成するための主な指標（KPI）											
指標		区分	基準値(R元)	R3	R4	R5	R6	R7	単位	区分	
製造品出荷額	目標			—	—	—	—	3,900	億円	単年	
	実績	3,321	3,213	2,480	3,115	3,125					
	達成度		82%	64%	80%	80%					
※工業統計調査（2020年調査で終了し、2020年以降「経済構造実態調査」）・経済センサス活動調査											
	目標										
	実績										
	達成度										

基本方針・政策・施策										担当部会 2	
基本方針	2 活力とにぎわいのあるまちを育む										
政策	7 地域資源の活用と人の流れの創出										
施策	⑭ 歴史・文化の再発見と交流拡大 ⑯ 移住・定住の支援 ⑰ 空き家・空き店舗の利活用										
未来の加西の姿											
地域資源を十分に活かし、加西市に訪れたいと感じる魅力あるまちを目指します。											
評価検証											
施策	行政内部による評価検証（１次評価）						審議会による外部評価（２次評価）				
⑭ （ア～ウ） 評価シート 69～72	■ 歴史文化遺産を活かす取組 団体への補助により9 団体が地域文化財の修理等を通して公開や周知活動に取り組むほか、6 団体が地域文化財の清掃等に取り組んでおり、新規の団体による申請もあることから、住民が自ら地域の文化財の保存活用に取り組むことができつつある。 ■ 地域資源を活用した観光振興 鵜野フィールドミュージアム歴史遺産のデジタルコンテンツの追加、2Dメタバースの運用、鵜野フィールドミュージアムへの看板設置工事等を行った。また、メディアでのプロモーションにも積極的に参加し、「気球の飛ぶまち加西」をPRした。						■ 歴史文化遺産を活かす取組 引き続き活動団体への相談を親身に行ってもらいながら、文化遺産を活かしたまちづくりへの支援強化を期待する。 ■ 地域資源を活用した観光振興 鵜野ミュージアムについて、有料でも入る価値があると感じてもらえるような仕掛けづくりや中身のPRを強化する必要がある。 ■ 空き家の利活用 空き家を解体し、その土地を駐車場として利用できるように整備するなど、行政による取組を通じて、民間が積極的に活用できる環境を整えてもらいたい。				
	総合評価	B…ほぼ目標を達成					総合評価	B…ほぼ目標を達成			
⑯ （ア～ウ） 評価シート 73～76	■ 移住定住の支援 UJIターン促進補助金、若者定住促進住宅補助事業、新婚世帯向け家賃補助事業等を実施した。令和6年度は、若者定住促進住宅補助について外国人の利用者が増加している。一方で結婚新生活支援事業の活用が進まなかった。 ■ 移住相談施策の強化 ワンストップ窓口での移住相談対応や相談会、ワークショップ等の開催に加え、移住検討者向けSNS「SMOUT」の使用により、気軽に相談できる環境が整ったことで相談件数が大幅に増加した。						■ UJIターン促進補助金 年齢制限を設けると、対象制限年齢に近づいた段階でUターンを検討する若者にとって、十分な後押しにならない可能性がある。そこで、補助期間については「補助の受給開始から一定年数」または「30歳に達するまで」のいずれか長い期間を適用するとはどうか。 若い世代をUターンさせるには、奨学金の返済支援に以外の制度を設けてもよいのではないかと。 ■ 若者の住居確保サポート どの年齢の夫婦であっても、一度定住することで派生効果が期待できるため、年齢制限の撤廃を提案する。				
	総合評価	C…目標をやや下回って達成					総合評価	C…目標をやや下回って達成			
⑰ （ア～ウ） 評価シート	■ 空き家対策強化 空き家の新規登録数は目標を超えて維持できている。また、令和7年度から5年間を計画期間とした空き家対策計画を新たに策定した。 ■ 空き家の利活用支援 昨年と比較して、空き家バンクの成約数は減少したが、空き家改修補助事業は同水準となった。お試し滞在施設2施設の開業とワンストップ移住相談の相乗効果により、お試し滞在補助制度の利用者が大幅に増加した。						■ 空き家対策強化 空き家等対策計画が策定されたことにより、今後の空き家対策や管理や利活用の推進に向けた取組が進展することを期待する。 ■ お試し滞在補助制度 現在、2泊以上の利用に対して補助を設けている一方で、1泊のみの利用も一定数存在している。また、お試し滞在補助を利用した方が、移住につながった実績がないことから、より実効性の高い制度を検討すべきである。				
	総合評価	B…ほぼ目標を達成					総合評価	B…ほぼ目標を達成			
目標を達成するための主な指標（KPI）											
指標		区分	基準値(R元)	R3	R4	R5	R6	R7	単位	区分	
観光入込客数		目標		—	—	—	—	1,100	千人	単年	
		実績	914	954	1,205	1,162	1,136				
		達成度		87%	110%	106%	103%				
※加西SA 利用者数は除く年間客数											
若者の残存定住率		目標		—	—	—	—	80	%	単年	
		実績	78	80	83	83	82				
		達成度		100.0%	103.8%	103.8%	102.5%				
※ 3月31日現在の26-28 歳の人数÷ 10 年前の16-18 歳の人数											

基本方針・政策・施策										担当部会 3	
基本方針	3 快適に暮らせる安全な社会をつくる										
政策	8 安全・安心に暮らせる環境の充実										
施策	② 防災・感染症対策の充実 ③ 防犯・交通安全の向上 ④ 市民相談・消費者保護の充実										
未来の加西の姿											
地域と連携・協働した支援体制の構築と強化で、安全・安心に暮らせるまちを目指します。											
評価検証											
施策	行政内部による評価検証（１次評価）						審議会による外部評価（２次評価）				
② (ア〜ウ) 評価シート 81〜84	■ 防災対策の充実 「かさいライフナビ」や「加西市公式LINE」に防災情報の通知設定を行った人に、ねっぴ〜Payポイントを付与し、防災アプリの普及促進に取り組んだ。今後はアプリを導入していない住民や災害時要支援者にタブレット端末が行きわたるよう自治会と連携して取り組む。 ■ 新型コロナウイルス感染症対策 令和6年度より新型コロナワクチンを定期接種化し、10月より接種費の助成を開始した。引き続き、加東健康福祉事務所との連絡及び情報共有を定期的に行う。						■ 防災対策の充実 「かさいライフナビ」は自治会にとって有用であり、回覧板や電話だけではなかった頃に比べると自治会内の連絡状況は非常に良くなっている。自治会内の組織や特定グループへの連絡など、さらに機能を充実させてほしい。 ■ 新型コロナウイルス感染症対策 新型コロナウイルス感染症が2類から5類に移行されたことを受け、感染症の波自体が落ち着いてきていることがKPIの数値からも確認できた。				
	総合評価	B…ほぼ目標を達成					総合評価	B…ほぼ目標を達成			
③ (ア〜イ) 評価シート 85〜87	■ 防犯対策の推進 自治体要望に基づき防犯灯421灯、防犯カメラ12基を設置するとともに、市内交差点に防犯カメラ2基を増設した。防犯灯、防犯カメラのいずれも経年劣化が危惧され、今後の保守管理が課題である。また、自動録音機能付電話機等購入補助により、特殊詐欺被害の未然防止に努めた。 ■ 交通安全の推進 市内の全中学生を対象として自転車保険（対物）に加入し、安心して通学させられる環境づくりに取り組んだ。市内企業、高齢者団体、こども園、小中学校において交通安全教室を実施するとともに通学路危険箇所の点検と交通安全啓発看板の設置を行った。						■ 防犯対策の推進 街灯り事業について、設置自体は進んでいるようだが、予算面の関係で実績が目標に追いついていない。町境などでどちらの町が設置するかといった問題も含めて地元調整を続けてほしい。				
	総合評価	B…ほぼ目標を達成					総合評価	B…ほぼ目標を達成			
④ (ア〜イ) 評価シート 88〜89	■ 市民相談の充実 月1回実施している弁護士相談の予約枠が毎回埋まっている状況である。受入枠の増加を図るため、WEB相談の実施準備を進めた。 ■ 消費者相談の充実 消費者問題への啓発のため、年間10回以上の消費者講座を開催しているが、参加者数は年々減少傾向にある。国や市による啓発活動が効果を挙げていると考えるが、市民被害を減少させるには、消費者自身の自己解決力を向上させることが重要であるため、より効果的な啓発方法を検討する。						■ 市民相談の充実 相談件数は増加中だが、市内の外国人の増加に伴い相談の内容も多様化している。アステシアに設置予定のグローバルセンター等に対応していただきたい。 ■ 消費者相談の充実 KPIの数字では数を処理することが目標になってしまう。本来は相談件数が減少することが望ましいが、その視点では制度が利用されていない状態でも目標を達成していることになってしまうの、数字の扱い方を考えるべきである。				
	総合評価	B…ほぼ目標を達成					総合評価	B…ほぼ目標を達成			
目標を達成するための主な指標（KPI）											
指標		区分	基準値(R元)	R3	R4	R5	R6	R7	単位	区分	
防災訓練・研修回数		目標		—	—	—	—	75	回	単年	
		実績	57	55	56	72	69				
		達成度		73.3%	74.7%	96.0%	92%				
※自主防災組織（自治会）の延べ年間実施回数											
交通事故発生件数		目標		—	—	—	—	1,300	件	単年 減少指標	
		実績	1,466	1,262	1,272	1,214	1,257				
		達成度		102.9%	102.2%	106.6%	103.3%				
※ 1/1 ～ 12/31 の交通事故件数											

基本方針・政策・施策										担当部会 3	
基本方針	3 快適に暮らせる安全な社会をつくる										
政策	9 快適な都市空間の創出										
施策	⑳ 住環境の整備 ㉑ 地球に優しい環境都市の創造										
未来の加西の姿											
良好な住環境や景観等が整い、加西らしいまち並みが形成されたまちを目指します。											
評価検証											
施策	行政内部による評価検証（１次評価）						審議会による外部評価（２次評価）				
⑳ (ア～オ) 評価シート 90～96	■住環境整備 西高室土地区画整理事業完了後の換地部分も順調に宅地化が進んだ。西高室の分譲可能区画が少なくなり、建築費高騰の影響で新築住宅の建築件数が減少している。また、中野・下宮木地区のまちづくりに向けて、市道上宮木鶏野線の拡幅工事の実施設計を行った。 市街化調整区域の規制緩和について協議と手続きを進めた結果、R6年9月に加西市域の区域区分廃止の方針が決定した。 ■歴史的街並みの景観保護 景観形成地区内における建築行為について、景観ガイドラインで定められた景観形成基準への適応に向けた指導と相談を行った。また、北条旧市街地の歴史的街並みの景観保全のため、石畳風舗装を150mにわたり整備した。						■住環境整備 新築住宅の件数は景気に左右されやすく減少傾向にあるが、西高室の土地区画整理地区は宅地化が着実に進み、若年層や子育て世帯の定住が進んでおり一定の成果がみられます。こうした地区は同世代の子育て世帯を呼び込むきっかけにもなるため、今後は市外からの定住促進に向けた取組を一層推進していただきたい。 ■歴史的町並みの景観保護 旧北条市街地の整備は、歴史的景観の保存と安全・防災の面の2つの目的で進められているが、目標に対して実績の伸びが小さい。達成できない目標では事業のモチベーションに影響する。予算事業ありきの目標とならないように配慮しつつ、事業を進めてもらいたい。				
	総合評価	B…ほぼ目標を達成					総合評価	B…ほぼ目標を達成			
㉑ (ア～ウ) 評価シート 97～100	■脱炭素のまちかさいの実現 再生可能エネルギーの地産地消と脱炭素社会の実現を目指し、「株式会社かさいスマートエナジー」を設立した。また、民生部門の電力消費に伴うCO2排出の実質ゼロに向けて、蓄電池や電気自動車等の導入補助、脱炭素先行地域内の既存住宅への脱炭素化補助を実施した。 ■環境都市の創造 小学校での農業体験や地域の自然環境調査、自然観察、中学校のトライやるウィークでの体験活動のほか、理科や総合的な学習においてSDGsの視点を活かした環境学習に取り組んだ。動植物生態調査事業では、年次計画に沿って2地点の詳細調査を実施した。						■生物多様性の保全 ナガエツルノゲイトウなどの侵略的外来種は、市内の自然環境や農産業に影響が出る恐れがあることから、市民への啓発活動を進めていただきたい。 ■開発調整条例 資材置き場や太陽光発電等に関する事前協議の件数が大幅に伸びている。その中には、国外の事業者を含む、市内の自然環境や地域特性への理解・配慮が十分ではない事業者による申請もあるため注視していただきたい。				
	総合評価	B…ほぼ目標を達成					総合評価	B…ほぼ目標を達成			
目標を達成するための主な指標（KPI）											
指標		区分	基準値(R元)	R3	R4	R5	R6	R7	単位	区分	
住宅の新築件数	目標		—	—	—	—	—	90	件	単年	
	実績	115	95	106	86	57					
	達成度		106%	118%	96%	63%					
※市内の一戸建て住宅の単年度の新築件数											
市民一人あたり1日のごみ排出量	目標		—	—	—	—	—	766	g	単年 減少指標	
	実績	793	811	828	840	808					
	達成度		94.1%	91.9%	90.3%	94.5%					
※（ごみの処理量+ 集団回収量）÷ 9月末人口÷年間日数											

基本方針・政策・施策										担当部会 3	
基本方針	3 快適に暮らせる安全な社会をつくる										
政策	10 安全性と利便性が確保された都市基盤の整備										
施策	⑳ 道路・河川の整備・維持管理 ㉑ 上下水道の整備・維持管理 ㉒ 公共交通の充実										
未来の加西の姿											
暮らしの中で快適さを感じることができる生活環境が整ったまちを目指します。											
評価検証											
施策	行政内部による評価検証（1次評価）						審議会による外部評価（2次評価）				
㉒ (ア〜ウ) 評価シート 101〜103	■道路・河川の整備・維持管理 市道の新設と改良、通学路整備、草刈り補助を実施した。地元からの修繕要望が増えており、優先順位を明確にして計画的に道路修繕を実施している。今後も予算の平準化を図りつつ安全な道路環境の維持に努める。 ■公園内の安全管理 老朽化した木製遊具の撤去やローラー滑り台のローラー交換など、施設や遊具の安全性向上を図った。また、一般公園についても草刈りや清掃を行い、景観維持や安全のための整備を行った。丸山公園の利用者数は対前年度比で626人の増となった。						■道路・河川の整備・維持管理 道路点検の危険度レベルにおいて、早急に補修が必要なレベルの道路や橋梁はない。今後、補修の必要性が高まってくれば対応が必要となってくる。 ■公園内の安全管理 丸山公園の利用者は増えているが、人口減少する中でどのくらいを適正な目標値とするのが今後の課題である。				
	総合評価	A…目標を大きく上回って達成					総合評価	A…目標を大きく上回って達成			
㉑ (ア〜イ) 評価シート 104〜105	■上水道経営の効率化 令和7年度末に市川町からの受水を終了し、令和8年度以降はより安価な県水に全面的に切り替えるため、受水費が低減される見込みである。 ■上下水道の整備・維持管理 水道管路の耐震管への更新事業については、寺山配水池幹線(第1工区)における配水管布設工事を実施した。下水統廃合事業については、剣坂地区公共下水道接続工事を実施した。						■水道管の維持管理、上下水道経営の安定 耐震管への更新が全体の6%にとどまっているものの、地盤との組み合わせにより震度6強程度の地震に耐えられる耐震適合管の導入率は83%に達している。また、給水単価については、県水への切替の関係で一時的に上昇しているが、今後の改善が見込まれており、現時点で早急に対応すべき課題があるとは考えにくい。				
	総合評価	C…目標をやや下回って達成					総合評価	B…ほぼ目標を達成			
㉒ (ア〜ウ) 評価シート 106〜108	■公共交通の利便性向上 公共交通総合HPを開設し、英語翻訳機能を導入することで幅広い層に向けた情報発信に努めた。また、企業への通勤・出張を考慮したコミュニティバス再編の検討を開始した。 ■北条鉄道の利用促進 既存の安全輸送設備の整備支援を行ったほか、ICカードシステム導入に向けた支援を行った。 ■地域主体型交通の推進 3地区での運行を支援し、安全に運行を続けるために既存運転手への安全運転講習や認知機能チェック講座を実施した。						■公共交通の利便性 公共交通の不便さのために高校等を選ぶ際の選択肢が狭まっており、保護者から懸念の声が寄せられている。交通結節点の整備を検討される際は、乗り換え時に利用可能なコンビニ等の施設も併せて整備されると利便性が高まる。北条鉄道の利用が増えているのは良いことだが、北部地域等で周辺地域全体の利便性を考慮した交通施策をお願いしたい。				
	総合評価	B…ほぼ目標を達成					総合評価	B…ほぼ目標を達成			
目標を達成するための主な指標（KPI）											
指標		区分	基準値(R元)	R3	R4	R5	R6	R7	単位	区分	
道路改良率		目標		—	—	—	—	34.8	%	単年	
		実績	34.1	34.6	34.6	34.6	35.7				
		達成度		99.4%	99.4%	99.4%	103%				
※規格改良済延長÷実道路延長											
鉄道・コミュニティバス等の利用者数		目標		—	—	—	—	420.0	千人	単年	
		実績	365.5	365.4	408.5	418.9	422.8				
		達成度		87.0%	97.3%	99.7%	100.7%				
※北条鉄道、ねっぴ〜バス、コミュニティバス（はっぴーバス）、地域主体型交通の年間利用者合計数 ※神姫バス、高速バス、タクシーは除く											

基本方針・政策・施策										担当部会 3		
基本方針	4 ともに活躍しまちの魅力を高める											
政策	11 協創のまちづくりの推進											
施策	⑩ 協創のまちづくり ⑪ シティプロモーションの推進 ⑫ 広報・広聴の充実											
未来の加西の姿												
加西に関わる誰もが主役となって活躍し、元気にぎわいあるまちを目指します。												
評価検証												
施策	行政内部による評価検証（1次評価）						審議会による外部評価（2次評価）					
⑩ (ア〜ウ)	■協創のまちづくり 新たに1地区でまちづくり計画が策定され、計6地区の計画策定が完了した。また、2地区が策定準備を進めている。 ■市民参画によるまちづくり 地域交流センターの登録団体数は、令和3年度以降、横ばいの状態が続いており、積極的な活動を支援する新たな環境整備が必要である。 ■関係人口の創出 移住希望者交流サイト「SMOUT」を経由した相談を開始したことで、中間支援組織への相談件数が増加した。また、都市部住民と市内で活躍する住民との交流を目的にしたワークショップを開催し、移住人口や関係人口の増加を図った。						■協創のまちづくり 集落支援員が増えないという課題をどのように解決していくか、制度設計などを含めてしっかり検討し、次の計画に反映する必要がある。 ■関係人口の創出 中間支援組織の相談件数が増えていることは評価できる。また、相談後に実際に移住や定住などの具体的な行動を起こした人数を評価することが必要である。					
評価シート 109〜111	総合評価 B…ほぼ目標を達成						総合評価 B…ほぼ目標を達成					
⑪ (ア〜ウ)	■シティプロモーションの推進 子育て支援や住宅支援施策に関するシティプロモーション動画をYouTube配信し、本市のイメージアップを図った。 ■ふるさと納税推進 家電をはじめとする主力返礼品の限定カラーの追加や近年人気が集まっている安価なものや日用品のラインナップを増やすことで寄付受入額を確保した。 ■観光資源の発掘 「かさい観光ナビ」を中心に、イベント情報やふ〜ど記、喝采みやげの情報発信を行った。また、加西市観光協会公式LINEを使用してイベント情報の発信や参加者の募集を行った。						■シティプロモーションの推進 ホームページアクセス数やSNSフォローは増えているが、社会全体で利用者が増えている。相対的に評価するなどして、成果を客観的に評価できるように願う。 ■ふるさと納税推進 ふるさと納税は非常に大切な財源だが、安定的な財源ではない。財政的に締めるところと出すところをよく考えて、福祉など市民の生活に関する事業などは積極的に進めてもらいたい。 ■地域資源の発掘 加西市を象徴するものや、ここにしかないというものがあまり浮かばない。加西市には素晴らしい場所や人がいるので、うまくPRするなど改善の余地がある。					
評価シート 112〜114	総合評価 B…ほぼ目標を達成						総合評価 B…ほぼ目標を達成					
⑫ (ア〜ウ)	■広報の作成 令和7年1月号から文字サイズを大きくし、読みやすいフォントに変更した。また、スポーツ少年団を連載することで地域活動の周知に努めた。 ■HPやSNSによる情報発信 HP上のリンク切れや古い情報ページの修正を行った。LINEの登録者数は年々増加しており、運用ルールや発信方法を整理し、より効果的な情報発信に努める。 ■タウンミーティングの実施 市内10カ所で年2回にわたり開催し、当初予算の説明と地域の要望や課題の集約を行い、市政運営に反映した。また、泉中学校の4小学校区については、小学校統合後の学校跡地利用等についての意見交換を行った。						■情報発信 プレスリリース数やLINEの登録数などの実績値から、情報発信をしっかりと取り組んでいると思われる。 ■広報広聴 市民の要望を受けた対応によりごみターミナルのビン回収容器が軽量化された点は評価できるが、風によって飛ばされるなどの危険性がある。様々な意見があると思うので利用者の声をよく聞き取ったうえで対応をお願いしたい。					
評価シート 115〜117	総合評価 B…ほぼ目標を達成						総合評価 B…ほぼ目標を達成					
目標を達成するための主な指標（KPI）												
指標		区分	基準値(R元)	R3	R4	R5	R6	R7	単位	区分		
まちづくり計画の策定数		目標		—	—	—	—	7	計画	累計		
		実績	4	5	5	5	6					
		達成度		71%	71%	71%	86%					
※ふるさと創造会議（10地区）におけるまちづくり計画の策定数												
		目標										
		実績										
		達成度										

基本方針・政策・施策										担当部会 1	
基本方針		4 ともに活躍しまちの魅力を高める									
政策		12 お互いを認め、尊重し合える社会の実現									
施策		③③ 自分らしく暮らせる地域づくりの推進 ③④ 男女共同参画の推進 ③⑤ 多文化共生と平和のまちの実現									
未来の加西の姿											
多様な価値観やお互いを認め合い、すべての市民が協力できるまちを目指します。											
評価検証											
施策		行政内部による評価検証（１次評価）					審議会による外部評価（２次評価）				
③③ (ア〜ウ) 評価シート 118〜121	■人権文化の推進 人権学習会の参加者数が前年度比で808名増（35%増）と大きく改善し、研修アンケートでは95%の参加者が「人権問題への関心や理解が深まった」と回答しており、人権意識の醸成を図れた。 ■子ども支援・家庭支援 こども家庭センターを創設し、統括支援員の配置と専門職の増員により相談体制を強化した。また、DVセンターに女性相談員を配置した。相談員の安定的な確保と育成が課題である。 ■成年後見支援 令和7年1月から、加西市、加東市、多可町の2市1町により「北はりま成年後見支援センター」の運営を開始した。今後、他市町の福祉サービス事業所との関係性づくりを進める。					■障害者（児）相談支援事業 障害者（児）相談件数が前年度比・目標値比ともに大きく下回っている点については、同一の方から複数の相談があった場合でも1件として集計する方式に見直されたことによるものであると理解した。 相談事業全般に関しては、相談者数の増加が「相談しやすい環境が整備されている」と評価できる一方で、「相談が必要となる状況が生じている」とも捉えられる。そのため、施策の目標達成に向けて、相談件数の多寡がどのように支援の実効性に結びついているのかについて、具体的な説明をお願いしたい。					
	総合評価	B…ほぼ目標を達成				総合評価	B…ほぼ目標を達成				
③④ (ア〜イ) 評価シート 122〜123	■男女共同参画の推進 「ウイメンズネット加西塾」では、コミュニケーションやデジタルなどのスキルアップ講座に加えて地域での活動のきっかけとなる「防災」をテーマとした講座を開催し、女性リーダー養成に取り組んだ。また、自治会役員女性登用助成制度に新たに8件の申請があり、19自治会（13.5%）で女性役員登用が進んだ。 ■雇用の促進 兵庫労働局との雇用対策協定のもと、女性向けの就労セミナーを開催するほか、子育て応援面接会を開催し、女性の就労促進に取り組んだ。					■女性の雇用促進 市内には、女性が働ける職場が少ないとの印象があり、これが転出の一因となっている可能性がある。特に製造業においては、女性が働きやすい職場環境の整備を一層推進するとともに、すでに環境整備を終えている企業に対しては、従来のイメージを払拭するための情報発信等の取り組みを推進いただきたい。 また、企業と就業希望者との間で円滑な雇用のマッチングを図ることも、今後ますます重要となってくる。					
	総合評価	B…ほぼ目標を達成				総合評価	B…ほぼ目標を達成				
③⑤ (ア〜ウ) 評価シート 124〜126	■多文化共生の推進 国際交流協会と連携して、日本語教室、国際理解、日本語ボランティア研修を実施し、住民交流事業参加者数が626人に増加した。令和7年度のグローバルセンター開設に向けて準備を行った。 チラシの翻訳や周知により、医療通訳システムの活用が大幅に進んだ。また、小学校2か所と市職員向けにやさしい日本語教室を実施した。 ■平和ツーリズムの展開 soraかさいの自主事業としてマルシェ、講演会、ナイトミュージアム等のイベントが実施された。soraかさいと法華口駅間でピースツーリズムを実施して誘客を図るほか、鶴野フィールドミュージアムのデジタルコンテンツを活用し、平和学習誘致の営業活動を行った。					■国際理解推進 多文化共生の実現に向けては、在住外国人への支援に加え、日本人の外国人に対する意識改革も不可欠である。これには一定の時間を要するが、長期的な視点に立ち、学校や企業等と連携しながら、積極的に人権教育の推進に取り組んでいただきたい。					
	総合評価	B…ほぼ目標を達成				総合評価	A…目標を大きく上回って達成				
目標を達成するための主な指標（KPI）											
指標		区分	基準値(R元)	R3	R4	R5	R6	R7	単位	区分	
人権研修の参加者数		目標		—	—	—	—	3,500	人	単年	
		実績	3,398	2,074	2,272	2,298	3,106				
		達成度		59.3%	64.9%	65.7%	88.7%				
※加西市が実施する人権研修会の参加者数											
女性管理職の登用率		目標		—	—	—	—	20.0	%	単年	
		実績	15.2	13.3	11.8	10.7	14.2				
		達成度		66.5%	59.0%	53.5%	71.0%				
※加西市役所、市立こども園、市立加西病院、市立小・中・特別支援学校、市内企業の女性管理職の割合											

基本方針・政策・施策										担当部会 2	
基本方針	4 ともに活躍しまちの魅力を高める										
政策	13 効率的で持続可能な行財政の推進										
施策	③⑥ 行財政運営の効率化 ③⑦ ICTの利活用の推進 ③⑧ 広域連携と公民連携の推進										
未来の加西の姿											
計画的な行財政運営と人材の資質向上により、質の高いサービスを提供できるまちを目指します。											
評価検証											
施策	行政内部による評価検証（1次評価）						審議会による外部評価（2次評価）				
③⑥ (ア～オ) 評価シート 127～131	■行政サービスの質の向上 広域研修への参加人数は前年度比で40名（36％）増となった。引き続き専門知識の習得や広域的な視野を持った職員の育成に努める。 ■行財政運営の効率化 人件費の上昇やふるさと納税額の減少があったものの、計画的な予算執行、国県補助金や起債・ふるさと納税の活用、一般財源の歳出抑制により基金残高を確保し、持続可能な財政運営を行った。大型建設事業が本格化するなか、健全な財政運営となるよう予算編成を進める。 ■徴収体制強化 物価高騰を考慮した実質賃金が3年連続減となり、過年分の収納率も0.6ポイントの減となった。現年分は0.1%の上昇となり年度目標を達成した。						■職員の業務環境 テレワークの推進にあたっては、一定の強制力をもって取り組みを促進し、そのための業務環境や制度の整備を進めることが重要であるとする。制度の利用を希望する職員が円滑に利用できるよう、柔軟な運用と配慮をお願いする。 また、行財政運営の効率化については引き続き努めていただきたい。				
	総合評価	B…ほぼ目標を達成					総合評価	B…ほぼ目標を達成			
③⑦ (ア～イ) 評価シート 132～134	■ICTの利活用、業務の効率化 AI議事録の活用に加えて、ビジネスチャットツールに実装したAIチャットボットの活用などにより、業務の効率化が図られている。 文書のデータ管理、議会資料の完全ペーパーレス化等により、コピー使用枚数は減少傾向にある。 ■行政手続きのオンライン化 住民票等のオンライン申請が可能となったが、発行枚数が目標を下回っており、自動交付機からの移行が想定通りには進んでいない。R7年度の自動交付機撤去に向けて、コンビニ交付とオンライン交付の活用推進に取り組む。						■ICTの利活用 新たに設定しているKPI「AI議事録の利用回数」は、AIを活用した業務効率化の進捗を測る指標であるため、全ての会議においてAI議事録が活用されるべきである。会議の開催数が目標値を下回っている場合は、AI議事録の利用回数が目標に達しないこともやむを得ないが、会議数が目標値を上回っている場合、目標未達であることに疑問が残る。 ■行政事務文書 議会資料の完全ペーパーレス化が進んだことを評価する。 ■行政手続きのオンライン化 自動交付機を撤去することで、窓口対応の負担が増加する可能性が懸念される。また、利用されている方もいるため、撤去に関する広報等を行っていただきたい。				
	総合評価	B…ほぼ目標を達成					総合評価	C…目標をやや下回って達成			
③⑧ (ア～イ) 評価シート 135～137	■広域連携の推進 北播磨広域定住自立圏では、社会情勢や近年の市民ニーズ等を反映し、令和7年度から5年間の第3次ビジョンを策定した。自治体の枠組みにとらわれることなく集約とネットワークによる圏域の創造に取り組む。 ■SDGsの推進 加西市のSDGsを共に推進するSDGsパートナー登録事業者が50件に増加した。また、新たに2件の包括連携協定を締結し、様々なステークホルダーとの連携により行政サービスの向上を図る。 ■高校・大学・企業との連携 神戸大学食資源センターや県立播磨農業高校の農産物を学校給食で提供したほか、県立農林水産技術総合センターと連携し、黒枝豆新ブランド「ひかり姫」の生産拡大や有機米の実証生産に取り組んだ。						■広域連携と公民連携の推進 企業や大学、広域的な自治体との連携により、特色ある取組が行われており、今後も継続していただきたい。				
	総合評価	A…目標を大きく上回って達成					総合評価	A…目標を大きく上回って達成			
目標を達成するための主な指標（KPI）											
	指標	区分	基準値(R元)	R3	R4	R5	R6	R7	単位	区分	
経常収支比率	目標			—	—	—	—	92.4	%	単年 減少指標	
	実績	93.8	90.4	94.9	96.8	95.7					
	達成度		102%	97%	95%	96%					
※人件費、扶助費、公債費等の経常的な経費に対し、地方税、地方交付税、地方譲与税等の経常的な収入が充当されている比率											
地方債残高	目標			—	—	—	—	426	億円	単年 減少指標	
	実績	411	394	372	356	344					
	達成度		107.5%	112.7%	116.4%	80.8%					
※一般会計・特別会計・企業会計の全ての市債の残高											

後期基本計画
施策目標等の検討資料

確認要領

【基本方針1】 子育てを応援し、暮らしを愉しむ

政策 01 新しい家族と出会い、育むための支援の充実		KGI	10月1日時点の0～5歳人口
			20～44歳（日本人）の社会増減（転入数－転出数）
STEP 2			
施策 ① 出会い		STEP 3 暮らしを支える定住支援	
施策目標		若者が気軽に交流や出会いを楽しむ機会を創出するとともに、新婚世帯への助成などを通じて、より豊かで安心できる結婚生活を支援し、移動が多い結婚期の若者の転入促進と転出抑制を図ります。	
STEP 1 若者支援 結婚支援	主な施策	STEP 4 KPI	婚活イベント参加者数
	結婚新生活支援事業（引越し支援）		結婚新生活支援事業補助金の新規助成件数
	新婚世帯向け家賃補助事業		
	出逢いの場創出事業		
	奨学金返還補助事業		20～29歳（日本人）の社会増減（転入数－転出数）

STEP 1 施策目標の主題（視点）を確認

STEP 2 「政策⇒施策⇒施策目標」の階層から「施策」を達成する「施策目標」として適切な内容かを確認

STEP 3 施策目標の内容確認と事業提案

「施策目標」： 市民目線での記述内容であるか

「主な施策」： 具体的な行政サービス（事業）を決定・廃止を目的とした審議ではありませんが、施策目標の達成つながる、ご提案があればご意見ください。

施策目標は、以下のとおり一定の基準に基づいて作成しています。

【前段】

→行政の施策を記載しています。

「・・・（事業）・・・」を実施し、
「・・・（取組）・・・」を通じて、



行政の取組（事業実施）を目標にしない
※行政が実施する必要がある「義務的事業」を除く

【後段】

→施策を通じた目標を記載しています。

「・・・（市民の心の動き）・・・」を図ります。
「・・・（市民の行動変容）・・・」を目指します。
「・・・（社会のあるべき姿）・・・」を構築します。



目的は「行政目線」ではなく、「市民目線」に統一する

STEP 4 KPIの妥当性を確認

- ・視点1：客観的な成果を示す指標（アウトプット・アウトカム指標が望ましい）
- ・視点2：事業との直接性のある効果を表す指標（因果関係の明確性）
- ・視点3：測定可能である指標（進捗管理ができ評価ができること）

KPIは、以下のとおり一定の基準に基づいて作成しています。

- ・施設数、開催数×などではなく、利用者数、参加者数○としました
- ・母数による変動が著しい数値は、数量×ではなく割合○としました
- ・目標達成のための手段の結果（アウトプット指標）だけを目標とせず、成果（アウトカム指標）を併用しました
- ・指標の妥当性が客観的に判断できるよう、専門的な用語は使わず具体的な内容を記載しました
→やむを得ない場合は（カッコ）書きや説明書きを加えています
- ・できる限り直接的な効果を測れる数値を指標としました
- ・行政の義務的事業を除いて、KPIの主語は行政ではなく市民としました
- ・各分野の個別計画のKPIとの整合を図っています

【基本方針 1】 子育てを応援し、暮らしを愉しむ

政 策 01	新しい家族と出会い、育むための支援の充実	KGI	10月1日時点の0～5歳人口
			20～44歳（日本人）の社会増減（転入数－転出数）
施 策 ①	出会いから始まる暮らしを支える定住支援		
若者支援 結婚支援	施策目標 ア	若者が気軽に交流や出会いを楽しむ機会を創出するとともに、新婚世帯への助成などを通じて、より豊かで安心できる結婚生活を支援し、移動が多い結婚期の若者の転入促進と転出抑制を図ります。	
	主な施策	結婚新生活支援事業（引越し支援）	婚活イベント参加者数
		新婚世帯向け家賃補助事業	
		出逢いの場創出事業	結婚新生活支援事業補助金の新規助成件数
		奨学金返還補助事業	
			20～29歳（日本人）の社会増減（転入数－転出数）
	施策目標 イ	住宅取得時の負担軽減策や空き家の利活用を通じて、子育て世帯の定住を促進するとともに、手厚い移住支援により転入の促進を図り、若者から選ばれるまちを目指します。	
住宅取得支援 移住定住	主な施策	若者定住促進住宅補助事業（持ち家取得支援）	若者定住促進住宅補助制度の助成件数
	空き家バンク事業		
	空き家改修補助事業	30～44歳（日本人）の社会増減（転入数－転出数）	
	空き家活用支援事業		
	移住支援金給付事業		
	施 策 ② 妊娠・出産・育児の不安に寄り添う支援		
妊娠・出産 育児支援	施策目標 ア	妊娠期のサポートや産後ケアなどを通じて、妊娠・出産から子どもが大きくなるまで切れ目ない子育て支援を展開し、希望する人が安心して子どもを産み育てられる環境を提供します。	
	主な施策	産後ケア事業	産後ケアお試し券を利用した人の割合
		電子母子手帳の運用	
		不妊治療ペア検査費用助成事業【新規】	電子母子手帳に登録されている子どもの数
		不育症治療費用助成事業	
施策目標 イ	こども家庭センターを中心に、検診や予防接種支援で赤ちゃんの成長をサポートします。あわせて、子育て相談を通じて育児に関するところとからだのケアを行い、パパやママの育児に関する不安を解消します。		
育児不安 解消	主な施策	こども家庭センター運営事業	乳幼児健診の対象となる子ども(2か月、4か月、1歳6か月、3歳、5歳児健診)の状況が把握できた割合
	乳幼児健診事業、5歳児健診【新規】		
	インフル、おたふく予防接種補助	この地域で子育てをしていきたいと思う親の割合【1歳6か月児健診】	
	こんにちは赤ちゃん訪問事業		
	親子関係形成支援事業		
	子育て短期ショートステイ事業、養育支援訪問事業		

施 策 ③	心身ともにゆとりを持てる子育て環境の整備				
5つの無料化	施策目標 ア	経済的な負担の軽減と切れ目ない支援で、保護者が心身ともにゆとりを持って子育てできる環境を整えます。			
	主な施策	教育保育施設保育料の無料化	KPI	5つの無料化の認知度（転入出アンケートで「知っている、聞いたことがある」と回答した割合）	
		こども園、学校給食費の無料化		0～18歳の子ども一人当たりの医療費（乳幼児医療費・こども医療費）助成額	
		高校3年生までの医療費の無料化			
		かさいすくすく子育て定期便事業			
		病児病後児保育の無料化			かさいすくすく子育て定期便を手渡しできた割合
		多子世帯等下水道減免事業			
施策目標 イ	保育士の処遇改善や民営化によって、必要とする人が保育を受けられる体制を整えるとともに、きめ細やかで質の高い保育を提供します。				
保育施設 保育環境	主な施策	こども園運営事業	KPI	園を信頼し、子どもたちの教育・保育を任せられると答えた保護者の割合	
		学童保育運営事業		4月末時点における学童保育園の待機児童数（－）	
		デジタル化推進事業（登降園システム導入等）			
					学童保育を利用して楽しいと思う児童の割合
施策目標 ウ	一時預かり、療育支援、親同士の交流機会の創出など、保護者のニーズ合わせた保育サービスを展開するとともに、周囲の力を借りながら楽しく無理のない子育てができる環境を整えます。				
その他保育 子育て環境	主な施策	療育支援事業	KPI	子育て広場利用者について育児の不安解消につながった方の割合	
		子育て支援拠点事業（子育て広場）		誰でも通園制度の利用時間の合計（累計）	
		こども誰でも通園制度			
		屋内型遊戯施設&テレワークセンター運営事業			

【基本方針 1】 子育てを応援し、暮らしを愉しむ

政 策 02	子どもの教育の充実	KGI	全国学力学習状況調査（小6：国算理、中3：国数理）において全国平均点を上回った教科数
			地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童生徒の割合【全国学力学習状況調査】

施 策 ④ 未来を担う人材を育む教育の推進

学校教育 3C人材育成	施策目標 ア	「加西BASE」「加西STEAM」「加西GLOBAL」を柱とする加西の教育3本の矢をとおして、挑戦（Challenge）・協働（Collaborate）・創造（Create）できる『3C次世代型人材』の育成に取り組みます。		
	主な施策	プロから学ぶ体験型音楽推進事業	KPI	中学3年生の英検3級以上合格者の割合
		イングリッシュミーツ【新規】		授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると回答した児童生徒の割合【全国学力学習状況調査】
		海外短期留学事業【新規】		将来の夢や目標を持っていると回答した児童生徒の割合【全国学力学習状況調査】
		ALT配置事業		
施策目標 イ	一貫性のある教育と切れ目ない特別支援教育を推進し教育の質向上を図るため、小・中・特別支援学校や高等学校との連携を強化するとともに、地域全体で子どもの成長を支える仕組みを構築します。			
学校間連携	主な施策	教職員向け研修講座の開催事業	KPI	教職員を対象とした研修講座の満足度
		特別支援教育コーディネーター事業		市内小中特別支援学校における小中高連携（小小・小中・中高連携など）をねらいとした活動の回数
		特別支援業務支援システムLITALICO運用事業		
		北条高校活性化協議会運営事業		
		播磨農業高校地域活動支援事業		
施策目標 ウ	GIGAスクール構想のもとICT環境を整備し、デジタル教科書やクロームブックなどを活用して子どもの情報活用力を高めます。学校運営面でもデジタル技術を活用し、保護者との連携を深めるとともに校務の負担軽減を図ります。			
教育DX	主な施策	校務支援システム運用事業【新規】	KPI	PCやタブレット等のICT機器を使って学校のプレゼンテーションを作成できると回答した児童生徒の割合【全国学力学習状況調査】
		ICT教育支援プロジェクト（デジタル教科書等）		学校の授業時間以外で、児童生徒が勉強のためにPC・タブレット等のICT機器を使う1日当たりの平均時間【全国学力学習状況調査】
		学校内無線LAN増強事業		
				文科省の推奨帯域を満たす（生徒数等に応じた十分なネットワーク速度が確保されている）学校の割合
施 策 ⑤ 多様な学びを支える教育環境の整備				
教育環境	施策目標 ア	多様な人との関わりや学びの機会を確保するため、小中学校を適正な規模に再編します。老朽化した校舎については、安全管理や改修を進め、安心して子どもを通わせることができる教育環境を整備します。		
	主な施策	教育施設環境整備事業	KPI	築40年を超えた学校校舎等の改修工事の完了棟数
		中学校統合事業		統合後の小中特別支援学校数（－）
		小学校統合事業		
		スクールバス運行事業		
施策目標 イ	フリースクールや発達検査の活用、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、臨床心理士や発達臨床心理士などによる相談支援により、様々なケースや悩みに対応し、個々の生徒に合わせた学習機会を提供します。			
いじめ 不登校支援	主な施策	適応指導総合事業（発達支援プログラム）	KPI	総合教育センターの臨床心理士による教育相談の回数
		適応指導総合事業（ふれあいホーム）		不登校児童生徒が教職員やスクールカウンセラーをはじめとする何らかの支援につながった割合
		校内フリースクール設置事業		
		学校サポートチーム設置事業		
		スクールカウンセラー配置事業		
施策目標 ウ	地域と共にある学校づくりと地域人材の活用により、地域での学びや体験活動、地域クラブ活動などを推進します。地域とのつながりを深めることで、子どもの地域への愛着を育みます。			
地域連携 地域愛	主な施策	土曜チャレンジ学習事業	KPI	地域人材（ゲストティーチャー、部活動指導員等）の1校あたり活用人数
		学校支援活動事業		土曜チャレンジ学習の参加者数
		学校運営協議会設置事業		
		部活動指導員配置（地域移行）事業【新規】		
		地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童生徒の割合【全国学力学習状況調査】		

【基本方針 1】 子育てを応援し、暮らしを愉しむ

政 策 03	生涯にわたって学び、楽しめる環境づくり	KGI	図書館来館者数
			文化・スポーツ活動の参加者数（体育施設、市民会館、公民館の利用者数）

施 策 ⑥ いつまでも学び続けられる環境の整備

社会教育 公民館活動	施策目標 ア	ライフステージに応じた学びの場を提供し、あらゆる世代の人が学び、地域社会で活躍しながら幸福感や生きがいを感じられる社会を構築します。		
	主な施策	公民館主催講座の実施	KPI	公民館等施設の利用者数
		オークタウン加西主催講座の実施		
				公民館登録グループによる出前講座の開催数
施策目標 イ	市民が幅広く高度な情報に触れることができるよう、電子図書館をはじめとした図書館サービスの拡充に取り組み、図書館の利用促進を図ります。			
図書館	主な施策	図書資料の充実	KPI	図書館来館者数
		電子図書館の推進事業		
		図書館活性化イベント開催事業		図書資料及び電子書籍の貸出数

施 策 ⑦ 文化・スポーツ活動でアクティブライフを推進

スポーツ 振興	施策目標 ア	子どもから高齢者まで、幅広い世代の市民がスポーツを身近に楽しめる環境を整備し、スポーツを通じて、多様な立場にある人々が生きがいを感じ、心身ともに健康で充実した生活を送れる社会の実現を目指します。		
	主な施策	社会スポーツ振興連携事業	KPI	スポーツ推進委員会が主催するニュースポーツ教室の参加者数
		スポーツ施設管理運営事業		スポーツ施設の利用者数
		総合運動防災公園整備事業【新規】		
		スポーツ団体育成事業		
芸術文化 振興	施策目標 イ	文化事業を行う団体等を支援し、市民が芸術文化に親しむ機会を増やします。次代へつなぐ伝統文化の継承を進め、郷土愛の醸成を図ります。		
	主な施策	文化活動推進事業	KPI	文化団体による自主事業の開催回数
		芸術文化支援事業		文化祭・街角コンサート等の参加者数
		次代へつなぐ伝統文化継承補助金		

【基本方針 1】 子育てを応援し、暮らしを愉しむ

政 策 04	くらしを支える福祉・医療の充実	KGI	要介護認定率（－）
			平均自立期間（心身ともに自立した活動的な状態で生存できる期間）

施 策 ⑧ 誰一人取り残さない福祉支援

施策目標	ア	見守りや移送サービス等の高齢者の生活支援の充実を図るとともに、関係機関や多様な住民と連携して通いの場や就労の場づくりを推進し、高齢者の住み慣れた地域で生活したいという希望を実現します。		
	主な施策	高齢者向け配食サービス事業	KPI	タクシー利用助成の利用件数
高齢者福祉		高齢者タクシー利用助成事業【新規】		かさい通いの場リストの登録団体数
		通いの場づくり補助事業【新規】		
		生活支援サポート事業		
		高齢者就労支援事業		シルバー人材センター会員数
		認知症サポーター養成事業		
施策目標	イ	支援を必要とする人への合理的配慮に取り組み、地域生活への移行や社会参画を促進するための福祉サービスを提供することで、障がいのある人や発達に課題を抱える子どもなどが暮らしやすい社会を目指します。		
障がい者福祉	主な施策	就労継続支援事業（A型、B型）	KPI	就労継続支援から一般就労への移行者数
		社会参加促進事業		障がい者福祉団体が実施する障がい者（児）社会参加促進事業の参加者数
		精神障害者保健福祉手帳2、3級取得者への医療費助成事業		
施策目標	ウ	生活困窮者の自立支援や見守り、社会福祉協議会等の各種団体と連携した福祉活動の推進により、誰もが安心して暮らせる地域づくりを進めます。		
自立支援	主な施策	生活困窮者自立支援事業	KPI	就労支援による就職者数
		社会福祉協議会補助金（地域福祉活動推進）事業		子ども食堂利用者数
		子ども食堂運営支援事業		

施 策 ⑨ いつまでも元気で健康に暮らせるまちづくり

健康生活	施策目標	ア			運動ポイント事業や運動教室の開催、こころの相談体制の充実を通じて、心身の健康に配慮した生活習慣の定着を促し、いつまでも健康に暮らせるよう支援します。
	主な施策	運動ポイント事業	KPI	運動ポイント事業参加者数	
		運動教室事業		ゲートキーパー研修参加者数	
		こころの健康相談事業			
		ゲートキーパー研修・こころのケアセミナー事業			
予防検診	施策目標	イ			健康教育や予防接種、がん検診、フレイル予防、食育の推進を通じて、市民一人ひとりが主体的に健康維持し、地域ぐるみで健康づくりに取り組む体制を構築します。
	主な施策	健康教育事業【新規】	KPI	健康講座の延べ参加者数	
		女性のためのがん検診推進事業		女性がん検診（乳がん・子宮がん）の受診率	
		带状疱疹定期予防接種【新規】			
		高齢者保健介護予防（フレイル予防）事業			
		食育推進事業			
		特定健診特定保健指導事業	特定健診（40歳～74歳を対象とする生活習慣病予防を目的とした健診）の受診率		
医療体制	施策目標	ウ			加西病院の移転整備と福祉・医療機能の集約を進め、医療DXや医師確保による経営改善に取り組みます。また、基幹病院や周辺医療機関との連携強化と機能分化を図り、持続可能な医療提供体制を構築します。
	主な施策	地域包括ケアシステム推進事業	KPI	加西病院の病床利用率	
		新病院建設事業		加西病院の患者紹介率（初診患者のうち、他の医療機関からの紹介患者と救急搬送患者が占める割合）	
		医学生向け奨学金貸付事業			
		休日・年末年始の診療体制の維持（加西市医師会）			
		年末年始の診療体制の維持（加西市歯科医師会）			

【基本方針 2】 活力とにぎわいのあるまちを育む

政 策 05	農業の再生と活性化	KGI	認定農業者及び認定新規就農者による集積面積（権利設定面積）
			第 1 次産業の市内生産額【市町民経済計算（生産）】 ※(n-2)年の統計データ

施 策 ⑩	地域農業の担い手育成と経営力の向上
-------	-------------------

人材育成 経営強化	施策目標	ア 若者や女性の農業へのチャレンジを支援して担い手を育成します。農地集積による農業経営の大規模化や法人化を進めるとともにスマート農業の導入等による経営強化を通じて、持続可能な農業を推進します。		
	主な施策	新規就農支援事業補助金事業	KPI	認定農業者数（3/31時点）
		新規就農者育成総合対策補助金事業・農業次世代人材投資資金		
		担い手育成施設整備支援事業補助金事業		認定新規就農者数（3/31時点）
		農地利用効率化等支援交付金事業		
		大型特殊自動車免許取得補助金事業・女性若者担い手育成奨励金		
環境保全型農業直接支払交付金事業	集落営農組織による農地集積面積【営農計画書より】			
施策目標	イ	酒米、ぶどう、とまと、いちご、アスパラガス、ハボタン等の生産支援やPR活動を通じて、特産農産物のブランド力強化を図り、生産者の所得向上を目指します。		
地域産品 ブランド	主な施策	ぶどう生産推進補助金事業	KPI	ファーマーズマーケット（かさい愛菜館）ぶどう販売額
		施設園芸設備整備支援事業補助金事業		ファーマーズマーケット（かさい愛菜館）とまと販売額
				ファーマーズマーケット（かさい愛菜館）いちご販売額
施 策 ⑪		豊かな農地と農業環境の保全		
農業環境	施策目標	ア 農地の維持・改良や施設の長寿命化、ため池の安全性の強化に取り組み、持続可能な農業と農地環境づくりを進めます。		
	主な施策	ため池等整備事業	KPI	ため池防災工事による改修率
		多面的機能支払交付金事業		
施策目標	イ	獣害防護柵の設置や駆除等の有害鳥獣対策及び病虫害対策を通じて、農業経営の安定に向けた被害防止体制を強化します。		
鳥獣害 対策	主な施策	有害鳥獣駆除委託事業	KPI	野生鳥獣による農作物被害面積（－）【兵庫県野生鳥獣による農作物被害状況報告書】
		獣害ベルト緊急整備委託事業		
		獣害防護柵、電気防護柵補助事業		獣害防護柵（金網柵）の総延長
		狩猟免許取得補助事業		
		水稻損害防止事業補助事業		

【基本方針 2】 活力とにぎわいのあるまちを育む

政 策 06	商工業の振興と新展開	KGI	市内総生産額【市町民経済計算（生産）】 ※（n-2）年の統計データ
			若者の残存定住率（n年の26-28歳人口／（n-10）年の16-18歳人口（日本人のみ、各年10月1日時点））

施 策 ⑫		産業振興による地域活力の創出		
産業振興 企業誘致	施策目標 ア	地域の中小企業の持続化支援や事業承継、競争力のある産業の育成、企業誘致を推進します。多様な雇用機会を確保し、地域産業を振興することで市民の豊かな暮らしを支える経済基盤を築きます。		
	主な施策	小規模事業者持続化支援補助事業	KPI	産業奨励金（企業立地や事業拡張に対する優遇措置）を交付した事業者数
		新産業創出支援補助事業		工場、倉庫、事務所など事業所の建築確認申請（新築、改築、増築、用途変更）受付件数
		店舗・オフィス立地補助事業		
		加西インター産業団地整備事業		
		学校跡地、空き家活用事業【新規】		
	民間産業団地、産業用地整備支援【新規】	製造業製造品出荷額【経済構造実態調査（製造業事業所調査）】※（n-1）年の統計データ		
施策目標 イ	空き店舗活用や創業支援、地域通貨の利用促進を通じて、地域経済の活性化を図ります。市民が地元で買い物や交流を楽しむことで地域での経済循環が促進され、豊かで賑わいのあるまちを目指します。			
起業創業 経済循環	主な施策	特定創業支援事業、定住自立圏共生ビジョン創業支援事業	KPI	特定創業支援事業（創業相談、創業塾等）を通じて創業した件数
	起業・創業スタートアップ支援事業	空き店舗活用関連補助金の助成件数		
	空き店舗活用補助事業			
	地域通貨による地域経済循環促進事業			
				ねっぴ〜Payのユーザー数
施 策 ⑬		多様な働き方の推進と雇用の確保		
若者定着 雇用安定	施策目標 ア	市内企業の魅力を伝えてふるさとへの誇りと愛着の醸成を図るとともに、多様な働き方を推進することで、若者や女性が地域に根付いて暮らすことができるよう環境を整え、雇用の確保を図ります。		
	主な施策	若者就職支援事業（就職ポータルサイト運営事業）	KPI	女性活躍関連セミナー参加者数
		雇用安定対策事業（JOBフェア開催）		市内事業所の正社員における女性の占める割合
		ふるさと就職支援事業（産業観光ツアー）		
施策目標 イ	多様な人材と企業とのマッチングにより人手不足の解消を図るとともに、関係機関と連携しながら障がい者の就労支援、就労訓練や引きこもり支援など労働者福祉の充実を図ります。			
労働者福祉	主な施策	ふるさとハローワーク運営事業	KPI	就職支援セミナーの参加者数
	就労セミナー開催	加西市ふるさとハローワークの支援による就職件数		
	引きこもり支援事業			

政 策 07	地域資源の活用と人の流れの創出	KGI	観光入込客数	
施 策 ⑭		観光振興による交流人口の拡大		
平和ツーリズム	施策目標 ア	玉丘史跡公園をはじめとする歴史文化遺産の活用やsoraかさいを中心とした平和ツーリズムなどを推進し、地域資源を活かした交流人口の拡大を図るとともに地域の魅力を再発見し、新たな価値を創出します。		
	主な施策	指定管理業務（soraかさい運営）委託事業	KPI	soraかさいの入館者数
		鶉野飛行場平和ツーリズム推進事業		
		文化財管理等委託事業		
		文化財保存活動・活用事業等補助事業		
				修学旅行・校外学習でsoraかさいに来訪した学校数
	施策目標 イ	サイクルツーリズムや気球の飛ぶまちなど観光資源を活かした観光コンテンツを情報展開するとともに、データを活用した誘客と観光拠点のネットワーク化を進め、観光支出を地域経済に還元できる仕組みを構築します。		
	主な施策	観光産業推進事業（サイクルツーリズム等）	KPI	観光ガイド（ボランティアガイド）の実施回数
観光産業推進事業（気球の飛ぶまち）				
観光ガイド育成事業				
観光情報発信事業				
			市内宿泊施設の年間宿泊客数	
			ふーど記スタンプラリーの参加者数	
施 策 ⑮		地域資源を活かした魅力の発信と関係人口の創出		
ふるさと納税	施策目標 ア	魅力的なふるさとと納税返礼品の充実やポータルサイト等の活用を通じて寄附者の関心を高め、ふるさとと納税制度の利用拡大により地域の振興と発展に寄与します。		
	主な施策	ふるさとと納税推進事業	KPI	ふるさとと納税受入額
		ECサイトを活用したブランディング事業		
	施策目標 イ	地域資源を活かした商品開発や体験交流を推進し、農産物や特産品の販路拡大や関係人口の増加を通じて、賑わいのあるまちづくりを目指します。		
	主な施策	関係人口創出事業（お試し滞在制度）	KPI	お試し滞在補助制度を使って加西市に滞在した延べ宿泊数（3人家族が2泊した場合は6泊）
		シティプロモーション推進事業		
観光産業推進委託事業（みやげ品開発）				

【基本目標 3】 快適に暮らせる安全な社会をつくる

政 策 08	安全・安心に暮らせる環境の充実		KGI	防災情報が受け取れる状況にある（公式LINE防災登録、ライフナビ）市民の割合	
				人口1000人当たりの交通事故発生率（－）	
施 策 ⑩ 命を守る災害に強いまちづくり					
防災体制	施策目標 ア	情報伝達システムを活用した防災情報の提供や防災訓練の実施、避難行動要支援者名簿の整備を通じて、災害発生時に備えた防災体制の強化に取り組みます。			
	主な施策	かさいライフナビの普及推進事業	KPI	防災情報が受け取れる状況にある（公式LINE防災登録、ライフナビ）市民の割合	
		避難行動要支援者者名簿、個別避難計画の策定事業		避難行動要支援者の個別避難計画策定件数	
		ハザードマップ整備事業			
	施策目標 イ	自主防災組織の活動促進や地域の消防団への支援、防災リーダーの育成などを通じて、市民一人ひとりが自らを守る力を身につけることで、地域防災力の向上を図ります。			
地域防災力	主な施策	自主防災組織訓練補助事業	KPI	教育機関、企業、地域で実施した防災訓練や研修の回数	
		消防防災施設等整備事業		防災リーダーの養成人数（累計）	
		防災リーダー育成事業			
施 策 ⑪ 安全な暮らしを守る防犯対策					
防犯安全安心	施策目標 ア	防犯灯や防犯カメラの設置、見守り体制の強化、警察等との連携による交通安全対策、空き家対策を通じて、子どもからお年寄りまで誰にとっても安全で事故のないまちづくりを進めます。			
	主な施策	防犯灯設置事業、街灯り事業	KPI	防犯カメラが設置されている交差点数	
		防犯カメラ設置事業		交通安全教室等の研修回数	
		自動録音電話機等購入費補助事業		補助金を活用して除却できた老朽化空き家の件数	
		自転車保険加入事業			
		交通安全教室実施事業			
	老朽危険空き家撤去事業				
施策目標 イ	土地や家族間の問題など多様化する市民の悩みに対応するための相談体制を充実させ、消費者被害の防止に向けた啓発や情報提供を行い、トラブルの未然防止と市民生活の困りごと解消に努めます。				
トラブル防止	主な施策	市民相談事業	KPI	弁護士相談の受付件数	
		消費生活相談事業			
		消費者問題への啓発活動、講座開催			

【基本目標 3】 快適に暮らせる安全な社会をつくる

政 策 09	快適な都市空間の創出	KGI	建築確認の届出があった一戸建及び集合住宅の総戸数	
			市域の温室効果ガス排出量（－）	
施 策 ⑱ 地域の特性に応じた土地利用と住環境整備				
住宅開発 住環境整備	施策目標 ア	都市計画マスタープランに基づいて市域全体で土地利用と宅地供給を促進し、職住近接を基本として、循環型社会やデジタル社会といった時代の潮流に対応した多様で快適な住まい方ができるまちづくりを進めます。		
	主な施策	官民連携による住宅地整備事業	KPI	戸建て新築住宅の建築確認受付件数
		用途地域内の未利用地の流動化促進		住宅団地開発に関する市開発調整条例の届出と集合住宅の建築確認申請の受付戸数
		区域区分廃止に伴う住宅供給、移住定住の促進【新規】		
		北条旧市街地の景観保全推進		
		都市公園・一般公園の適正管理		
	宅地供給促進補助事業	都市公園（丸山総合公園、朝妻公園、ハイツ第2公園など）の利用者数		
施策目標 イ	買い物や福祉・医療、教育、地域活動などの生活機能を集約した核や拠点を整備するとともに、学校跡地の活用や地域公共交通との連携によるコンパクトなまちづくりを進め、市民の日々の暮らしを守ることによって生活の質を高めます。			
コンパクトシ ティ	主な施策	かさいセントラルスクエアのまちづくり推進【新規】	KPI	
		官民地域連携による学校跡地活用推進事業【新規】		
		副都市核、地域拠点における生活利便性向上推進【新規】		
		北条市街地の都市機能、交通機能の拠点性維持、強化【新規】		
施 策 ⑲ 自然保護と地域循環社会の構築				
脱炭素 社会	施策目標 ア	地域循環共生圏の考え方にに基づき、環境を守りながら外部依存を減らし、資源のリサイクルやエネルギーの地域循環を推進します。脱炭素を実現する循環型社会を構築することで持続可能な未来を目指します。		
	主な施策	再エネ施設・基盤インフラ整備事業	KPI	市内の太陽光発電設備導入量
		蓄エネルギー設備設置補助事業		市民一人あたり 1 日のごみ排出量（－）
		電気自動車導入補助事業		
		環境に配慮した住宅整備事業		
		リサイクル関連事業		
ごみ処理施設広域整備事業【新規】				
施策目標 イ	田園や森林などの景観保全と生物多様性に配慮した取組を通じて自然環境を保護し、水と緑に囲まれた豊かな生活を市民が享受できるようにします。			
自然環境	主な施策	環境保全普及啓発事業（夏休み環境バスツアー）	KPI	市が実施する環境啓発事業（環境バスツアー等）の参加者数
		野生生物保護地区保全事業		施業森林面積（自然保護や生物多様性保護の目的で計画的に保全管理されている森林面積）
		動植物生態調査事業		

【基本目標 3】 快適に暮らせる安全な社会をつくる

政 策 10	安全性と利便性が確保された都市基盤の整備	KGI	道路改良率（車道幅員が5.5m以上に改良済の道路の延長／実道路延長）
			公共交通（鉄道、バス、地域主体型交通）の利用者数

施 策 ⑳	暮らしを支える生活インフラの維持管理
-------	--------------------

施策目標 ア		国道372号や幹線道路の整備、通学路等の安全確保、河川・橋梁の維持管理、未改修河川の整備を進め、市民の安全で安心な暮らしを保障する生活基盤を整備します。		
道路整備	主な施策	上宮木玉野線の新設改良事業	KPI	新設整備した主要幹線道路の延長
		市道中野網引線の通学路整備事業		
		市道草刈り補助事業		歩道やグリーンベルトを設置した通学路の延長
		道路修繕・改良工事		
		生活道路整備補助事業		
		市道橋梁の点検・補修事業		
施策目標 イ		上下水道施設の計画的な整備・改修や統廃合を進め、安全な水の供給と安定的な下水処理を行うとともに、効率的かつ持続可能な事業経営を目指します。		
上下水道整備	主な施策	社会資本整備総合交付金事業	KPI	水道管路総延長のうち耐震性能があるの管路の割合
		上下水道の整備・維持管理事業		
				給水原価（－）
施 策 ⑳ 便利で快適な交通ネットワークの整備				
施策目標 ア		鉄道やバスのほか地域主体型交通などを組み合わせた多様な交通網を整備し、決済や乗継ぎなどの交通サービスの利便性向上により、学生や高齢者などの交通弱者を含むすべての人の快適な移動を実現します。		
公共交通	主な施策	コミュニティバス再編事業	KPI	コミュニティバス（ねっぴ〜号、はッピーバス）、地域主体型交通の利用者数
		総合時刻表作成事業		
		公共交通総合HP管理事業		市内運行バス同士の乗継者数
		公共交通利用促進事業		
		地域主体型交通運営補助事業		
施策目標 イ		鉄道車両や輸送設備の保全を通じて安全な運行を維持し、市民が安心して鉄道を利用できる環境を整備します。利用促進による経営改善を図るとともに、地域の交通機関としての持続的な発展を目指します。		
北条鉄道	主な施策	北条鉄道設備等整備費補助事業	KPI	北条鉄道の輸送人員数
		ICOCAシステム導入補助事業		
		北条鉄道運営資金貸付事業		北条鉄道利用者一人当たりの行政補助額（－）

【基本目標 4】 とともに活躍し、まちの魅力を高める

政 策 11	協創のまちづくりの推進	KGI	まちづくり計画を策定した地区数
			市ホームページに掲載がある公式SNS（X、LINE、Instagram、Facebook、YouTube）の総フォロワー数

施 策 ②②	みんなで考えるまちづくりの推進
----------	-----------------

施策目標 ア		ふるさと創造会議や自治会の活動を支援し、その取組を通じて地域住民が主体的に地域の課題解決に取り組むことを推進します。		
協創 市民参画	主な施策	ふるさと創造会議地域づくり交付金事業	KPI	まちづくり計画書を策定している地区数
		集落支援員活動交付金事業		
		地域づくり活動拠点支援事業		
		まちづくり計画書の策定支援事業		
施策目標 イ		地域課題の解決を目指す地域活動家やNPO法人等を育成するとともに、団体の主体的な活動を支援することで、市民がまちづくりに参加しやすい環境を整えます。		
地域活動 支援	主な施策	地域活動団体への支援事業	KPI	地域交流センターの登録団体数
		地域交流センター運営事業		まちづくりプロバイダ制度（公益活動支援制度）を利用して地域貢献活動を行った団体数
		北条旧市街地まちなか再生 A P F 事業		
		まちづくりプロバイダ制度（公益活動支援制度）事業		
施 策 ②③		魅力を伝える情報発信と市民ニーズの把握		
施策目標 ア		広報誌やホームページ、公式LINE、SNS等を活用して、市の取組や制度を市内外に広く周知します。また、市民が必要な情報をタイムリーに受け取れるようにすることで市が実施する施策の効果を高めます。		
広報 情報発信	主な施策	広報かさい発行事業	KPI	プレスリリース等によりマスメディアに掲載された件数
		報道機関への情報発信		加西市ホームページの1ヶ月の平均アクセス数
		CMSによるホームページ運用事業		
		加西市公式LINEによる情報発信事業		加西市公式LINEの登録友達者数
施策目標 イ		市長への手紙やタウンミーティングなどを通じて細やかな市民ニーズを掘り起こすことにより今後の施策立案に活かします。		
広聴	主な施策	市長への手紙・要望書	KPI	要望書等（市長への手紙、メール含む）の受理件数
		タウンミーティングの実施		

【基本目標 4】 ともに活躍し、まちの魅力を高める

政 策 12	お互いを認め、尊重し合える社会の実現		KGI	人権啓発事業の参加者数
				公的に位置づけられた審議会等における女性委員の割合
施 策 ⑳ 人権を守り支え合いの社会の推進				
人権推進	施策目標 ア	地区人権学習や市民のつどいを通じて、家庭、学校、地域で人権や多様な性に関する教育・啓発を進め、差別を許さないまちづくりを推進します。		
	主な施策	住民人権学習事業	KPI	人権啓発事業（住民人権学習）の参加者数
		人権文化をすすめる市民のつどい事業		人権啓発事業（市が主催する人権啓発イベント）の参加者数
	施策目標 イ	こども家庭センター、成年後見支援センター、DVセンターを拠点にひとり親支援や虐待防止に取り組み、孤立を防ぐことで、包み支え合う社会を目指します。		
社会的弱者 包摂性	主な施策	こども家庭センター運営事業	KPI	養育費確保支援事業を利用し、1年後も継続して養育費を受け取っているひとり親家庭の数
	養育費確保支援事業	成年後見センターへの相談件数		
	自立支援教育訓練給付金事業、高等職業訓練促進給付金事業			
	高等学校卒業程度認定試験合格支援事業			
	DVセンター運営事業			
	北はりま成年後見支援センター事業			
施 策 ㉑ 女性活躍と多文化共生の推進				
女性活躍 多様性	施策目標 ア	女性リーダーの育成を進めるとともに企業や自治組織での女性登用を促進し、社会のあらゆる分野で性差にとらわれることなく多様性を尊重し、受け入れる社会を推進します。		
	主な施策	女性リーダー育成事業	KPI	役員に女性が登用されている自治会の割合
		自治会女性役員登用推進事業		
	施策目標 イ	グローバルセンターを拠点に、外国人への学習支援や生活情報の多言語化に取り組むとともに地域との交流を通じて互いの文化や背景を理解し認め合い、外国人が当たり前暮らし共存できる社会を推進します。		
多文化共生	主な施策	グローバルセンター運営事業【新規】	KPI	グローバルセンターでの相談（外国人の生活相談、日本人の外国人に関する相談等）受付件数
	外国人への医療通訳支援事業	日本語教室の参加者数		
	多文化共生委託事業			

【基本目標 4】 とともに活躍し、まちの魅力を高める

政 策 13	効率的で持続可能な行財政の推進		KGI	将来負担比率（－）
				実質公債費比率（－）
施 策 ⑳ 信頼される行財政運営				
職員 人材育成	施策目標 ア	各種研修やデジタル人材の育成を通じて職員個々の能力向上を図り、効率的で市民満足度の高い行政サービスを提供します。		
	主な施策	研修・人材育成事業	KPI	広域研修への参加人数
健全財政	施策目標 イ	学校再編や病院移転などの大型建設事業を見据え、安定的な財源を確保するとともに行財政改革による効率的な財政支出を推進し、健全な財政運営を堅持します。		
	主な施策	行財政改革	KPI	基金残高（財政調整基金）
				地方債残高（全会計市債残高）（－）
公共施設 適正管理	施策目標 ウ	公共施設等総合管理計画に基づき、公共施設の更新時にかかる経費の平準化や長寿命化を図るとともに、施設の多機能化や集約化により保有総量を削減するなど、公共施設全体の適正管理を推進します。		
	主な施策	固定資産台帳データ管理事業	KPI	公共施設の総延床面積（－）
		公共施設等総合管理計画に基づく施設の維持管理		
施 策 ㉑ デジタル活用で快適に暮らせるまちづくり				
行政DX 効率化	施策目標 ア	基幹システムの標準化に伴うバックヤード改革を進めるとともに、マイナンバー利用やデジタル活用を通じて、行政事務の効率化と市民サービスの向上を図り、市民がシンプルな手続きで手厚く便利なサービスが受けられるようにします。		
	主な施策	証明書等のコンビニ交付事業	KPI	コンビニでの証明書（住民票・印鑑証明書、課税証明書等） 交付枚数
		窓口キャッシュレス決済推進		窓口でのキャッシュレス決済件数
		市役所業務におけるAI利活用推進		
スマート シティ	施策目標 イ	かさい「ミライナカ」計画2030に基づき、日常生活にデジタル技術を導入するとともに、市民のデジタル利用を推進することで、地域での暮らしをより便利で豊かなものにします。		
	主な施策	デジタル市役所窓口推進事業（市公式LINE）	KPI	マイナンバーカードを用いて認証を行ったアカウント数
		スマートシティ推進協議会運営事業		スマートシティ推進協議会への参画事業者数

施 策 ⑳		パートナーシップで地域の課題解決		
広域連携	施策目標 ア	定住自立圏や連携中枢都市圏での広域連携を通じて、より効果的な事業運営を目指します。市単独での実施が難しい業務は一部事務組合を設立するなど効率的な運営に努め、近隣自治体との連携による生活機能の強化やネットワークの強化を推進します。		
	主な施策	北播磨広域定住自立圏での取組の実施	KPI	北播磨広域定住自立圏共生ビジョンにおける各連携事業のKPI平均達成率
		播磨圏域連携中枢都市圏での取組の実施		
地域連携	施策目標 イ	大学や企業のほか、地域団体、金融機関、市民など多様なステークホルダーとの連携と協働を通じて、地域課題の解決を目指します。		
	主な施策	SDGs推進事業	KPI	包括連携協定締結数（累計）
		企業・大学・団体等との連携推進事業		

第 6 次加西市総合計画

後期基本計画

素案

令和 7 (2025) 年 9 月 加西市

目 次

第1章 序論	1
第1節 計画の策定にあたって	2
第2節 社会潮流と加西市の現状	5
第3節 市民からみる加西市の姿	17
第2章 基本構想	23
第1節 基本理念と将来都市像	24
第2節 4つの基本方針	26
第3節 目指す持続可能なまち	30
第4節 将来人口	32
第5節 土地利用の基本的方向	33
第6節 計画の体系	36
第7節 評価・検証	38
第3章 基本計画	39
政策1 新しい家族と出会い、育むための支援の充実	40
政策2 子どもの教育の充実	42
政策3 生涯にわたって学び、楽しめる環境づくり	44
政策4 くらしを支える福祉・医療の充実	46
政策5 農業の再生と活性化	48
政策6 商工業の振興と新展開	50
政策7 地域資源の活用と人の流れの創出	52
政策8 安全・安心に暮らせる環境の充実	65
政策9 快適な都市空間の創出	65
政策10 安全性と利便性が確保された都市基盤の整備	65
政策11 協創のまちづくりの推進	65
政策12 お互いを認め、尊重し合える社会の実現	65
政策13 効率的で持続可能な行財政の推進	65

第 1 章 序論

第1節 計画の策定にあたって

1. 計画策定の主旨

総合計画は、市が目指す将来像を明確にし、その実現に向けた施策を総合的・体系的に示す、まちづくりの最上位計画です。また、地域創生戦略は、進行する人口減少や少子高齢化といった構造的課題に対応するため、将来人口の見通しや、地域の持続性を高めるための基本的な方向性・具体的な施策をまとめた計画です。

加西市（以下、「本市」という。）では、令和3年（2021）3月に「第6次加西市総合計画（前期基本計画）」及び「第2期加西市地域創生戦略」を策定し、「未来を拓く 協創のまち 加西～豊かな自然、育まれた歴史、深まる絆を活かして～」を基本理念として掲げ、市民・事業者・行政の連携・協働のもとでまちづくりを進めてきました。これらの計画は、令和7（2025）年度でその期間を終えることから、これまでの取組の成果と課題を踏まえ、令和8（2026）年度から令和12（2030）年度までの5年間を計画期間とする「第6次加西市総合計画（後期基本計画）（以下、「後期基本計画」という。）」及び「第3期加西市地域創生戦略（以下、「第3期戦略」という。）」を策定するものです。

近年、社会情勢は急速に変化しています。地政学的リスクの高まりや国際情勢の不安定化、物価やエネルギー価格の高騰といった要因が相互に作用し、地域経済や市民生活に直接的な影響を及ぼしています。また、ウェルビーイングの重視や生成AIの急速な発展、そしてデジタルトランスフォーメーション（DX）の加速は、行政運営や地域づくりのあり方そのものを問い直す契機となっています。

こうした時代の転換点において、本市が持続可能なまちとしてあり続けるためには、市民一人ひとりの価値観や幸福感に寄り添いながら、多様な主体とともに新たな地域の姿を創造していくことが重要です。地域に根ざした資源やつながりを活かし、しなやかで力強いまちづくりを進めていくことが求められています。

この認識のもと、本市では市民との「協創」を重視し、これまでの取組の成果を継承しながら、次の時代に向けた方向性を定める、「後期基本計画」及び「第3期戦略」を策定し、誰もが安心して暮らし、自分らしく生きられる地域社会の実現を目指して、地域資源の活用・創出と市民協働による持続可能なまちづくりを推進していきます。

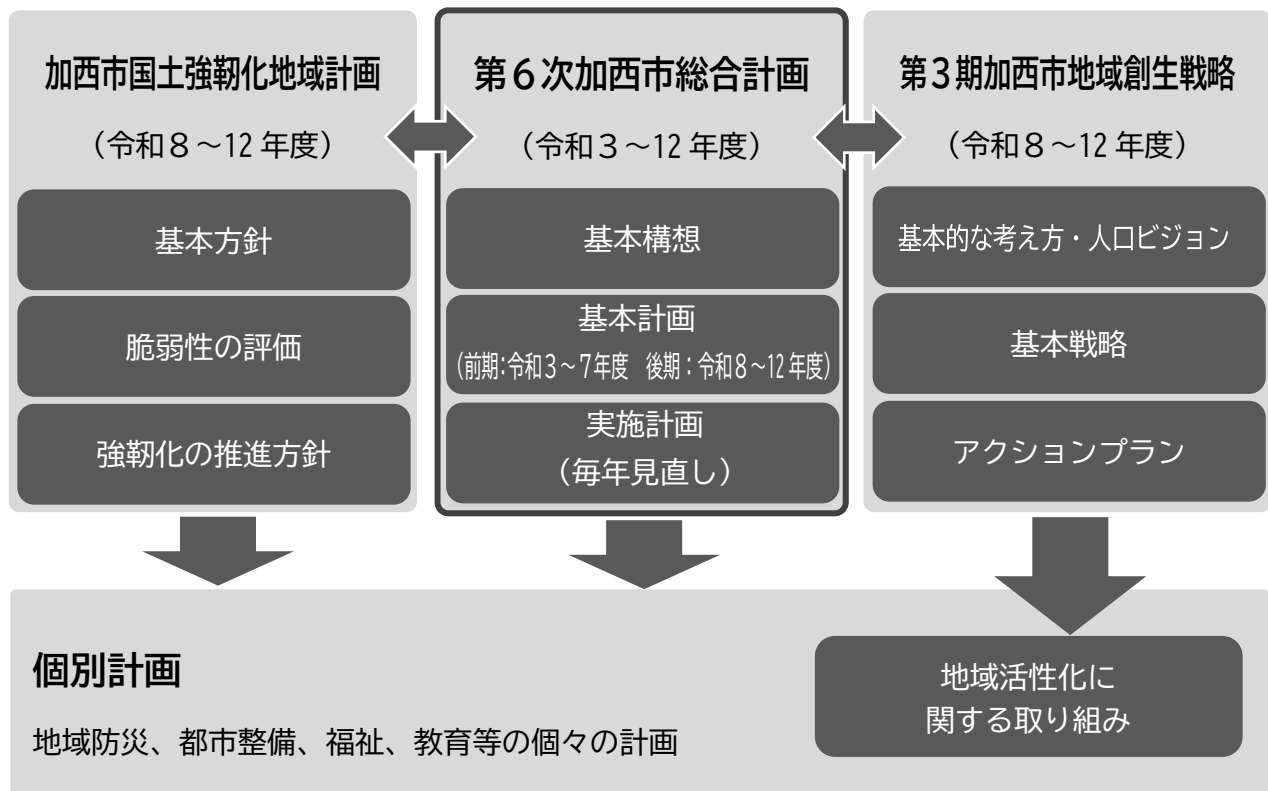
2. 構成と期間

第6次加西市総合計画（以下、「本計画」という。）は、「基本構想」「基本計画」「実施計画」の3層で構成されています。

基本構想 《10 年間》	今後本市が目指すべきまちの将来像や人口目標に加え、それらの実現のための基本的な方向性を示すものです。基本構想は令和 12（2030）年度までを計画期間としています。
基本計画 《前期・後期各 5 年間》	基本構想を実現するための施策を示したもので、令和 3（2021）年度から令和 7（2025）年度までの 5 年間を前期、令和 8（2026）年度から令和 12（2030）年度までの 5 年間を後期とします。
実施計画 《3 年間》	基本計画において示した施策の中から、財政状況や社会情勢を考慮して事業を選択し、実施する計画で、毎年予算の指針となるものです。3 年を 1 期とした計画として、毎年の見直しを行います。

なお、本計画は、地域創生戦略との一体的な推進のため、地域創生戦略を地域活性化のための施策として位置付けて整合を図っています。また、都市整備や福祉をはじめとした各分野の個別計画についても、今後の方向性を示しつつ、整合を図りながら進めていきます。

■計画の位置づけのイメージ

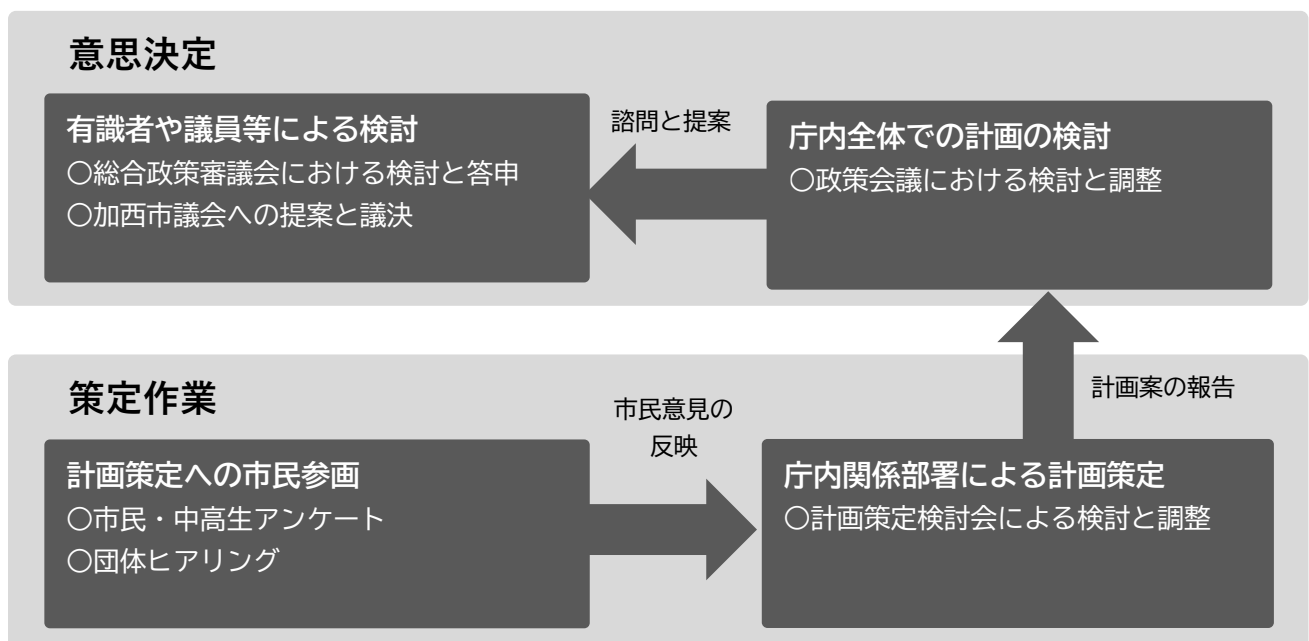


3. 策定体制

後期基本計画の策定にあたっては、アンケートやヒアリングなどの手法により市民ニーズの把握に努め、市民・関係団体・学識経験者・市職員などが、各種会議で様々な知識や意見を出し合い、審議・検討を進めてきました。

役割	名称	概要
意思決定	政策会議	庁内の意思決定
	加西市議会	議会による審議
	総合政策審議会	外部有識者等の意見集約
策定作業	アンケート調査	市民を対象とした意識調査
		市内中高生を対象とした意識調査
	団体ヒアリング	関係団体の意見集約
	計画策定検討会	庁内関係部署による計画策定に向けた検討・調整

■後期基本計画の策定体制イメージ



第2節 社会潮流と加西市の現状

1. 人口減少と少子高齢化の進行

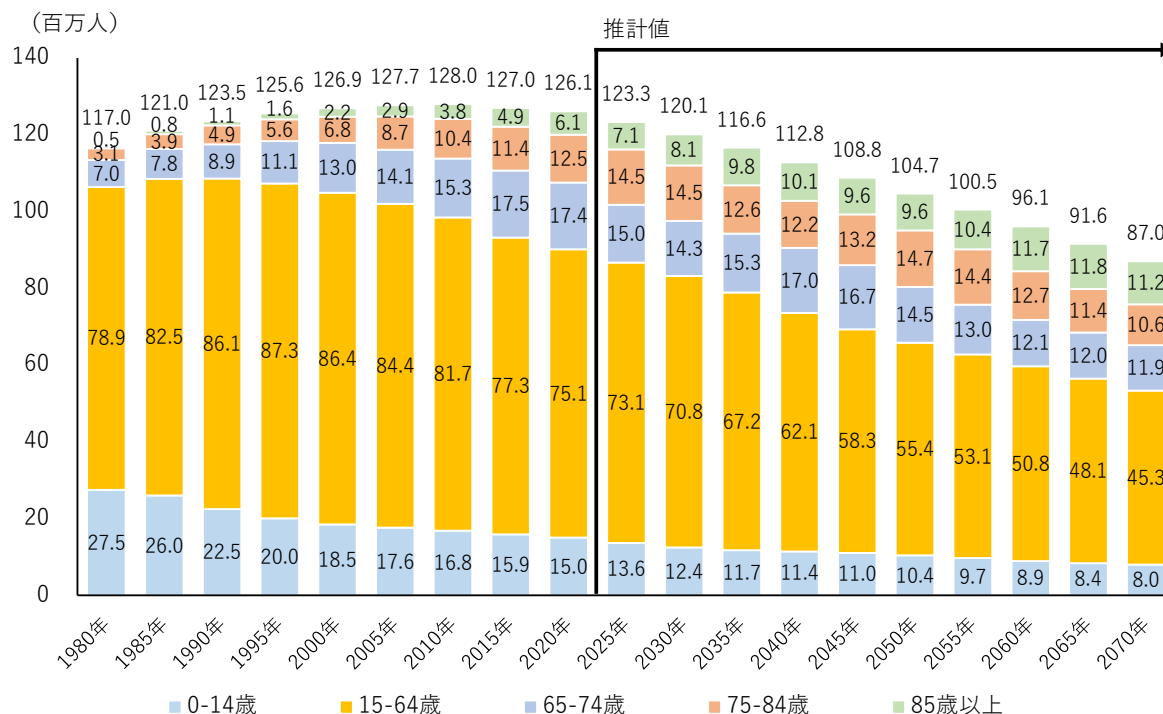
日本の人口は平成20（2008）年をピークに減少が続いており、少子高齢化が加速しています。特に地方においては若年層の流出が顕著であり、地域社会の維持が困難になる事例が増加しています。

令和7（2025）年には、団塊の世代が全員75歳以上となり、国立社会保障・人口問題研究所が示す将来人口推計（令和5年推計）によれば、後期高齢者の割合は今後も増え続け、令和42（2060）年には、全人口の約25.4%に達すると見込まれています。こうした人口構成の変化に伴い、高齢者支援や医療・介護の需要はさらに増大することが予想されます。

これまで、自治体による人口減少対策として「地方創生」の取組が全国的に展開され、様々な好事例が生まれました。しかしながら、これらの取組は、地域間での普遍化には至らず、人口減少や東京圏への一極集中の流れを根本的に転換するには至っていないのが現状です。このような課題を踏まえ、国は令和7年6月に「強い経済」と「豊かな生活環境」を基盤とし、多様性の好循環によって「新しい日本・楽しい日本」の創造を目指す「地方創生2.0基本構想」を閣議決定しました。

また、全国的な働き手不足の深刻化に対応するために、外国人労働者の受入れやシニア層の活躍推進など、多様な人材の活用が求められています。「地方創生2.0基本構想」では、こうした人材の活躍を支える生活環境の整備や職場改革にも重点が置かれており、社会全体の生産性向上とともに、地域コミュニティの維持・活性化を図ることが重要な課題となっています。

■日本の将来推計人口



資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和5年推計）」

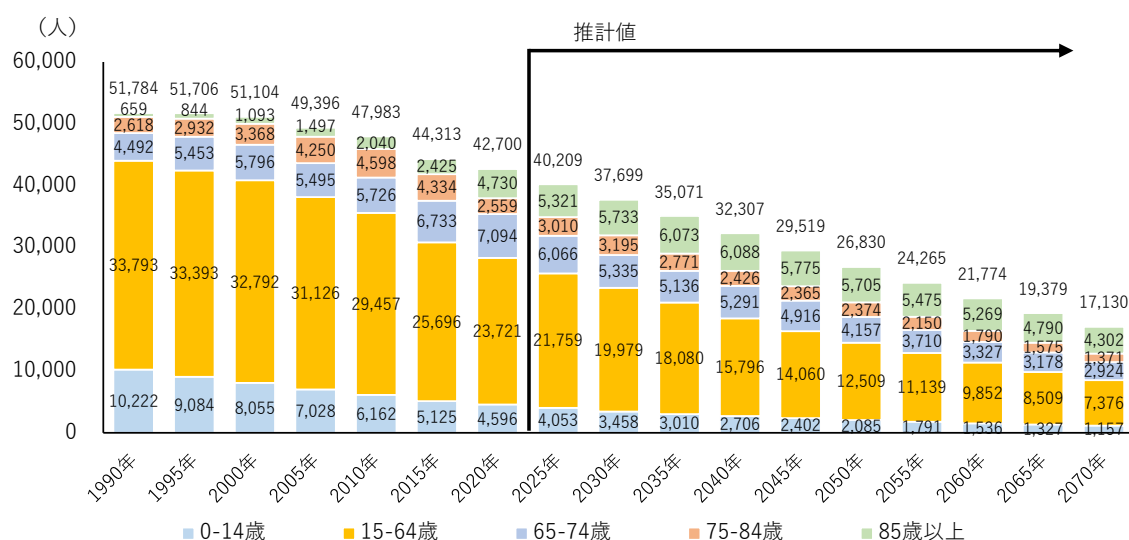
※端数処理の関係上、各年齢の合計値がグラフ最上部の数値と異なる場合があります。

★加西市の現状

本市の総人口は昭和 61（1986）年度の 53,056 人をピークに減少が続いており、令和 2（2020）年度時点の国勢調査に基づく総人口は 42,700 人となっています。人口減少の要因として出生数減少と死亡数増加が同時に進行していることが挙げられ、本市としても、出生数の増加に向けた子育て支援を積極的に展開しているところです。

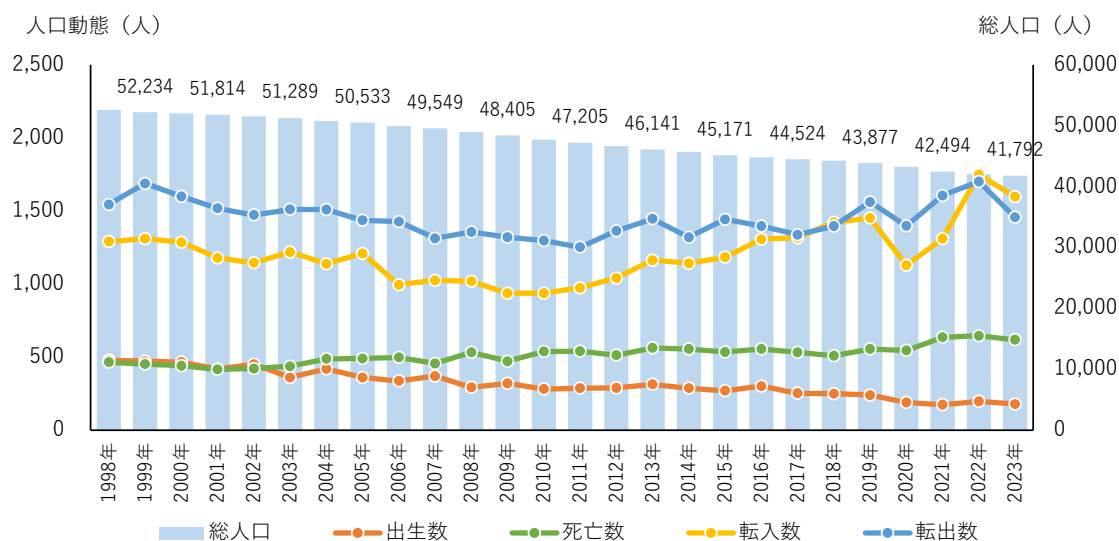
一方で、これまで転出超過が続いていた社会増減については、製造業を中心とする地元企業による外国人就労者の受入れが進んだことに加え、住宅団地の開発や「子育て応援 5 つの無料化」などの子育て支援策が奏功し、人口減少抑制につながる一定の効果が現れました。これにより、平成 30（2018）年度に 25 年ぶりに転入超過へと転じ、その後も令和 4（2022）年度、令和 5（2023）年度と転入超過が続いており、社会動態に変化の兆しがみられます。

■国による加西市の将来推計人口



資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 令和 5（2023）年推計」

■加西市のこれまでの人口動態の推移



資料：加西市「加西市統計書」

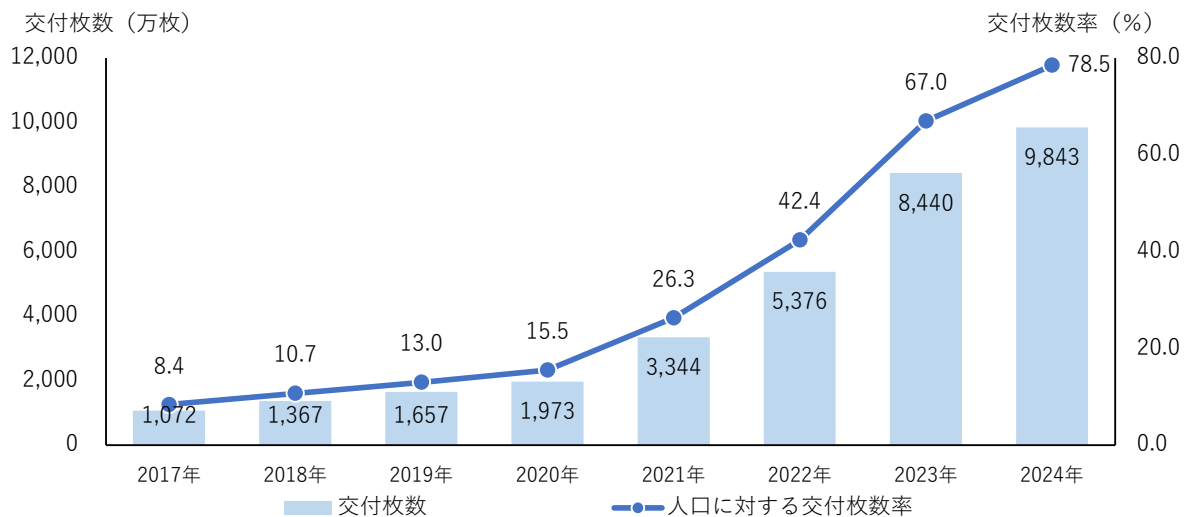
2. デジタル革新がもたらす新しい時代

近年、A I、IoT、ビッグデータなどのデジタル技術が急速に進展し、社会のあらゆる場面で活用されています。国はデジタル庁を設立し、Society5.0の実現やデジタル田園都市国家構想を推進するなど、社会全体のデジタル化を図ってきました。

各自治体においても、行政サービスのデジタル化による利便性向上や業務効率化、地域課題の解決が求められています。マイナンバーカードの活用や電子行政サービスの提供、A Iの導入などが進められています。

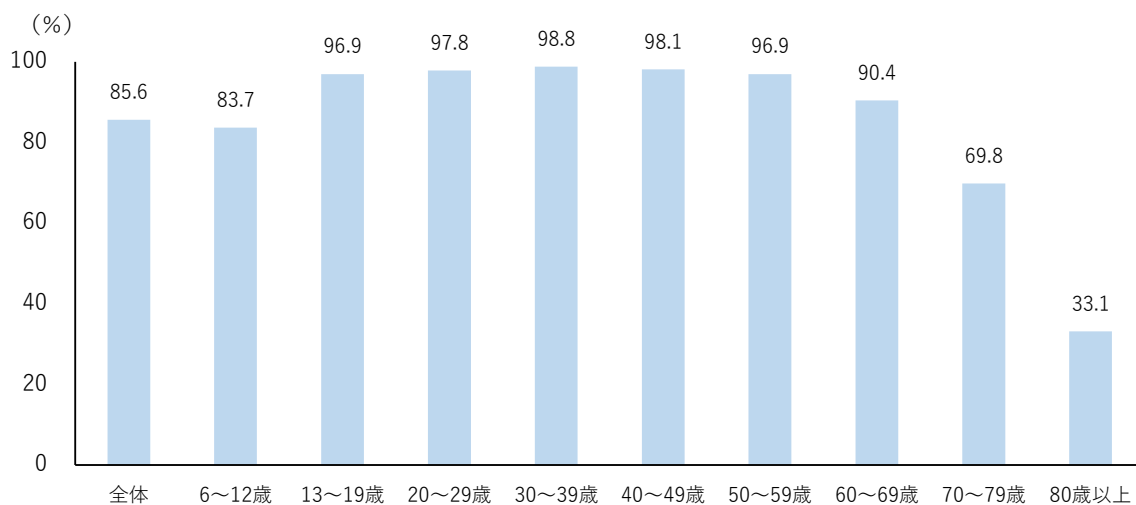
一方で、デジタル格差の是正や、誰一人取り残さないデジタル社会の実現、サイバーセキュリティ対策や個人情報保護も重要な課題です。今後は、デジタル技術を有効活用することで、これらの課題に対応しながら、より良い社会の実現を目指す必要があります。

■マイナンバーカード交付状況



資料：総務省「マイナンバーカード交付状況について」

■インターネット利用状況（スマホ含む）



資料：総務省「令和6年通信利用動向調査」

★加西市の現状

本市では、「かさい『ミライナカ』計画 2030」に基づき、デジタル技術や A I 技術を積極的に活用しながら、「田舎だけれど最先端のまち」の実現を目指しています。

主な取り組みとして、「公式 LINE」による行政手続きのオンライン化や、デジタル地域通貨「ねっぴ〜Pay」による地域経済の活性化、「健幸アプリ」を活用した健康づくり、「SDGs ステーション」による SDGs 活動の推進、さらに、これらをスマートに連携させる「連携基盤」を構築しています。これにより、効率的で未来志向の「スマートシティ」を目指しています。

また、情報伝達システム「かさいライフナビ」では、スマートフォンや専用タブレットを通じて、「アラートや防災・防犯情報などの各種防災情報の配信に加え、区長による自治会内の住民への連絡も可能であり、平時・緊急時を問わず切れ目のない情報配信を行っています。

教育分野では、魅力ある加西の教育の実現を目指し、「加西の教育 3 本の矢」の推進を通じて、挑戦する力・協働する力・創造する力を備えた次世代人材の育成に取り組んでいます。児童生徒一人一台のパソコン配備や「クラウド型校務支援システム」の導入、さらに、STEAM Labo. を活用した ICT や探求型学習を活かした教育環境の充実を図っています。

このほか、LINE 連携や電子書籍を備えたスマート図書館の展開、「母子手帳アプリ」による子育て支援、センサー機器による高齢者の見守りなど、幅広い分野でスマート技術を導入しています。

■加西市のアプリの利用状況（令和 6 年度）

アプリ種別	登録件数	運用開始年月
公式 LINE	23,524	令和 3 年 4 月
ねっぴ〜Pay	16,791	令和 3 年 10 月
かさいライフナビ	15,094	令和 6 年 4 月
健幸アプリ	7,776	令和元年 6 月
電子母子手帳	532	令和 5 年 10 月

■加西市電子図書館の利用状況（令和 6 年度）

電子書籍	利用数
利用者数	2,825
貸出回数	6,209

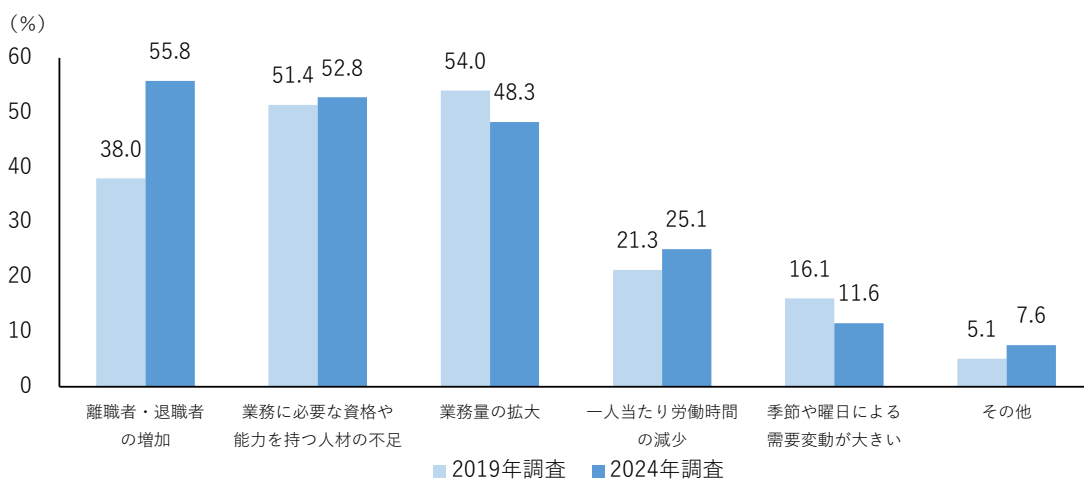
資料：加西市「行政サービスのデジタル化における調査」

3. 国際情勢の変化と地域経済の課題

国際情勢の不安定化や急激な円安・資源価格高騰は、輸入物価上昇に伴うコスト増を通じて、地域産業や住民生活へ広く影響を及ぼしています。加えて、我が国はバブル期以来の歴史的な人手不足に直面しており、これは企業の成長の制約要因となっています。また、A I やデジタル技術の発展といった新たな潮流への対応も企業にとって喫緊の課題です。

これらの複合的な課題を克服し、持続的な成長を実現するためには、労務費を含む円滑な価格転嫁、省力化投資やデジタル化による生産性向上、リスクリングを通じた労働移動の円滑化と雇用のミスマッチの解消、そして高齢者や外国人材などの多様な労働力の活用支援といった、構造的な対応を戦略的に進めることが不可欠です。

■人手不足に陥っている主な要因



資料：内閣府「多様化する働き手に関する企業の意識調査」（2019）、「人手不足への対応に関する企業意識調査」（2024）

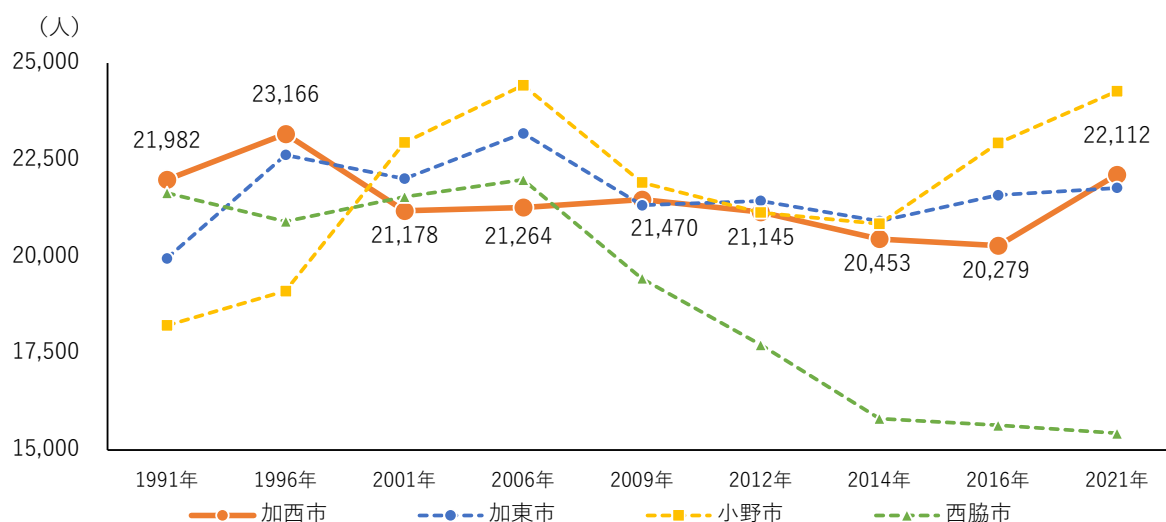
★加西市の現状

本市では経済活性化を図るため、産業分野では、加西インター産業団地の整備を推進し、新たな企業立地と市内雇用の創出に取り組むとともに、新産業創出支援事業補助金などの既存企業の支援に加え、かさい創業塾や創業補助などによるスタートアップ企業への支援も積極的に実施しています。また、地域通貨「ねっぴ〜Pay」による地域経済循環の促進や、地域DXの推進による市民生活の質の向上にも取り組んでいます。

農業分野では、担い手育成やスマート農機・施設整備費などの支援をはじめ、農地の利用集積・集約化を進め、経営基盤の強化を図っています。あわせて、ため池の耐震化や農地の保全、農業施設の長寿命化、有害鳥獣対策の強化など、安定的な農業経営のための環境整備も進めています。

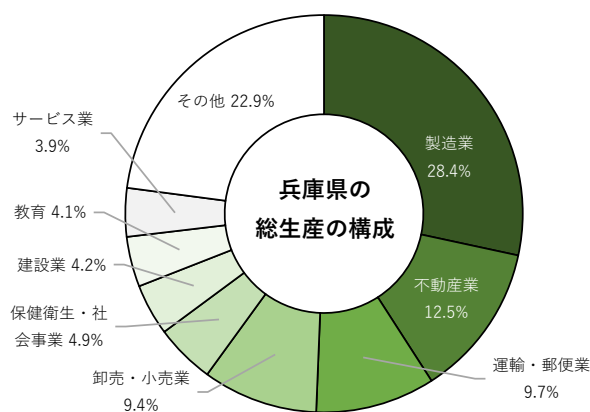
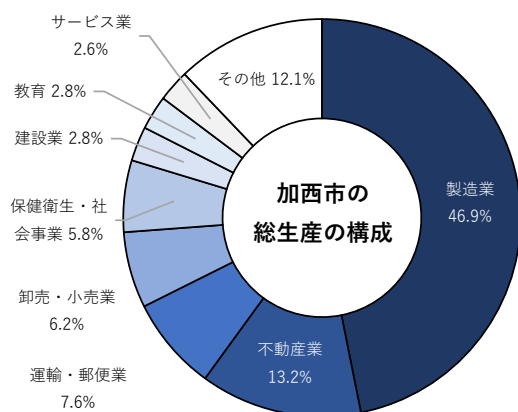
観光分野では、鶉野飛行場跡や、兵庫県立フラワーセンターの地域資源を磁力に、気球体験やサイクリングなどを楽しむ平和ツーリズムやウォークツーリズムなどの観光サービスを展開しています。さらに、交通不便地域への対応として、コミュニティバスの再編や地域主体型交通の導入を推進し、生活移動の利便性向上に努めています。

■北播4市の市内事業所における従業者数の推移



資料：経済産業省「経済センサス基礎調査」「経済センサス活動調査」

■加西市と兵庫県の総生産の構成



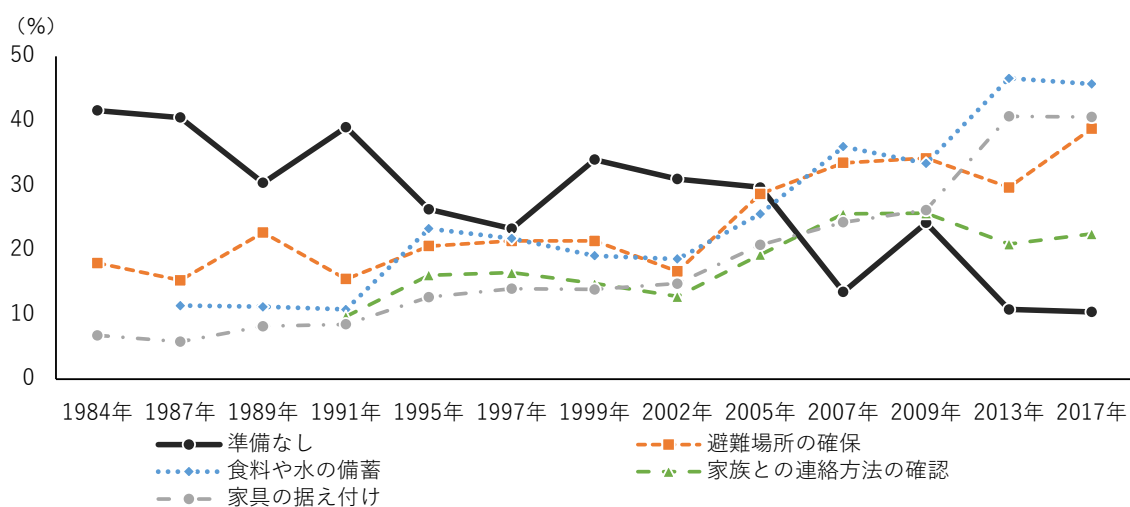
資料：兵庫県「市町民経済計算 2022 年度版」

4. 防災減災・防犯対応の重要性

近年、地震・台風・豪雨などの自然災害が激甚化・頻発化しており、地球温暖化に伴う気候変動もその背景にあるとされています。これにより、人々の安全・安心への関心が高まる中、防災・減災対策の強化が喫緊の課題となっています。ハード整備に加え、住民一人ひとりの防災意識の向上や、地域コミュニティ・企業との連携による共助の推進に加え、平時からの訓練や備蓄の充実、地域防災計画に基づく迅速かつ的確な対応体制の構築を通じて、地域に根ざした安全・安心なまちづくりを進めることが重要です。

さらに、自然災害だけでなく、日常生活における犯罪や交通事故、ネット犯罪なども依然として発生しており、自治体には多様化するリスクに対応した施策が求められます。

■災害時における自助の取り組みの進展状況



資料：内閣府政府広報室「防災に関する世論調査」

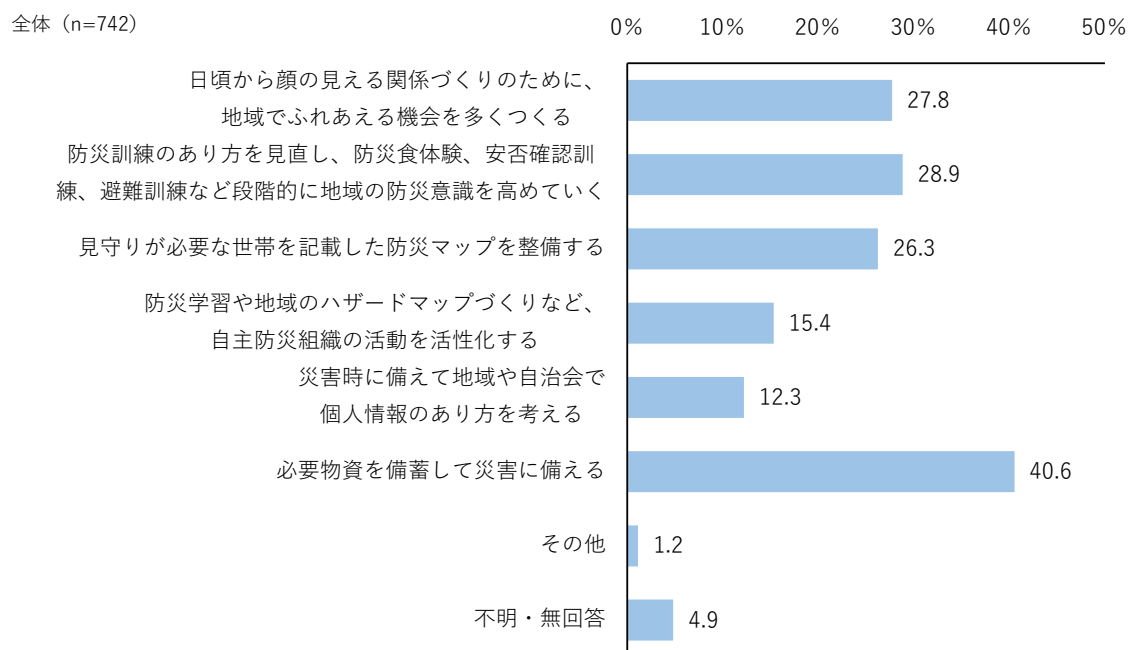
★加西市の現状

本市では、防災対策の一環として、防災や行政に関する情報を迅速かつ確実に市民へ伝達するため、情報伝達システム「かさいライフナビ」を整備しました。市民にはスマートフォンを通じて情報を配信し、区長には専用タブレット端末を配布することで、市から地域への情報伝達体制を構築しています。

さらに、市民の防災意識向上を図るため、自治会が行う自主防災訓練に対する費用補助を行うとともに、地域防災の中核を担う人材である「ひょうご防災リーダー」の育成支援にも取り組んでいます。災害時に支援が必要な方々への対応力を高めるため、行動要支援者名簿の更新を継続的に行うとともに、自治会ごとの個別避難計画の策定を促進することで、地域全体の防災体制を強化し、誰もが安心して暮らせる「災害の強いまち」の構築を目指します。また、加西病院は地域医療の中心であり、災害時の拠点機能も担っていることから、建物の老朽化に対応するため早期の耐震化を視野に入れた移転建設の計画を進めており、令和12年（2030）年度の開院を目指しています。

防犯対策としては、加西警察署と「特殊詐欺の被害防止に関する協定」を締結し、特殊詐欺被害の未然防止を図るとともに、特殊詐欺対策機能付き電話機の購入支援を行いました。地域における安全確保や見守りに力を入れているほか、市内こども園、小学校、中学校、特別支援学校で交通安全教室を開催するなど、交通事故防止に努めています。

■災害対策として、日頃から必要だと思うこと



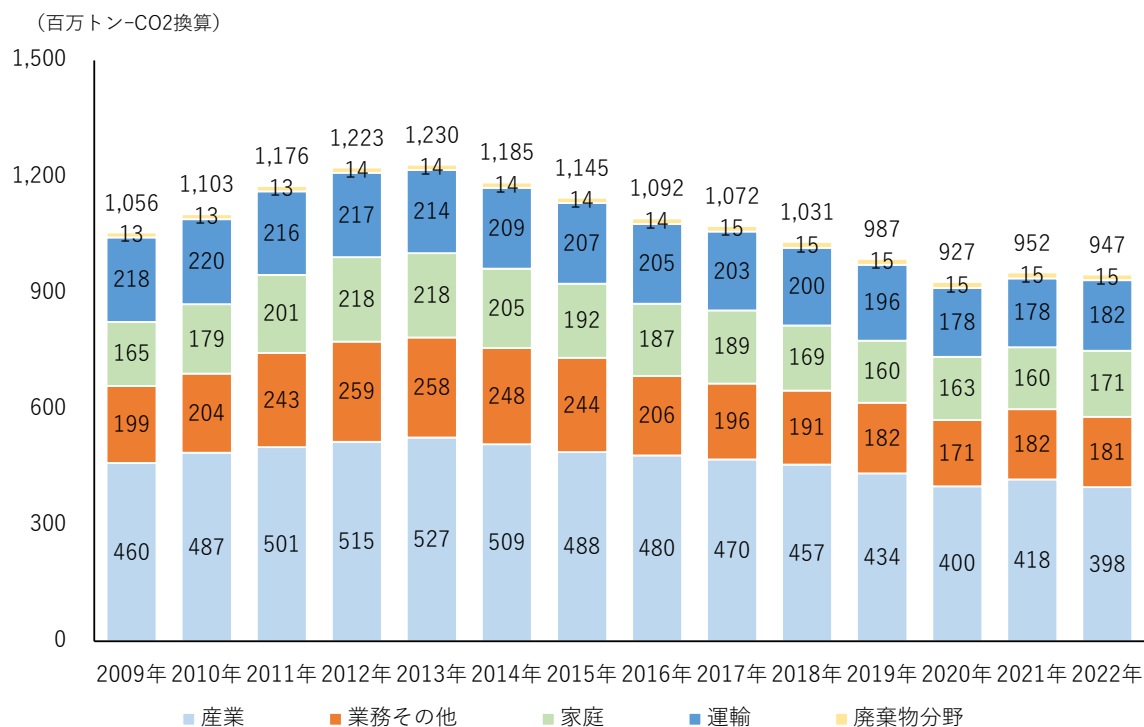
資料：加西市「第4次地域福祉計画策定に向けたアンケート調査」（令和6（2024）年12月実施）

5. 環境問題への対応

地球温暖化や大気汚染などの環境問題は年々深刻化しており、気候変動による自然災害の激甚化・頻発化が懸念されています。日本のエネルギー自給率は低く、化石燃料への依存度が高いため、国は令和 32(2050)年までのカーボンニュートラルの実現を宣言しています。この目標達成に向け、各自治体においても温室効果ガスやごみの削減、再生可能エネルギーの導入など、持続可能な社会の実現に向けた取り組みが求められています。

また、異常気象による農林水産物への打撃や生態系の変化、水不足や食料不足なども懸念されており、災害から住民の生命や財産を守るための防災・減災対策と、環境負荷の少ない脱炭素社会への移行が重要です。自治体は、地球温暖化対策を「経済成長の制約」ではなく「成長の機会」と捉え、産業構造の転換を促進し、環境保全への貢献を促す必要があります。

■日本の温室効果ガス排出量の推移



資料：環境省「自治体排出量カルテ」

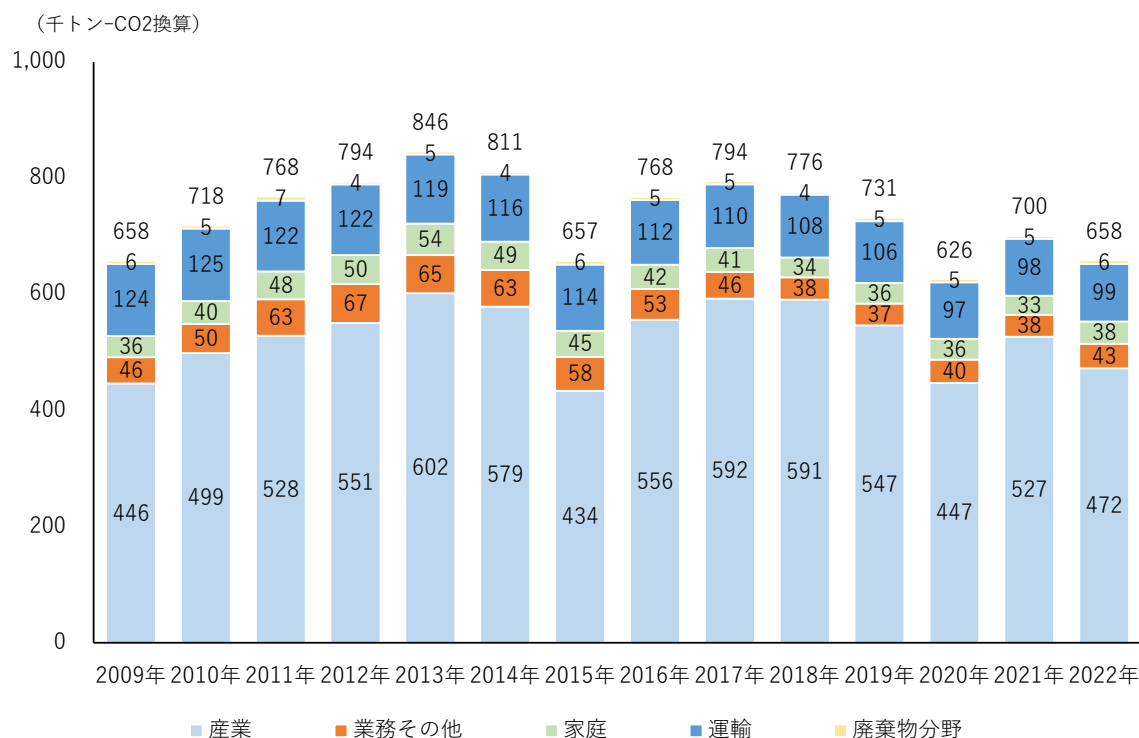
※端数処理の関係上、各項目の合計値がグラフ最上部の数値と異なる場合があります。

★加西市の現状

本市では、環境に配慮した持続可能なまちづくりを積極的に推進しており、平成 30（2018）年 12 月に地球温暖化対策への貢献を示す「世界首長誓約」に兵庫県下で初めて署名し、令和 4（2022）年度には「SDGs 未来都市」及び「脱炭素先行地域」に選定されています。

脱炭素化に向けては、「エネルギーの地産地消が実現された脱炭素のまち加西」を推進するための地域基盤として、企業と行政の共同出資による地域エネルギー会社「株式会社かさいスマートエナジー」を令和 6（2024）年 12 月に設立しました。全公共施設に太陽光発電設備・蓄電池の設置を進め、主要公共施設の ZEB 化やスマートグリッドによる自立分散型システムの構築を図るほか、民生部門においては、ため池を活用したソーラー発電や省エネ・創エネに優れたエコ住宅（ZEH）、EV カーの普及促進、地域企業の脱炭素化促進に取り組み、市内の再生可能エネルギーの導入拡大とエネルギー循環の促進による強靱でサステナブルなまちを目指しています。

■加西市の温室効果ガス排出量の推移



資料：環境省「自治体排出量カルテ」

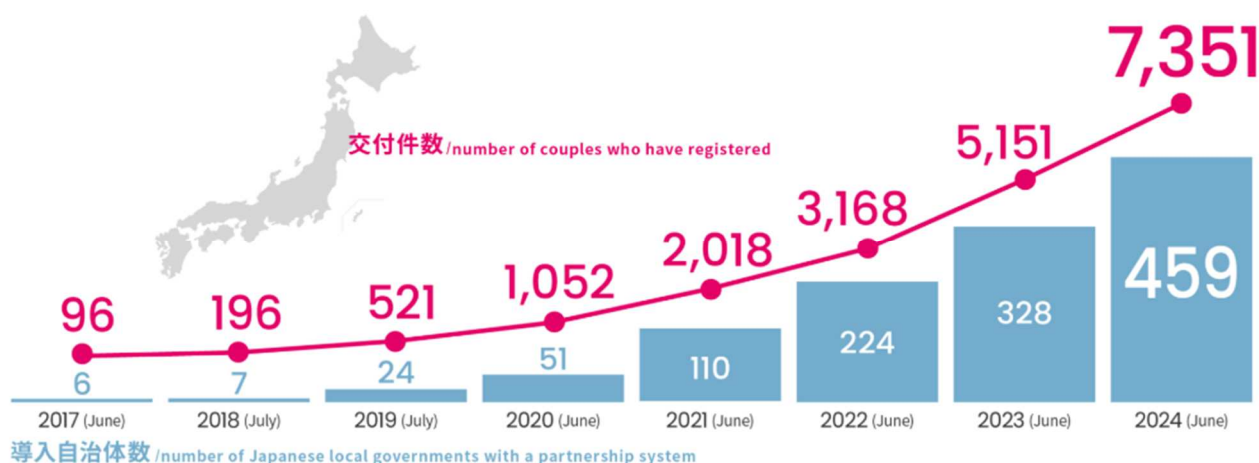
※端数処理の関係上、各項目の合計値がグラフ最上部の数値と異なる場合があります。

6. 多様な価値観とライフスタイルの変化

人々の価値観やライフスタイルは、社会やテクノロジーの進化、国際化に伴い多様化しており、ミレニアル世代やZ世代がこの変化を加速させています。新型コロナウイルス感染症の流行による、テレワーク普及や地方移住への関心の高まりは、生活様式や働き方に対する意識にも大きな変更が生じました。個性を尊重する傾向が強まり、年齢、性別、国籍、職業など様々な側面で互いを尊重し、認め合う社会が求められています。

一方で、地域コミュニティへの帰属意識の希薄化も指摘されており、自治会などの地縁組織では担い手不足が深刻になっている中、新たなつながり方や支え合いの仕組みづくりも求められています。多様な価値観やライフスタイルに対応できる社会的な包摂や、住居、働き方、学習方法などを自由に選択できる環境整備が課題となっています。

■パートナーシップ登録自治体件数の推移



資料：認定 NPO 法人 虹色ダイバーシティ「パートナーシップ登録件数の経年変化」

★加西市の現状

ものづくりのまちである本市では、市内企業において外国人労働者の受入れが進み、外国人人口は増加傾向にあります。産業や福祉分野での活躍が期待される一方、労働環境や教育、医療など地域社会での生活における課題が生じています。また、令和9（2027）年度から施行される育成就労制度では、転籍などによる外国人労働者の流動性が高まることが予想されるため、定着・定住を支える環境整備や魅力づくりに取り組む必要があります。

また、近年の働き方や居住スタイルの変化に合わせ、保育施設の充実や子育てと仕事の両立を支える就労環境の整備を進めています。あわせて、未就園の親子を対象にした、つどいの広場や、誰でも通園制度、かさいこども広場&パパママオフィス「アスモ」の活用など、多様な子育て支援策に取り組んでいます。住環境については、若者が暮らしやすい住宅団地の整備や持ち家補助などによる住まい方の選択肢を広げるほか、パートナーシップ制度やファミリーシップ制度の導入により、多様な家族の形を尊重する社会を構築しています。

地域コミュニティにおいては、自治会運営や地域活動への女性の参画促進や活動拠点の整備を支援するほか、地域の「通いの場」を通じて高齢者の交流や居場所づくり、フレイル予防に取り組んでいます。また、公民館講座、地域住民による伝統文化の継承や歴史文化財保存など、地域活動への参加を促進し、住民間のつながりを深めています。

7. 持続可能な財政運営の維持

地方財政は、人口減少や少子高齢化による税収の減少と社会保障費の増加により、年々厳しさを増しています。加えて、高度経済成長期に整備された公共施設やインフラの老朽化が進み、今後の維持管理・更新費用が財政の大きな負担となることが懸念されています。持続可能な財政運営には、公共施設の計画的な維持管理や統廃合・複合化による保有面積の削減、事業の費用対効果の検証と見直しが必要です。

また、デジタル技術の活用と限られた人材資源の効率的運用により、市民サービスの質の維持・向上を図ることが重要です。さらに、今後は地域課題の解決に取り組む多様な主体と持続可能なパートナーシップを築き、公民連携を強化することが行財政運営の鍵となります。

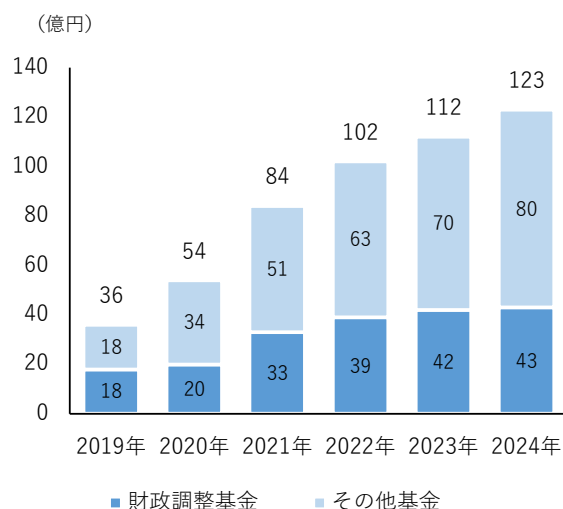
★加西市の現状

本市では、生産年齢人口の減少による市税収入の減少や、高齢化の進展に伴う社会保障費の増大、人事院勧告に基づく人件費の上昇など、財政を取り巻く環境が一層厳しさを増すことが予想されています。

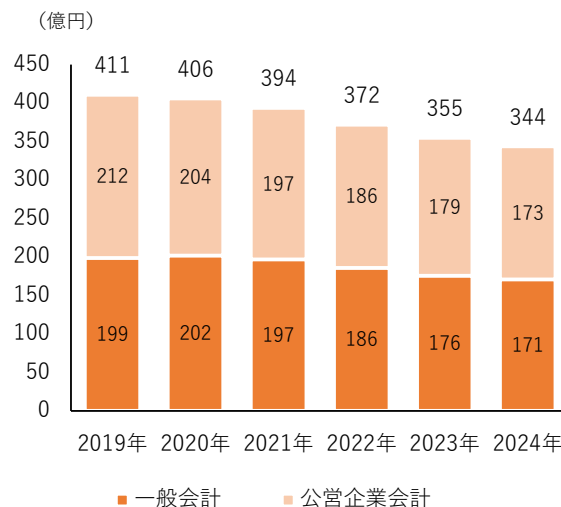
こうした課題に対応するため、行財政改革プランに基づき財政の安定性確保に向けて、基金の確保や地方債残高の圧縮を進め、将来に備えた健全な財政基盤の構築を図っています。歳入面では、市税の収納率向上や施設利用料の見直しを実施するほか、国・県の補助制度やふるさと納税を積極的に活用し、一般財源負担の抑制を図っています。一方、歳出面では、人件費・社会保障費の増加に加え、小中学校の再編や新病院の建設といった大型事業による多額の財政支出が見込まれることから、事業の選定・見直しや公債費の抑制を通じて、支出の効率化と適正化に取り組んでいます。

行政運営の効率化のため、適正な人員配置に加え、行政手続きや内部事務のデジタル化を推進し、業務効率向上や働き方改革を進めています。また、水道、下水道、病院などの公営企業などの経営状況改善にも取り組んでいます。

■加西市の基金（貯金）残高の推移



■加西市の市債（借金）残高の推移



資料：加西市財政状況資料

第3節 市民からみる加西市の姿

1. 市民アンケート調査の概要

(1) 調査概要

調査目的	総合計画及び地域創生戦略の策定にあたり、加西市に関わる方々の意識や今後のまちづくりに向けた意向などを把握することを目的とする
調査期間	令和7年7月～8月
調査方法	ホームページ等で調査について周知し、WEB上の回答フォームに誘導 (回答者にはインセンティブを付与)
回答状況	2,697件

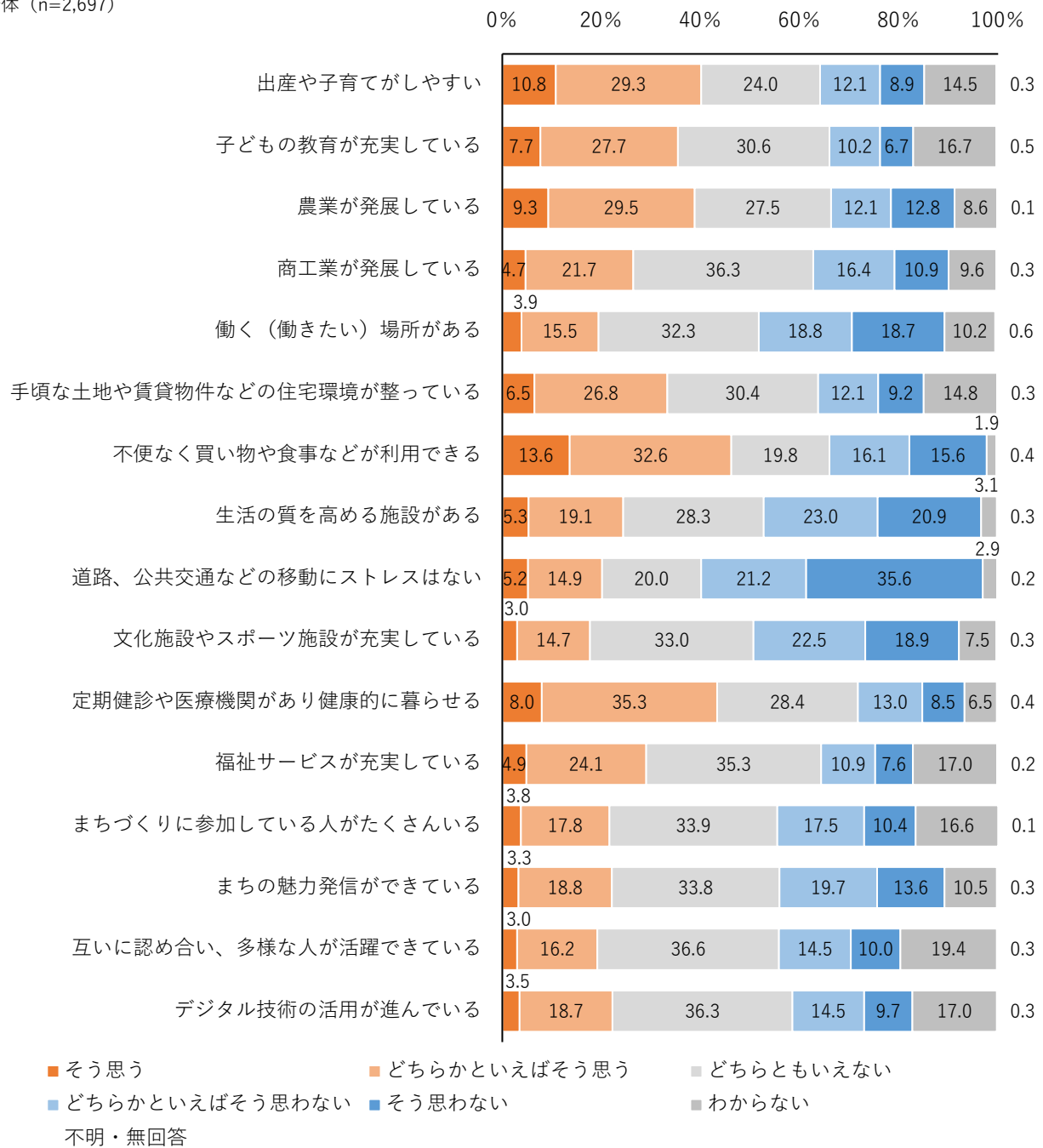
調査結果の総括

- 加西市で暮らす人や、加西市に関わりのある人の実感として、加西市は「不便なく買い物や食事などが利用できる」「定期健診や医療機関があり健康的に暮らせる」という点で評価されていることがうかがえます。また、これまで注力してきた子育てや教育のほか、主要産業の一つである農業についても、比較的肯定的な意見が見られました。
- 一方で、働く場所や移動手段、文化・スポーツ施設の充実に関しては、相対的に評価が低くなっています。特に移動手段については否定的な回答が多く寄せられており、住民のニーズに合わせた交通体系を整えていくことが求められています。
- 子育てしやすい環境や快適な暮らしのための都市機能として、医療機関の充実が求められています。現在も加西病院を中心とした地域医療体制の充実に努めていますが、引き続き、住民の医療ニーズに応えられる体制強化を進めていく必要があります。
- 働くことに関して、子育てに対する理解、育児や介護も含めた多様なライフスタイルに柔軟に対応できる職場環境を求める意見が多くみられます。また、女性や高齢者など、多様な人材が活躍できることが産業の発展に資するという意見もみられ、ダイバーシティの視点を踏まえた企業経営の浸透が課題として認識されています。
- 産業の発展やまちの魅力向上に向けては、若者や女性の参画を促進する必要性が指摘されています。地方創生2.0においても「若者や女性に選ばれる地域づくり」が基本視点として示されており、当事者の視点に立ったまちづくりが望まれています。
- 今後の加西市について、健康や医療、安全安心、生活の利便性を求める意見が多くなっています。自然災害が比較的少なく、大型商業施設もあることが本市の特徴とされており、今後も地域医療体制や公共交通について充実を図ることで、より多くの方が加西市での暮らしに満足感を持てるような環境づくりが重要です。

(2) 調査結果

■加西市のまちづくりに対する実感

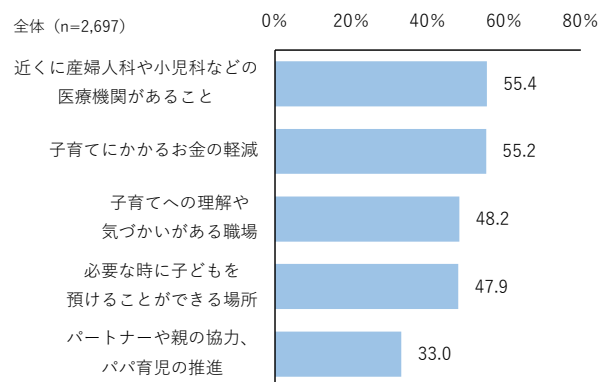
全体 (n=2,697)



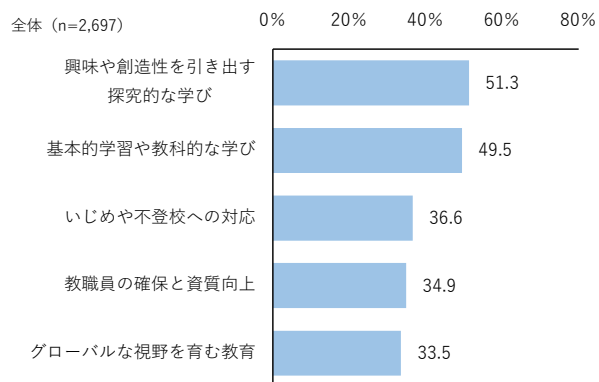
※一部の設問の文章を省略しています。

※端数処理の関係上、帯グラフごとの合計値が 100.0% となりません。

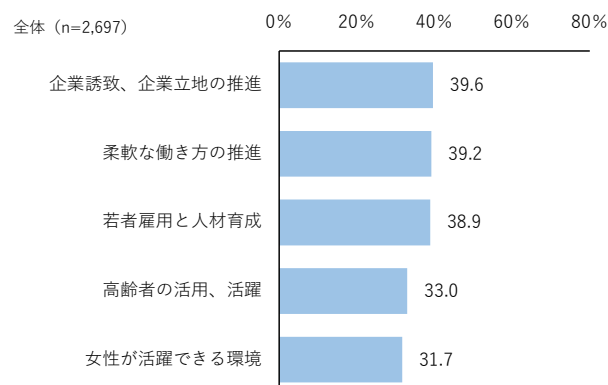
■子育てしやすい環境に必要だと思うこと



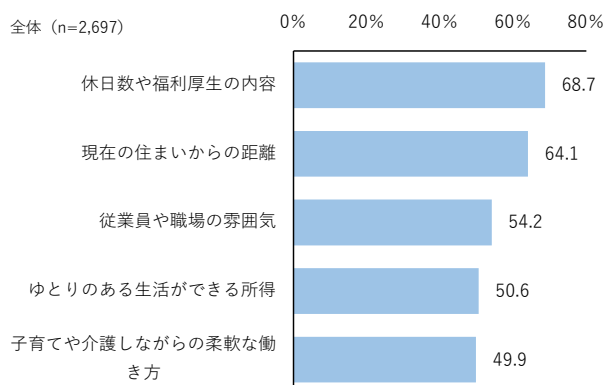
■子どもの未来を育む教育に必要だと思うこと



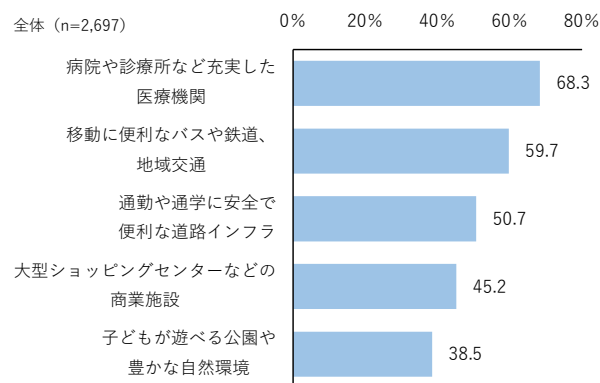
■産業の発展に必要だと思うこと



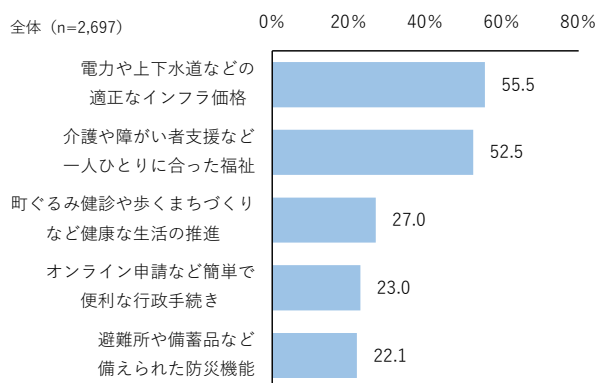
■働く場所を決める際に重視すること



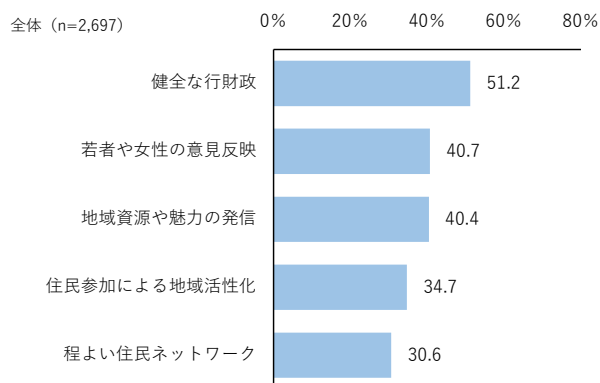
■快適な暮らしに必要な都市機能



■快適な暮らしに必要な行政サービス

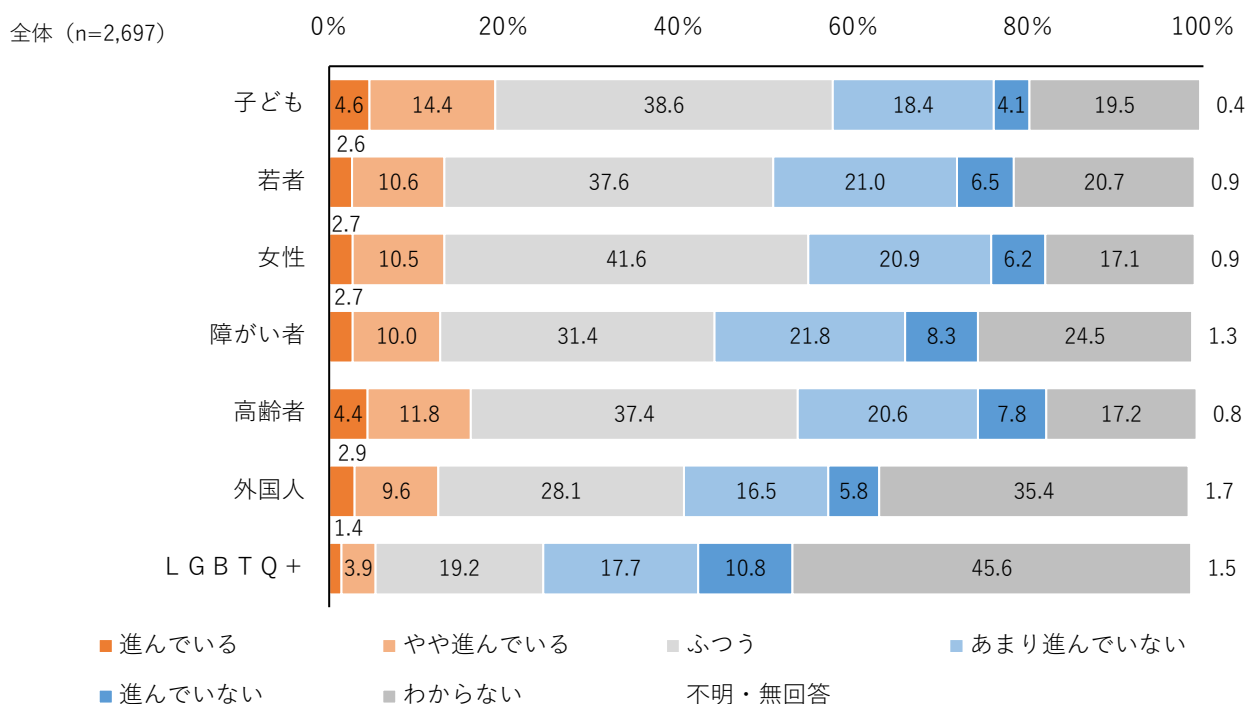


■加西市をもっと魅力的なまちにするために必要なこと



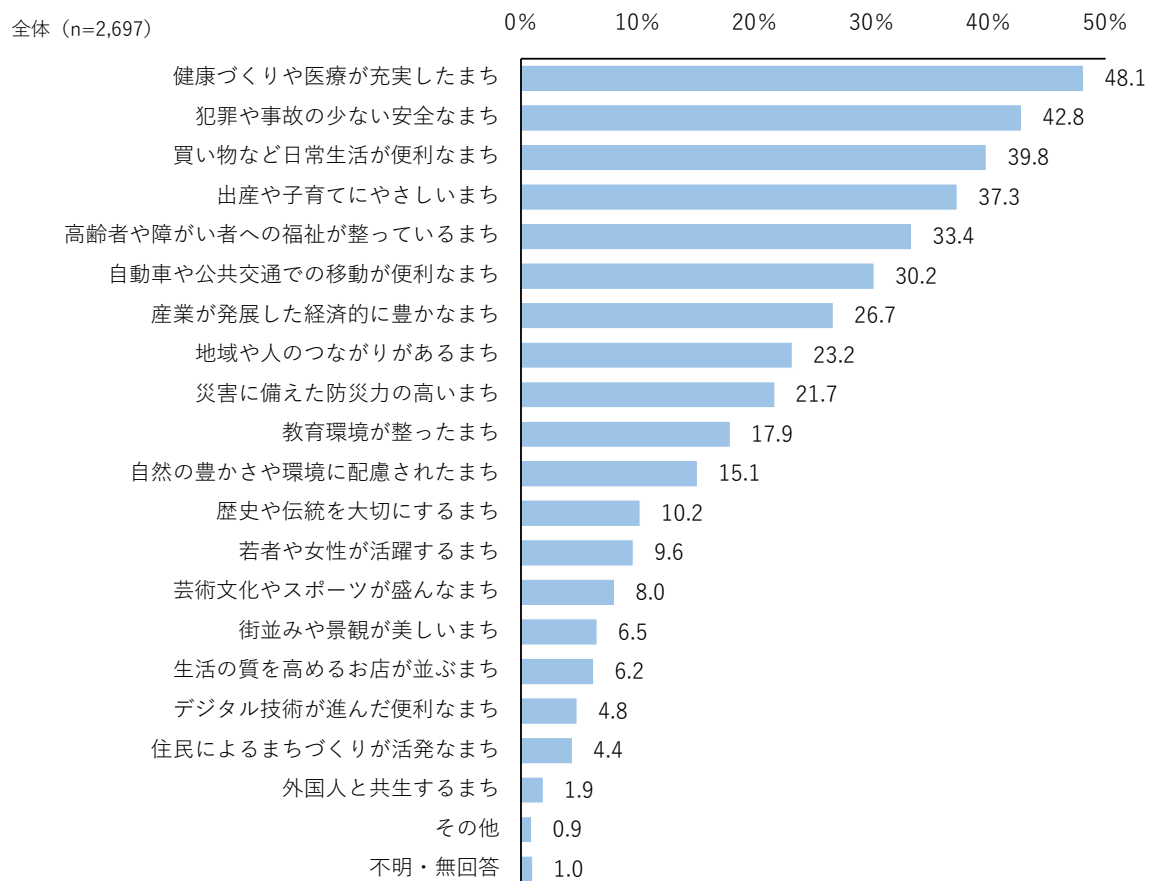
※すべて上位5項目のみ抜粋して掲載しています。

■加西市における多様性への理解や活躍推進



※端数処理の関係上、帯グラフごとの合計値が 100.0% となりません。

■加西市がどのような「まち」であってほしいか



2. 団体ヒアリングの結果

(1) 調査概要

調査目的	総合計画及び地域創生戦略の策定にあたり、関係団体から今後のまちづくりに向けた意向などを把握することを目的とする
調査期間	令和6（2024）年11月～12月
調査対象	加西市内で活動されている各分野の団体（計7団体）
団体一覧	○加西市SDGsパートナー事業者 （兵庫県信用組合、株式会社北条都市開発、NPO法人加西市国際交流協会、平田運輸株式会社、プライムプラネット エナジー&ソリューションズ株式会社、伊東電機株式会社、ヨドブレ株式会社、但陽信用金庫、ハリマ紙器印刷工業株式会社、スタジオ栄光社、モリマーメディカル株式会社） ○地域主体型交通運行事業者 （宇仁ふれあいバス、日吉地区乗り合いタクシー、とみバス） ○一般社団法人ユニテ ○株式会社 AnZog ○兵庫県立北条高等学校（高校生） ○かさいこども広場&パパママオフィス「アスモ」利用者 ○加西市社会福祉協議会

(2) 調査結果

①公共交通の課題と改善

- ・運賃が高い（特に北条鉄道）
- ・路線や時間表記が分かりづらく、検索がしづらい
- ・乗り継ぎが不便であり、特に病院帰りなどにおいて負担が大きい
- ・運転手の人材確保が困難となっている
- ・免許返納後の高齢者の移動手段が不足しており、将来の生活に不安を抱えている
- ・市内の公共交通機関が少なく、買い物や通院など日常生活に必要な移動が不便である
- ・デマンド型交通やライドシェア、スクールバスの地域開放など、新たな交通形態を期待する
- ・公共交通の認知度が低く、利用促進に向けた情報発信が求められる
- ・バス停や乗り継ぎ場所の環境整備（屋根や暖房など）が必要である

②若者や女性の定住促進とそれに向けたまちづくり

- ・地元（北播磨、加西市）への就職を希望する高校生が少ない
- ・若者が帰郷したいと思える施策や、郷土愛を育むための幼少期の思い出づくりが重要である
- ・若者や女性に選ばれるまちになるための行政や地域社会の意識改革が必要である
- ・女性の就労支援、特に産後や待機女性の活躍支援が急務である
- ・若者向けの娯楽施設や、友人と楽しめる場所が不足している
- ・子どもたちは地元企業で働くイメージを持てておらず、就業体験などの機会が必要である
- ・移住・定住促進には、地域で学びチャレンジできる環境や、魅力ある雇用の創出が重要である

- ・市内企業に就職した新卒転入者へ補助を行うことで転入者の増加につながるのではないかな
- ・子育て応援5つの無料化の実施後も、産婦人科や子どもの居場所など、さらなる支援ニーズの対応が求められる
- ・結婚支援施策への一層の取り組みが必要である

③デジタル技術の活用・DXの推進と課題

- ・行政手続きや情報提供のデジタル化への期待が高まっている
- ・アプリの乱立により分かりづらく、統合・一本化が必要である
- ・地域通貨（ねっぴ〜Pay）は利用店舗が限られ、還元メリットが限定的である
- ・高齢者などデジタルに不慣れな層への支援体制の充実が求められる
- ・セキュリティリスクや個人情報漏洩への不安がある
- ・デジタル人材の不足やデジタルリテラシーの格差がある

④まちの魅力向上、情報発信

- ・「自然豊かさ」や「災害が少ない」など、加西市の魅力をより効果的に発信すべきである
- ・若者に届くように、プロモーションや情報発信のデザイン・見せ方を工夫が必要である
- ・他地域との差別化を図り、市の進む方向性を明確に打ち出すことが、企業誘致などにもつながるのではないかな
- ・イオンなどの商業施設と連携して、地域に根差したイベント開催による集客・賑わい創出を期待する
- ・遊休施設や空き家の活用促進が課題であり、利活用によるメリットを可視化する必要がある

第 2 章 基本構想

第1節 基本理念と将来都市像

古来より交通の要衝にあった本市は、多くの人を訪れる在郷町*として栄えた旧市街地を中心に、豊かな自然環境や多くの文化遺産の残る、歴史的・文化的背景のあるまちです。また、二つの世界大戦に関連する遺産があることから、過去の戦争の記憶を残し、平和を大切にするという思いに基づき、平和を語り継ぐまちでもあります。

今を生きる私たちは、時代の流れとともに育まれてきたこのまちを受け継ぎ、また次の世代へつないでいかなければなりません。市民同士の強いつながり、豊かな自然と歴史文化、世界に誇れるものづくり技術など、まちの魅力をより磨き、継承していくことが使命の一つといえます。また、今後予想される大規模災害や、高齢者の増加による要介護者や孤立死の増加、社会保障費の増加、人口減少社会の到来による税収の減少等の課題を克服していくことも求められます。

こうした状況を打開していくためには、行政だけではなく、市民一人ひとりが地域に役割と居場所を持ち、関わり合い、市外の関心ある人とも連携・協力する「協創のまちづくり」を進めていくことが重要となります。一人ひとりが手を取り、支え合うことは、課題を解決できるだけでなく、地域につながりが生まれ、より住みやすいまちに近づいていくとともに、次の世代に加西市を託していく「持続可能性」を育むことにもつながります。

人とつながり、地域とつながり、外部の人材も加わって「協創」していくことで、加西市というまちがより住みやすく、魅力あるまちとなるだけでなく、その文化や信念を受け継いでいき、十年後、百年後も住みやすさと歴史が共存し、また、環境や経済など、社会のあらゆる面において持続的な発展が広がっていくまちの実現を、次の基本理念に基づいて目指していきます。

基本理念

未来を拓く 協創のまち 加西

～豊かな自然、育まれた歴史、深まる絆を活かして～

また、本計画に基づいたまちづくりを通じて実現したいまちの姿を「将来都市像」として、次の通りに掲げます。

将来都市像

大空に 夢がふくらむ「^{ミ ラ イ ナ カ}未来の田舎」かさい

基本理念と将来都市像に込めた想い

《基本理念について》

基本理念では、本計画を通じて目指すまちづくりへの大切な想いを示しています。

サブテーマである「豊かな自然、育まれた歴史、深まる絆を活かして」に掲げるように、加西市の特徴であり魅力でもある自然環境と歴史文化、地域のつながりを活かしつつ、「協創」によって、加西市に関わるすべてのひとと一緒にまちづくりを展開しながら、魅力的な地域資源の活用と継承、地域産業の活性化、快適な都市環境や健康な暮らしの実現、これからの社会で活躍する子どもの育成など、よりよいまちを次世代につないでいくという「未来を拓く」想いを基本理念として表しています。

《将来都市像について》

将来都市像では、本計画を通じて実現したい将来の加西市の姿を示しています。

加西らしいシンボルとなる地域資源として、空を舞う色とりどりの気球を上げることができます。また、近年では鶉野飛行場跡を活用し、5市町（加西市、姫路市、熊本県錦町、大分県宇佐市、鹿児島県鹿屋市）の連携による「空がつなぐ まち・ひとづくり交流事業」を展開しています。一人ひとりの彩り豊かな未来を、加西市という舞台に描くことができる、夢が叶うまちを実現したいという想いを「大空に 夢がふくらむ」に込めています。

そして、新たな生活への対応が求められる今、情報通信技術の積極的な活用により都会から離れても働くことのできる場づくり、年齢や性別を問わず活躍する社会など、新たな時代の流れが生まれています。そのような未来への流れを積極的に迎え入れ、「田舎だけれども、最先端」のまちを目指すという決意を「^{ミライナカ}未来の田舎」のイメージに重ねています。

第2節 4つの基本方針

基本方針1 子育てを応援し、暮らしを愉しむ

全国的に少子高齢化が進行し、人と人とのつながりが希薄化している中で、子育てや介護など、日常生活における不安の高まりがうかがえます。そのような中で、毎日の暮らしを自分らしくいきいきと、幸せを感じながら過ごすことができるよう、子育て支援・福祉・健康・医療などが一体となって提供される必要があります。

そのため、加西市で暮らす人や加西市と関わる人すべてが、生涯にわたって自分らしく、健康でいきいきと暮らすことができるよう、子どもを産み育てやすい環境づくりにはじまり、安心して日々の生活を過ごすための健康づくりや医療的支援体制の充実、地域と行政が協働で支援する各種福祉サービスの充実、生涯学習やスポーツ活動の活性化などに取り組みます。

政策1 新しい家族と出会い、育むための支援の充実

若い世代が安心して結婚から妊娠・出産・子育てまでの希望をかなえられるよう切れ目なく支援し、子育ての経済的・精神的負担を軽減します。さらに、地域や企業と協力して子育てしやすい環境づくりに取り組み、情報発信を強化することで、若い世代に選ばれるまちを目指します。

政策2 子どもの教育の充実

加西の教育3本の矢をとおして主体的に学ぶ力を育み、未来を担う次世代型人材を育成します。さらに、地域と連携して多様な学習機会を創出し、ICT設備や教育施設の整備、相談支援体制の充実に取り組み、子ども達が安心して学べる環境を整えます。

政策3 生涯にわたって学び、楽しめる環境づくり

あらゆる世代が学び成長できる環境を整え、地域活性化や社会課題解決に貢献する人材を育みます。また、文化やスポーツを通じて、楽しみと生きがいのある人生を送ることができるよう、芸術振興や伝統文化の継承、スポーツ環境の整備に取り組みます。

政策4 くらしを支える福祉・医療の充実

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、行政による支援と地域による支え合いで一人ひとりに寄り添った福祉を展開します。また、健康づくり事業の推進や地域医療体制の構築により、心身ともに健康的な生活の実現を目指します。

基本方針 2 活力とにぎわいのあるまちを育む

人口減少や高齢化が進行する中で、農業や商工業など地域経済の活性化を図り、雇用の創出や就労環境の向上、地域資源を活かした観光振興などを通じて、魅力的で活気あるまちをつくっていくことが必要です。

将来を支える経済基盤の強化に向けて、農業や製造業をはじめとした市内産業の活性化に向けた支援に取り組むとともに、自然や歴史を活かした観光振興など、にぎわいあるまちづくりを推進します。また、シティプロモーションを通じたまちのファンづくりやふるさと納税の推進を通じて、地域の振興と発展を目指し、関係人口*を見据えたより広い枠組みでのまちづくりを推進していきます。

政策 5 農業の再生と活性化

農業の担い手を育成するとともに、農地集積やスマート農業の推進、地域ブランドの生産支援により経営強化を図ります。また、ため池などの農地環境の保全や有害鳥獣対策を強化し、持続可能な農業の実現を目指します。

政策 6 商工業の振興と新展開

競争力のある産業を育成するとともに、企業誘致や起業支援を通じて新たな雇用の場を創出し、市内消費の促進による経済循環に取り組めます。また、地元企業の魅力を積極的に発信し、多様な働き方を推進することで、若者や女性が働きやすい環境を整え、雇用の確保を図ります。

政策 7 地域資源の活用と人の流れの創出

歴史文化遺産の活用や平和ツーリズムの推進により地域の魅力を高め、交流人口の増加による賑わいのあるまちづくりに取り組めます。また、ふるさと納税や移住定住を促進し、関係人口づくりによる地域の振興と発展を目指します。

基本方針 3 快適に暮らせる安全な社会をつくる

自然災害が比較的少ない地域ではありますが、地震や台風など大規模な災害への準備や地域における犯罪の防止などについての関心が高まっている中で、自分や家族及び財産を守るための防災・防犯体制の充実など、誰もが安心して暮らすことのできる地域づくりが求められています。

そのため、すべての市民が安全で安心な生活を送ることができるよう、地域と連携した防災・防犯体制の充実に取り組むとともに、自然と調和した良好な都市環境の構築や道路・交通環境の向上、地球環境にやさしいライフスタイルの浸透や自然環境の保全を推進します。

政策 8 安全・安心に暮らせる環境の充実

災害発生に備えた防災体制を構築するとともに地域の防災力を高め、災害対応力の高いまちづくりに取り組みます。また、地域と連携して治安を守るとともに、複雑化する消費者問題などに対応し、安心して暮らせる地域を目指します。

政策 9 快適な都市空間の創出

土地利用や宅地供給を促進するとともに、生活機能の集約や公共交通との連携により市民生活の質を向上させ、多様で快適な暮らしの実現を推進します。また、資源・エネルギーの循環や脱炭素社会の推進、自然環境保全に取り組み、自然と調和した都市空間の構築を目指します。

政策 10 安全性と利便性が確保された都市基盤の整備

国道や幹線道路、通学路、河川、橋梁、上下水道などの生活インフラを計画的に更新することで、安全で快適な暮らしを支える都市基盤を構築します。また、高齢化に適應するため、北条鉄道をはじめとする地域交通を充実させ、誰もが利用しやすい公共交通網の形成を目指します。

基本方針4 ともに活躍しまちの魅力を高める

全国的な人口減少や東京をはじめとした大都市への人口集中などを背景として、多くの地方自治体はその運営において危機的状況に直面しています。今後も人口減少と高齢化が進行し、市民ニーズが複雑化することが想定される中、全市的なつながりをより強固なものとし、一丸となって行財政の運営にあたっていくことが求められます。

令和元（2019）年度に「加西市協創のまちづくり条例」を制定しており、今後は地域主体のまちづくりや女性が活躍する社会の構築、外国人との協働によってつくられる多文化共生の地域づくりに取り組むとともに、デジタル技術の活用や公共施設の適正管理、財政改革による効率的な行財政運営に取り組んでいきます。

政策 11 協創のまちづくりの推進

ふるさと創造会議や自治会、NPO 法人などの活動を支援・育成し、市民が主体的に地域課題の解決やまちづくりに取り組める環境を整えます。また、市民が必要とする情報を的確に届け、市民ニーズをくみ取り施策に反映することで、地域との協創によるまちづくりを目指します。

政策 12 お互いを認め、尊重し合える社会の実現

多様性を尊重し、地域での啓発活動や支援機関を通じて孤立を防ぎ、すべての人が包み支え合える社会を築きます。さらに、女性や外国人の活躍を促進し、性差や文化の違いを超えて互いに認め合い共存できる社会を目指します。

政策 13 効率的で持続可能な行財政の推進

デジタル技術やマイナンバーの活用推進により行政事務の効率化と市民サービス向上を図るとともに、公共施設の適正管理や行財政改革による支出の効率化を進め、健全な行財政運営を実現します。また、自治体間や地域の大学、企業、市民との連携により、市民サービスの質の向上を目指します。

第3節 目指す持続可能なまち

1. 持続可能な開発目標（SDGs）

「持続可能な開発目標」（Sustainable Development Goals、SDGs）とは、平成27（2015）年9月の国連サミットで採択された、国連加盟193か国が平成28（2016）年から令和12（2030）年の15年間で達成するために掲げた国際目標です。「誰一人取り残さない」ことを基本理念として掲げており、貧困撲滅や差別解消、環境と調和した都市整備など、17の分野別目標が掲げられています。

国際的な推進が求められている本目標は、先進国である日本においても積極的な推進が始まっており、その取り組みは国や都道府県だけでなく、企業や地方自治体もその推進の主体として関わっていくことが求められています。

■SDGsにおける17の分野別目標

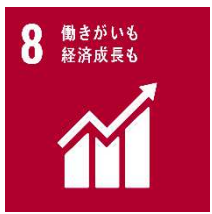
 1 貧困をなくそう	あらゆる場所あらゆる形態の貧困を終わらせる。	 10 人や国の不平等をなくそう	国内および各国家間の不平等を是正する。
 2 飢餓をゼロに	飢餓を終わらせ、食料安全保障および栄養の改善を実現し、持続可能な農業を促進する。	 11 包摂的で安全かつ強靭（レジリエント）で持続可能な都市および人間居住を実現する。	
 3 すべての人に健康と福祉を	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。	 12 つくる責任 つかう責任	持続可能な消費生産形態を確保する。
 4 質の高い教育をみんなに	すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。	 13 気候変動に具体的な対策を	気候変動およびその影響を軽減するための緊急対策を講じる。
 5 ジェンダー平等を實現しよう	ジェンダー平等を達成し、すべての女性および女児の能力強化を行う。	 14 海の豊かさを守ろう	持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する。
 6 安全な水とトイレを世界中に	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する。	 15 陸の豊かさも守ろう	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復および生物多様性の損失を阻止する。
 7 エネルギーもみんなにそしてクリーンに	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的なエネルギーへのアクセスを確保する。	 16 平和と公正をすべての人に	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する。
 8 働きがいも経済成長も	包摂的かつ持続可能な経済成長およびすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する。	 17 パートナリシップで目標を達成しよう	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。
 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	強靭（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進およびイノベーションの推進を図る。		

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2. 加西市における SDGs の主な取り組み

本市においても、基本理念の具体化にあたっては、SDGs の推進を地球規模での貢献といった視点だけでなく、掲げられているすべての目標が市民の暮らしをよりよいものとし、加西市で暮らしたい、いつまでも暮らし続けたいと感じられる持続可能なまちの実現の手がかりとなる考え方としてとらえ、その実現に向けて、全市を挙げて積極的に取り組みを推進していきます。

本市では、まちの地域特性と総合計画の基本方針を踏まえ、以下の目標を中心に実現を目指して取り組みを進めていきます。

	目標3 すべての人に健康と福祉を 「誰一人取り残さない」というSDGsの理念を実現するために、すべてのライフステージに対応できる福祉支援体制を充実させるとともに、健幸都市の実現に向けた市民一人ひとりの健康に対する意識の向上に向けた取り組みを進め、子どもから高齢者まで、誰もがどんな時でもいきいきと健康に暮らすことができるまちを目指します。
関連する施策分野	○子育て支援 ○教育 ○地域福祉・社会保障 ○高齢者福祉 ○障がい者福祉 ○健康増進 ○保健・医療
	目標8 働きがいも経済成長も 加西インター産業団地など、良好な立地条件を有する地区を中心として企業誘致を進め、市民の雇用ニーズの実現を目指します。また、ワーク・ライフ・バランスが保たれ、自分らしく働くことのできる職場環境の実現を目指します。
関連する施策分野	○農業 ○商工業 ○雇用・勤労者福祉 ○土地利用
	目標11 住み続けられるまちづくりを 災害対策や治安維持など、安全に生活できる環境の維持に努めるとともに、適切な土地利用やよりよい住環境の整備、移動手段の確保などの取り組みを進め、安心して住み続けられるまちの実現を目指します。
関連する施策分野	○防災・防犯・交通安全 ○危機管理対策 ○土地利用 ○住環境整備 ○空き家対策 ○都市景観 ○道路・公共交通
	目標13 気候変動に具体的な対策を 地球温暖化を防ぐため、環境保全の大切さを理解し、積極的に行動することにより、加西市の地域特性である歴史文化あふれる自然景観が保たれた、やすらぎのあるまちを目指します。
関連する施策分野	○循環型社会
	目標17 パートナリシップで目標を達成しよう 住みやすい、住みたいまちづくりを進めるために、性別や年齢、出身や国籍を問わず、市外の人たちも含め、様々な人たちが加わった協創のまちづくりを進めるとともに、近隣市町と協調するまちづくりの推進体制の実現を目指します。
関連する施策分野	○協創のまちづくり ○コミュニティ ○広報・広聴 ○多文化共生 ○広域連携の推進

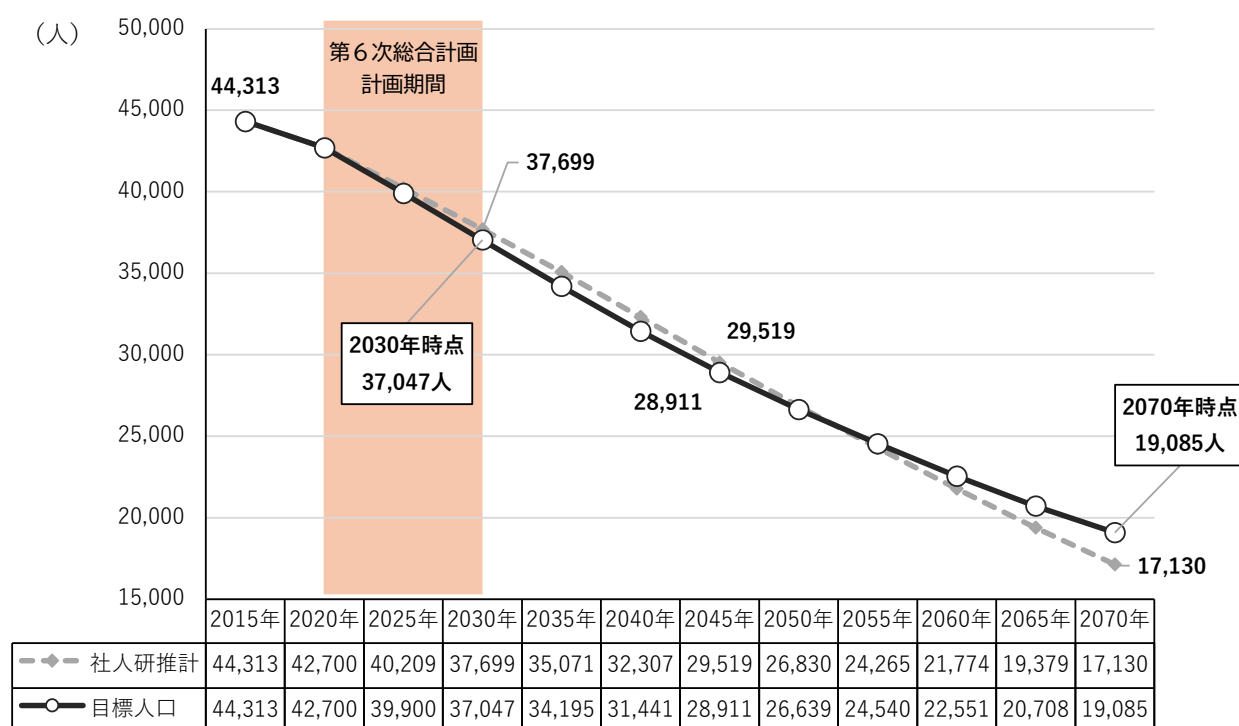
第4節 将来人口

国の研究機関である国立社会保障・人口問題研究所が示す将来人口推計（社人研推計）では、本市は今後も人口減少・少子高齢化が継続する予測となっており、本計画の最終年度である令和12（2030）年には37,699人、令和52（2070）年には17,130人と現在の半分以上の人口が減少することが見込まれています。

一方で、「第3期加西市地域創生戦略」に基づく、合計特殊出生率の向上と社会動態の改善を仮定した市独自の将来人口推計（目標人口）では、令和12（2030）年時点で37,047人、令和52（2070）年には19,085人で、人口減少は進行するものの、将来的には社人研推計よりもゆるやかな減少となり、持続可能性を維持できる人口規模になることが見込まれます。

本市が将来にわたって活力ある地域社会を維持し、一定の人口規模を維持することで地域社会の活力を保ち続けるため、以上のような長期的な展望に基づき、生産年齢人口の増加など人口減少の抑制に取り組むと同時に、人口の変化に対応したまちづくりを進めます。

■将来人口推計



第5節 土地利用の基本的方向

加西市は昭和 42 年に誕生し、播州平野の中央に位置する水と緑豊かな田園都市として発展してきました。中国自動車道や山陽自動車道に近接する交通利便性を有し、産業立地や生活環境の向上が期待される一方、関西圏の都市部への若年層流出が続いています。

この課題を踏まえ、若い世代や女性からも支持される魅力ある都市を目指し、環境に配慮した持続可能な都市づくりを推進します。具体的には、企業誘致や子育て世帯の住環境整備を一層進めるとともに、脆弱とされる南北軸や公共交通の強化により地域間の均衡ある発展を図ります。

さらに、市域の約4分の3を占め、人口の約3分の2が居住する市街化調整区域の活用が大きな課題です。人口減少下においては効率的な都市経営のためのコンパクトシティの構築が不可欠ですが、本市では市街化調整区域の活性化も重視し、市内完結型・多核拠点連携型の「加西市版コンパクトプラスネットワーク」の形成を目指します。

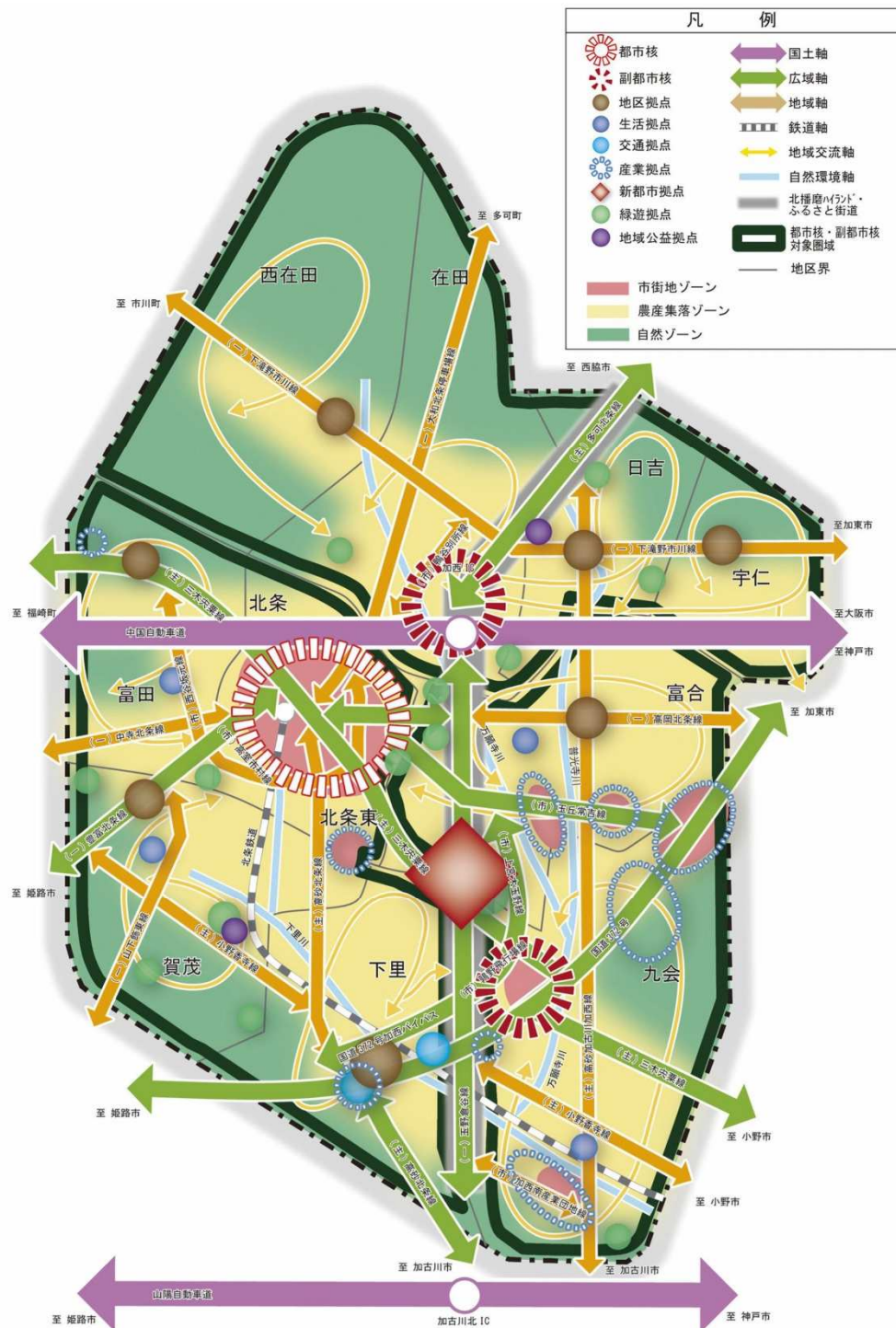
そして、市街化調整区域や都市計画区域外で人口減少が著しい現状に対応するため、区域区分の廃止と独自の土地利用コントロールを導入し、新たなまちづくりに取り組みます。



■土地利用の方針

市街地 ゾーン	住宅地	○加西ハイツや北条旧市街地、区画整理住宅地を「住宅地」として位置づけ、用途地域に即した住環境の維持・充実を図り、空き家や高齢化への対応と利便施設の立地促進を通じて、安心して暮らせる市街地の形成を目指します。 ○北条旧市街地では、歴史的景観の保全と空き家対策を両立させるとともに、商業施設周辺での賑わい創出や民間による住宅地再整備を促進します。さらに、景観規制の見直しにより、定住促進と調和の取れた景観形成を推進します。
	商業地	○北条町駅周辺や幹線道路沿いを「商業地」と位置づけ、利便性の高い施設の維持・充実や新規立地を誘導し、地域に即した商業環境の形成を図ります。 ○大型商業施設については、公園やホテル、公共施設などと一体的に回遊性を高められるエリアへの立地を促し、市街地の魅力向上を目指します。 ○幹線道路沿道では、周辺住宅地や集落住民の生活ニーズに応えるロードサイド型店舗の充実を図るなど、商業機能を強化します。
	工業地	○各工業団地や産業団地、幹線道路沿道を「工業地」と位置づけ、周辺の住宅地や農地との調和を図りつつ、既存施設の維持・充実や企業ニーズに応じた産業用地の確保を進め、持続的な産業拠点の形成を目指します。 ○市街地から離れた一部の工業地では通勤に不便な状況があるため、従業員の住まいや生活利便施設を確保し、職住近接を可能にする環境づくりに取り組みます。
農産集落 ゾーン	集落地区	○既存集落では、移住・リターン者や外国人を含む就労者などの住宅整備、空き家の活用支援を通じて、地域コミュニティの維持と移住促進を図ります。 ○未来の田舎づくりに必要な若い世代や女性の移住・定住を促進するため、小学校区中心地など適地に生活利便施設を誘導し、地区の求心力を高めるとともに、地域経済を支える事業者の事業拡大や創業を支援します。 ○区域区分廃止による新たな土地利用制度を導入し、本市らしい農産集落の維持と活力向上に向けた持続可能なまちづくりを推進します。
	農業地区	○農業振興地域整備計画に基づき、優良農地の保全に配慮しながら、担い手の営農条件整備や居住・就業・生活利便性の確保を進め、持続的な農業環境の維持向上を図ります。
自然 ゾーン	山林地区	○里山再生事業などを活用し、住民参加による山林や里山の維持・保全を進め、自然環境の整備と持続的な活用を図ります。 ○山林については、市条例や県緑条例の基準に基づき、規制と誘導のバランスを取った環境整備を進めます。
土地活用促進地区		○土地活用促進地区については、特定用途制限地域・地区計画などを活用し、民間活力を導入した開発誘導による住宅地や産業地等としての土地利用を進めます。

■土地利用イメージ



第6節 計画の体系

基本理念・将来都市像	基本方針	政策
基本理念 豊かな自然、育まれた歴史、深まる絆を活かして 未来を拓く協創のまち 加西	基本方針 1 子育てを応援し、暮らしを愉しむ	政策 1 新しい家族と出会い、育むための支援の充実
		政策 2 子どもの教育の充実
		政策 3 生涯にわたって学び、楽しめる環境づくり
		政策 4 くらしを支える福祉・医療の充実
	基本方針 2 活力とにぎわいのあるまちを育む	政策 5 農業の再生と活性化
		政策 6 商工業の振興と新展開
		政策 7 地域資源の活用と人の流れの創出
	基本方針 3 快適に暮らせる安全な社会をつくる	政策 8 安全・安心に暮らせる環境の充実
		政策 9 快適な都市空間の創出
		政策 10 安全性と利便性が確保された都市基盤の整備
将来都市像 ミライイナカ 大空に夢がふくらむ 未来の田舎」かさい	基本方針 4 ともに活躍し まちの魅力を高める	政策 11 協創のまちづくりの推進
		政策 12 お互いを認め、尊重し合える社会の実現
		政策 13 効率的で持続可能な行財政の推進

主な施策

対応する主な SDGs

① 出会いから始まる暮らしを支える定住支援 ② 妊娠・出産・育児の不安に寄り添う支援 ③ 心身ともにゆとりを持てる子育て環境の整備	1 貧困をなくそう	2 健康をこころに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等をすすめる	8 働きがいも経済成長も	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナリシップで目標を達成しよう
④ 未来を担う人材を育む教育の推進 ⑤ 多様な学びを支える教育環境の整備	1 貧困をなくそう	2 健康をこころに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等をすすめる	16 平和と公正をすべての人に		
⑥ いつまでも学び続けられる環境の整備 ⑦ 文化・スポーツ活動でアクティブライフを推進	2 健康をこころに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	17 パートナリシップで目標を達成しよう				
⑧ 誰一人取り残さない福祉支援 ⑨ いつまでも元気で健康に暮らせるまちづくり	1 貧困をなくそう	2 健康をこころに	3 すべての人に健康と福祉を	8 働きがいも経済成長も	10 人や国が公平な機会を	11 住み続けられるまちづくりを	16 平和と公正をすべての人に	
⑩ 地域農業の担い手育成と経営力の向上 ⑪ 豊かな農地と農業環境の保全	2 健康をこころに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と地域経済の循環 성장을	15 陸の豊かさも守ろう				
⑫ 産業振興による地域活力の創出 ⑬ 多様な働き方の推進と雇用の確保	2 健康をこころに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と地域経済の循環 성장을					
⑭ 観光振興による交流人口の拡大 ⑮ 地域資源を活かした魅力の発信と関係人口の創出	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	8 働きがいも経済成長も	10 人や国が公平な機会を	11 住み続けられるまちづくりを	15 陸の豊かさも守ろう	16 平和と公正をすべての人に	
⑯ 命を守る災害に強いまちづくり ⑰ 安全な暮らしを守る防災対策	3 すべての人に健康と福祉を	11 住み続けられるまちづくりを	13 気候変動に具体的な対策を	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナリシップで目標を達成しよう			
⑱ 地域の特性に応じた土地利用と住環境整備 ⑲ 自然保護と地域循環社会の構築	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任 つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさも守ろう	15 陸の豊かさも守ろう	
⑳ 暮らしを支える生活インフラの維持管理 ㉑ 便利で快適な交通ネットワークの整備	6 安全な水とトイレを世界中に	8 働きがいも経済成長も	11 住み続けられるまちづくりを	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさも守ろう	15 陸の豊かさも守ろう		
㉒ みんなで考えるまちづくりの推進 ㉓ 魅力を伝える情報発信と市民ニーズの把握	8 働きがいも経済成長も	11 住み続けられるまちづくりを	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナリシップで目標を達成しよう				
㉔ 人権を守り支え合う社会の推進 ㉕ 女性活躍と多文化共生の推進	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等をすすめる	8 働きがいも経済成長も	10 人や国が公平な機会を	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナリシップで目標を達成しよう		
㉖ 信頼される行財政運営 ㉗ デジタル活用で快適に暮らせるまちづくり ㉘ パートナリシップで地域の課題解決	11 住み続けられるまちづくりを	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナリシップで目標を達成しよう					

第7節 評価・検証

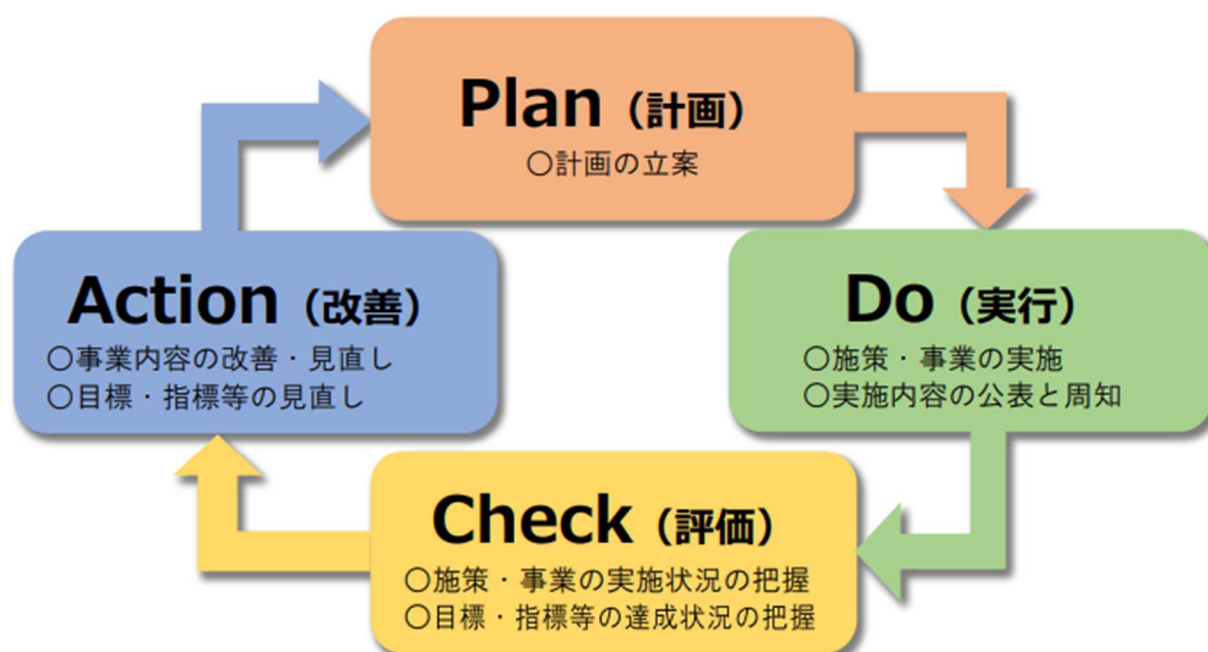
本計画の評価・検証については、PDCAサイクルの考え方に基づき、評価検証とフィードバックを繰り返しながら進めていきます。

Plan（計画）の段階においては、近年重視されているEBPM（証拠に基づく政策形成）の視点を積極的に導入し、仮説思考に基づく課題設定や、統計データ・地域実態調査・先行事例などに基づいた分析を通じて、政策効果が高いと見込まれる施策の立案を行います。

Check（評価）の段階においても、EBPMの考え方を踏まえ、施策の進捗状況や成果について、庁内関係部署による内部評価を実施するほか、地域の産学官金労言老若女の多様な立場からなる「加西市総合政策審議会」による外部評価を取り入れるものとします。

■第6次加西市総合計画の推進における Check（評価）の内容

内部評価	毎年度、庁内関係部署による行政評価により、実施した取り組みの成果や進捗状況を把握・分析します。その際には、各種指標や財政分析などを十分に活用します。なお、行政の取り組みの成果は、数値や費用対効果だけで測ることは困難なものも多いため、数値では表せない成果などについても評価を行うよう留意する必要があります。
評価指標	評価指標は、取り組みを行うことで実現できる成果や、目標に向けて取り組みをどれだけ行うかの活動量などを指標として、取り組みの成果や進捗状況ができるだけわかりやすく、客観的に評価できるものを設定することとします。
外部評価	「加西市総合政策審議会」の外部委員による施策の達成状況を数値で示す数値評価や、専門的見地からの提言を受けて評価するものとします。



第 3 章 基本計画

政策1 新しい家族と出会い、育むための支援の充実

未来の加西の姿

家族や子どもを持ちたい希望に対し、
切れ目ない支援で叶えられるまちを目指します。

加西市のこれまでの取り組みと課題

出会いから定住までの一体支援

出逢いサポートセンターを拠点に婚活イベントやお見合い支援を行い、一定の成婚実績を上げてきましたが、参加者不足でイベントが中止となる事例もあり、支援内容や方法の見直しが課題となっています。また、U・Iターン促進補助や新婚世帯向け家賃補助など若年層の移住定住を後押しする施策を展開し、若者の定住を図ってきました。一方で、空き家バンクを通じた住居提供については、制度周知に努めてきたものの活用件数や成約数の低迷が見られます。今後は、出会いから結婚、妊娠・出産、子育て、そして移住定住までを一体的に支援し、多様なニーズに応じた制度設計と持続可能な人の流れづくりを推進することが重要です。

切れ目ない子育て支援体制の充実

国に先駆けた全保育・学校給食費の無償化をはじめとする「子育て応援5つの無料化」を展開し、子育て世帯の経済的負担の軽減を進めてきました。さらに、子育て期の切れ目ない支援の一環として、電子母子手帳の導入や産後ケア体制の充実を図った結果、産後ケアサービスの利用者数は増加しましたが、少子化傾向を踏まえると更なる支援強化が必要です。家庭が抱える育児への不安や孤立感などの課題は多様化しており、こども家庭センターを中心に、乳幼児健診や切れ目ない相談体制の充実を図り、安心して子どもを産み育てられる環境づくりを一層推進していくことが重要です。

安心して子育てできる環境整備

こども園の民営化や小規模保育所の整備を通じて、受け入れ体制の充実を図り、待機児童の解消や保育サービス向上に取り組んできました。さらに、療育事業や加配職員の配置を強化し、支援を要する児童や家庭への対応力を高めてきました。一方で、保育士の慢性的な不足や学童保育における待機児童問題は続いており、職員確保や施設整備など受け入れ体制の強化が求められています。また、こども広場や屋内型遊戯施設とテレワークセンターを併設した「アスモ」の整備により、育児負担の軽減や子育て世帯の交流促進など多様なニーズへの対応を進めてきました。今後は、保護者が安心して預けられる体制の整備や親子が気軽に交流できる場づくりを通じて、保護者の心身のゆとりを支える多様な保育サービスの充実が重要です。

関連する
SDGs



主な施策

① 出会いから始まる暮らしを支える定住支援

- ア 若者が気軽に交流や出会いを楽しむ機会を創出するとともに、新婚世帯への助成などを通じて、より豊かで安心できる結婚生活を支援し、移動が多い結婚期の若者の転入促進と転出抑制を図ります。
- イ 住宅取得時の負担軽減策や空き家の利活用を通じて、子育て世帯の定住を促進するとともに、手厚い移住支援により転入の促進を図り、若者から選ばれるまちを目指します。

② 妊娠・出産・育児の不安に寄り添う支援

- ア 妊娠期のサポートや産後ケアなどを通じて、妊娠・出産から子どもが大きくなるまで切れ目ない子育て支援を展開し、希望する人が安心して子どもを産み育てられる環境を提供します。
- イ こども家庭センターを中心に、検診や予防接種支援で赤ちゃんの成長をサポートします。あわせて、子育て相談を通じて育児に関するところとからだのケアを行い、パパやママの育児に関する不安を解消します。

③ 心身ともにゆとりを持てる子育て環境の整備

- ア 経済的な負担の軽減と切れ目ない支援で、保護者が心身ともにゆとりを持って子育てできる環境を整えます。
- イ 保育士の処遇改善や民営化によって、必要とする人が保育を受けられる体制を整えるとともに、きめ細やかで質の高い保育を提供します。
- ウ 一時預かり、療育支援、親同士の交流機会の創出など、保護者のニーズ合わせた保育サービスを展開するとともに、周囲の力を借りながら楽しく無理のない子育てができる環境を整えます。

まちづくりの主な指標

まちづくりの指標	現状値（R 6）	目標値（R12）
10月1日時点の0～5歳人口	●	●
20～44歳（日本人）の社会増減（転入数－転出数）	●	●

政策 2 子どもの教育の充実

未来の加西の姿

自ら学び行動する能力を身につけ、
子どもの可能性を広げられるまちを目指します。

加西市のこれまでの取り組みと課題

次世代を育む教育の質向上

加西の教育3本の矢をととして、挑戦・協働・創造できる次世代型の人材育成に取り組むほか、小中連携強化により不登校や中1ギャップの対応を図るとともに、豊かな人間力の育成に努めてきました。また、教職員間の合同研修などを通じて、一貫した教育の推進と教育の質の向上に努めています。外国語教育では、アドバイザー配置やイングリッシュキャンプの実施により、グローバル人材の育成を進めてきました。さらに、GIGAスクール構想に基づく端末整備やデジタル教科書の導入によりICTを活用した学びの環境づくりを推進しています。今後は、AIやデジタル技術の活用により教育DXを推進し、教職員の負担軽減と資質向上を図りながら、教育3本の矢を軸として次世代型人材の育成をさらに進めることが重要です。

地域と共に学びを支える教育環境

学校再編の方針を策定し、説明会やタウンミーティングを通じて地域の意見を反映しながら校舎の改修や統合準備を進めてきました。STEAM.laboの整備や校舎改修により教育環境の改善を図るとともに、校内フリースクールの設置やスクールソーシャルワーカーの増員により、多様な児童生徒の学びと生活を支援しています。しかし、不登校の割合は依然として高く、学校に安心して通えない児童生徒への支援が課題となっています。また、部活動においては、地域人材を活用して地域とのつながりを深めながら専門的な指導体制を整えてきましたが、地域の実態に即した運用方法を検討する必要があります。今後は、居場所の環境整備や相談体制の充実、学校再編後の教育環境の安定化を図り、安心して学べる環境整備と地域と共にある学校づくりを一層推進することが重要です。

関連する
SDGs



主な施策

④ 未来を担う人材を育む教育の推進

- ア 「加西 BASE」「加西 STEAM」「加西 GLOBAL」を柱とする加西の教育 3 本の矢をとおして、挑戦(Challenge)・協働(Collaborate)・創造(Create)できる『3C 次世代型人材』の育成に取り組みます。
- イ 一貫性のある教育と切れ目ない特別支援教育を推進し教育の質向上を図るため、小・中・特別支援学校や高等学校との連携を強化するとともに、地域全体で子どもの成長を支える仕組みを構築します。
- ウ GIGA スクール構想のもと ICT 環境を整備し、デジタル教科書やクロームブックなどを活用して子どもの情報活用力を高めます。学校運営面でもデジタル技術を活用し、保護者との連携を深めるとともに校務の負担軽減を図ります。

⑤ 多様な学びを支える教育環境の整備

- ア 多様な人との関わりや学びの機会を確保するため、小中学校を適正な規模に再編します。老朽化した校舎については、安全管理や改修を進め、安心して子どもを通わせることができる教育環境を整備します。
- イ フリースクールや発達検査の活用、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、臨床心理士や発達臨床心理士などによる相談支援により、様々なケースや悩みに対応し、個々の生徒に合わせた学習機会を提供します。
- ウ 地域と共にある学校づくりと地域人材の活用により、地域での学びや体験活動、地域クラブ活動などを推進します。地域とのつながりを深めることで、子どもの地域への愛着を育みます。

まちづくりの主な指標

まちづくりの指標	現状値 (R 6)	目標値 (R12)
全国学力学習状況調査 (小 6 : 国算理、中 3 : 国数理) において全国平均点を上回った教科数		
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童生徒の割合【全国学力学習状況調査】		

政策 3 生涯にわたって学び、楽しめる環境づくり

未来の加西の姿

生涯、学びやスポーツを楽しみ、
日常生活やまちづくりに活かせるまちを目指します。

加西市のこれまでの取り組みと課題

地域に広がる生涯学習の推進

公民館では、市民教養講座や出前講座などを通じて多様な学習機会を提供し、地域の学びの場としての役割を拡充してきました。さらに、主催講座の企画を市民から募集する「公民館講座ドラフト会議」を開催することで市民の声を反映した講座づくりを進め、地域主体の学びの場の創出にも取り組んでいます。図書館では、電子図書の貸出しサービスを開始するとともに、プログラミング教室や親子落語会などのイベントを実施し、新たな図書の普及と利用促進に努めてきました。しかし、来館者数はコロナ禍以降、一定の回復が見られるものの、なおコロナ前の水準には達しておらず、学習成果を生活や地域活動に活かす仕組みづくりも十分とはいえません。今後は、公民館や図書館を地域の居場所、学びのプラットフォームとして一層機能させ、リカレント教育やデジタル技術を活用した多様な学びを促進し、地域課題の解決や人材育成につなげることが重要です。

文化とスポーツで健やかな暮らし

アスリートによるスポーツ教室やニュースポーツ講座の開催、文化祭や街角コンサートなどの事業を通じ、幅広い世代が文化・スポーツに親しむ機会を広げてきました。また、こども狂言塾や加西能など、新たな伝統文化の継承と交流人口の増加に取り組み、市民の郷土愛の醸成に努めてきました。さらに、新たに総合運動防災公園の整備に向けた検討を進めるとともに、アラジnstadiumやテニスコートなどの既存体育施設の改修を通じて、利用環境の改善を図ってきました。しかし、施設の老朽化や運営負担の増加、伝統文化の次世代への承継などの課題も残されています。今後は、多様な人々が文化・スポーツを通じて交流し、生涯にわたって心身の健康と生きがいを感じられる環境づくりを一層推進することが重要です。

関連する
SDGs



主な施策

⑥ いつまでも学び続けられる環境の整備

- ア 社会教育やリカレント教育等に対応した学びの場を提供することで、あらゆる世代の人が多様な学びを通じて能力を伸ばし、社会課題の解決や地域活性化に寄与する人材の育成を推進します。
- イ 市民が幅広く高度な情報に触れることができるよう、電子図書館をはじめとした図書館サービスの拡充に取り組み、図書館の利用促進を図ります。

⑦ 文化・スポーツ活動でアクティブライフを推進

- ア 子どもから高齢者まで、幅広い世代の市民がスポーツを身近に楽しめる環境を整備し、スポーツを通じて、多様な立場にある人々が生きがいを感じ、心身ともに健康で充実した生活を送れる社会の実現を目指します。
- イ 文化事業を行う団体等を支援し、市民が芸術文化に親しむ機会を増やします。次代へつなぐ伝統文化の継承を進め、郷土愛の醸成を図ります。

まちづくりの主な指標

まちづくりの指標	現状値（R 6）	目標値（R12）
図書館来館者数	●	●
文化・スポーツ活動の参加者数（体育施設、市民会館、公民館の利用者数）	●	●

政策 4 くらしを支える福祉・医療の充実

未来の加西の姿
市民が生涯にわたって、
健康で自分らしく暮らすことのできるまちを目指します。

加西市のこれまでの取り組みと課題

地域共生を支える福祉体制の強化

「地域包括ケアシステム」や「あったかシステム」による支え合いをはじめ、認知症見守りサービス、補聴器購入補助制度の創設、子ども食堂の拡充など、多様な主体と連携しながら福祉支援の充実を図ってきました。また、きずなカフェなどの通いの場の充実、放課後デイ施設や独立型短期入所施設の整備にかかる補助、生活困窮者への就労体験支援などを通じて、誰もが地域で安心して暮らせる環境づくりに取り組んできました。一方で、配食サービスの担い手不足や就労支援による就職者が直接雇用につながる企業が少ないことが課題となっています。今後は、さらなる高齢化の進展や「8050 問題」などを踏まえ、高齢者や障がい者、生活困窮者を含む多様な人々が地域で自分らしく暮らし、社会参加できるよう、支援者の人材確保に加え、ICT の活用や地域住民・企業・団体など多様な主体との協働による支援体制の構築が求められます。

健やかに暮らせる地域医療と健康づくり

運動ポイント事業や食育の推進、がん検診の受診勧奨などに取り組み、市民の健康意識の向上や生活習慣改善を図ってきました。特に、『「健幸都市」加西を目指した歩くまちづくり』の中核を担う運動ポイント事業の参加者は年々増加しており、高齢者の健康づくりやフレイル予防において一定の成果が見られます。さらに、こころの相談体制の充実を目的としたゲートキーパー研修も継続的に開催しており、参加者は増加傾向にあります。また、加西病院の移転建設に向けて「新病院基本構想」を策定し、地域医療連携の推進など、持続可能な医療提供体制の構築に取り組んできました。しかし、特定健診やがん検診の受診率は目標に届いておらず、受診勧奨などの周知強化に加え、受診可能な医療機関の拡充などが課題です。今後は、市民が主体的に健康づくりに取り組み続けられる環境整備と新病院移転を含む地域医療体制の確立を一層推進することが重要です。

関連する
SDGs



主な施策

⑧ 誰一人取り残さない福祉支援

- ア 見守りや移送サービス等の高齢者の生活支援の充実を図るとともに、関係機関や多様な住民と連携して通いの場や就労の場づくりを推進し、高齢者の住み慣れた地域で生活したいという希望を実現します。
- イ 支援を必要とする人への合理的配慮に取り組み、地域生活への移行や社会参画を促進するための福祉サービスを提供することで、障がいのある人や発達に課題を抱える子どもなどが暮らしやすい社会を目指します。
- ウ 生活困窮者の自立支援や見守り、社会福祉協議会等の各種団体と連携した福祉活動の推進により、誰もが安心して暮らせる地域づくりを進めます。

⑨ いつまでも元気で健康に暮らせるまちづくり

- ア 運動ポイント事業や運動教室の開催、こころの相談体制の充実を通じて、心身の健康に配慮した生活習慣の定着を促し、いつまでも健康に暮らせるよう支援します。
- イ 健康教育や予防接種、がん検診、フレイル予防、食育の推進を通じて、市民一人ひとりが主体的に健康維持し、地域ぐるみで健康づくりに取り組む体制を構築します。
- ウ 加西病院の移転整備と福祉・医療機能の集約を進め、医療 DX や医師確保による経営改善に取り組みます。また、基幹病院や周辺医療機関との連携強化と機能分化を図り、持続可能な医療提供体制を構築します。

まちづくりの主な指標

まちづくりの指標	現状値（R 6）	目標値（R12）
要介護認定率（－）	●	●
平均自立期間（心身ともに自立した活動的な状態で生存できる期間）	●	●

政策 5 農業の再生と活性化

未来の加西の姿
加西の特産品を生産する喜び、
やりがいのある農業が展開されるまちを目指します。

加西市のこれまでの取り組みと課題

担い手育成と特産農業の持続化

新規就農支援や研修生の受け入れを進めるとともに、女性や若者の参入促進、農地の集積やスマート農機の導入支援などにより、農業経営の大規模化・効率化を図ってきました。また、ぶどうをはじめとする特産品の開発支援や販路拡大、学校給食に市内産の農作物を提供するなど地産地消と食育の推進を通じて、農業の魅力向上や所得確保に取り組んできました。しかし、農業従事者の減少や後継者不足は依然として深刻であり、特産品ブランドの維持・強化、新規就農者の定着支援、女性の参画促進などは、継続的に取り組むべき課題です。加えて、近年の物価上昇や米価の高騰など経済環境の変化により、安定的な収益確保への対応も喫緊の課題となっています。今後は、担い手育成と経営力の向上を一体的に推進し、地域農業の持続可能性を確保するとともに、魅力ある農業の実現に向けた取組が求められます。

農業基盤保全と被害防止体制の強化

かさい農業塾を通じて環境保全型農業の普及に取り組むほか、ため池や農地の維持管理、イノシシやシカ、アライグマ等に対する鳥獣害対策、スクミリンゴガイへの薬剤補助などの被害軽減に取り組んできました。しかし、農地や施設の老朽化、鳥獣被害の拡大は依然として深刻であり、担い手不足も重なって対応が一層困難となっています。今後は、環境保全型農業やスマート農業の一層の普及を図り、環境保全への貢献と収益確保を両立させながら、持続可能な農業基盤の構築と強固な被害防止体制の強化に取り組むことが重要です。

関連する
SDGs



主な施策

⑩ 地域農業の担い手育成と経営力の向上

- ア 若者や女性の農業へのチャレンジを支援して担い手を育成します。農地集積による農業経営の大規模化や法人化を進めるとともにスマート農業の導入等による経営強化を通じて、持続可能な農業を推進します。
- イ 酒米、ぶどう、とまと、いちご、アスパラガス、ハボタン等の生産支援やPR活動を通じて、特産農産物のブランド力強化を図り、生産者の所得向上を目指します。

⑪ 豊かな農地と農業環境の保全

- ア 農地の維持・改良や施設の長寿命化、ため池の安全性の強化に取り組み、持続可能な農業と農地環境づくりを進めます。
- イ 獣害防護柵の設置や駆除等の有害鳥獣対策及び病虫害対策を通じて、農業経営の安定に向けた被害防止体制を強化します。

まちづくりの主な指標

まちづくりの指標	現状値（R 6）	目標値（R12）
認定農業者及び認定新規就農者による集積面積（権利設定面積）	●	●
第1次産業の市内生産額【市町民経済計算（生産）】	●	●
※(n-2)年の統計データ		

政策 6 商工業の振興と新展開

未来の加西の姿

商工業の振興により地域経済を活性化し、
働きたいと思われるまちを目指します。

加西市のこれまでの取り組みと課題

持続可能な産業基盤と雇用創出

地域企業のデジタル化や省エネ投資支援を通じて、事業者の競争力向上に取り組んできました。また、商業・宿泊施設の誘致や、加西インター産業団地の整備による進出企業の操業開始などにより、地域経済の基盤強化が図られています。また、地域通貨「ねっぴ〜Pay」や商品券による消費喚起、創業塾やビジネスグランプリ、空き店舗活用による創業支援、事業承継のサポートなど、多角的な支援で地域経済の活性化に取り組んできました。しかし、中小企業の持続的発展や新規起業者の定着、地域消費の拡大には継続的な支援が不可欠であり、担い手不足や物価高騰に加え、地域における安定的な雇用の確保が困難となっていることも大きな課題です。今後は、地域企業の経営基盤強化、企業誘致や事業承継、創業支援などを一体的に推進し、地域に雇用と活力を生み出す産業振興が重要です。

多様な働き方と人材定着の推進

雇用開発福祉協議会や兵庫労働局、ハローワークとの連携により、合同就職面接会や JOB フェア、オンライン企業説明会などを実施し、求職者の就業機会の創出とマッチング支援に取り組んできました。また、学生を対象に地元企業の魅力を伝える取組を行い、UJI ターンの促進や若者の地元定着に努めてきました。一方で、ライフスタイルの違いや職場環境とのミスマッチにより、安定的な雇用の確保が困難な状況が続いています。多様な働き方の推進などにより若者や女性に魅力ある職場環境を整え、障がいのある方、引きこもり状態にある方など、就労に困難を抱える方への支援を充実させることで、誰もが自分らしく働ける環境づくりを一層強化することが重要です。

関連する
SDGs



主な施策

⑫ 産業振興による地域活力の創出

- ア 地域の中小企業の持続化支援や事業承継、競争力のある産業の育成、企業誘致を推進します。多様な雇用機会を確保し、地域産業を振興することで市民の豊かな暮らしを支える経済基盤を築きます。
- イ 空き店舗活用や創業支援、地域通貨の利用促進を通じて、地域経済の活性化を図ります。市民が地元で買い物や交流を楽しむことで地域での経済循環が促進され、豊かで賑わいのあるまちを目指します。

⑬ 多様な働き方の推進と雇用の確保

- ア 市内企業の魅力を伝えてふるさとへの誇りと愛着の醸成を図るとともに、多様な働き方を推進することで、若者や女性が地域に根付いて暮らすことができるよう環境を整え、雇用の確保を図ります。
- イ 多様な人材と企業とのマッチングにより人手不足の解消を図るとともに、関係機関と連携しながら障がい者の就労支援、就労訓練や引きこもり支援など労働者福祉の充実を図ります。

まちづくりの主な指標

まちづくりの指標	現状値（R 6）	目標値（R12）
市内総生産額【市町民経済計算（生産）】 ※（n-2）年の統計データ	●	●
若者の残存定住率（n 年の 26-28 歳人口／（n-10）年の 16-18 歳人口（日本人のみ、各年 10 月 1 日時点））	●	●

政策 7 地域資源の活用と人の流れの創出

未来の加西の姿
地域資源を十分に活かし、
加西市に訪れたいと感じる魅力あるまちを目指します。

加西市のこれまでの取り組みと課題

歴史文化と観光資源を活かした誘客

歴史文化遺産や戦争遺産などの地域資源を活用した交流人口の拡大に取り組んできました。鶯野フィールドミュージアムの整備やデジタルコンテンツの活用などにより、sora かさいを拠点に平和ツーリズムを推進するほか、気球イベントやサイクルツーリズムの推進により、来訪者の増加と市の魅力発信に努めてきました。今後は、観光資源の磨き上げや発信力強化、来訪者の消費を地域に還元する仕組みの構築を通じて、交流人口拡大を経済活性化につなげることが重要です。

魅力発信と寄附拡大による地域振興

ふるさと納税の返礼品充実やポータルサイトの活用により、令和2（2020）年度以降、寄付金額は50億円を超える高水準を維持してきました。また、シティプロモーション動画制作、都市部での広報活動の展開などにより交流人口の拡大を図ってきました。しかし、制度改正への対応や返礼品競争の激化が続いており、安定的な寄附確保が課題です。加西市の特色ある資源を活かした商品開発や体験型コンテンツの強化に加え、リピートされる人気返礼品の開発、新規返礼品の定期的な打ち出しを通じて、加西市への関心を継続的に引き付ける工夫が求められます。さらに、ふるさと納税やシティプロモーションを通じて「まちのファン」を増やし、関係人口の創出による地域の発展や賑わいづくりに取り組むことが重要です。

関連する
SDGs



主な施策

⑭ 観光振興による交流人口の拡大

- ア 玉丘史跡公園をはじめとする歴史文化遺産の活用や sora かさいを中心とした平和ツーリズムなどを推進し、地域資源を活かした交流人口の拡大を図るとともに地域の魅力を再発見し、新たな価値を創出します。
- イ サイクルツーリズムや気球の飛ばまちなど観光資源を活かした観光コンテンツを情報展開するとともに、データを活用した誘客と観光拠点のネットワーク化を進め、観光支出を地域経済に還元できる仕組みを構築します。

⑮ 地域資源を活かした魅力の発信と関係人口の創出

- ア 魅力的なふるさと納税返礼品の充実やポータルサイト等の活用を通じて寄附者の関心を高め、ふるさと納税制度の利用拡大により地域の振興と発展に寄与します。
- イ 地域資源を活かした商品開発や体験交流を推進し、農産物や特産品の販路拡大や関係人口の増加を通じて、賑わいのあるまちづくりを目指します。

まちづくりの主な指標

まちづくりの指標	現状値（R 6）	目標値（R12）
観光入込客数	●	●

政策 8 安全・安心に暮らせる環境の充実

未来の加西の姿

地域と連携・協働した支援体制の構築と強化で、
安全・安心に暮らせるまちを目指します。

加西市のこれまでの取り組みと課題

誰も取り残さない防災体制の強化

防災ネットやかさいライフナビの整備、LINE による防災情報通知など、住民への情報伝達体制を充実させてきました。また、自主防災組織の訓練支援や資機材整備補助を進め、地域防災力の向上を図ってきました。しかし、情報ツールを十分に利用できない住民への支援や災害時要支援者、女性、外国人への配慮、ペット同伴など多様化するニーズに対する備えなど、災害・危機に強いまちづくりの実現には課題が残されています。今後は、多様な住民に対応できる情報伝達と支援体制を強化し、生活や事業を継続できる仕組みを構築することが重要です。

持続可能な防犯・相談体制の強化

防犯灯や防犯カメラの設置を進めるとともに、交通安全教室や中学生全員を対象とした自転車保険加入事業を実施し、市民の安全を守る環境整備に取り組んできました。また、市民相談室や消費生活センターを通じて多様な相談に対応し、消費者講座や啓発活動を実施してきました。しかし、防犯設備には経年劣化が見られ、計画的な更新が必要です。今後も引き続き、地域や警察等との連携強化に加え、相談体制や啓発方法を工夫し、市民一人ひとりの防犯意識と自己解決力を高め、誰もが安心して暮らせる環境を整えることが重要です。

関連する
SDGs



主な施策

⑩ 命を守る災害に強いまちづくり

- ア 情報伝達システムを活用した防災情報の提供や防災訓練の実施、避難行動要支援者名簿の整備を通じて、災害発生時に備えた防災体制の強化に取り組めます。
- イ 自主防災組織の活動促進や地域の消防団への支援、防災リーダーの育成などを通じて、市民一人ひとりが自らを守る力を身につけることで、地域防災力の向上を図ります。

⑪ 安全な暮らしを守る防犯対策

- ア 防犯灯や防犯カメラの設置、見守り体制の強化、警察等との連携による交通安全対策、空き家対策を通じて、子どもからお年寄りまで誰にとっても安全で事故のないまちづくりを進めます。
- イ 土地や家族間の問題など多様化する市民の悩みに対応するための相談体制を充実させ、消費者被害の防止に向けた啓発や情報提供を行い、トラブルの未然防止と市民生活の困りごと解消に努めます。

まちづくりの主な指標

まちづくりの指標	現状値（R 6）	目標値（R12）
防災情報が受け取れる状況にある（公式 LINE 防災登録、ライフナビ）市民の割合	●	●
人口 1,000 人当たりの交通事故発生率（－）	●	●

政策 9 快適な都市空間の創出

未来の加西の姿
良好な住環境や景観等が整い、
加西らしいまち並みが形成されたまちを目指します。

加西市のこれまでの取り組みと課題

持続可能な土地利用と住環境整備

「都市計画マスタープラン」に基づき、西高室地区や中野・下宮木地区の宅地開発を進め、住宅供給と住環境整備に取り組んできました。また、旧市街地での石畳風舗装や歴史的街並みの保全、都市公園の安全管理により快適な生活環境の維持に努めてきました。しかし、都市計画区域による規制や建築費高騰などが影響して新築住宅件数は減少傾向にあります。今後は、区域区分廃止に伴う宅地供給の推進や生活機能を集約した地域の拠点整備、学校跡地の活用を進め、市街地と農村部のバランスを考慮した土地利用の推進と、住み慣れた地域で安心して暮らせる住環境整備を一層強化していくことが重要です。

自然と共生する循環型社会の実現

脱炭素社会の実現に向け、再生可能エネルギー導入や省エネ推進に取り組むとともに、環境学習や自然観察を通じて次世代への意識啓発を進めてきました。また、再生可能エネルギー普及にあたっては、地域の合意形成を図りながらゾーニングを進め、景観や自然環境への影響軽減を図ってきました。さらに、株式会社かさいスマートエナジーを設立し、自立・分散型エネルギーシステムの構築による地域エネルギー循環やCO₂排出実質ゼロに向けた施策を展開しています。しかし、市民全体への取組浸透、地域循環型の仕組みづくりは道半ばです。今後は、地域循環共生圏の考えを実践し、自然環境と調和した持続可能な循環型社会の構築を進めることが重要です。

関連する
SDGs



主な施策

⑱ 地域の特性に応じた土地利用と住環境整備

- ア 都市計画マスタープランに基づいて市域全体で土地利用と宅地供給を促進し、職住近接を基本として、循環型社会やデジタル社会といった時代の潮流に対応した多様で快適な住まい方ができるまちづくりを進めます。
- イ 買い物や福祉・医療、教育、地域活動などの生活機能を集約した核や拠点を整備するとともに、学校跡地の活用や地域公共交通との連携によるコンパクトなまちづくりを進め、市民の日々の暮らしを守ることによって生活の質を高めます。

⑲ 自然保護と地域循環社会の構築

- ア 地域循環共生圏の考え方に基づき、環境を守りながら外部依存を減らし、資源のリサイクルやエネルギーの地域循環を推進します。脱炭素を実現する循環型社会を構築することで持続可能な未来を目指します。
- イ 田園や森林などの景観保全と生物多様性に配慮した取組を通じて自然環境を保護し、水と緑に囲まれた豊かな生活を市民が享受できるようにします。

まちづくりの主な指標

まちづくりの指標	現状値（R 6）	目標値（R12）
建築確認の届出があった一戸建及び集合住宅の総戸数	●	●
市域の温室効果ガス排出量（－）	●	●

政策 10 安全性と利便性が確保された都市基盤の整備

未来の加西の姿
暮らしの中で快適さを感じることができる
生活環境が整ったまちを目指します。

加西市のこれまでの取り組みと課題

持続可能な生活インフラ整備

幹線道路や市道、通学路の整備、河川や橋梁の維持管理に取り組み、市民の安心できる生活環境を守ってきました。また、上下水道事業では、水道管の耐震化や下水処理施設の統廃合を計画的に進め、安定的な供給と効率的な経営を図ってきました。さらに、県水への全面切替により将来的な受水費の低減を見込んでいます。今後は、道路や橋梁の老朽化がさらに進み、上下水道施設の改修や更新においても多額の費用が必要であることから、限られた財源と人員の中で持続可能な維持管理体制を確立することが重要です。

持続可能な交通ネットワークの確立

北条鉄道や路線バス、コミュニティバスに加え、地域主体型交通の運行を支援し、交通弱者を含む市民の移動手段を確保してきました。公共交通総合 HP の開設やデジタルサイネージ設置により利便性向上を図るとともに、IC カード導入支援や通勤定期券の購入補助などにより鉄道の利用拡大に取り組んできました。また、地域主体型交通は複数地区で展開され、地域住民の有志による運転手に対して安全運転講習などを実施しています。しかし、運転手不足や利用需要の変化に伴う経営環境の厳しさは続いており、持続可能な交通網を維持するためには、多様な交通手段の最適な組み合わせや、デジタル技術を活用した利便性向上をさらに進めることが重要です。

関連する
SDGs



主な施策

⑳ 暮らしを支える生活インフラの維持管理

- ア 国道 372 号や幹線道路の整備、通学路等の安全確保、河川・橋梁の維持管理、未改修河川の整備を進め、市民の安全で安心な暮らしを保障する生活基盤を整備します。
- イ 上下水道施設の計画的な整備・改修や統廃合を進め、安全な水の供給と安定的な下水処理を行うとともに、効率的かつ持続可能な事業経営を目指します。

㉑ 便利で快適な交通ネットワークの整備

- ア 鉄道やバスのほか地域主体型交通などを組み合わせた多様な交通網を整備し、決済や乗継ぎなどの交通サービスの利便性向上により、学生や高齢者などの交通弱者を含むすべての人の快適な移動を実現します。
- イ 鉄道車両や輸送設備の保全を通じて安全な運行を維持し、市民が安心して鉄道を利用できる環境を整備します。利用促進による経営改善を図るとともに、地域の交通機関としての持続的な発展を目指します。

まちづくりの主な指標

まちづくりの指標	現状値（R 6）	目標値（R12）
道路改良率（車道幅員が 5.5m 以上に改良済の道路の延長 ／実道路延長）	●	●
公共交通（鉄道、バス、地域主体型交通）の利用者数	●	●

政策 11 協創のまちづくりの推進

未来の加西の姿

加西に関わる誰もが主役となって活躍し、
元気にぎわいあるまちを目指します。

加西市のこれまでの取り組みと課題

市民参画で広げる協創のまち

協創のまちづくりを推進するため条例を改正し、ふるさと創造会議を中心に地域主体の取組を進めてきました。令和6年度末までに6地区でまちづくり計画が策定され、地域での課題解決に向けた仕組みが整いつつあります。しかし、ふるさと創造会議や地域活動団体においては、慢性的な人材不足が課題となっており、新たな担い手の確保が必要です。今後は、世代や性別を問わず、幅広い市民がまちづくりに参加できる環境を整備し、地域活動の持続的発展を図ることが重要です。

双方向で進める魅力発信と市民参画

従来からある広報誌やHPに加え、様々なSNSを通じた情報発信に取り組んできました。また、タウンミーティングや市長への手紙を通じて市民の意見を集約し、施策に反映してきました。さらに、公式LINEやアプリなど新しい媒体を活用した発信も進めています。一方で、情報発信は多様化しているものの、市民一人ひとりが必要な情報を確実に受け取れる仕組みづくりや、市民ニーズを施策に的確に反映する体制には課題があります。今後は双方向の情報共有を強化し、開かれた行政を推進することが重要です。

関連する
SDGs



主な施策

②② みんなで考えるまちづくりの推進

- ア ふるさと創造会議や自治会の活動を支援し、その取組を通じて地域住民が主体的に地域の課題解決に取り組むことを推進します。
- イ 地域課題の解決を目指す地域活動家や NPO 法人等を育成するとともに、団体の主体的な活動を支援することで、市民がまちづくりに参加しやすい環境を整えます。

②③ 魅力を伝える情報発信と市民ニーズの把握

- ア 広報誌やホームページ、公式 LINE、SNS 等を活用して、市の取組や制度を市内外に広く周知します。
また、市民が必要な情報をタイムリーに受け取れるようにすることで市が実施する施策の効果を高めます。
- イ 市長への手紙やタウンミーティングなどを通じて細やかな市民ニーズを掘り起こすことにより今後の施策立案に活かします。

まちづくりの主な指標

まちづくりの指標	現状値（R 6）	目標値（R12）
まちづくり計画を策定した地区数	●	●
市ホームページに掲載がある公式 SNS（X、LINE、Instagram、Facebook、YouTube）の総フォロワー数	●	●

政策 12 お互いを認め、尊重し合える社会の実現

未来の加西の姿

多様な価値観やお互いを認め合い、
すべての市民が協力できるまちを目指します。

加西市のこれまでの取り組みと課題

誰もが尊重され支え合う地域社会

人権学習会や啓発イベントを通じて、参加者の関心や人権意識の向上を図ってきました。また、こども家庭センターやDVセンターを拠点とした相談体制の強化や、北はりま成年後見支援センターの広域運営開始など、虐待防止やひとり親家庭、子ども、高齢者への支援を拡充してきました。一方で、相談員の安定的な確保や育成、困難ケースへの対応、地域や関係機関との連携強化が課題となっています。今後は、多様な人権課題への継続的な啓発と支援体制の充実を図り、誰もが安心して暮らせる支え合いの地域社会を実現していくことが重要です。

多様性を尊重し共に暮らす社会

女性リーダー養成講座や就労支援セミナー、自治会役員登用助成制度を通じて女性の社会参画を進めてきました。また、国際交流協会との連携により、日本語教室や学習支援を通じて外国人住民の生活を支援するとともに、交流イベントを通じて地域の相互理解を深めてきました。グローバルセンターの開設を契機に、多文化共生社会の実現に向けた取り組みを加速させることが期待されています。一方で、地域社会では若者や女性が参加しやすい環境が十分に整っておらず、誰もが安心して意見を述べ、多様な考え方が尊重される場の整備が求められています。今後は、自治会役員に限らず、行政や企業においても女性の社会参画を支援し、多様性を尊重した包摂的な社会の構築していくことが重要です。

関連する
SDGs



主な施策

②④ 人権を守り支え合う社会の推進

- ア 地区人権学習や市民のつどいを通じて、家庭、学校、地域で人権や多様な性に関する教育・啓発を進め、差別を許さないまちづくりを推進します。
- イ こども家庭センター、成年後見支援センター、DV センターを拠点にひとり親支援や虐待防止に取り組み、孤立を防ぐことで、包み支え合う社会を目指します。

②⑤ 女性活躍と多文化共生の推進

- ア 女性リーダーの育成を進めるとともに企業や自治組織での女性登用を促進し、社会のあらゆる分野で性差にとらわれることなく多様性を尊重し、受け入れる社会を推進します。
- イ グローバルセンターを拠点に、外国人への学習支援や生活情報の多言語化に取り組むとともに地域との交流を通じて互いの文化や背景を理解し認め合い、外国人が当たり前暮らし共存できる社会を推進します。

まちづくりの主な指標

まちづくりの指標	現状値（R 6）	目標値（R12）
人権啓発事業の参加者数	●	●
公的に位置づけられた審議会等における女性委員の割合	●	●

政策 13 効率的で持続可能な行財政の推進

未来の加西の姿

計画的な行財政運営と人材の資質向上により、
質の高いサービスを提供できるまちを目指します。

加西市のこれまでの取り組みと課題

持続可能な財政運営と人材育成

庁内外の研修や広域研修への参加を通じて職員の能力向上を図り、行政サービスの質の向上に取り組んできました。また、基金の積立や計画的な予算執行、ふるさと納税の活用により持続可能な財政運営を維持してきました。さらに、徴収体制を強化し、公平性の確保に努めてきました。しかし、大型建設事業の本格化や人件費上昇などにより、安定的な財源確保と効率的な財政運営が一層求められています。今後は、行財政改革や公共施設の適正管理を通じて中長期的な視点での財政マネジメントを行い、今ある資源や施設を有効に活用しながら市民サービスの維持・向上を図ることが重要です。

デジタル化による効率化と利用促進

文書管理システムの全庁導入や議会資料のペーパーレス化、生成 AI やチャットボットなどの活用により、行政事務の効率化を進めてきました。また、住民票や印鑑証明のコンビニ交付を開始し、オンライン申請の環境整備を進めてきました。しかし、利用件数は想定を下回っており、住民のデジタル利用促進に向けた啓発や利便性向上の工夫が必要です。今後は、基幹システムの標準化やマイナンバー利用による行政サービスの利便性向上を図り、地域サービスにおいてもデジタル技術を活用して付加価値を創出していく必要があります。また、市民一人ひとりが安心してデジタルサービスを活用できる環境を整備し、暮らしの質を向上させることが重要です。

広域連携と協働による課題解決

北播磨広域定住自立圏や播磨圏域連携中枢都市圏を通じて近隣市町と連携し、生活機能の充実や広域的なまちづくりを進めてきました。また、神戸大学や播磨農業高校との連携による学校給食での農産物活用や、県立農林水産技術総合センターと連携した新ブランド「ひかり姫」の生産拡大実証など、産学官連携による地域振興に取り組んできました。さらに、SDGs パートナー登録制度を創設し、多様な団体や事業者との協働が広がっています。今後は、これらの連携を一過性の取組に留めず、持続可能な仕組みとして定着させ、多様なステークホルダーとともに地域課題に取り組むことが重要です。

関連する
SDGs



主な施策

②⑥ 信頼される行財政運営

- ア 各種研修やデジタル人材の育成を通じて職員個々の能力向上を図り、効率的で市民満足度の高い行政サービスを提供します。
- イ 学校再編や病院移転などの大型建設事業を見据え、安定的な財源を確保するとともに行財政改革による効率的な財政支出を推進し、健全な財政運営を堅持します。
- ウ 公共施設等総合管理計画に基づき、公共施設の更新時にかかる経費の平準化や長寿命化を図るとともに、施設の多機能化や集約化により保有総量を削減するなど、公共施設全体の適正管理を推進します。

②⑦ デジタル活用で快適に暮らせるまちづくり

- ア 基幹システムの標準化に伴うバックヤード改革を進めるとともに、マイナンバー利用やデジタル活用を通じて、行政事務の効率化と市民サービスの向上を図り、市民がシンプルな手続きで手厚く便利なサービスが受けられるようにします。
- イ かさい「ミライナカ」計画 2030 に基づき、日常生活にデジタル技術を導入するとともに、市民のデジタル利用を推進することで、地域での暮らしをより便利で豊かなものにします。

②⑧ パートナーシップで地域の課題解決

- ア 定住自立圏や連携中枢都市圏での広域連携を通じて、より効果的な事業運営を目指します。市単独での実施が難しい業務は一部事務組合を設立するなど効率的な運営に努め、近隣自治体との連携による生活機能の強化やネットワークの強化を推進します。
- イ 大学や企業のほか、地域団体、金融機関、市民など多様なステークホルダーとの連携と協働を通じて、地域課題の解決を目指します。

まちづくりの主な指標

まちづくりの指標	現状値（R 6）	目標値（R12）
将来負担比率（－）	●	●
実質公債費比率（－）	●	●

後期基本計画策定における審議会の進行等要領

総合計画（後期基本計画）策定については、第4回目から第6回目の審議会において、下記要領により意見交換等を行います。なお、各回でいただいたご意見は集約のうえ、次回審議会にてご提示させていただきます。

1 審議会における進行

次頁「審議会進行の目安」を参考以下の部会・全体会を進めます。

第4回 審議会(部会)

「施策目標」、「KPI」等における意見交換、審議（部会内での進行・説明は事務局で行います）

資料：資料③ 施策目標等の検討資料

※参考資料②～④アンケート集計結果などもご参照ください

第5回 審議会(全体会)

「素案」、「施策目標」、「KPI」等における意見交換、審議

資料：資料③ 施策目標等の検討資料

資料④ 後期基本計画（素案）

※ 参考資料②～④アンケート集計結果などもご参照ください

第6回 審議会(全体会)

総合計画（後期）素案の最終稿の確認及び審議会からの答申

第4回・第5回の審議会での意見を反映させ、資料④ 後期基本計画（素案）を修正します。

2 委員の審議の視点

審議会の第4・5回目に行う「施策目標」「KPI」の確認要領については、資料③の1頁をご確認ください。確認いただく考え方については概ね以下の通りです。

施策目標(ア～ウ)

視点1：「政策⇒施策⇒施策目標」の階層から「施策」を達成する「施策目標」の内容であるか

視点2：市民目線での記述内容であるか

視点3：具体的な行政サービス（事業）を決定・廃止を目的とした審議ではありませんが、施策目標の達成につながる、ご提案があればご意見ください

KPIの設定

視点1：客観的な成果を示す指標（アウトプット・アウトカム指標が望ましい）

視点2：事業との直接性のある効果を表す指標（因果関係の明確性）

視点3：測定可能である指標（進捗管理ができ評価ができること）

後期基本計画 素案

素案全体（第1章序論、第2章基本構想、第3章基本計画）を通してのご意見（＝第5回審議会）

3 指標の考え方

インプット指標	「何を投入するか」→リソースや労力 (<u>手段</u>)	婚活イベントの開催回数
アウトプット指標	「何を生み出したか」→活動の <u>結果</u>	婚活イベントの参加人数
アウトカム指標	「どんな影響があったか」→効果や <u>成果</u>	結婚意欲、婚姻数、未婚率

4 審議会進行の目安

						【資料③】	【資料④】
部会	審議会	政策	施策	関連する団体	施策目標等 検討資料 ページ	素案 ページ	
1	第4回 9/25(木)	政策1 新しい家族と出会い、 育むための支援の充実	① 出会いから始まる暮らしを支える定住支援	公立こども園PTA 加西市連合PTA	2	40-41	
			② 妊娠・出産・育児の不安に寄り添う支援		2		
			③ 心身ともにゆとりを持てる子育て環境の整備		3		
		政策2 子どもの教育の充実	④ 未来を担う人材を育む教育の推進	公立こども園PTA 加西市連合PTA	4	42-43	
			⑤ 多様な学びを支える教育環境の整備		4		
		政策3 生涯にわたって学び、 楽しめる環境づくり	⑥ いつまでも学び続けられる環境の整備	加西市スポーツ推進委員会 NPO法人加西市国際交流協会	5	44-45	
			⑦ 文化・スポーツ活動でアクティブライフを推進		5		
		政策4 くらしを支える 福祉・医療の充実	⑧ 誰一人取り残さない福祉支援	加西市シニアクラブ連合会 NPO法人加西市国際交流協会	6	46-47	
			⑨ いつまでも元気で健康に暮らせるまちづくり		6		
2	第4回 9/25(木)	政策5 農業の再生と活性化	⑩ 地域農業の担い手育成と経営力の向上	農業者 北条金融協会	7	48-49	
			⑪ 豊かな農地と農業環境の保全		7		
		政策6 商工業の振興と新展開	⑫ 産業振興による地域活力の創出	加西商工会議所 北条金融協会 加西市労働者福祉協議会	8	50-51	
			⑬ 多様な働き方の推進と雇用の確保		8		
		政策7 地域資源の活用と 人の流れの創出	⑭ 観光振興による交流人口の拡大	加西商工会議所 加西空き家相談室	9	52-53	
			⑮ 地域資源を活かしたふるさと納税の推進		9		
3	第4回 9/25(木)	政策8 安全・安心に暮らせる 環境の充実	⑯ 命を守る災害に強いまちづくり	加西市区長会 加西市くらしと生活を守る会	10	54-55	
			⑰ 安全な暮らしを守る防犯対策		10		
		政策9 快適な都市空間の創出	⑱ 地域の特性に応じた土地利用と住環境整備	加西市くらしと生活を守る会 加西商工会議所青年部	11	56-57	
			⑲ 自然保護と地域循環社会の構築		11		
		政策10 安全性と利便性が 確保された都市基盤の整備	⑳ 暮らしを支える生活インフラの維持管理	加西市区長会 加西商工会議所青年部	12	58-59	
			㉑ 便利で快適な交通ネットワークの整備		12		
全体 会	第5回 10/27(月)	政策11 協創のまちづくりの推進	㉒ みんなで考えるまちづくりの推進	全ての団体	13	60-61	
			㉓ 魅力を伝える情報発信と市民ニーズの把握		13		
		政策12 お互いを認め、 尊重し合える社会の実現	㉔ 人権を守り支え合いの社会の推進		14	62-63	
			㉕ 女性活躍と多文化共生の推進		14		
		政策13 効率的で持続可能な 行財政の推進	㉖ 信頼される行財政運営		15	64-65	
			㉗ デジタル活用で快適に暮らせるまちづくり		15		
			㉘ パートナリシップで地域の課題解決		16		

加西市
後期基本計画まちづくりに関するアンケート結果
(単純集計)

令和7年9月
加西市

目 次

I アンケート調査の概要.....	1
1 調査の目的	1
2 調査概要	1
3 報告書の見方.....	1
II アンケート調査結果.....	2
1 回答者について.....	2
2 子育て教育について.....	8
3 農業や商工業について.....	10
4 住環境について.....	13
5 住民サービスについて.....	15
6 社会のようすについて.....	17
7 若者女性について.....	19
8 多様性について.....	21
9 デジタルについて.....	22
10 加西市の将来について.....	23

I アンケート調査の概要

1 調査の目的

本調査は、加西市に関わりのある方々から、加西市のことやご自身のことなどについてお伺いし、計画づくりの参考とさせていただくことを目的として実施しました。

2 調査概要

項目	市民アンケート調査
調査対象者	限定なし
調査期間	令和7年7月1日（火）～8月20日（水）
調査方法	ホームページ等で調査について周知し、WEB上の回答フォームに誘導 （回答者にはインセンティブを付与）
有効回収数	2,697件

3 報告書の見方

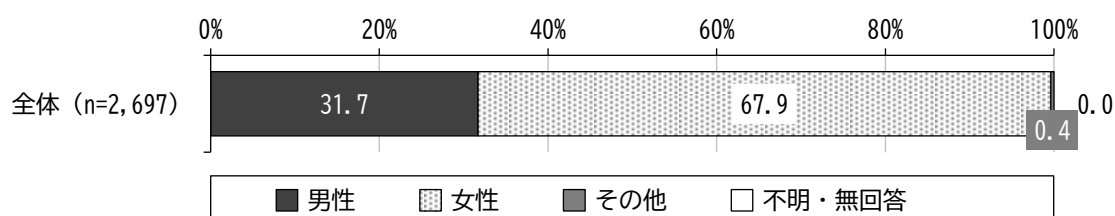
- ◇回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフにおいても反映しています。
- ◇複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ◇図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ◇図表中の「n（number of case）」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- ◇本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。

Ⅱ アンケート調査結果

1 回答者について

Q1. あなたの性別（ひとつだけ選択）

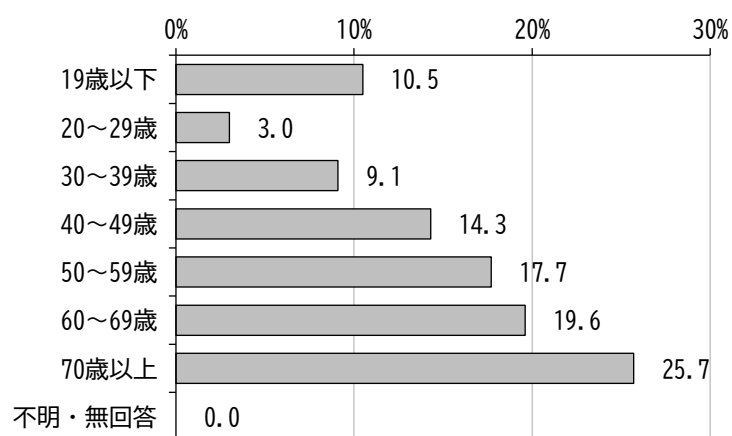
性別についてみると、「男性」が31.7%、「女性」が67.9%、「その他」が0.4%となっています。



Q2. あなたの年齢（令和7年4月1日時点）（ひとつだけ選択）

年齢についてみると、「70歳以上」が25.7%と最も高く、次いで「60～69歳」が19.6%、「50～59歳」が17.7%となっています。

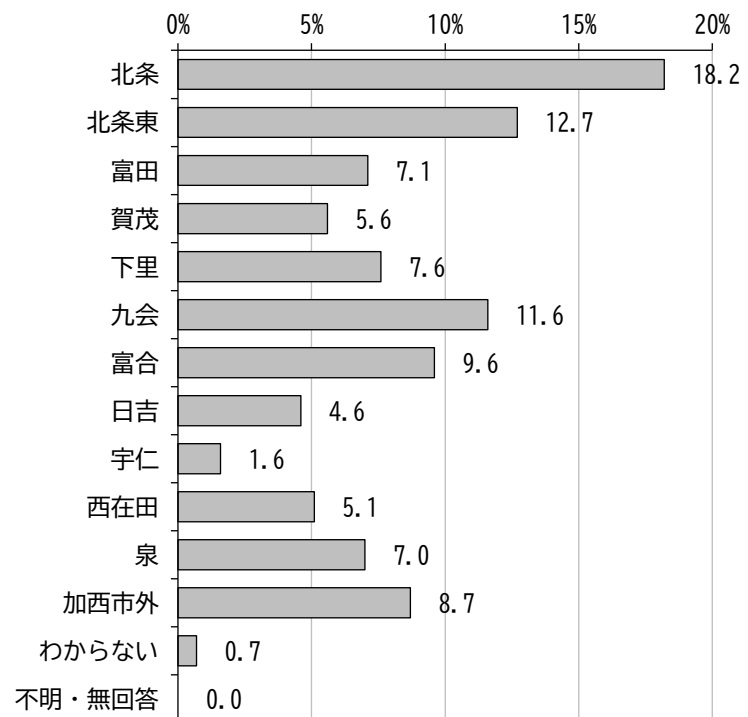
全体 (n=2,697)



Q3. お住まいの小学校区（ひとつだけ選択）

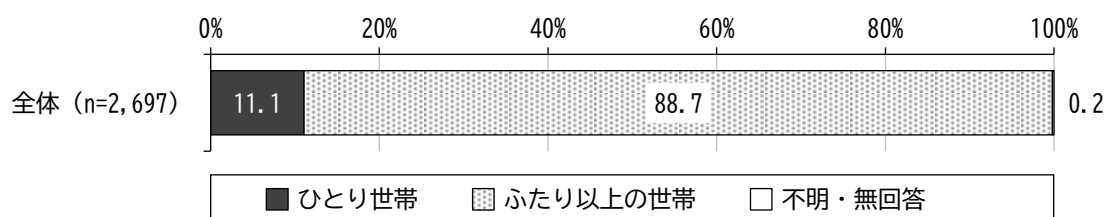
お住まいの小学校区についてみると、「北条」が18.2%と最も高く、次いで「北条東」が12.7%、「九会」が11.6%となっています。

全体（n=2,697）



Q4. 同居している家族の構成（ひとつだけ選択）

家族構成についてみると、「ふたり以上の世帯」が88.7%と、「ひとり世帯」の11.1%を上回っています。

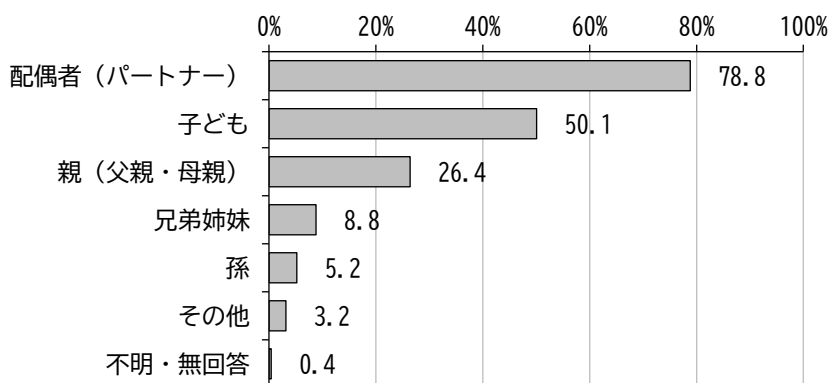


Q4で「ふたり以上の世帯」を選択された方

Q5. 同居している家族について、教えてください。回答者ご自身から見た関係性で選んでください。（あてはまるすべてを選択）

同居している家族についてみると、「配偶者（パートナー）」が 78.8%と最も高く、次いで「子ども」が 50.1%、「親（父親・母親）」が 26.4%となっています。

全体（n=2,392）

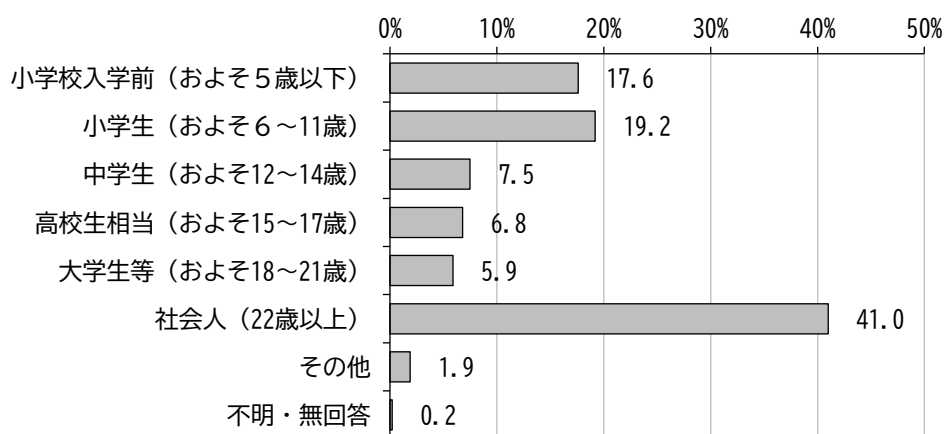


Q5で「子ども」を選択された方

Q6. 一番下のお子さんの年齢（4月1日時点）を教えてください。（ひとつだけ選択）

一番下のお子さんの年齢についてみると、「社会人（22歳以上）」が 41.0%と最も高く、次いで「小学生（およそ6～11歳）」が 19.2%、「小学校入学前（およそ5歳以下）」が 17.6%となっています。

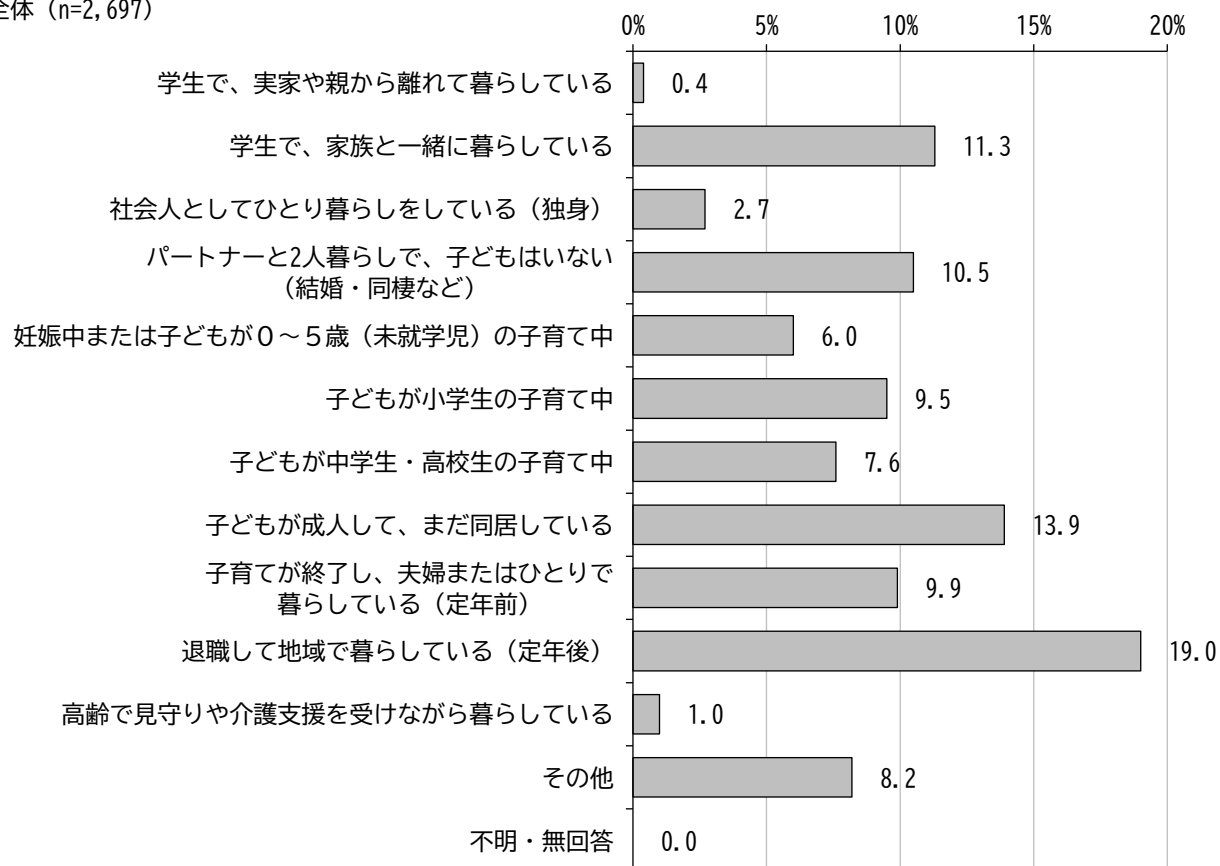
全体（n=1,199）



Q 7. 現在のライフステージに最も近いものをお選びください。（ひとつだけ選択）

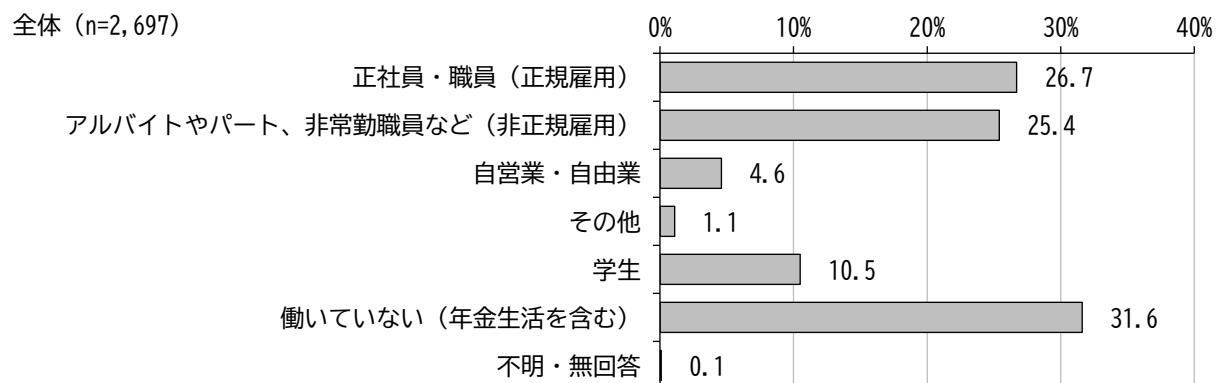
現在のライフステージについてみると、「退職して地域で暮らしている（定年後）」が 19.0%と最も高く、次いで「子どもが成人して、まだ同居している」が 13.9%、「学生で、家族と一緒に暮らしている」が 11.3%となっています。

全体（n=2,697）



Q8. ①回答者自身の就業状況について教えてください。(ひとつだけ選択)

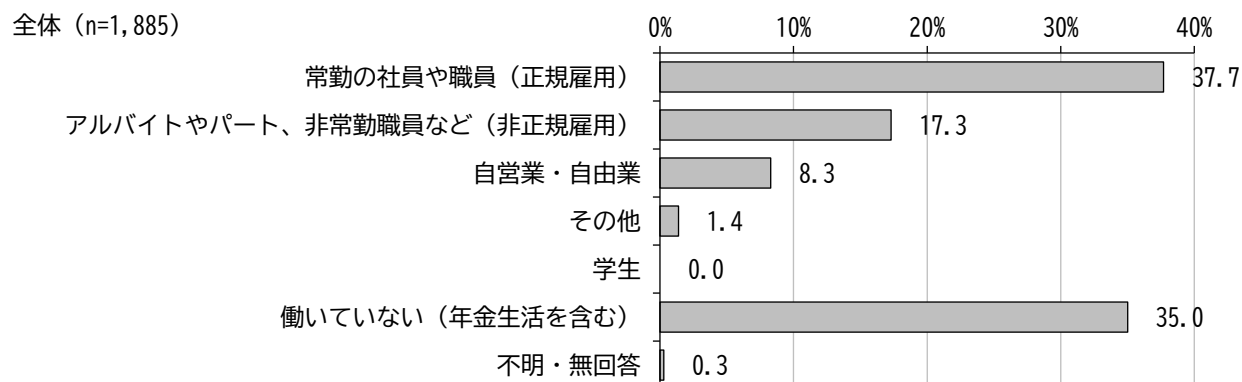
回答者自身の就業状況についてみると、「働いていない（年金生活を含む）」が31.6%と最も高く、次いで「正社員・職員（正規雇用）」が26.7%、「アルバイトやパート、非常勤職員など（非正規雇用）」が25.4%となっています。



Q5で「配偶者（パートナー）」を選択された方

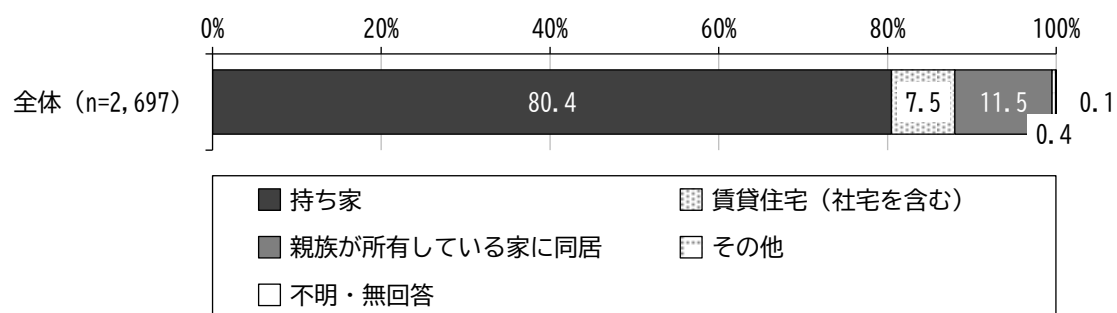
Q8. ②配偶者（パートナー）の就業状況について教えてください。(ひとつだけ選択)

配偶者（パートナー）の就業状況についてみると、「常勤の社員や職員（正規雇用）」が37.7%と最も高く、次いで「働いていない（年金生活を含む）」が35.0%、「アルバイトやパート、非常勤職員など（非正規雇用）」が17.3%となっています。



Q9. 現在の住まいについて教えてください。(ひとつだけ選択)

現在の住まいについてみると、「持ち家」が80.4%と最も高く、次いで「親族が所有している家に同居」が11.5%、「賃貸住宅（社宅を含む）」が7.5%となっています。

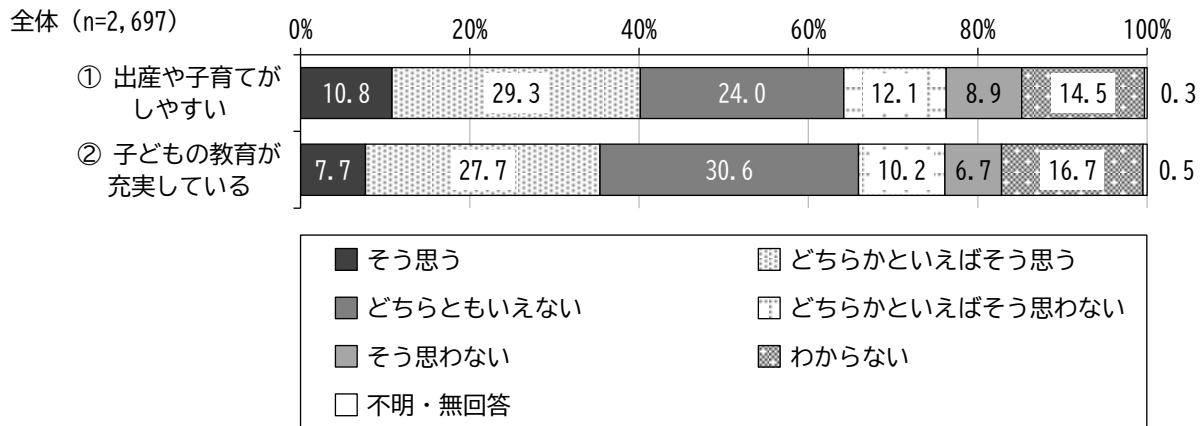


2 子育て教育について

Q10. 加西市の「子育てや教育」について、あなたの考えを教えてください。

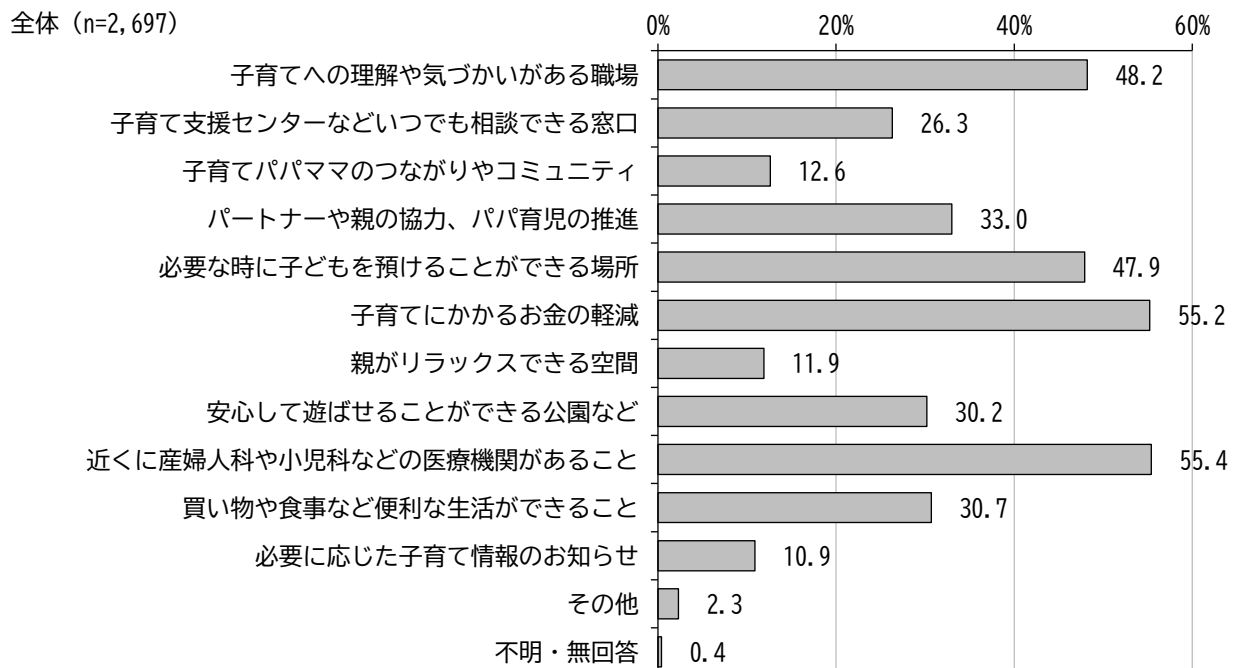
(それぞれひとつだけ選択)

加西市の「子育てや教育」についてみると、[①出産や子育てがしやすい] [②子どもの教育が充実している]のいずれも『思う』(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)が『思わない』(「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計)より高くなっています。



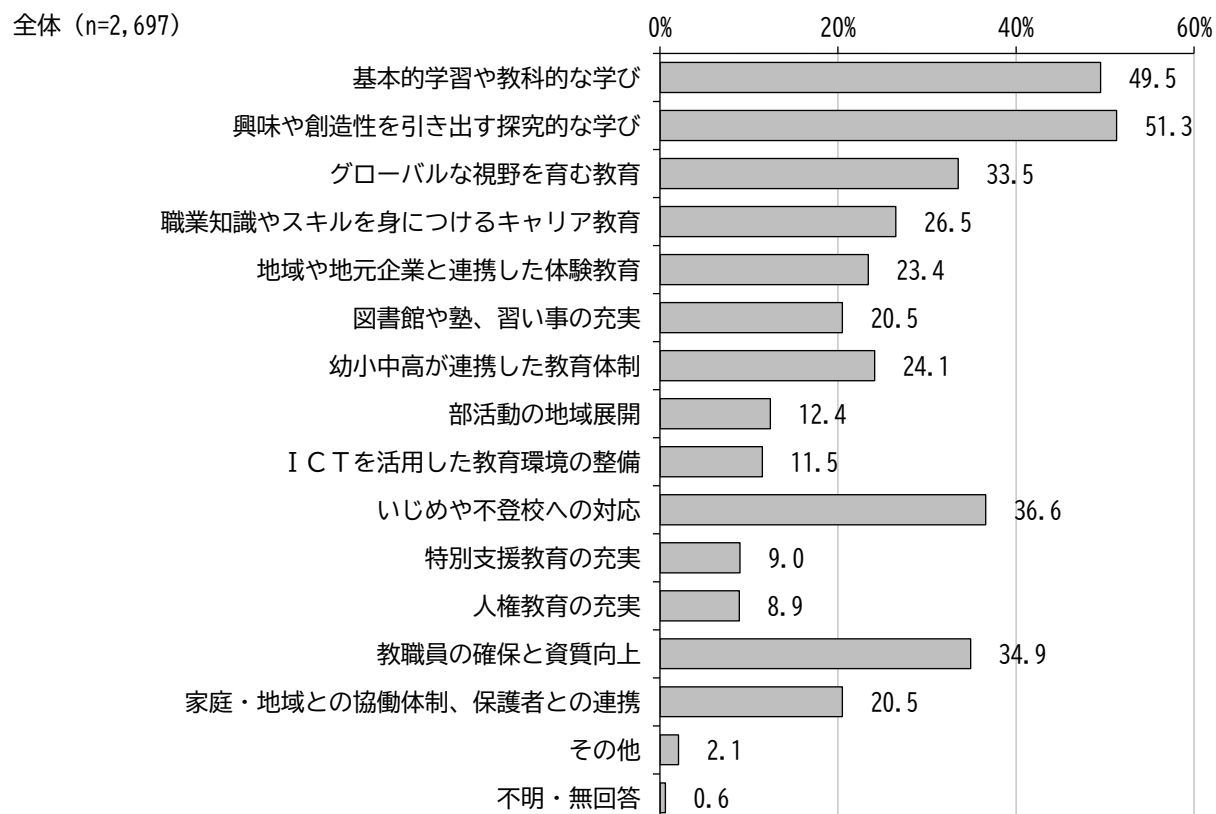
Q11. 子育てしやすい環境に、特に必要だと思うことを教えてください。(5つまで選択)

子育てしやすい環境に特に必要だと思うことについてみると、「近くに産婦人科や小児科などの医療機関があること」が 55.4%と最も高く、次いで「子育てにかかるお金の軽減」が 55.2%、「子育てへの理解や気づきがある職場」が 48.2%となっています。



Q12. 子どもの未来を育む教育に、特に必要だと思うことを教えてください。（5つまで選択）

子どもの未来を育む教育に特に必要だと思うことについてみると、「興味や創造性を引き出す探究的な学び」が51.3%と最も高く、次いで「基本的学習や教科的な学び」が49.5%、「いじめや不登校への対応」が36.6%となっています。

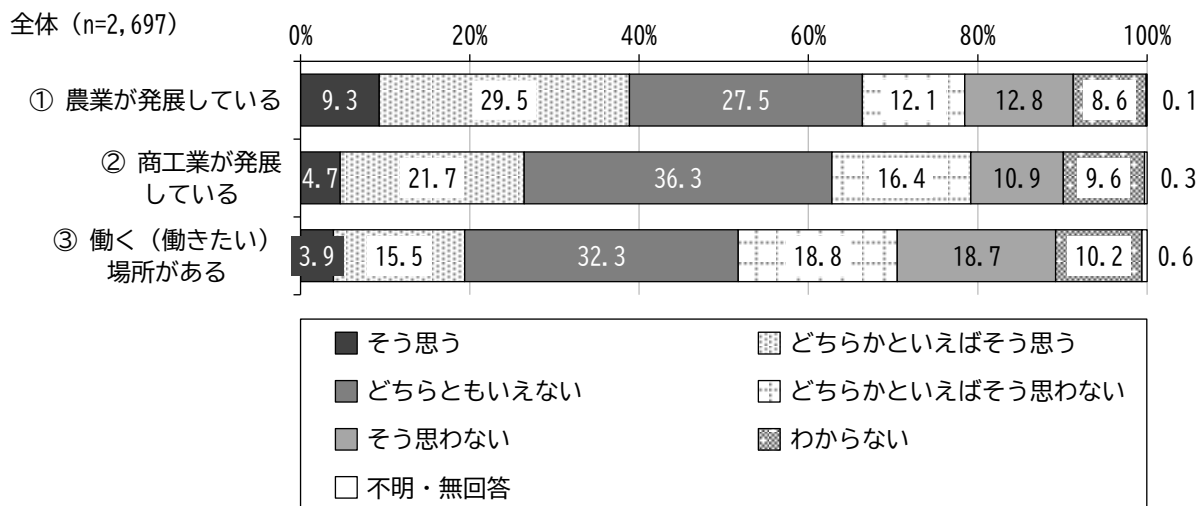


3 農業や商工業について

Q13. 加西市の「農業や商工業」について、あなたの考えを教えてください。

(それぞれひとつだけ選択)

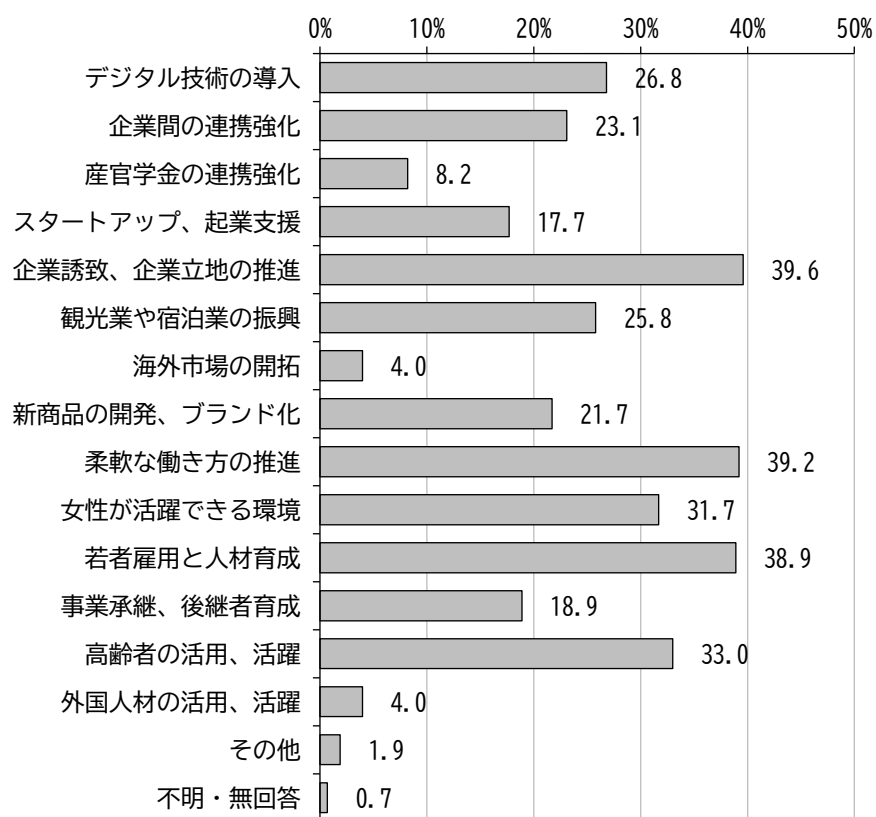
加西市の「農業や商工業」についてみると、[①農業が発展している]では『思う』(「思う」と「どちらかといえば思う」の合計)、[②商工業が発展している][③働く(働きたい)場所がある]では『思わない』(「どちらかといえば思わない」と「そう思わない」の合計)が高くなっています。



Q14. 加西市の産業の発展に、特に必要だと思うことを教えてください。（5つまで選択）

加西市の産業の発展に特に必要だと思うことについてみると、「企業誘致、企業立地の推進」が39.6%と最も高く、次いで「柔軟な働き方の推進」が39.2%、「若者雇用と人材育成」が38.9%となっています。

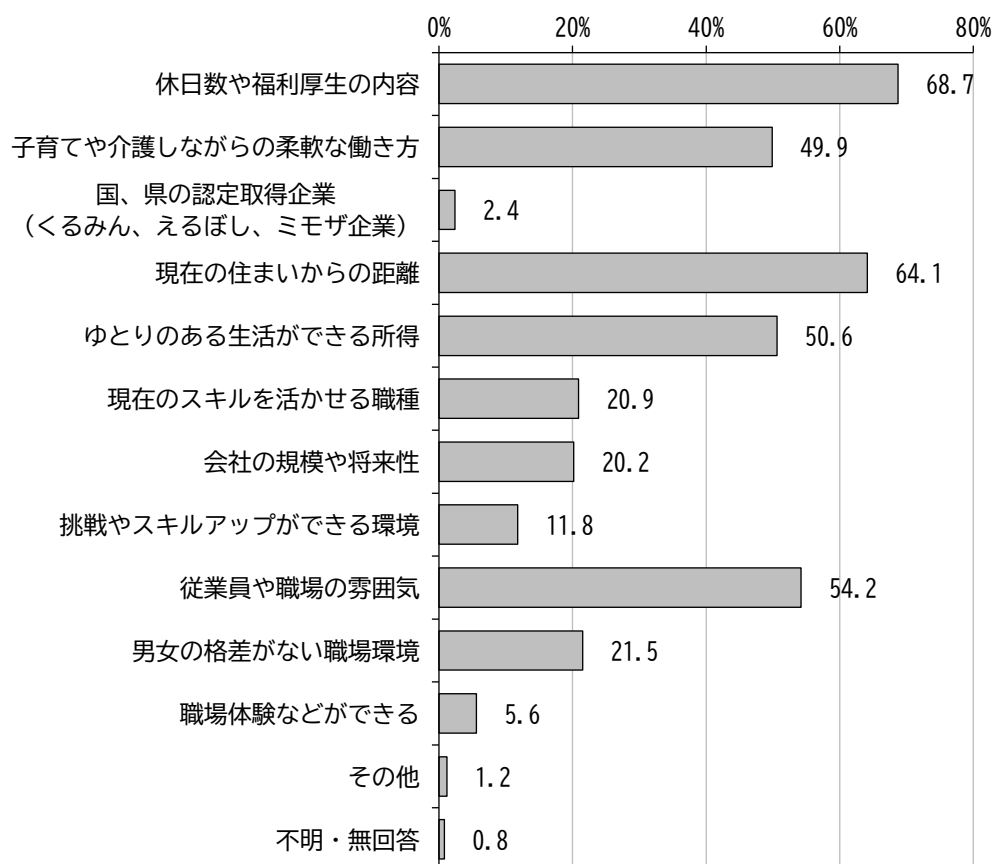
全体（n=2,697）



Q15. 働く場所を決める際、特に重視することを教えてください。（5つまで選択）

働く場所を決める際、特に重視することについてみると、「休日数や福利厚生の内容」が 68.7%と最も高く、次いで「現在の住まいからの距離」が 64.1%、「従業員や職場の雰囲気」が 54.2%となっています。

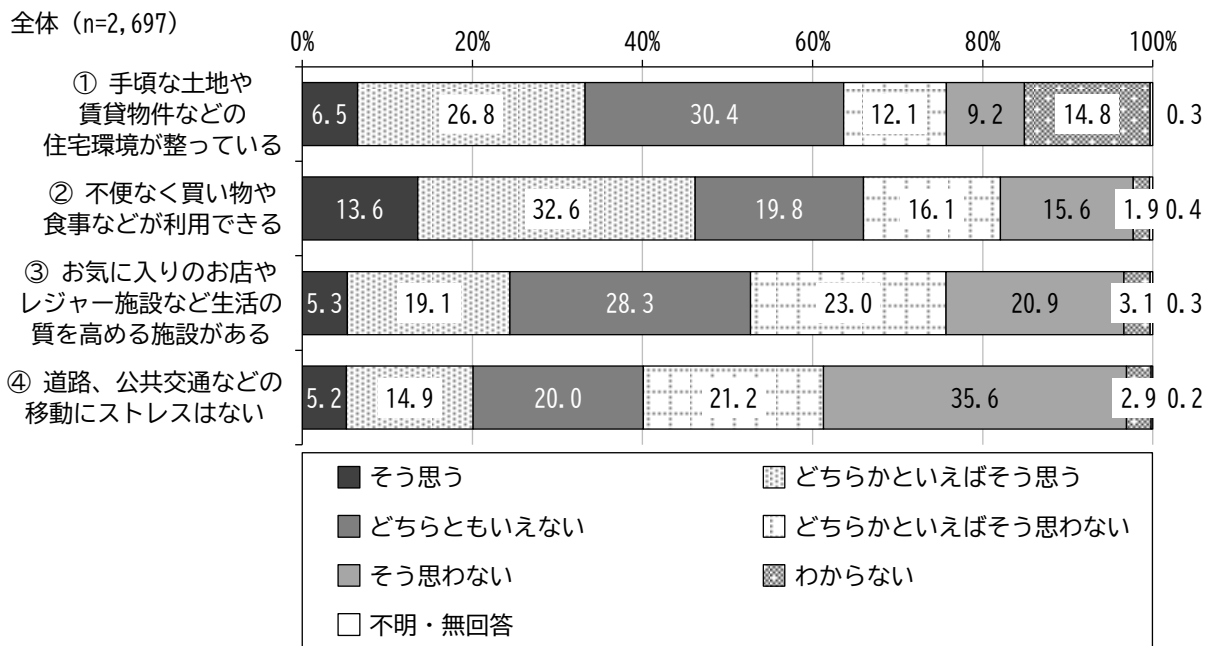
全体（n=2,697）



4 住環境について

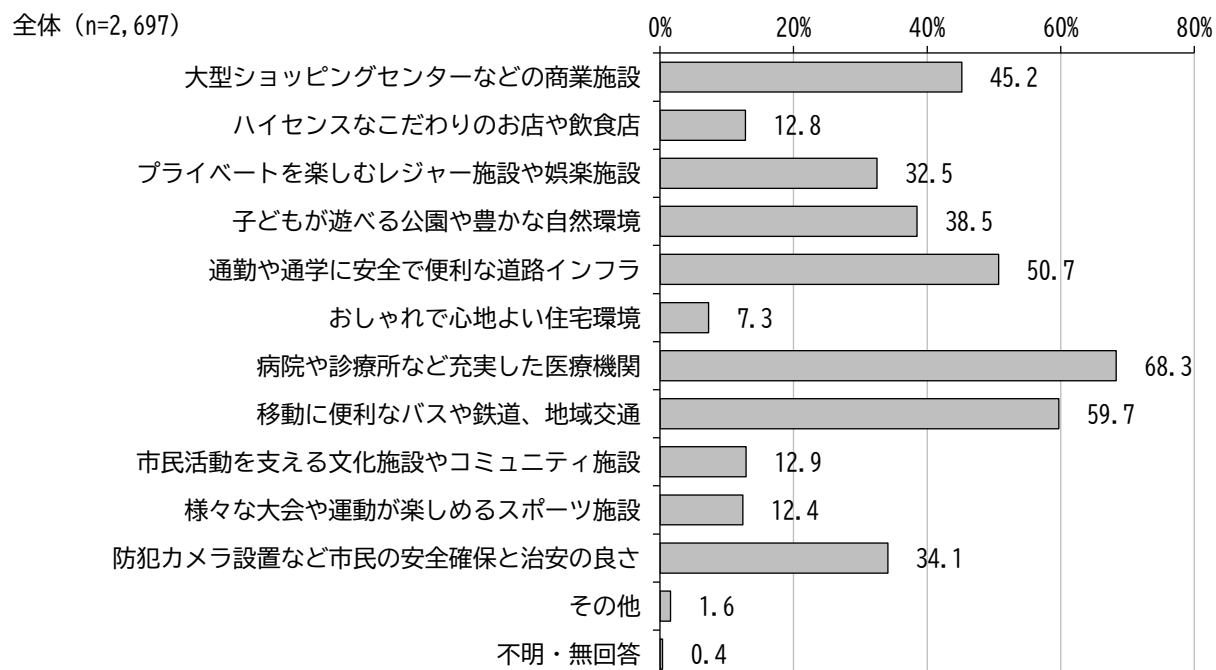
Q16. 加西市の「住環境」について、あなたの考えを教えてください。（それぞれひとつだけ選択）

加西市の「住環境」についてみると、[①手頃な土地や賃貸物件などの住宅環境が整っている][②不便なく買い物や食事などが利用できる]では『思う』（「思う」と「どちらかといえば思う」の合計）、[③お気に入りのお店やレジャー施設など生活の質を高める施設がある][④道路、公共交通などの移動にストレスはない]では『思わない』（「どちらかといえば思わない」と「思わない」の合計）が高くなっています。



Q17. 快適な暮らしに、特に必要だと思う都市機能を教えてください。（5つまで選択）

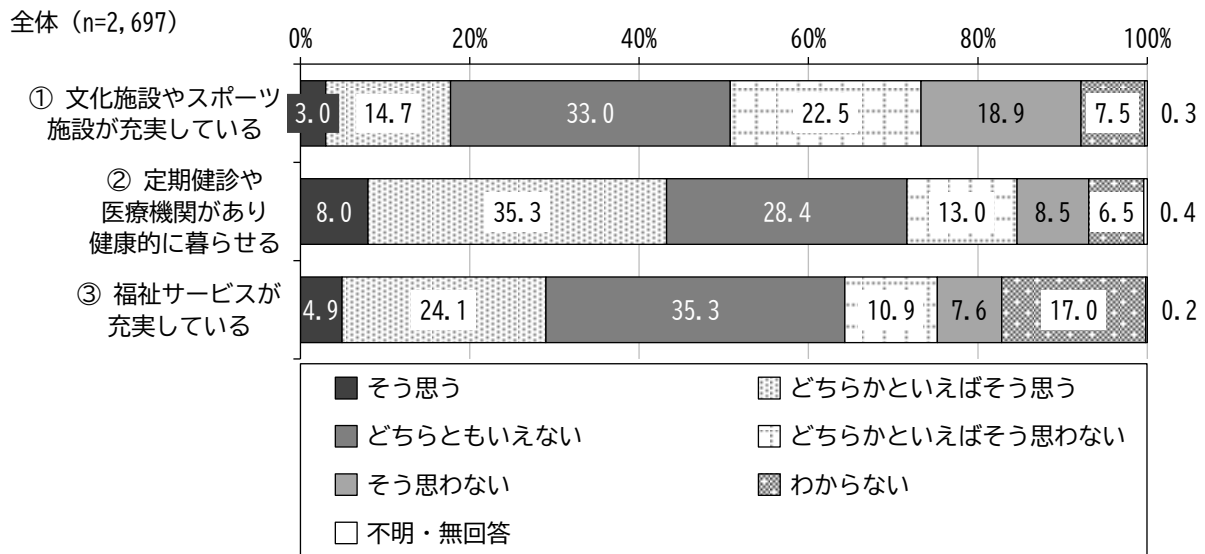
快適な暮らしに特に必要だと思う都市機能についてみると、「病院や診療所など充実した医療機関」が68.3%と最も高く、次いで「移動に便利なバスや鉄道、地域交通」が59.7%、「通勤や通学に安全で便利な道路インフラ」が50.7%となっています。



5 住民サービスについて

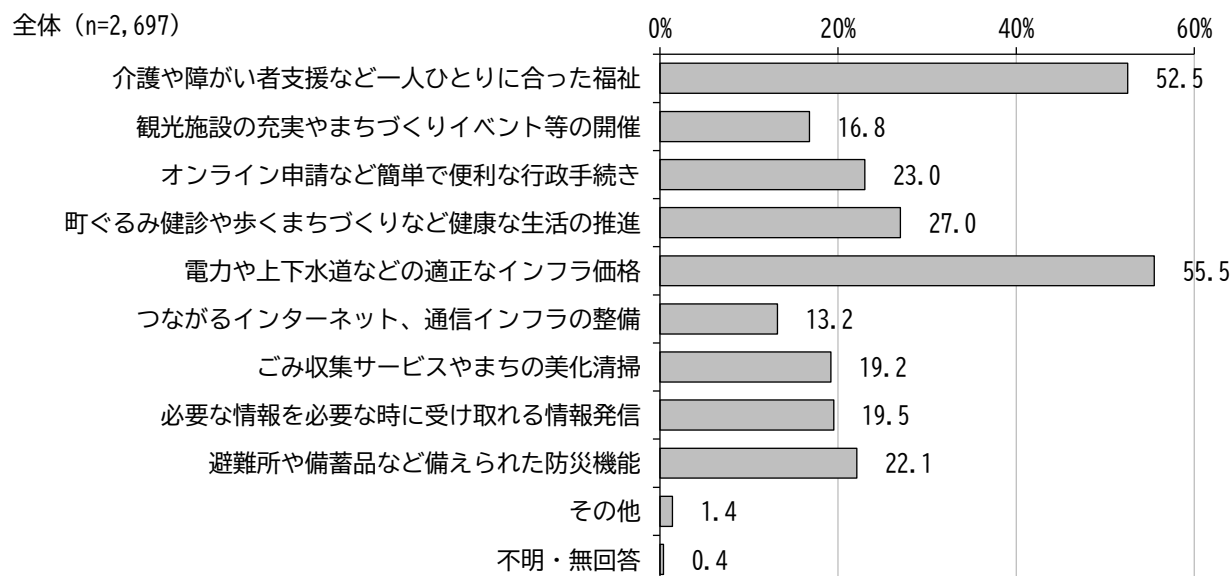
Q18. 加西市で「利用できる施設やサービス」について、あなたの考えを教えてください。
(それぞれひとつだけ選択)

加西市で「利用できる施設やサービス」についてみると、[②定期健診や医療機関があり健康的に暮らせる][③福祉サービスが充実している]では『思う』(「思う」と「どちらかといえば思う」の合計)、[①文化施設やスポーツ施設が充実している]では『思わない』(「どちらかといえば思わない」と「そう思わない」の合計)が高くなっています。



Q19. 快適な暮らしに、特に必要だと思う行政サービスを教えてください。（3つまで選択）

快適な暮らしに特に必要だと思う行政サービスについてみると、「電力や上下水道などの適正なインフラ価格」が 55.5%と最も高く、次いで「介護や障がい者支援など一人ひとりに合った福祉」が 52.5%、「町ぐるみ健診や歩くまちづくりなど健康な生活の推進」が 27.0%となっています。

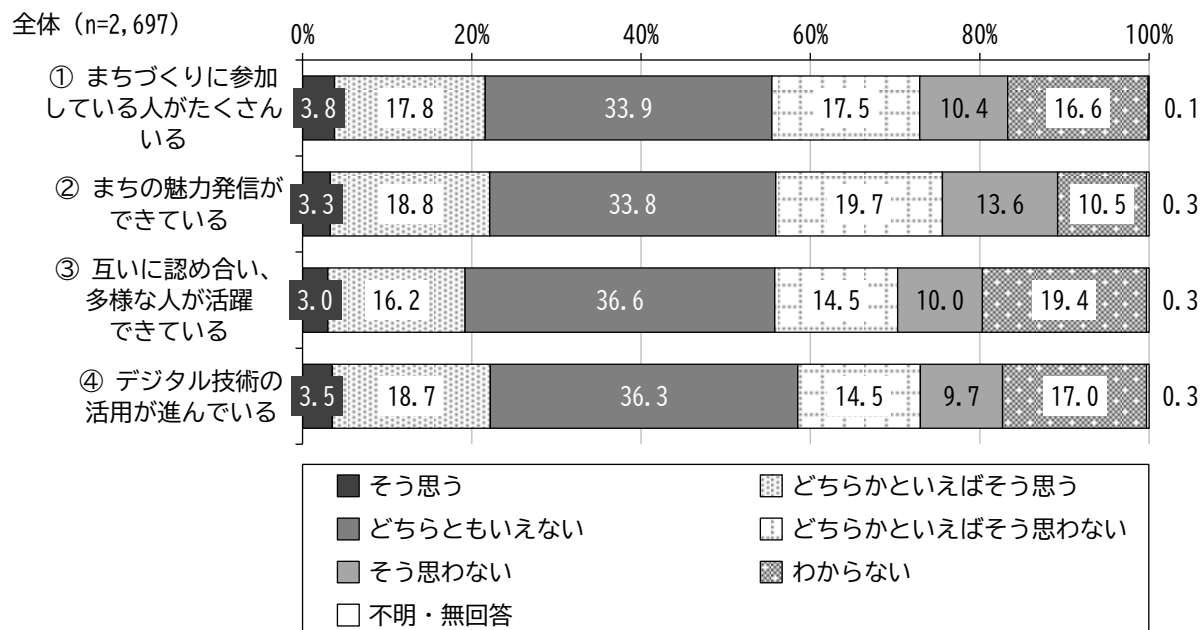


6 社会のようすについて

Q20. 加西市の「社会のようす」について、あなたの考えを教えてください。

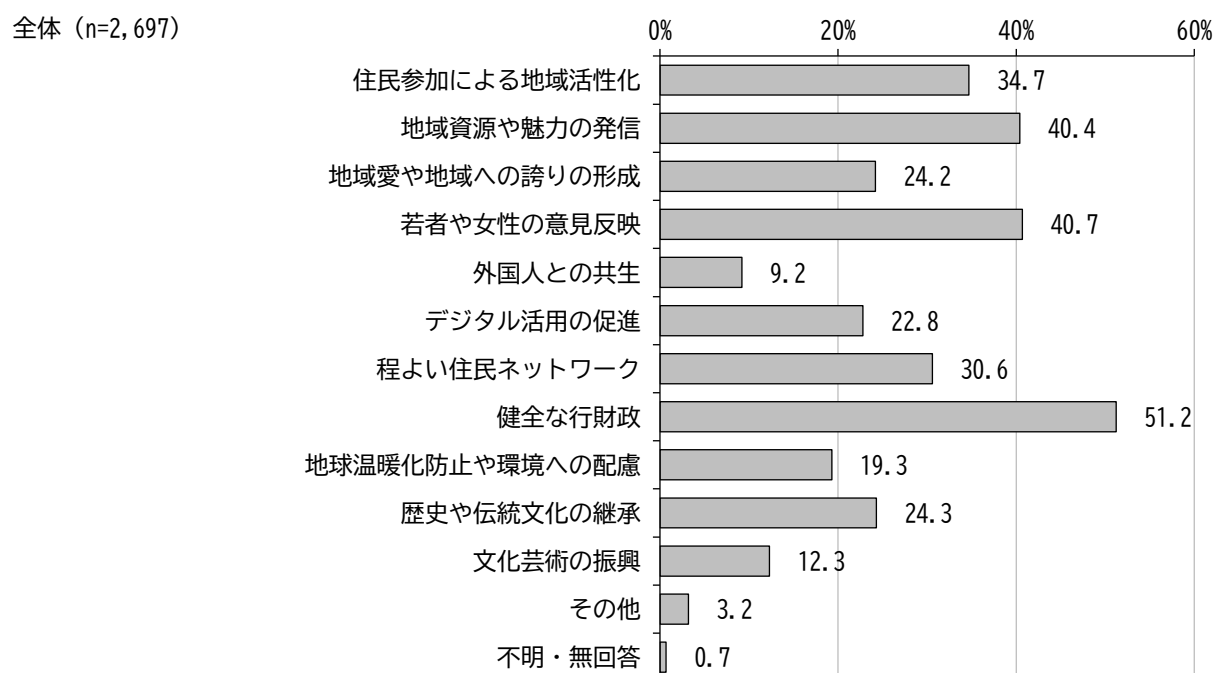
(それぞれひとつだけ選択)

加西市の「社会のようす」についてみると、すべての項目で『思わない』(「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計)が『思う』(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)より高くなっています。



Q21. 加西市をもっと魅力的なまちにするために、特に必要だと思うことを教えてください。
(5つまで選択)

加西市をもっと魅力的なまちにするために特に必要だと思うことについてみると、「健全な行財政」が51.2%と最も高く、次いで「若者や女性の意見反映」が40.7%、「地域資源や魅力の発信」が40.4%となっています。

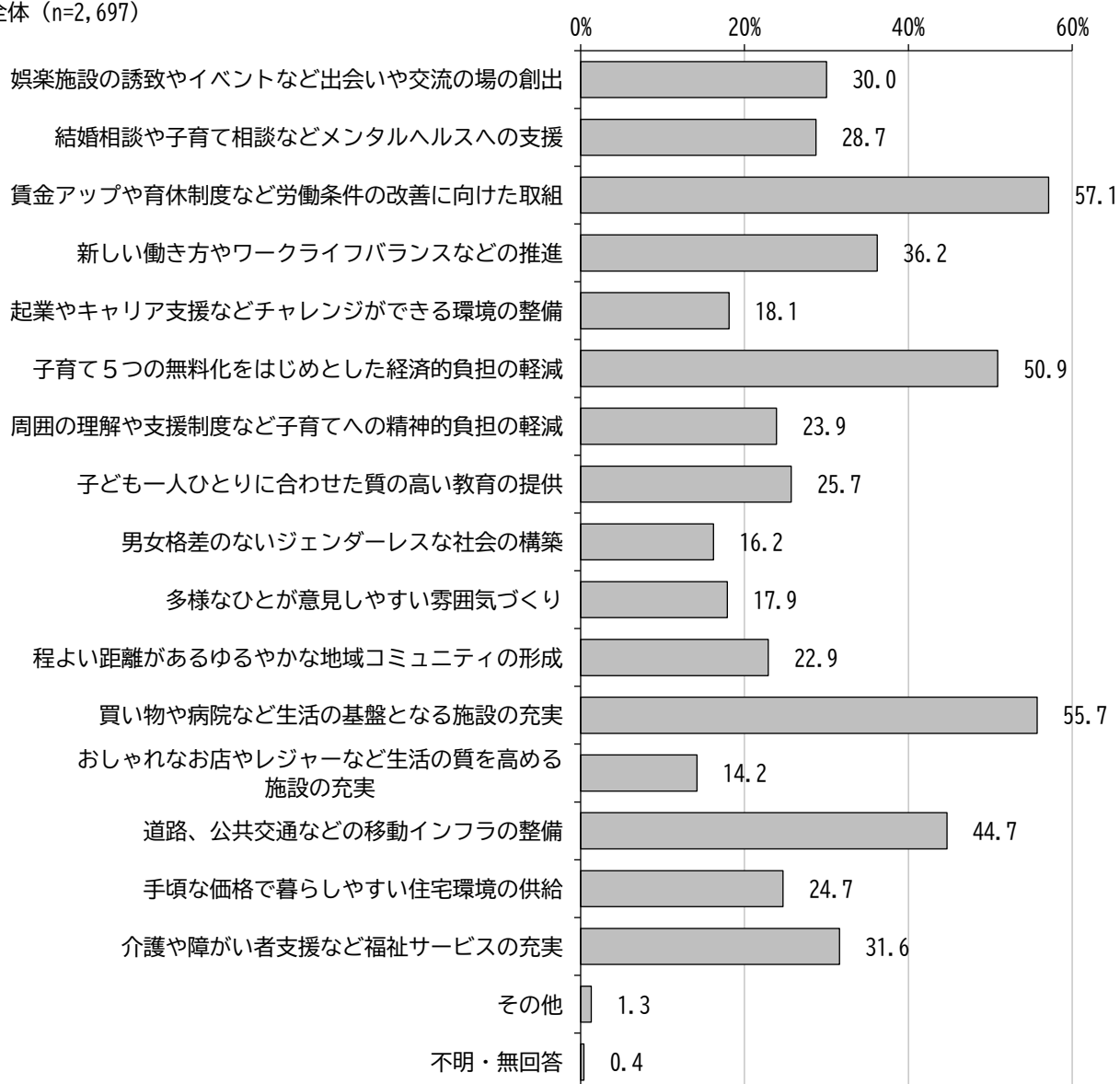


7 若者女性について

Q22. 若者や女性が安心して暮らせるまちにするために、行政はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(あてはまるすべてを選択)

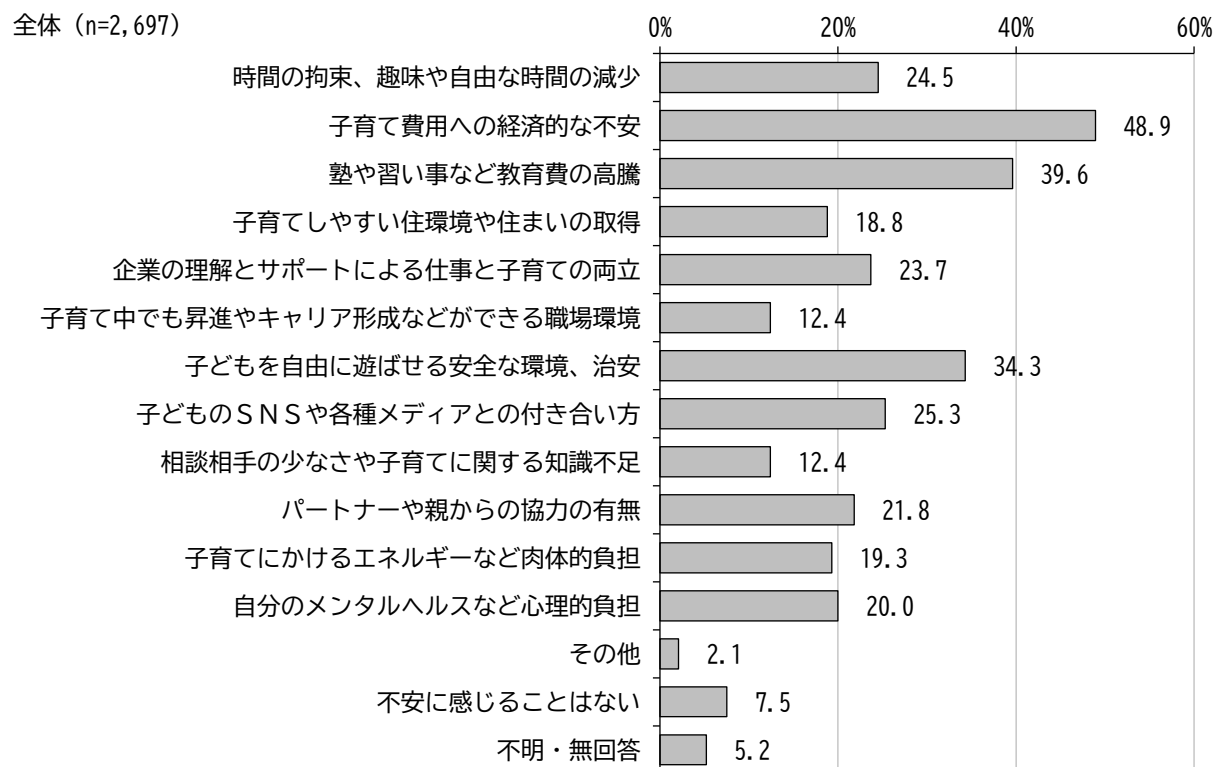
若者や女性が安心して暮らせるまちにするために行政が力を入れるべきことについてみると、「賃金アップや育休制度など労働条件の改善に向けた取組」が57.1%と最も高く、次いで「買い物や病院など生活の基盤となる施設の充実」が55.7%、「子育て5つの無料化をはじめとした経済的負担の軽減」が50.9%となっています。

全体 (n=2,697)



Q23. 子育てに関して不安を感じる（感じていた）ことはありますか。（あてはまるすべてを選択）

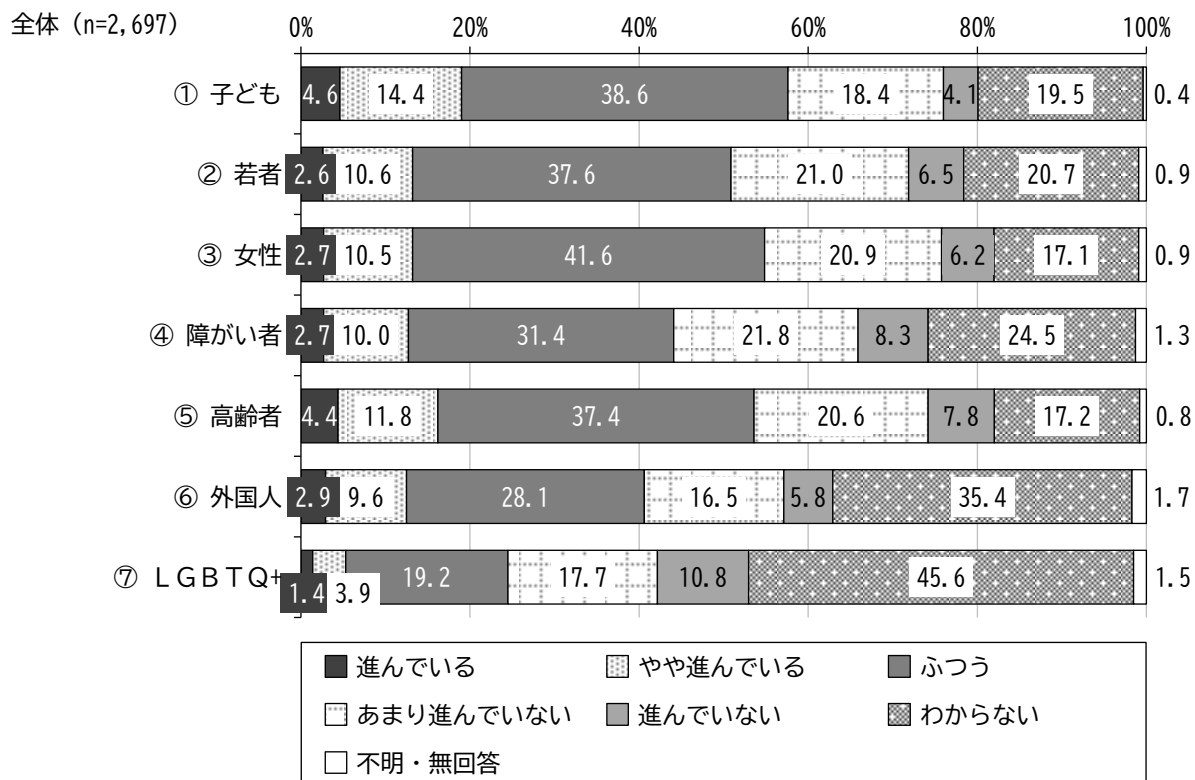
子育てに関して不安を感じる（感じていた）ことについてみると、「子育て費用への経済的な不安」が48.9%と最も高く、次いで「塾や習い事など教育費の高騰」が39.6%、「子どもを自由に遊ばせる安全な環境、治安」が34.3%となっています。



8 多様性について

Q24. 以下の多様な人への理解や活躍推進について、あなたの周りの環境はどのくらい進んでいると思いますか。(それぞれひとつだけ選択)

多様な人への理解や活躍推進が周りの環境でどのくらい進んでいると思うかについてみると、すべての項目で『進んでいない』（「あまり進んでいない」と「進んでいない」の合計）が『進んでいる』（「進んでいる」と「やや進んでいる」の合計）より高くなっています。

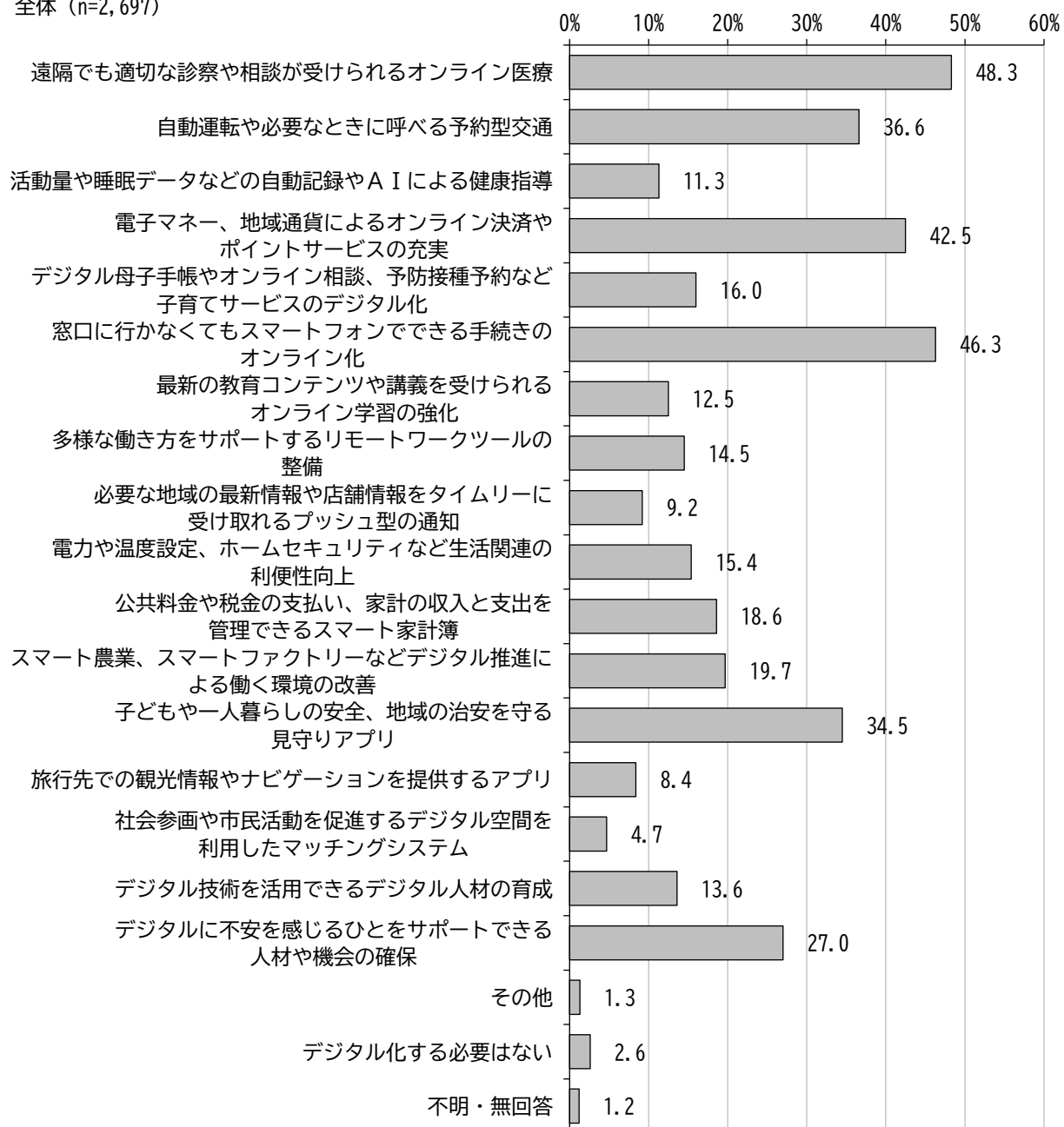


9 デジタルについて

Q25. デジタル技術を使ったサービスのうち、さらに便利になってほしいと思うものを教えてください。（あてはまるすべてを選択）

デジタル技術を使ったサービスのうちさらに便利になってほしいと思うものについてみると、「遠隔でも適切な診察や相談が受けられるオンライン医療」が48.3%と最も高く、次いで「窓口に行かなくてもスマートフォンでできる手続きのオンライン化」が46.3%、「電子マネー、地域通貨によるオンライン決済やポイントサービスの充実」が42.5%となっています。

全体（n=2,697）

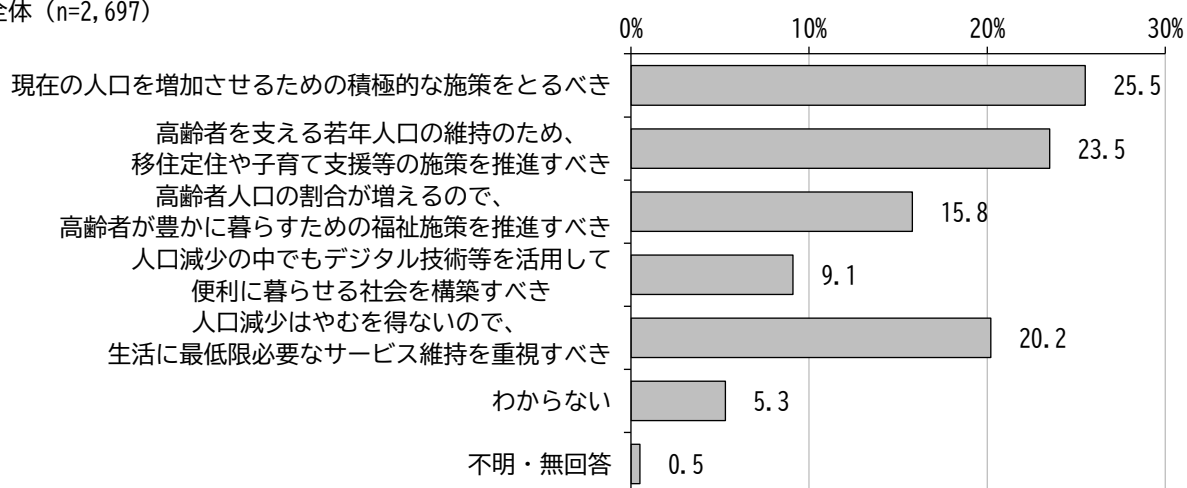


10 加西市の将来について

Q26. これからの加西市の人口政策やまちづくりについて、あなたの考えに最も近いものはどれですか。（ひとつだけ選択）

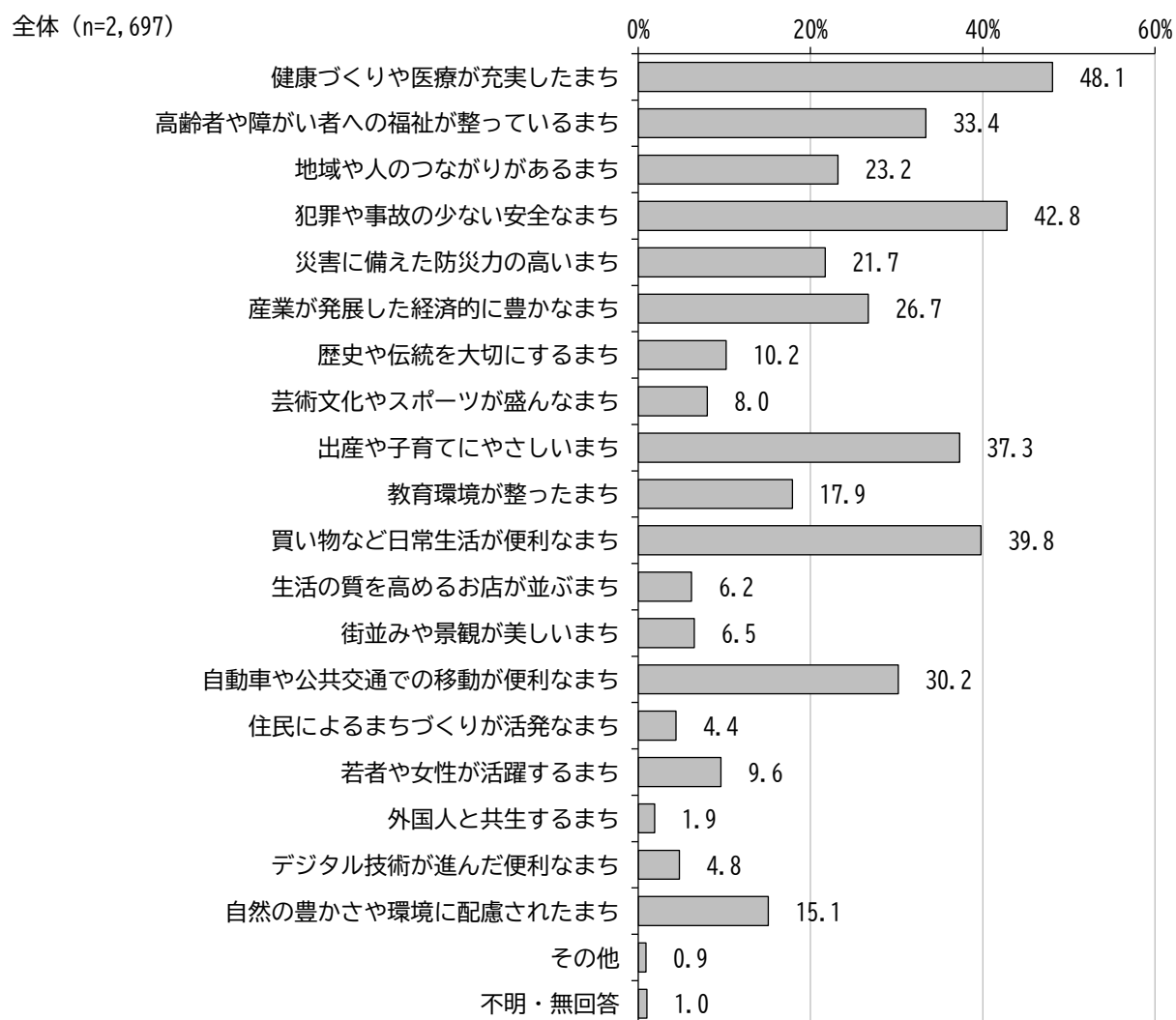
これからの加西市の人口政策やまちづくりについてみると、「現在の人口を増加させるための積極的な施策をとるべき」が25.5%と最も高く、次いで「高齢者を支える若年人口の維持のため、移住定住や子育て支援等の施策を推進すべき」が23.5%、「人口減少はやむを得ないので、生活に最低限必要なサービス維持を重視すべき」が20.2%となっています。

全体（n=2,697）



Q27. あなたは、これからの加西市がどのような「まち」であってほしいと思いますか。
(5つまで選択)

これからの加西市がどのような「まち」であってほしいと思うかについてみると、「健康づくりや医療が充実したまち」が48.1%と最も高く、次いで「犯罪や事故の少ない安全なまち」が42.8%、「買い物など日常生活が便利なまち」が39.8%となっています。



加西市
総合計画策定に関するアンケート調査
結果報告書

発行：加西市政策課
TEL：0790-42-8700
FAX：0790-43-1800

発行年月：令和7年9月

加西市
後期基本計画まちづくりに関するアンケート結果
(選択設問_フリー記述)

加西市まちづくりに関するアンケート選択設問（その他）自由記述一覧

Q11. 子育てしやすい環境に、特に必要だと思うことを教えてください。

（子育て支援）

- ✓ シングルでも子育てしやすい環境
- ✓ 子育てから就学、就職といった場所が一貫して整った環境であること。移住する事なく、子が親になるまで一貫した環境が整っていること。
- ✓ 子育てをしている方同士の交流の場
- ✓ 保育園など乳幼児への支援は充実しているが、小学校以降へのサポートが不十分。0才から仕事ができるのはありがたいが、保育園に入れられても、小学校低学年は学童へ通わなくてはならず、金銭的な負担が大きい。これでは、若い世代の移住定着は難しいと思う。
- ✓ 産後ケアの回数をもっと増やして欲しい
- ✓ 子育てしやすいというのは親が楽をすることではないと思う。子どもが小さいうちにしっかりと関わり育てるための援助を考えるべきと思う。

（教育）

- ✓ 選べる高校が少ない。勉強する場所がない
- ✓ 学校の選択肢やアクセス方法があること
- ✓ 高校の通学のしやすさ
- ✓ 学校、大学が近くにあること
- ✓ 学校の維持
- ✓ 学校の人数が少ないからダメ
- ✓ 幼稚園や学校の質の充実
- ✓ 教師の質の向上
- ✓ 子育て、教育に従事する機関が必要以上に親の目を気にしすぎない。親も然り。
- ✓ 親の思いなどを聞いてもらえる教育委員会の環境をつくる
- ✓ 評判のよい教育機関
- ✓ 得意分野を持つボランティアが、塾、習い事、スポーツを教えられ、親世代の教育費用負担を減らす。併せて子供達が幅広い習い事を平等に受けられる機会を増やす。加西市らしい特色にしてほしい。
- ✓ 猛暑時など、必要に応じたスクールバスの整備
- ✓ 教育。学力向上に向けた内容のもの
- ✓ 大手学習塾、信頼できる塾があること。
- ✓ 校区内に学習塾がもっとあったらいいなと思います。

（文化スポーツ）

- ✓ 加西市の文化に触れやすいこと

（福祉）

- ✓ 発達障害児への支援の充実
- ✓ 障がい者の預り施設

（医療）

- ✓ 産むところ無し
- ✓ まず産婦人科が無いので、加西市で産んで育てる（その後のかかりつけ医も市外になってしまいがちであるため）具体的に加西で出産子育てをイメージできない。

（住環境）

- ✓ 近くに公園はあるが、ボール遊びができないというのは、未就学児や小さい子供にとっては良いが、小学生以上の子供にとってはストレスが溜まる環境であると思う。
- ✓ 大型公園
- ✓ 家の近くで子供が遊べる環境と子供の友達の存在

（交通）

- ✓ 加西市外の JR や山陽電気鉄道主要駅に繋がる公共交通機関の増便。
- ✓ 公共交通機関の充実と交通費の軽減
- ✓ 交通不便福崎三木市の様に阪神高速に繋いで欲しい。それが加西市の発展に繋がり子供たちも定住に繋がり、大学も行きやすい。高速に、繋いで欲しい
- ✓ 通学に便利な交通機関
- ✓ 交通機関の充実。1 時間に 1 本などのダイヤではなく本数の充実を！
- ✓ 鉄道の利便性
- ✓ 塾やお稽古に通うことが 子どもだけで安心して出来れば。公共交通機関の充実を

（地域コミュニティ）

- ✓ 過度に干渉してこない多様性に理解のある地域社会
- ✓ ご近所さんとの良い関係
- ✓ 子どもに優しい環境
- ✓ 大人のマインドを変えていく必要があるが、加西の方は固定概念が強い部分が多く多様性を受け入れにくいマインドの方が多いように感じる

（その他）

- ✓ 過保護すぎる
- ✓ 若い世代の方たちをみていると困っておられとは思えない。
- ✓ 子育てに関しての為政者の理解

Q12. 子どもの未来を育む教育に、特に必要だと思うことを教えてください。

(BASE_学力)

- ✓ 北条高校の進学先が偏差値の高い大学である。
- ✓ 落ちこぼれを無くす
- ✓ とにかく偏差値を上げること
- ✓ 体力向上 読書環境

(STEAM_非認知能力)

- ✓ 禁止ではなく自由と自己責任感を育む教育
- ✓ 協調性
- ✓ 自分で考える力を養う教育。出る杭を打たない教育（大人も然り）
- ✓ 科学に特化した教育や体験施設
- ✓ 大勢多人数と、関わる教育環境
- ✓ 得意分野の特化が必要
- ✓ 多様性を認める教育
- ✓ 自己判断、コミュニケーション能力の向上に関わる教育

(GLOBAL_国際教育)

- ✓ 外国人と市民の交流

(キャリア教育)

- ✓ 行政手続き等大人になって経験すること全般（税金の仕組み、国民健康保険や国民年金、社会常識等）
- ✓ 税や社会保障、投資と投機の違いなどお金に関する教育。
- ✓ 経済的視点から社会を見る目
- ✓ 法律や選挙の仕組みについての教育

(道徳教育)

- ✓ 外国人在住者が増えているので、人権教育も必要ですが、道徳や社会性も重要と思います。最近の小中学生のコンビニやフードコートの利用をみていると、マナーが非常に悪く感じます。

(文化・スポーツ)

- ✓ スポーツ教室の充実
- ✓ スポーツを真剣に捉える環境
- ✓ スポーツだけではなく、文化的なこと（美術や音楽など）にもっと力を入れてほしい。

（教育環境）

- ✓ AI時代に教師が教育の何を担うのかの根本的な変革
- ✓ 発達段階に応じてどんな学びが必要なのかを見極める事が必要。
- ✓ 教職員の生徒、家庭に対する権限の強化
- ✓ 親と先生が子供を正しく叱ることの理解と実施できる環境
- ✓ 少人数学級 約 20 人
- ✓ 行事の増加 例えば万博
- ✓ 自主勉強ができる施設など、子供が自主的に学習しやすい環境を整えて欲しい。図書館やアステシア内のホールでは不十分であると思う。たくさんの子供が利用できる自習室を作って欲しい。
- ✓ お金がかからないこと。所得制限なく教育に惜しみない環境が整っている。
- ✓ 義務教育以降の学校の選択肢が多い必要がある

（教育環境整備）

- ✓ 計画性のない小中学校統合の廃止

（親子関係）

- ✓ 親子で過ごす時間が多くとれること
- ✓ 子をもつ父母祖父母への子育て講座の必須受講制度
- ✓ 保護者の子育てに対する意識
- ✓ 子供よりモラルある保護者を育むこと
- ✓ 子育て中の親の教育。モンスターペアレントが目立つ。

（いじめ・不登校対策）

- ✓ いじめの加害者側が停学や退学、謹慎などで罰せられる仕組みづくり。
- ✓ オルタナティブスクールの導入
- ✓ フリースクール等、学校以外の場所

（その他）

- ✓ 基本的な日常生活
- ✓ 阪神高速に、繋がると教育は楽になる加西市では競争社会に負ける子供が育つ

Q14. 加西市の産業の発展に、特に必要だと思うことを教えてください。

(農業)

- ✓ 農業就業者への所得保障
- ✓ IT と農業を駆使して発展させ、特産物を増やす
- ✓ 農業振興地の農地転換、太陽光など

(企業誘致)

- ✓ 上場企業の誘致
- ✓ 研究開発拠点の誘致
- ✓ 役所の柔軟性、エンターテインメントの誘致

(雇用環境)

- ✓ 加西市内在住の人の就職先をつくる
- ✓ 障害者雇用の充実
- ✓ 中小企業への援助と若者の社会保険料等税金に対する市の軽減処置
- ✓ 外国人と日本での独特の価値観やゴミ出しルールなどの清潔感のレベルを分かっていたくための
研修会日本人が相手を理解するために 語学 クラス 外国の方も日本人のことを分かっていたく
ための 研修会 など 清潔感のレベルを教育するための
- ✓ 浜松市のように外国人労働者を受け入れ町全体で育てる環境づくり(教育 交流 ポイント制)

(観光)

- ✓ せっかくの資源があるにも関わらず、上手く活用できていない。他市からお金を加西で落としてもら
う為に、考えるべき。例えば毎年開催のトライアスロンの家族は、お土産や待ち時間が無駄。何も買
うものがないと、姫路で買い物をして帰るそうです。
- ✓ 道の駅をつくる

(住環境、生活関連施設)

- ✓ 住居地（住んで生活できる環境）
- ✓ そもそも、北条地区以外に働く場所や家を建てられる、建てたいと思う環境を作ってこなかったこと
が間違っている。北条地区以外に選択肢がなければいけない。
- ✓ 規制がかかっている土地の解除
- ✓ まずは加西市に定住する人間を増やすべきでは。
- ✓ コストコの誘致
- ✓ 雇用された人が住みやすい住環境（娯楽施設や衣食住を満たす施設があること）
- ✓ 医療

(交通・道路インフラ)

- ✓ 交通、輸送機関が便利なこと
- ✓ コミュニティバスなどの充実
- ✓ 公共交通機関の充実
- ✓ 交通面の充実（電車）
- ✓ 一貫する道路整備、ストンと行ける道じゃなく曲がりっぱなし、他市の人からは迷路と言われる
- ✓ 鉄道施設
- ✓ 交通の便を良くすればいいと思う。バス、レールバスの本数を多く。JR が通ってくれたら尚いい。
- ✓ 都会への交通の便
- ✓ 他市からもアクセスしやすい道路整備

(その他)

- ✓ インターネット環境の整備の拡充、産婦人科や小児科など医療の充実、
- ✓ 中学高校での地元企業やニッチな産業の周知徹底や就業体験、保育所幼稚園小学校での農業体験活動、小中高の経済や金融教育、塾が無くても中学受験・大学受験できるような小中高の一貫した教育、ターゲットを分けた刺さる sns での市の特色 PR

Q15. 働く場所を決める際、特に重視することを教えてください。

(福利厚生)

- ✓ 体調に合わせて働けて休暇が取りやすいところ
- ✓ 急用でも他のスタッフに迷惑がかからないような休み易い職場希望
- ✓ 加西市の節句祭りに融通をきかせてくれる
- ✓ 契約している時間を超過しないこと。

(やりがい)

- ✓ 地域や社会に対して付加価値創出に役立っている実感
- ✓ 使命感を持てる環境か否か
- ✓ 自分のやりたい事が出来るのか

(その他)

- ✓ 正職員がしっかりとした職業人としてのマナーモラルなど意識を持ちながら
- ✓ 自分にあっていること

Q17. 快適な暮らしに、特に必要だと思う都市機能を教えてください。

(住環境)

- ✓ 若い世帯が住みたい要素がある。
- ✓ 魅力的な街並み、公道などの整備、中心地の北条でさえ、街並みがオシャレではない。小野市は公共施設も道路整備も中心地はおしゃれにまとめられていると思う。暑さ寒さに関係なく遊べる場所がある
- ✓ ペットも共存できる環境
- ✓ 加西市は村や町の集合体で完結するような機能を
- ✓ 地域ごとの特性を持たせること、こんな田舎で中央(北条)集中していかうとしているのがそもそも間違っている。

(生活関連施設)

- ✓ 加西市外からの人口流入だけでなく、イオンの買い物客に頼った集客ではない、魅力を作ってもらいたい。あと、単純にドライブスルーが利用できるスターバックスを富田、善防のように近隣自治体が車で来て利用しやすい土地に誘致すれば良い。
- ✓ カラオケ
- ✓ デリバリーをする飲食店の増加
- ✓ 映画館、ボウリングなどができる施設
- ✓ 近隣の市に行かないとないものが、多い。ショッピングセンターや娯楽施設、交通の便も電車を利用したいときはかなり不便
- ✓ ユニクロ、無印、西松屋、バースデーなどのお店が出来て欲しい！
- ✓ 地域に根ざしたスーパーマーケット
- ✓ 早朝からでも買い物ができるお店があると便利。コープ後のお店が早く決まってほしい
- ✓ 小さくてもいいので近くに店があればいい。
- ✓ 大型までいかないスーパーの充実。北条ばかりにしかないため。
- ✓ 各種店舗(スーパーやホームセンター等、加西市には揃っていると思う)
- ✓ 地元産食材を売る大型施設
- ✓ 大型でなくてもいいので、スーパーやコンビニ等の日常的な買い物のできるお店を、地域に偏らずに誘致して欲しい。下里校区には買い物ができるお店がありません。使える公共交通機関もありません。北条だけでなく、他の地域の市民の生活にも目を向けて欲しい。買い物難民になるのは目前です。切に願います。
- ✓ 北条周辺しか便利でないと思うので集中しないように周辺にもお店を作る方がいいと思う。
- ✓ 温泉施設
- ✓ 信頼できる医師のいる病院

(交通)

- ✓ 加古川駅方面へバスが出て欲しい

- ✓ 慢性的な渋滞の解除
- ✓ 運転できなくなった後の日常生活の足を作って欲しい。道路を広くして欲しい。
- ✓ 交通の便利さで解消できる
- ✓ ボランティアによる移動手段のサポートの
- ✓ 高速バス(北条)に駐車場が欲しい
- ✓ 家計の自家用車支出割合が高すぎる

(インフラ)

- ✓ 色んなお金を出した製作より、草刈り等を市でやってほしい
- ✓ 福崎のように縁石の高さを上げて、植樹は無くせば枯れ葉もなく、交通の邪魔にもならず、草刈りの人件費も浮く。他市も管理が大変だから植樹はしなくなってきている。
- ✓ 道路が狭い。歩道がない。
- ✓ 幅の広い用水路に蓋的なものをしていただけると安心して運転できる。カーブミラーも増設して欲しい

(地域コミュニティ)

- ✓ 意図しない出会い（人や知識や技術含め）や交流が仕掛けられた場
- ✓ 人間関係が充実している場所
- ✓ インフラではない人間関係などのソフト面の充実が人の幸福度に関わる
- ✓ 閉鎖的な地域ごとコミュニティの活動をなくす。山などの環境整備は行政にまかせる。それか外部委託する。今の若い人は、そこまでコミュニティに参加しないと思う。むしろ、それが嫌になって転出している方もおられると思います。
- ✓ PTA や昔からあるだけの意味のない役を廃止して家族の時間を奪わない。

(デジタル化)

- ✓ キャッシュレス化など IOT

(その他)

- ✓ 各体育館に災害や夏の暑い時に使用できるクーラーの設置。古い体育館の整備
- ✓ 図書館の貸し出しサービスに図書の宅配を加えていただきたい 返却も自宅にしながら、できたら嬉しい。自転車 なので 雨の日などに借りに行くことが難しいため。

Q19. 快適な暮らしに、特に必要だと思う行政サービスを教えてください。

(子育て支援)

- ✓ 不妊治療の補助

(社会教育)

- ✓ 生涯学習の講座開設
- ✓ スポーツや健康作りの環境

(医療・福祉)

- ✓ 公立病院を中心とした医療の充実
- ✓ 妊娠から出産、産後まで一貫して管理できる市立加西病院の産婦人科開設

(生活インフラ)

- ✓ 都市ガス
- ✓ 車に乗れないため、電動アシスト自転車で走っていますが、歩道がガタガタでとても走りにくいです。特に、清水団地の前あたりのミキ加古川線側の歩道が非常に細く、火曜日さんのあたりでは、境界線の目印などもあり、金属の蓋もあったりして非常に通りにくいです。改善よろしくお願いします。
- ✓ インターネット通信がNTTも範囲に入っていない。都市ガスが届いてない。田舎の風景は残して欲しいが、メインとなる場所の開発には力を入れて欲しい。
- ✓ 移動が徒歩であるときに、出来上がったショートカットする分岐が重なる道路インフラは快適な暮らしと反対方向のベクトルを持っている。
- ✓ 原発に頼らない電力やPFASなどの汚染の心配がない水道水など安心して利用できるインフラ
- ✓ 水道管の整備

(交通)

- ✓ 便利な公共交通機関無料
- ✓ 今後1人暮らしになったときに不安。買い物に自力で行けない。使いやすい交通の足が欲しい。せめて県道は中央線があるくらいの広さにして欲しい。
- ✓ 循環バスの乗車率を分析し、高齢者や障害者が安心安価で利用できるサービスを実施して欲しい。
例) 巡回乗合自動車
- ✓ 交通機関がないため、運転できない人へのサービス
- ✓ 車が無くても過ごせる交通インフラ

(防犯・防災)

- ✓ 災害時にペットも避難できる環境を整えてほしい

(地域コミュニティ)

- ✓ PTA である仕事やボランティアで行っている役を行政が行う

(広報・広聴)

- ✓ 現状の行政サービス内容をもっと PR して下さい

(行財政運営)

- ✓ 加西市に住むことで得られる特典。毎年お米が貰える、若者への税金負担補助等
- ✓ 無駄な行政サービスを控えて、税金を下げてくださいのほうが快適な暮らしにつながると思う。
- ✓ 補助金のばら撒きを止めること

(デジタル化)

- ✓ ラインの活用すごくいい

(その他)

- ✓ 市民に寄り添った役場の職員
- ✓ 全世代が一堂に集う 小さなイベントの開催 推進

Q21. 加西市をもっと魅力的なまちにするために、特に必要だと思うことを教えてください。

(子育て支援)

- ✓ 過度なくらいの子育て支援（注目度を高めるため）
- ✓ 子育てのサポート充実
- ✓ 結婚して加西市内に住む人を増やす事。一部の地域にしか人が増えていないのでは。
- ✓ こども園や学校についての情報発信
- ✓ 若者を増やす
- ✓ 年寄りより若者支援
- ✓ Uターン就職が増えることが地域の活性化と高齢者の福祉にもつながる。

(教育)

- ✓ 教育環境や質の充実、
- ✓ 大学の誘致

(文化スポーツ)

- ✓ 公民館のトレーニングジム
- ✓ 総合体育館などの体育施設の整備
- ✓ アスリートを育てる
- ✓ スポーツ施設(アクションスポーツ)スケートパークなど、外からも人が集まる施設がない。野球場くらい？夏には子供達を連れていけるようなプールもない。いつも市外に出かけて遊びに行く。だから食事なども外で食べる事が多いのでお金は市外に落とすことになる
- ✓ 一部の人にだけ、関心がある狂言に多額の税金を使うのはやめてほしい。市内の子供の参加のみならず、まだしも市外の子供に加西の税金を使うのは納得いかない。
- ✓ 加西市こども狂言塾が民間団体になってしまったが、ねひめ物語を加西市民に知ってもらうために、もう一度狂言塾を立ち上げるべきだと思います。

(福祉)

- ✓ 高齢者も働ける場をもっと作る

(医療)

- ✓ 医療に於いて加西病院が機能していない加西病院はこの科が得意で近隣からも来られると言うそれが無い事が残念
- ✓ 子育て支援に恵まれている加西市に産婦人科を
- ✓ 産婦人科が無いのが子育てしやすい町と言いきくと思います。
- ✓ 安心して出産育児ができるように、加西病院の充実が何より重要

(農業)

- ✓ 獣害対策。ジビエの促進

(産業振興)

- ✓ 若い世代の雇用の創出
- ✓ 会社誘致
- ✓ 市外民ですが、ねっぴーペイは利用させてもらっています。還元キャンペーンをもっと増やしてほしいです。

(観光)

- ✓ 善防山の整備、啓発。市外からたくさん登山に来られているので。
- ✓ 加西市の手土産になるようなものが欲しい。これ！っというものがない…
- ✓ 名産品を使った日持ちするお土産の開発
- ✓ 加西市の魅力一つ一つを繋げルートのなものにして、それをもっと発信する必要があると思う
- ✓ 地域資源の発掘。埋もれている宝物はもっとあると思うが、他者の目でないと見つけれられない事も多いのでは？

(住環境)

- ✓ 今は 市営住宅でお世話になっているので快適ですが全体的に加西市の家賃は非常に高いです。東京並だと思います
- ✓ 住宅地の開発
- ✓ 市街化調整区域への新規住宅建設を可能にするなどの大幅緩和策と空き家問題解決
- ✓ 北条地区以外にも賃貸やお店を増やすなど他所の人からも入って来やすい環境
- ✓ 過去のを大切にするのも良いが、若者が定住するには、医療や娯楽施設等がもっと必要であると考えます
- ✓ 加西市で住宅を建てて定住できるような経済的支援
- ✓ ペットと一緒に生活できる環境
- ✓ 農地の縛りを無くす。

(生活関連施設)

- ✓ 飲食店の充実化（行こうというお店がなかなか無い、新しくできても続いていかないお店が多い）
- ✓ 人の定着に係る生活のしやすさ、それに直結するスーパー等商業施設の店舗数の充実と、公共交通機関の強化（今のままでは生活が不便です）
- ✓ インフラ整備、特に道路、北条以外にスーパーや店舗誘致

(交通)

- ✓ JR か山電開通させる。
- ✓ 免許証を返納した後の交通不安

- ✓ 他市町村への交通機関や道路整備
- ✓ 交通インフラの整備(デマンド交通など)

(環境)

- ✓ いこいこいの村手前の池に、ずいぶん前から並んでいるソーラーパネルですが、上手く活用できているのでしょうか?せっかく桜の季節になってもあのパネルが景観をかなり損ねています。今までの取り組みで不必要なものを洗い出して精査する事も必要ではないでしょうか。
- ✓ 自然を大切にする気持ち
- ✓ 環境美化 主要道路沿道草刈り美化
- ✓ 休耕田に雑草が茂っていて管理されていない、景観にもよくない。また雑草の背が高く見通しが悪く交差点が危険。
- ✓ 道路整備が不十分。風光明媚な田園風景が保守できていない。

(広報・公聴)

- ✓ 市政運営に対する意見を重視。(市役所敷地に建設中の育児施設、急いで立てる必要があったか疑問)

(地域コミュニティ)

- ✓ 田舎特有の排他的な住民が多いのでどうにかするべき
- ✓ 閉鎖的な地域コミュニティをなくし、外国籍の方や市外から転入した人の意見も受け入れられるようなコミュニティづくり。しっかり行政がはいる必要がある。
- ✓ 北条地区以外の住宅地を多数開発し、田舎特有のネットワークではなくインフラによるネットワークで匿名性を高めれば若い人に魅力的な土地になります。
- ✓ 市民がとても閉鎖的なので、もう少し移住者の意見や都会の人が魅力に思える街づくりをして欲しい
- ✓ 消防団や地域の草刈り、野焼き、あぜ焼きの撤廃
- ✓ PTA や役が無く、町から帰って来る人の抵抗が無い町
- ✓ マインドの変化
- ✓ 地域消防団活動の縮小、本部におごりがある

(行財政運営)

- ✓ 高齢者やおひとり様な中高年独身者にもっと税金を還元するべき。支払うばかりで納税還元がない
- ✓ 市民に還元される制度

(その他)

- ✓ 理性、知性の育成とハラスメントの撲滅
- ✓ 市長の交代
- ✓ 地域発信にしてもバラバラにやるし、中途半端なので10年計画くらいで一つのことを貫くべき

Q22. 若者や女性が安心して暮らせるまちにするために、行政はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。

思いますか。

(子育て支援)

- ✓ 一人親のための支援
- ✓ 不妊治療への補助（子育ても大事だがまずは妊娠、出産するところからだと思う）

(教育)

- ✓ 通学のしやすい環境
- ✓ 教職者の待遇見直し。保護者に好き勝手言わせない環境
- ✓ 大学の誘致

(福祉)

- ✓ 障害のある児童への福祉サービス。
- ✓ 中高年者、若年者の介護や障害者支援などの補助金やサービスの実施

(医療)

- ✓ 産科小児科の充実
- ✓ 医療施設の発展
- ✓ 婦人科も整っていないので女性疾患など特有な病気になった際に市外まで行く必要がある。

(産業・雇用)

- ✓ 正社員雇用が当たり前の社会
- ✓ 全国に先駆けて副業制度を推進
- ✓ 働きたいと思える魅力的な企業を増やす
- ✓ 雇用の創出

(都市計画)

- ✓ 住環境だけでなく、物流や道路をなんとかしてほしい。加西インターのみでなく、福崎町、加古川市、姫路市へのアクセスがしやすい、大きな道を作り、その道路沿いに様々な企業や商業施設を誘致し、近隣の人から「加西市は良いところだ」と認識してもらうことが安心や安全にはそもそも肝心です。北条地区や新しく統合した中学校、病院を作ると決めた土地にそのような魅力は皆無ですよ。

(防災・防犯)

- ✓ 防犯カメラの充実による安全
- ✓ 通学路の整備や、街灯の設置、必要なところは防犯カメラの設置。
- ✓ 空家対策

- ✓ 治安の良さ

(地域コミュニティ)

- ✓ 加西市民独特のマインドの変化
- ✓ 節句祭りの地域住民の半ば強制参加は止めるべき。参加しないからと言って罰金を取られるのはおかしい。やりたくない人が参加しなければならないような運営方法は伝統文化の荒廃を招くきっかけになる。
- ✓ 休日や平日の夜に役員をボランティアで招集しない。
- ✓ 消防団や地域の草刈り、野焼き、あぜ焼きの撤廃。

(多様性)

- ✓ 市議会、地区役員の女性の割合を70%にする。
- ✓ 共感し、認める風土、環境。
- ✓ 細かな事でもコミュニケーションがしやすい施設がほしいです

(その他)

- ✓ 加西市単体ではなく近隣市と連携し質を高めた施設整備、イベント開催

Q23. 子育てに関して不安を感じる（感じていた）ことはありますか。

（子育て支援）

- ✓ 子育て世帯というか、大学生をもつ家庭へのサポートもぜひお願いしたい
- ✓ 小学 4 年生以降、学童保育に預けられない不文律がある。児童館もなく、図書館もこどもだけの利用が禁じられている。特に長期休暇中など、子どもをずっと家に居させるわけにもいかずとても不安を感じている。
- ✓ シングル家庭での子育て
- ✓ 子育て支援がありすぎて、子どもが大きくなってからの必要な金額が麻痺してしまう。補助は賛成ですが、無料は後々に良い結果をもたらすとは思えない。
- ✓ 他の市に比べて何歳児検診とかの子供の検診が少ないと思います
- ✓ 習い事の送迎負担
- ✓ 子どもが病気、ケガの時に、親族以外では預かって貰えない。親の仕事が休めず、親が不安定になる。
- ✓ 出産の際助産院が市内になくて困った。三木市にあるフラットカフェのような、ゆったりごはんを食べながら子どもを見ながら、時に専門の人に相談できる環境があれば嬉しい。
- ✓ 子育てに専念できる環境
- ✓ 急な病気や入院時の預け先
- ✓ 子育てから遠のいているので分かりませんが今は子育てが充実していると思う

（子育て環境）

- ✓ 少子化による子供の環境変化の影響
- ✓ 同級生がいらないかもしれないこと

（教育）

- ✓ 時代錯誤的な学校教育
- ✓ 生徒数が多い学校と少ない学校の学習時間は同じなのに生徒数が多い学校は先生が少なく感じる、なので分からない内容でも進んでしまい塾に行かせるしかない、不良の子供がいるので授業の進みが悪い。
- ✓ 加西市の小学校、中学校の先生の異動はほとんどが加西市の中でまわるだけで、中には「このような方が先生」と思われる方がおられました。苦情を言うところもなかったので黙って過ぎましたが 教師の資質向上はとても望むところでした
- ✓ 中学校の夏休みの宿題に疑問。授業取り組むと先生だけでは難しいのか、技術の木工品を作らせる宿題を出して、一部生徒に評価させたものを成績に入れると聞いた。設計図も制作ほぼ親、社会についても生徒の投票で成績が決まるようになっている。2 学期の成績に入れるということで強制的宿題が多すぎる上に家庭に丸投げなため、上に兄弟がいる家庭から親がしないといけないとアドバイスを受け疑問。金額もかかるし親がして生徒が成績をつけてなんのための宿題か不明すぎる。これができなければ放課後残ってさせられるとのこと。2 学期からの学校生活に不安しかない。理科の自由研究、その他の教科もあり、展覧会出品を兼ねた宿題で成績をつけるのはやめてほしい。

- ✓ 教育の質
- ✓ 学校のレベルアップ
- ✓ 自宅から通える大学が無いのが、一番の経済的不安でした。
- ✓ 高校以降が通うのが遠い
- ✓ 中学卒業以後の、進路の選択肢の少なさ
- ✓ 子どもの進路の選択肢。うちの場合は学校になじめなかったため、加西を去る選択をすることになってしまった。

(福祉)

- ✓ 医療的ケア児への周囲の理解
- ✓ 障害のある子が通える施設の空きが無さすぎる。放課後デイや発達支援などを利用したくても利用できない状況がある。共働きで近くに頼れるところもないのに小 1 でデイに入れない。就労支援もなにもあったものじゃない。
- ✓ 障害や闘病しながらの子育て

(医療)

- ✓ 産科小児科をどうにかしないといざという時不安。子ども病院に子供が入院したが通院が大変だった。
- ✓ 医療を受けるために市外へ行かないといけないこと
- ✓ 出産や検診施設が無い

(生活関連施設)

- ✓ 赤ちゃんを連れて買い物に行ける場所が少なく、連れて行っても屋根がないので、車で寝てしまうとクーラーががんがんにたいて待つことになったり、雨の日に車から連れ出しにくい。

(環境)

- ✓ 町内やコンビニで、タバコの匂いが多いと感じる

(インフラ)

- ✓ 小学生以降は自転車での登校や移動が多いが、歩道、自転車道が狭く、自動車との事故が起きないかと不安。歩道を広く、車道との間にポールや反射板などの事故を防ぐ対策をしてほしい。北条近くは十分だが、少し離れた地区は、まだまだ手付かずのところが多い。

(その他)

- ✓ 集団意識、礼節の欠如

Q25. デジタル技術を使ったサービスのうち、さらに便利になってほしいと思うものを教えてください。

（期待と不安）

- ✓ 安全安心して使えるデジタル化に期待している
- ✓ デジタル化しすぎると人手の良さが消える側面もあるので、人との関わりも大事にしながらデジタル化を進めてほしい。
- ✓ デジタル化に意識しすぎ高齢者にはついていけない。アナログ、人間的な場面を残して欲しい
- ✓ デジタルを優先するのではなく、人と人の対面で温かい環境が望ましい
- ✓ ペーパー配布は有料にすることで全員参加型のデジタル化を推進
- ✓ デジタル技術を駆使しても、結局はそのデジタルシステムを管理する人間によるミスは避けられず、管理者やエンジニア本人に負担がいくことが多い。
- ✓ 子育てに関するサービスが便利になるのは良いがマイナンバーを使うのは不安がある
- ✓ 使い方の説明がわかりにくい。問い合わせしても、チャットなどになると使いにくい、わかりにくい。結局、人の対応となると平日で決められた時間のみになる。

（デバイス対策）

- ✓ 老人はそもそもデジタルという言葉にアレルギー反応を示す者も多いので、老人が自分からデジタル、スマホでやりたくなることを使ってみては？スマホ写真コンテストとか。それでようやく行政がデジタルに進むことが出来ますよ。
- ✓ デジタル化にし過ぎて年配の人が果たしてついていけるのか疑問に思う
- ✓ デジタルの使い方が、わからない人へのサポート
- ✓ なんでもデジタルやオンラインにされると、苦手な自分には苦痛。

（行政 DX）

- ✓ 投票のオンライン化
- ✓ 加西市発 スマホで選挙ができるデジタル化にすれば投票率が上がると思う。勿論 セキュリティをしっかりとるは必須！
- ✓ 自動で巡廻する粗大ごみ回収車。
- ✓ 現在は市が提供するアプリが多すぎるため、市民が市からの情報を収集するために複数のアプリをインストールする必要がありユーザビリティに劣る印象がある。LINE でカバーできないところを他のアプリで補ってるという認識だができれば LINE に全て統合するか LINE とそれ以外の機能を包摂したスーパーアプリでユーザー側が必要な機能を取捨選択する形がいいと思う

（教育、医療 DX）

- ✓ 学校やこども園の集金を電子マネーで支払えると助かる
- ✓ 特定疾患更新手続きのデジタル化
- ✓ オンライン診療やオンライン学習にするほどのコンテンツが市内にあるのか？

(産業 DX)

- ✓ 起業の支援やデジタル関連スタートアップの誘致等、デジタル関連産業の育成、デジタル人材の雇用の場の創出

(その他)

- ✓ 通勤時 1 人乗り自動車補助金
- ✓ 食材を運んでくれる

Q27. あなたは、これからの加西市がどのような「まち」であってほしいと思いますか。

(産業)

- ✓ 様々な職種があるまち

(農業)

- ✓ 食の質の良さ
- ✓ 農業が豊に発展するまち
- ✓ 食料自給率の高いまち

(まちづくり)

- ✓ 徒歩で行ける範囲にクリニックと 薬局が揃っていること
- ✓ 住んで、移動がラクが良い子供が定住する
- ✓ 各小学校区を統合するのではなく、それぞれに地域に根ざした老人達の為ではない、新しい形の町を形成してください。各小学校区の中でもそれぞれ拠点となる町はあります。その村を中心に発展させることで、ある種の経済的連邦制のような形であれば、加西市のように交通に恵まれない土地であっても自治体として残っていけるのではないのでしょうか。北条、北条東地区のみを開発してきたこの何十年のツケで、現在の状況があるはずです。「調整区域だから触りにくい」というのは市政としてはハッキリ言って怠慢ですね。

(多様性社会)

- ✓ 個の力を尊重できるまち
- ✓ 一人ひとりが理性と知性を持ち尊重しあえる町
- ✓ 中年の人達にも配慮がある街
- ✓ 男女や障害の有無、年齢も関係なく全ての人が活躍できる街。
- ✓ 人それぞれ人権があるため自由、平等など大切にしてくださる販売店を増やしてもらいたい。香害にかなり影響を受けているので香害をなくすことに力を入れてもらいたい。
- ✓ 日本人が優先的に守られるまち
- ✓ 弱者に優しいまち

(その他)

- ✓ ペットも一緒に生活出来る環境、災害時にペットも避難出来る環境が整ったまち
- ✓ 近隣他市より優れたまち

加西市
後期基本計画まちづくりに関するアンケート結果
(フリー記述)

01 子育て支援

1 意見の件数

いただいた意見は 96 件 でした。

2 主な意見

1	子育て支援の充実要望	● 子育て環境の整備をもっと充実させてほしい ● 給付金や子育て相談など支援を活発にしてほしい ● 学童の無償化や制度拡充が必要	25 件
2	子育て関連施設の整備	● 子供が自由に遊べる施設を増やしてほしい ● 暑い日でも安心して遊べる室内施設が必要 ● 児童館や公民館の充実を図ってほしい	21 件
3	経済的支援（費用負担の軽減）	● 給食費や保育料の無償化を続けてほしい ● 保育料無料化だけでなく、学童保育も無償化してほしい ● 高校生以上の支援にもっと力を入れるべき	17 件
4	働きやすい環境整備	● 産後も働きやすい環境を整えてほしい ● 育休中も安心して預けられる社会にしてほしい ● 保育士不足を解消し、保育の質を向上させてほしい	13 件
5	子供の発達・教育支援の充実	● 個別の支援計画をもっと充実させるべき ● 学校のカリキュラムを改善して子供に優しい教育環境を ● 放課後の居場所づくりや放課後等デイサービスを充実してほしい	10 件
6	子育てに関する情報発信	● LINE などデジタルツールで子育て情報を効率的に伝えてほしい ● 市民向けに支援制度をもっと広く知らしめるべき ● 情報共有が進むことで子育てが安心になる	5 件
7	保育の待機児童問題	● 保育料の無料化は良いが、待機児童問題を解消してほしい ● 無料化より先に保育所の空き状況を改善するべき ● 兄弟が別々の場所に通う問題への対応を	3 件
8	市外交流や移住促進	● 子育て支援を強化し、移住者を増やしてほしい ● 企業との協力で子育て支援を含めた移住政策を	2 件

3 属性（年齢・性別）による意見の違い

（年齢による意見の違い）

➤ 若年層（19 歳以下～29 歳）

子供の遊び場やイベントを求める意見が多い。「子供が安心して遊べる場所の整備」や「親子向けの娯楽施設」に関心が強い。

➤ 中年層（30 歳～49 歳）

経済的支援や学童無償化、仕事と育児の両立支援について多数意見。「働きながら子育てしやすい環境」の要望が目立つ。

➤ 高年層（50 歳以上）

無償化政策への評価が一部見られるが、「不要な無償化への疑問」や「公平性への懸念」の声も。また、子供や若年層の減少対策への提案も散見。

（性別による意見の違い）

➤ 全体として男女差は目立たず、いずれも経済的支援や施設整備、働きやすい環境に関する意見が中心。ただし、保育士不足や育休関連の意見は女性回答者に多かった。

4 まとめ

（市政の方向性）

➤ 経済支援の継続

子育て世代に大きな支持を集めている無償化政策を維持しつつ、市民間の公平性についても再検討する。

➤ 施設整備と活用

子供たちが安全に遊び学べる施設を増やすとともに、既存施設を活用して効率的な運営を目指す。

（市に求められる取組）

1. 子育て施設整備の充実

- 夏でも安全な室内遊び場の設置や児童館の拡充。
- 子供や保護者が集える複合施設の計画。

2. 待機児童問題の解消

- 無償化よりも先に、保育施設の空き状況の改善と新規施設の計画。

3. 子育て支援情報の発信強化

- SNS や LINE など駆使した効率的な情報促進。
- 若年層にアピールする情報提供で支援内容の認知を広げる。

01-2 人口対策

1 意見の件数

いただいた意見は 87 件 でした。

2 主な意見

1	若者の流出防止・定住促進の強化	● 若者が加西市に戻ってくるようなまちづくりをしてほしい ● 若者向けの商業施設や交通整備を充実させてほしい ● 大学卒業後、地元に戻りたいと思える政策が必要	22 件
2	インフラや交通の整備	● 北条鉄道など交通機関の利便性を改善してほしい ● 通勤しやすい環境整備が必要 ● 電子決済が導入されていない公共交通を近代化してほしい	18 件
3	子育て・教育環境の充実	● 本当に子育てしやすい環境をつくるべき ● 学校や学びの場を充実させて子育て世代が住みやすいまちにしてほしい ● 放課後安全に過ごせる居場所を増やしてほしい	15 件
4	移住促進の支援・戦略	● 移住者向けに魅力的な土地や住宅政策を進めてほしい ● 空き家問題に取り組み、移住者を増やすための環境を整備 ● 若者世代や子育て世代に魅力的な移住政策を	12 件
5	出会い・結婚支援	● 若者の出会いの場を作るイベントを増やしてほしい ● 婚活事業に力を入れてほしい ● 結婚出産につながる施策を検討してほしい	8 件
6	若年世代への政策の重点化	● 高齢者支援だけでなく、若者に焦点を当てた政策を進めてほしい ● 市の未来を担う若者が定住するための具体的施策を検討 ● 高齢者との配分を考えながら若者にも手厚い政策を	6 件
7	商業施設や産業の活性化	● 若者が休日を楽しめるような商業施設を増やしてほしい ● 地域で働ける職場を増やせる企業誘致を行ってほしい ● 産業活性化により地域の人口流入を目指すべき	4 件
8	高齢者との共存・3世代居住の推進	● 高齢者が子供の見守りをしている点をアピール ● 3 世代同居を促進しながら若者が住みやすい環境を整えるべき	2 件

3 属性（年齢・性別）による意見の違い

（年齢による意見の違い）

➤ 若年層（19 歳以下～39 歳）

若者向けの政策（交通整備や商業施設の充実、移住の支援など）に対する意見が目立つ。「加西市で子育てや生活したいと思える環境がほしい」という声が多かった。

➤ 中年層（40 歳～59 歳）

出会いの場や婚活支援に関する意見が多く、「地域の人口増加のため若者の結婚を支援」といった視点が強い。また、インフラ整備について具体的な改善案を求める意見も散見。

➤ 高年層（60 歳以上）

「人口減少を前提とした市政運営」の提案や、「高齢者が安心して住めるまちづくり」との共存を提案する声が多い。ただし、若者政策への支持もある。

（性別による意見の違い）

- 男女差は少ないものの、女性回答者には「子育て環境の充実」や「交通機関の利便性向上」についての具体的要求が多く見られた。男性回答者は「商業施設の活性化」や「企業誘致」など経済重視の意見が目立つ傾向。

4 まとめ

（市政の方向性）

➤ 人口流出防止から人口増加促進へ

若者や子育て世代が「住みたい」「戻りたい」と思える環境整備を中心に、市外からの移住も目指す人口対策が必要。

➤ 利便性の改善と地域活性化

交通やインフラ整備を重点的に進め、市民の日常生活だけでなく、観光産業や地域の活気にもつながる政策が求められる。

（市に求められる取組）

1. 若者の定住促進のための環境整備

- 交通機関の利便性向上（運行頻度増加、電子決済導入など）。
- 若者向けの商業施設（娯楽施設を含む）の拡充。

2. 移住支援の強化

- 空き家の活用と移住促進政策の広報。
- 若者や子育て世代をターゲットにした移住促進キャンペーン。

3. 婚活や子育て支援の拡充

- 結婚出産につながるイベントや支援事業を展開。
- 保育・教育の充実、放課後の居場所づくりを進める。

4. 高齢者との共存を目指す 3 世代居住政策

- 高齢者を支える若者世代を繋ぐ施策検討（介護支援と子育て支援の融合）。
- 地域コミュニティの強化と活性化を目指したプログラム。

02 学校教育

1 意見の件数

いただいた意見は 74 件 でした。

2 主な意見

1	学校統合と小中一貫校推進	● 小中一貫校にするべきだと思う ● 学校の統合について現在の校舎を利用した小中一貫校への移行を検討すべき ● 小中統廃合に向けて地域の魅力を引き出す教育を進めるべき	13 件
2	学校設備や教育環境の充実	● 体育館に空調設備を整備してほしい ● 学校のインターネット整備が不十分 ● 教育に力を入れた環境整備をもっと進めてほしい	12 件
3	給食の質向上・無償化	● 給食を無償化してほしい ● 子どもの心身発達を考えたオーガニック給食の導入を検討してほしい ● 残食意識の低下を防ぐために少額徴収も並行して検討すべき	9 件
4	不登校児童の支援	● 「登校拒否の児童が増加しているため対応が急務 ● 不登校児童向けの施設を増設してほしい ● 学校教育において不登校児童のケアを充実させてほしい	8 件
5	高校・大学誘致と進学支援	● 「加西市内に大学を誘致してほしい ● 公共交通や定期代補助で高校生の通学負担を軽減 ● 北条高校の活性化を進め市外から生徒を呼び込む仕組みが必要	8 件
6	部活動や課外活動の充実	● 部活動を充実化してほしい ● スポーツや芸術に特化した教育の場を作るべき ● 若者がチャレンジできる環境を教育活動にも広げるべき	7 件
7	教師の質向上・教育人材の育成	● 教師の質向上と増員の施策を進めるべき ● 教師が多忙な状況を分業制で改善してほしい ● 経験値の高い人材を教育現場に取り入れるべき	6 件
8	子育て世帯へのサポート	● 子育て世帯への移住促進政策をさらに充実させるべき ● 子育てしやすい環境整備が必要 ● 教育支援策を他市に負けないレベルで進めてほしい	6 件
9	地域と連携した特化型教育の推進	● 市内全域で稲作を必修化し給食で活用する教育を進めるべき ● 地域と連携したオルタナティブ教育の場を創るべき ● 農業と教育を結びつけることで市の魅力を発展させる政策を検討	3 件
10	徒歩や交通の安全確保	● 徒歩通学の負担が大きいためスクールバスを充実させてほしい ● 子どもたちが安全に通学できる道路や自転車道路の整備が必要	2 件

3 属性（年齢・性別）による意見の違い

（年齢による意見の違い）

➤ 若年層（19 歳以下～39 歳）

「部活動の充実」「高校・大学の誘致」「スクールバスや交通改善」が主な意見。実際に教育環境の問題を感じている層から具体的な希望や要望が寄せられている傾向。

➤ 中年層（40 歳～59 歳）

「不登校児童支援」「教育設備の改善」「子育て支援」の声が目立つ。現場で子育てをサポートする親世代として、教育充実を支援に結びつける提案が多い。

➤ 高年層（60 歳以上～70 歳以上）

経験に基づいた長期的な視点から「小中一貫校推進」「教師の質向上」が主な意見。時代に合わせた学校運営の重要性が強調される。

（性別による意見の違い）

➤ 女性からは、給食の質や内容、子育て支援に関する意見が多く寄せられた。

➤ 男性は、高校や大学誘致、教育環境整備など具体的な経済的施策提案が中心。

4 まとめ

（市政の方向性）

➤ 「学校教育」を基盤にした市の発展を目指し、地域と子育て世代が安心して暮らせる環境整備を優先すべき。将来的には、小中一貫校の推進や大学の誘致による地域活性化を目指す。

（市に求められる取組）

1. 学校設備の充実

- 体育館空調整備、インターネット環境改善など具体的な項目を迅速に進める。

2. 子育て支援策の強化

- 給食無償化と質向上を両立する施策、親世代に寄り添った支援策の充実。

3. 大学誘致と高校活性化

- 地域外からの高校生誘致を進める公共交通政策。
- 学生を育て地域活性化につながる大学誘致を具体化。

4. 不登校支援の強化

- 不登校児童向けの施設やプログラムの拡充、カウンセリング体制強化。

03 社会教育、文化・スポーツ

1 意見の件数

いただいた意見は 24 件 でした。

2 主な意見

1	伝統文化・祭りの継承	● 伝統的な祭りを維持するための制度を作るべき ● 播州北条節句祭りを SNS やテレビで発信して文化を継承する ● 狂言などを塾を立ち上げて伝統文化として継承することが大切だと思う	5 件
2	スポーツ施設の改善・充実	● アクアス加西の地面のトゲを除去してほしい ● 総合運動公園に市民のニーズに合った施設を整備してほしい ● 公共のジムやプール施設を作してほしい	5 件
3	図書館・自習スペースの充実	● 図書館の学習スペースが足りないため、拡充してほしい ● 加西市の図書館の書籍の充実が必要	4 件
4	公共文化施設の拡充	● 加西市にコンサートホールを作してほしい ● 版画など芸術が盛んな町作りを目指すべき ● 市民が交流できる公民館や集まりの場所を充実してほしい	3 件
5	スポーツ・芸術活動の推進	● スポーツや書道は盛んだが、音楽や美術をもっと盛んにしてほしい ● 大規模なマラソン大会を開催してほしい ● スポーツ施設予約が取りやすい環境を作してほしい	3 件
6	交通アクセスと移動手段の改善	● 市民の団体活動時に移動手段（バスなど）が欲しい ● 交通アクセスを工夫し、健康を維持するための社会環境を整えてほしい	2 件
7	若者育成と地域活性化	● 地域の伝統行事を継承する若者が育つ環境を作るべき ● 若者が社会に貢献できる場を作る	2 件

3 属性（年齢・性別）による意見の違い

（年齢による意見の違い）

➤ 若年層（19 歳以下）

「図書館の自習スペース拡充」「スポーツ施設改善」が主な意見。学習環境や実生活の問題点について具体的なニーズが挙げられた。

➤ 中年層（30～59 歳）

「伝統文化の継承」「公共施設の充実」に関する意見が中心。地域活性化と家庭生活を関連づけた発想が特徴的。

➤ 高齢層（60 歳以上）

「健康維持に役立つスポーツ施設の整備」「伝統文化の継承」が目立つ。長期的な地域発展に根付いた提案が多い。

（性別による意見の違い）

➤ 女性：「図書館自習スペースの拡充」「子どもが利用する施設の改善」に具体的な言及が目立つ。

➤ 男性：「スポーツ施設整備」「伝統文化の維持」に重点を置く傾向がある。

4 まとめ

（市政の方向性）

➤ 加西市の学校教育領域では、子どもの学習環境改善や地域文化の継承が優先的な課題に挙がっている。また、施設整備やスポーツ・芸術活動の推進を通じて地域の魅力向上を図るべきである。

（市に求められる取組）

1. 学習環境の拡充

- 図書館の学習スペース拡大や自習用施設の整備を進めるべき。

2. スポーツ施設の改善

- 地域住民が安全かつ快適に利用できるグラウンドやプール設置を検討。

3. 伝統文化と若者育成

- 祭りや文化行事に若者が参加する仕組みを作り、地域文化を次世代に継承する。

4. 公共文化施設の充実

- 市の魅力を高めるコンサートホールや芸術活動の場の整備。

04 福祉

1 意見の件数

いただいた意見は 65 件 でした。

2 主な意見

1	高齢者福祉の充実	● 免許返納後の生活（交通・買い物）に不安が多い ● 高齢者向けのデイサービスや施設を充実させて欲しい ● 高齢者が安心して暮らせる町にしたい	20 件
2	高齢者の交通手段整備	● 高齢者が運転免許を返納した後、移動手段が困る ● 公共交通機関を充実させて高齢者が事故を防ぎ、安全に外出できる環境を整えて欲しい	15 件
3	障害者支援の強化	● 障害者の働く場所を増やして欲しい ● 障害のある子育て世帯への支援を拡充して欲しい ● 障害者が健康に働ける環境を整備してほしい	11 件
4	子育て家庭への支援	● 共働き世帯をもっと手厚く支援して欲しい ● 子どもを育てやすい町にしたい ● 子育て支援学校卒業後の居場所が足りない	8 件
5	孤立老人への支援	● 高齢者が孤立せず地域とのつながりを持てる環境を整えて欲しい ● 1人暮らしの老人に対する訪問支援を強化してほしい ● 高齢者の孤独予防対策が必要	6 件
6	自然環境を生かした地域活性化	● 田舎ならではの魅力を活かして町を活性化して欲しい ● 自然の豊かさを楽しめるオートキャンプ場の整備 ● 観光資源として農業や自然環境を活かす取り組みを進めて欲しい	5 件

3 属性（年齢・性別）による意見の違い

（年齢による意見の違い）

➤ 若年層（20～39 歳）

子育て支援や障害者支援に関する意見が中心。働きながら子育てができる環境の整備に強い関心がある。

➤ 中年層（40～59 歳）

高齢者福祉や障害者を支える仕組みの拡充を求める意見が目立つ。

➤ 高齢層（60 歳以上）

免許返納後の生活の不安や孤立を防ぐ支援の充実を求める意見が多数。

（性別による意見の違い）

➤ 女性: 高齢者福祉に対する具体的な施策の要望や、子育て家庭支援に重点がある。女性特有の視点で「コミュニティの孤立防止」を重視。

➤ 男性: 全体的に「障害者福祉」や「地域活性化」の意見が目立つ。男性は働く環境や交通インフラ整備にも関心を持つ傾向がある。

4 まとめ

（市政の方向性）

➤ 加西市が抱える課題として、「高齢化」「障害者支援不足」「移動手段の不便さ」という問題が浮かび上がった。市政は、これらの課題を優先順位として設定し、住民全体が安心して暮らせる持続可能な町づくりを目指す必要がある。

（市に求められる取組）

1. 高齢者福祉の充実

- ・ 高齢者デイサービスや福祉拠点の増設。
- ・ 一人暮らしの高齢者を訪問する相談機能の整備。

2. 交通インフラの改善

- ・ 高齢者や障害者が利用しやすい公共交通システムを導入。
- ・ 買い物や病院へのアクセスを容易にする移動支援サービス。

3. 障害者支援の強化

- ・ 障害者が働ける場所や環境の整備。
- ・ 障害者が必要な支援を受けられる公平なシステムを整備。

4. 地域活性化

- ・ 自然を活かした観光資源を開発し、地域の魅力を向上。
- ・ 地域コミュニティのつながりを強化し、孤立を防ぐ仕組みの構築。

04-2 健康・医療

1 意見の件数

いただいた意見は 70 件 でした。

2 主な意見

1	医療体制の充実と診療科目の不足	● 産婦人科や小児科医を常時確保してほしい ● 加西市には産科がないため、不便で子育てが大変 ● 質の高い医師を確保し、診療科目を充実させる必要がある	22 件
2	医師・人材確保	● 市民病院の建設だけでなく、医師の確保を優先してほしい ● 医師の確保ができないと機能不全に陥る ● 各診療科の医師を充実させ、安全で便利な医療を提供してほしい	15 件
3	出産施設の不足・産婦人科設置	● 子供が産める産婦人科を整えてほしい ● 妊娠中の病院通いが遠方のため負担が大きい ● 子育て支援として産婦人科や婦人科を整備することが必要	12 件
4	子育て世代への医療支援	● 親子で受診できる医療施設がほしい ● 小児科が少なく、対応が不十分 ● 子育て支援と医療体制の拡充が必要	10 件
5	高齢者医療の充実	● 高齢者が安心して通院できる環境を作るべき ● 地域医療と介護サービスの充実が必要 ● 長距離移動せず医療が受けられる仕組みを整えてほしい	8 件
6	医療施設への具体的な要望	● 皮膚科や耳鼻科を増やしてほしい ● 外国人向けの医療通訳サービスが必要 ● 開業医院の増設を促進してほしい	3 件

3 属性（年齢・性別）による意見の違い

（年齢による意見の違い）

➤ 若年層（19 歳以下～39 歳）：

「産婦人科や子育て支援の医療施設の整備」に関する意見が中心。出産や育児環境の改善に向けた具体的な要望が多数見られました。

➤ 中高年層（40～59 歳）

「医師の確保と診療科目の充実」に加え、「高齢者医療」の重要性を指摘する意見が多い。

➤ 高齢層（60 歳以上）

医療施設の存続や「緊急時の医療対応」の確保を求める意見が主流。老後の医療環境への不安が多く挙げられていました。

（性別による意見の違い）

➤ 女性:「産婦人科の必要性」や「育児中親子で利用できる医療施設」に対する具体的な要望が多数。出産・育児と医療を関連付けた視点が目立つ。

➤ 男性:「医師の確保」や「医療体制全体の充実」を重視する意見が多かった。子育て環境よりも医療サービス全般の改善を求める傾向がありました。

4 まとめ

（市政の方向性）

- 地域医療の充実を優先課題とし、医師や医療人材の確保を最も重要な目標に据えるべき。
- 出産環境や子育て支援の医療体制を拡張し、若い世代の定住を促進。
- 高齢者が安心して通える医療環境を整備。

（市に求められる取組）

1. 医療体制の強化

- ・ 市民病院の診療科目を充実させる。（産婦人科・小児科の設置を優先）
- ・ 緊急時対応可能な診療体制の構築。

2. 医師・人材の確保

- ・ 全国から優秀な医師を誘致するための施策を検討。
- ・ 医療従事者向けの福利厚生を充実させ、地域医療従事者の定着を促進。

3. 子育て世代への医療支援

- ・ 親子で利用できる医療施設を増設。
- ・ 子育て中の市民に遠方医療の負担を軽減する支援を提供。

4. 高齢者医療の拡充

- ・ 高齢者が利用しやすい医療施設の配置。
- ・ 地域医療と介護サービスを一体化し、持続可能な高齢医療体制を構築。

05 農業

1 意見の件数

いただいた意見は 45 件 でした。

2 主な意見

1	農業人口の減少と後継者不足への対応	● 農業の後継者探しを支援し、農業人口を増やしてほしい ● 高齢化による農地の保全が困難になっている。具体的な手放す方法を教えてほしい	10 件
2	地産地消と農業を活かした地域活性化	● 加西市の農業を活かしてカフェや道の駅を作り、地域を活性化してほしい ● 地産地消の推進に取り組み、フードロスを減らしてほしい	9 件
3	農地維持と管理問題	● 草刈りや溝掃除など農地管理の負担を軽減する政策が必要 ● 休耕田が増加しているので行政で耕地整理を進めてほしい	8 件
4	農業政策と補助制度	● 若者が農業で生計を立てられるよう補助制度を充実してほしい ● 農業を支援する施策をもっと明確にしてほしい。農業振興区域の改善が必要	7 件
5	農業の魅力向上と教育	● 農業の魅力を発信し、若者の関心を集めてほしい ● 加西市の魅力である農業を大切にする都市を目指してほしい	6 件
6	自然環境を守る農業施策	● 農業を守りながら自然環境を壊さない政策を進めてほしい ● 温暖化によるコメ不足のリスクに備えた農業政策を考えてほしい	5 件

3 属性（年齢・性別）による意見の違い

（年齢による意見の違い）

➤ 若年層（19 歳以下～39 歳）

地産地消や農業を活かした地域活性化、農業の魅力を向上させる意見が多い。若者にとって農業を新たな産業や地域の特色として捉える視点が目立つ。

➤ 中年層（40 歳～59 歳）

農業政策や補助制度に関する意見が多く、「農業で生計を立てる」現実的な視点での提案が見られる。

➤ 高齢層（60 歳以上）

農地維持や管理問題に関して切実な意見が多い。また、農業人口の減少の危機を感じ、具体的な対策を求める意見が目立つ。

（性別による意見の違い）

➤ 男性：農業人口減少への対応や農地維持に関する意見が多い。現実的な管理面や効率化に関する視点が強い。

➤ 女性：地産地消や地域活性化に関する意見が多く、農業によるコミュニティへの影響や地域の魅力に注目している。

4 まとめ

（市政の方向性）

➤ 農業分野の意見からは、以下の課題が浮かび上がった：

- ・ 農業人口の減少と後継者不足による長期的な危機。
- ・ 農地管理の負担増加や休耕田の増加。
- ・ 地産地消を軸とした地域活性化の可能性。

➤ 加西市が、農業を基盤とした形で発展するには、従来の農業のあり方に加え、新しい魅力や効率化を取り入れて持続可能な農業を実現する必要がある。

（市に求められる取組）

1. 後継者不足への対応：

- ・ 農業後継者を育成するプログラムや、若者向けの農業イベントを開催し、農業の魅力を発信。

2. 農地管理の効率化：

- ・ 農地維持にかかる負担を軽減する補助制度の導入。
- ・ 行政による耕地整理や、放棄された農地への活用施策を展開。

3. 地産地消と地域活性化：

- ・ 農産物を活かしたカフェ、マルシェなど地域の特色を活かした施設の設置。
- ・ 農業と観光を組み合わせた体験型イベント（農業体験・グランピングなど）の導入。

4. 若者が定住できるまちづくり：

- ・ 農業を取り入れた新しい形態の生産者モデル（サラリーマン農業など）を提案。
- ・ 高齢者が継続的に農地を活用できる仕組み作り。

06 産業・雇用

1 意見の件数

いただいた意見は 65 件 でした。

2 主な意見

1	大企業の誘致と雇用 創出	● 若者が希望を持って働ける魅力ある企業を誘致してほしい ● 大企業の工場や研究所を誘致し、若者の流出を防ぐべき	18 件
2	若者の働き先不足	● 地元の企業が若者の流出を止められるようにする政策を進めてほしい ● 都会で大学生活を送った後、地元にも魅力的な働き場所がなく戻れない問題を解決してほしい	12 件
3	工業団地の活用とバ ランスある産業発展	● 工業団地を単なる倉庫ではなく、製品製造や研究開発企業に活用してほしい ● 農業と工業をバランスよく発展させる施策が必要	10 件
4	女性や子育て世帯向 けの働きやすい環境 作り	● 子育てママが働けるように、短時間勤務や土日休みの職場を増やしてほしい ● 女性がブチ就業でも働ける環境を整えてほしい	9 件
5	商業施設の誘致	● 大型ショッピングモールやコストコの誘致を進めてほしい ● 地域の活力を高めるため、商業施設を魅力的にし、働く場所や観光を充実させてほしい	8 件
6	起業支援と産業政策	● 若者がスタートアップできる支援を充実させてほしい ● 地元企業が持続できる環境を行政が支援してほしい	5 件
7	高齢者の働きやすい 環境	● 高齢者が安心して短時間でも働ける環境を提案してほしい ● 年金だけで生活が難しい。高齢者向けの雇用対策も必要	3 件

3 属性（年齢・性別）による意見の違い

（年齢による意見の違い）

- 若年層（19 歳以下～39 歳）：
大企業の誘致や起業支援に関する意見が多い。都会での大学生活後に戻れない理由として、働き場所の不足を挙げる意見も目立つ。
- 中年層（40 歳～59 歳）
工業団地の利活用や女性の働きやすい環境づくりに具体的な意見が多い。
- 高齢層（60 歳以上～70 歳以上）
高齢者が短時間で働ける環境や年金生活の厳しさについての意見が中心。

（性別による意見の違い）

- 男性：大企業誘致や工業団地の活用に関する意見が多い。地域全体の発展や産業政策全般への提案が中心。
- 女性：働きやすい環境づくり、とりわけ子育て世帯や女性向けの雇用環境に関する意見が目立つ。

4 まとめ

（市政の方向性）

- 「産業・雇用」の分野に関する市民の意見からは以下の課題が浮き彫りとなりました：
 - ・若者の働き場所不足による市外流出。
 - ・女性や子育て世帯、高齢者が安心して働ける環境の不足。
 - ・大企業誘致の停滞や工業団地の利活用不足。
- 加西市が未来へと発展するためには、産業政策を地域の人口構造や特性を考慮した形で推進し、多様な層が働ける町づくりが重要です。

（市に求められる取組）

1. 大企業誘致と雇用創出：
 - ・加西市特有の災害リスクの低さやアクセスの良さを活かし、大企業の本社機能や製造拠点の誘致を進める。
 - ・若者が魅力を感じる働き場所を提供し、市外流出を防ぐ。
2. 多様な働き方の推進：
 - ・女性や子育て世帯向けに短時間勤務や土日休みが取りやすい職場を増やす。
 - ・高齢者向けに短時間就労や地域起業支援を充実。
3. 商業施設と観光活性化の連携：
 - ・ショッピングモールや商業施設の誘致を進め、地域活性化と雇用創出を同時に実現。
4. スタートアップ支援：
 - ・若者や個人が起業しやすい環境を作り、新たな産業を地域に取り込む。

07 観光・関係人口

1 意見の件数

いただいた意見は 42 件 でした。

2 主な意見

1	自然を活かした観光資源の整備	● 自然を利用した大型施設や遊び場を作り、市外から遊びに来てもらえるようにすべき ● 気球やキャンプ場などが加西市の特色になる施設として整備希望	11 件
2	新しい観光施設の誘致・開発	● 星野リゾート的な宿泊施設を建設し旅行客誘致を進めてほしい ● 道の駅（空の駅）を増やし観光拠点を設けてほしい	8 件
3	既存観光施設の PR 強化	● うずらの飛行場跡の宣伝活動をもっと効果的にすべき」 ● 加西市特有の観光地の PR を県外に向けて強化してほしい」	7 件
4	地域行事やイベント運営改善	● 祭りの花火の時間を小さな子どもや大人に配慮して変更してほしい ● 市外からも人が集まるよう加西市独自のイベントを増やしてほしい	6 件
5	歴史・文化観光の推進	● 戦跡やお寺を観光地化し、歴史と平和を伝える拠点を作ってほしい ● 加西市独自の文化遺産や特産品を生かした観光イベントの開催を希望	5 件
6	移住人口の拡大を目指す観光振興	● 魅力ある観光施設を作れば、移住したい若者や関係人口が増えると思う ● 観光誘致を通じて市民の流出を防ぎ他県からの移住人口を増加させるべき	3 件
7	地域固有の特色を活かしたアイデア提案	● ポケモンマンホール（ポケフタ）の誘致で地域の特色を観光資源にしたらい ● “気球の飛ぶ街”としてのブランド強化や観光施設の整備を提案	2 件

3 属性（年齢・性別）による意見の違い

（年齢による意見の違い）

- 若年層（19 歳以下～39 歳）
 - ・ポケフタの誘致や遊び場の整備に関する「若者視点の観光資源開発」への関心が高い。
 - ・「目玉になるものが必要」という意見が多く、目新しい観光資源への期待が目立つ。
- 中年層（40 歳～59 歳）
 - ・自然や歴史的資源を活かし、観光面と地域整備の両立を求める意見が中心。
 - ・既存イベントの運営改善や観光資源に対する具体的なアイデア提案が多い。
- 高齢層（60 歳以上～70 歳以上）
 - ・地域文化や戦跡、既存資源を活かして PR を強化する意見が目立つ。観光を通じた「平和の発信」にも期待を寄せる。

（性別による意見の違い）

- 男性：新しい観光施設の誘致やイベント運営改善を注視する意見が多い。実用的な施設整備や戦跡活用への提案が中心。
- 女性：自然を活かした観光資源や、子ども連れに配慮した観光施設・イベント改善の意見が多い。

4 まとめ

（市政の方向性）

「観光・関係人口」分野において、市民が求める方向性は以下の通りです：

- 観光資源の整備と活用
自然、歴史、文化的な資源を活かし、市外からの観光客を呼び込む施設や体験型の観光資源を整備すること。
- イベント・行事による地域活性化
地域独自の魅力を活かしたイベントや既存行事の改善を通じて、訪問者を増やす取り組み。

（市に求められる取組）

1. 新規観光施設の誘致・整備
 - ・宿泊施設や道の駅など、地域の観光の拠点となる施設の誘致を進める。
 - ・「自然を楽しむ」観光施設（キャンプ場や農業体験など）を整備。
2. 地域資源の有効活用と発信
 - ・歴史的スポットや文化遺産の観光地化を進める。
 - ・戦跡を活用した平和公園の計画を検討。地域の特色ある取り組みとして PR 強化。
3. 市外観光客をターゲットにした広報活動
 - ・加西市独自の観光ブランド（気球、フラワーセンターなど）の発信を、SNS や全国的なメディアで対応する。
4. 地域活性化と移住促進の結び付き
 - ・観光資源を「移住のきっかけづくり」に活用。観光と定住を結びつける施策を展開。

08 防犯・防災

1 意見の件数

いただいた意見は 27 件 でした。

2 主な意見

1	街灯の増設・照明改善	● もっと街灯を増やしてほしい。夜中暗すぎて怖い ● 北条町近辺は明るいが集落の暗いところを改善してほしい	6 件
2	防犯カメラ設置	● 防犯カメラの設置を増やしてほしい ● 市内の治安維持のため防犯カメラを充実させてほしい	5 件
3	災害時のペット対策の整備	● 災害時にペットも家族として扱う制度を整えてほしい ● ペットにも優しい加西市を考えてください	4 件
4	地域の治安維持と防犯強化	● 外国人が増えているので治安維持に注力してほしい ● 違法改造車や交通取り締まりを進めて安全な街づくりにしてほしい	4 件
5	地域行事の防災・治安意識向上	● 地域で詐欺や空き巣を防ぐ取り組みを協力したい ● 地域のコミュニティが治安維持に役立つと思います	3 件
6	学校や避難所の防災体制強化	● 地域の学校がなくなると災害時の避難所が心配です ● 災害に強い町づくりが必要です	3 件
7	防災・治水インフラの整備	● 川に溜まった草や土砂を防災の観点から整備してほしい ● 自然災害に備えて災害対策を進めてほしい	2 件

3 属性（年齢・性別）による意見の違い

（年齢による意見の違い）

- 若年層（19 歳以下～39 歳）
 - ・ 街灯増設や防犯カメラ設置について「夜間の安全性向上」を求める意見が多い。
 - ・ 防犯強化や通学の安全対策への期待が見られる。
- 中年層（40 歳～59 歳）
 - ・ 防犯・治安維持に関する具体的提案（外国人労働者との調整、交通取り締まり）が中心。
 - ・ 子どもや家族全体が安心して過ごせる環境整備への意見に焦点。
- 高齢層（60 歳以上～70 歳以上）
 - ・ 災害時の避難所や防災対策、地域の人々の見守りを重視する意見が多い。
 - ・ ペット対策や防災インフラ整備に関する意見も目立つ。

（性別による意見の違い）

- 男性：治安対策やインフラ整備（交通取り締まり、防犯カメラ）について実用的な対策の提案が多い。
- 女性：子どもや家族、ペットが安心して暮らせる環境づくりへの意見が多く、生活面の安全性に関心。

4 まとめ

（市政の方向性）

「防犯・防災」分野で市民が求める方向性は以下の通りです：

- 防犯対策の強化
街灯の増設、防犯カメラの充実を通じて夜間や治安悪化への不安を軽減すること。
- 災害対策の充実
災害時の避難体制を整え、ペットへの対応や防災インフラ（川の整備など）の見直しを行うこと。

（市に求められる取組）

1. 街灯の増設
 - ・ 夜間の安全性向上のため、暗い地域に街灯を設置。地域に関する安全点検を行う。
2. 防犯カメラの設置増加
 - ・ 市内全域にわたり防犯カメラを増設し、治安維持のための「見える化」対策を進める。
3. 災害時のペット対応政策の立案
 - ・ ペットも家族とみなした避難所運営や制度改革を全国モデルとして導入。
4. 地域コミュニティの治安・防災強化
 - ・ 地域行事で防犯意識を高める啓発活動や人々同士の見守り活動を誘導。

09 都市計画・まちづくり

1 意見の件数

いただいた意見は 127 件 でした。

2 主な意見

1	娯楽施設の増設	● 映画館やカラオケが欲しい ● ラウンドワンのような施設を作ってほしい ● 若者が楽しいと思える場所を作ってほしい	28 件
2	飲食店や商業施設の誘致	● もっと飲食店を増やしてほしい ● GU やユニクロなど服飾系店舗を誘致してほしい ● 西松屋など子育て世帯向け店舗が欲しい	22 件
3	地域間の格差解消	● 北条地区以外にも力を入れてほしい ● 市の端の地域にも魅力的な施設を作るべき ● 郊外にもスーパーや病院を増やしてほしい	18 件
4	土地活用・空き家の対策強化	● 空き家・空き土地を有効活用してほしい ● 廃校を地域の施設に転用してほしい	15 件
5	交通インフラの整備	● 道路を整備してほしい ● 公共交通をより便利にしてほしい	14 件
6	住宅整備と住環境向上	● 賃貸住宅が少ないので増やしてほしい ● 農地を宅地変更して住宅を建てやすい環境を整備してほしい	12 件
7	コンパクトシティの推進	● 都市機能を集約して効率的な都市計画を進めてほしい ● 生活インフラを整え住みやすさを向上させるコンパクトシティ化を推進してほしい	10 件
8	地域活性化と観光誘致	● 加西市独自の観光施設を整備してほしい ● 地域を盛り上げるための観光と商業融合の施策を考えてほしい	8 件

3 属性（年齢・性別）による意見の違い

（年齢による意見の違い）

- 若年層（19 歳以下～39 歳）
 - ・ 娯楽施設（カラオケ、映画館など）や若者向け商業施設（GU やユニクロ）の設置を求める意見が多い。
 - ・ 「娯楽の充実」や「若者同士が集まれる場の創出」を求める傾向あり。
- 中年層（40 歳～59 歳）
 - ・ 住宅整備や商業施設の誘致、地域間の格差解消を重視する意見が多い。
 - ・ 子育て世帯向けの店舗不足や住みやすい環境整備を求める声が強い。
- 高齢層（60 歳以上～70 歳以上）
 - ・ 郊外地域の交通インフラ整備や公共施設の充実を求める意見が中心。
 - ・ 「高齢者団地」「徒歩圏内にスーパーや病院を設置」など、便利な都市計画への期待が見られる。

（性別による意見の違い）

- 男性： 娯楽施設や交通インフラの整備に関する具体的な提案が多い。
- 女性： 家族や子育て世帯が利用しやすい商業施設・公共施設の整備を求める意見が多く、生活環境の充実を重視。

4 まとめ

（市政の方向性）

「都市計画・まちづくり」分野で市民が求める方向性は以下の通りです：

- 若者支援による地域活性化
娯楽施設や商業施設を誘致し、若い世代の満足度向上と定住促進を目指す。
- 交通・住環境改善で市民生活の質向上
郊外地域のインフラ整備を進めることで、地域間格差を解消する。

（市に求められる取組）

1. 娯楽施設や商業施設の整備
 - ・ 若者や家族と過ごす場の提供として映画館、ラウンドワン、飲食店の誘致。
2. 空き家・廃校の有効活用
 - ・ 地域施設への転用やイベントスペースとしての利用を促進する政策を策定。
3. コンパクトシティの推進
 - ・ 市街地中心部への都市機能集約を促進し、効率的な「持続可能な都市計画」を推進。
4. 住みやすい郊外環境の整備
 - ・ 農地を宅地化し、スーパーや病院を徒歩圏内に整備。公共交通の充実を図る。

09-2 環境

1 意見の件数

いただいた意見は 28 件 でした。

2 主な意見

1	自然環境保護・景観維持	● 加西市の自然を守り発信してほしい ● 田園風景や森林を保持することで市の魅力を高めるべき	7 件
2	太陽光パネル反対・設置場所提案	● ソーラーパネルが増えることで自然が破壊される ● 設置場所をもっと慎重に選ぶべき	6 件
3	ごみ・悪臭問題	● ゴミを適正に処理してほしい ● 養鶏場などの悪臭を改善してほしい	5 件
4	地球温暖化対策・SDGs 促進	● 地域で温暖化対策をもっと推進してほしい ● 打ち水イベントなど SDGs に取り組む活動を増やすべき	5 件
5	除草剤・環境への配慮	● 公園や学校で除草剤の使用を控えてほしい ● 除草剤の健康被害を考える環境施策を進めてほしい	3 件
6	その他（公園整備など）	● 公園に日陰や雨宿りができる施設が欲しい ● 自然を生かした公園墓地を整備してほしい	2 件

3 属性（年齢・性別）による意見の違い

（年齢による意見の違い）

➤ 若年層（19 歳以下～39 歳）

「自然の保護」や「景観維持」を重視する意見が多い。自然の美しさを発信してほしいという声がある。

➤ 中年層（40 歳～59 歳）

「太陽光パネル」「除草剤の使用問題」など環境保護に関する具体的な課題についての提案が多い。

➤ 高齢層（60 歳以上～70 歳以上）

「悪臭の改善」や「公園整備」など地域での快適さ向上を求める意見が目立つ。

（性別による意見の違い）

➤ 男性：太陽光パネルの設置場所に関する懸念や農業地域での課題（悪臭問題）への関心が上位。

➤ 女性：子どもたちの健康や生活環境安全性（除草剤問題）、SDGs やゴミ削減に積極的な意見が多い。

4 まとめ

（市政の方向性）

環境分野で市民が求めている方向性は、加西市の「自然資源の保護」と「持続可能な地域づくり」です。

具体的には以下を柱にした施策が期待されています：

➤ 自然環境の維持・発信

森林、田園風景、山などの景観を守りつつ、観光や地域振興につなげる。

➤ 温暖化対策と環境問題解決

除草剤の使用禁止や悪臭問題の改善など、市民の健康を守る政策を進める。

（市に求められる取組）

1. 自然環境の価値を発信する仕組み作り

- SNS や地域イベントを活用し、加西市の自然資源を広く PR。
- 田園風景や森林の保護活動を市民参加型で進める。

2. 環境問題への具体的対応策

- ソーラーパネル設置に関する詳細なガイドライン策定。
- 農業地域特有の悪臭改善策や、除草剤禁止区域の指定などを進める。

3. SDGs 及び持続可能な地域づくり

- 温暖化対策として打ち水イベントなど、地域全体で参加できる取り組みを恒例化する。
- ゴミ削減を目指し、補助対象の生ゴミ処理機の拡充を検討する。

10 生活インフラ

1 意見の件数

いただいた意見は 52 件 でした。

2 主な意見

1	道路整備の改善	● 道路が狭く整備されていない ● 県道の舗装が悪すぎてストレスを感じている ● 通勤時間帯の混雑解消のため右折専用レーンや拡幅をしてほしい	15 件
2	歩道・自転車道の整備	● 歩道がない道路が多く危ない ● 子供が安心して自転車に乗れる歩道の整備を求む ● 歩道の草刈りを頻繁に行い交通の安全性を確保してほしい	10 件
3	水道料金の高値改善	● 加西市の水道料金が他市と比べて高すぎる ● 生活必需品である水道料金は平等に補助してほしい ● 水道料の再検討をお願いします	7 件
4	交通インフラの改善	● 姫路、明石へのバイパスを整備し通勤利便性を向上して欲しい ● 交通の利便性向上がないと若者が定住しない ● 国道整備でアクセスを向上してほしい	7 件
5	草刈りや環境美化の強化	● 道路沿いの草刈りを頻繁に行ってほしい ● 歩道や道路の美化が加西市の田園風景の維持にもつながる ● 市道の草刈り支援を高齢者向けに強化してほしい	6 件
6	公共料金補助の拡充	● 物価高で生活苦、公共料金の補助拡充を検討してください ● 自治体が生活インフラ料金を軽減する仕組みを作るべき	4 件
7	バリアフリー化の対応	● 歩道をバリアフリー化してほしい ● 段差の解消をして交通事故を防いで欲しい ● 通学路の安全性向上にバリアフリー化が必要だと感じる	3 件

3 属性（年齢・性別）による意見の違い

（年齢による意見の違い）

➤ 若年層（19 歳以下～39 歳）

主に通学路の安全性や、自転車・歩道整備を求める意見が多い。子供のためのインフラ改善を希望する声が目立つ。

➤ 中年層（40 歳～59 歳）

道路整備や交通インフラの改善に関心を持っている。家庭や仕事の負担軽減を目的とした意見が見られる。

➤ 高齢層（60 歳以上～70 歳以上）

草刈りや水道料金の補助を含む生活需要の具体的改善を求める意見が多く、現状維持の難しさに懸念を示している。

（性別による意見の違い）

➤ 男性：交通インフラ改善や道路整備に関する具体的かつ実務的な提言が多い。

➤ 女性：歩道や子育て環境の安全性、公共料金補助など生活に密着した意見が多い。

4 まとめ

（市政の方向性）

➤ 市民の意見から、「生活の利便性向上」や「安全で安心なインフラ整備」が市政の方向性として求められています。特に、通勤・通学環境を改善し若者や子育て世代が定住しやすくする施策が重要とされています。

（市に求められる取組）

1. 道路・歩道・自転車道の整備

- 道路拡幅や右折専用車線の設置を進め、混雑解消を図る。
- 歩道や通学路の草刈りを頻繁に行い、自転車道やバリアフリー化を拡充して交通安全性を向上させる。

2. 生活インフラ費用への配慮

- 水道料金や公共料金に補助を導入し、市民の負担軽減を図る。物価高の現状に沿った支援施策が必要。

3. 交通インフラの改善

- 都市間バイパスの整備や交通利便性向上で加西市の魅力づくりを進める。

4. 地域環境美化の継続と強化

- 草刈りや街路樹の剪定頻度を増やし、田園風景を維持することで地域の価値向上につなげる。

10-2 交通

1 意見の件数

いただいた意見は 112 件 でした。

2 主な意見

1	公共交通機関の充実	● 北条鉄道やバスの本数を増やしてほしい ● 電車やバスをもっと利用しやすい形にしたい ● 交通系 IC カードが使えるようにしてほしい	35 件
2	高齢者の移動支援	● 免許返納後、高齢者が安心して移動できる交通手段を整備してほしい ● コミュニティバスのルートと便数を増やして欲しい ● 安価な移動手段を提供してほしい	25 件
3	交通費の負担軽減	● 北条鉄道やバスの料金が高いので見直しをしてほしい ● 高齢者割引や学生支援を導入してほしい ● 移動手段が無いと生活が難しい人への援助が必要	16 件
4	市外アクセスの向上	● 姫路や神戸への交通アクセスを改善してほしい ● 加古川や大阪への直通バスを増便してほしい ● 高速バスの運行時間を延長してほしい	14 件
5	地域交通の増便・改善	● ねっぴーバスの運行ルートを増やしてほしい ● 小型バスやワゴン車で頻繁に都市間移動ができるようにしてほしい ● 土日や夜間のバス運行をさらに増やしてほしい	12 件
6	商業・医療アクセスの改善	● 病院や買い物に行くための交通手段を整備して欲しい ● 住民がもっと気軽に医療施設やスーパーに行けるような取り組みを進めるべき	10 件

3 属性（年齢・性別）による意見の違い

（年齢による意見の違い）

➤ 若年層（10代～30代）：

主に「学生支援のための交通費削減」「北条鉄道の利便性向上」を求める意見が多く、交通手段不足が生活に影響していると訴えています。

➤ 中年層（40代～50代）：

「市外アクセスを改善することで通勤利便性向上」や「将来の生活を見据えた交通インフラの整備」を希望する意見が多いです。

➤ 高齢者（60代～70歳以上）：

「免許返納後の安心した移動手段確保」「安価で利用できる公共交通の増便」など、生活の足としての交通手段確保を強く求めています。

（性別による意見の違い）

➤ 男性：実務的な要望（通勤や公共交通整備など）が多く見られます。

➤ 女性：「買い物や医療施設へのアクセス改善」など、生活に密着した交通整備の希望が目立ちます。

4 まとめ

（市政の方向性）

➤ 交通インフラの充実が命題であり、市民は安全で移動しやすい環境、特に高齢者や子育て世代にやさしい都市環境を求めています。市外へのアクセス改善も市の競争力向上には不可欠です。

（市に求められる取組）

1. 公共交通機関の拡充

- 北条鉄道やねっぴーバスの本数増加や路線拡張を進め、市内外の移動を便利にする。
- 交通系 IC カードの導入で利便性を向上させる。

2. 高齢者・学生支援の強化

- 高齢者向けの安価なコミュニティバスや予約型移動サービスの提供。
- 学生向けの交通費補助や運行の利便性向上。

3. 市外アクセス改善

- 姫路、加古川、大阪への直通バス増便や高速バス運行時間の拡充。
- 都市間交通インフラの整備を図り、観光や都市間移動を活性化。

11 市民参画、地域コミュニティ

1 意見の件数

いただいた意見は 46 件 でした。

2 主な意見

1	地域コミュニティへの負担軽減	● 草刈りなどの負担を減らしてほしい ● ペーパーレス化による広報の効率化 ● 役員就任や地域行事の負担が重い	8 件
2	若者・子育て世帯の参加促進と支援	● 若者がまちづくりに参加する施策の導入 ● 子どもを地域で大切に育てる活動を推進 ● 子育て家庭への負担軽減策を求む	7 件
3	地域の多世代交流と人材活用	● シルバー人材を活用した地域活動の支援 ● 高齢者の知識や技術を生かせる地域活動 ● 異世代交流を通じた社会の活性化	6 件
4	地域行事のあり方・祭りの文化継承	● 地域行事が負担になっている現状を見直し ● 「祭りなど文化の継承」には積極参加を希望 ● 地域住民参加型の祭りの推進を期待	6 件
5	地域住民との繋がり の希薄化防止	● 近隣住民との関わりを深めてほしい ● 人と人とが助け合える社会を実現してほしい ● 隣人との繋がりを築ける街づくりを期待	6 件
6	ボランティア活動の 充実	● 地域と繋がるボランティア活動への参加希望 ● ボランティアを通じたコミュニティづくり ● ボランティア活動が充実したまちだと良い	5 件
7	自治会・行政の効率 的運営	● 祭りや清掃活動費を効率化する提案 ● 地域活動への強制参加には否定的 ● 役員選出など自治会負担軽減を求む	4 件
8	持続可能な地域社会 の構築	● 人口減少社会でも人が繋がるまちづくり ● 地域の未来を考える教育システムの導入 ● 地域の知恵を活用した政策を期待	3 件
9	平等で公平な市民参 画	● 市民の意見を公平に反映した市政運営を求む	1 件

3 属性（年齢・性別）による意見の違い

（年齢による意見の違い）

- 若年層（19 歳以下）：地域のボランティア活動や繋がりを好意的に感じているが、地元行事や祭りへの積極的参加を求める傾向。
- 子育て世帯（30～49 歳）：子育て支援や若者参加の促進を重視し、地域活動における負担軽減を訴える意見が多い。
- 高齢層（50 歳以上）：自治会や地域活動の効率化のほか、多世代間の交流、そしてコミュニティの維持に対する提案がみられる。

（性別による意見の違い）

- 男性と女性による意見に大きな違いは見られませんが、女性は地域活動の効率化や柔軟性を求める意見がやや多く、男性はボランティアや繋がりへの肯定的な意見がやや多い傾向があります。

4 まとめ

（市政の方向性）

- 地域コミュニティの維持を重要視しつつ、負担軽減や効率的な運営を目指すべき。
- 若者・子育て世帯の地域参画を促し、次世代へ繋げる社会の持続可能な仕組みづくりを進める。
- シルバー人材やボランティアを活用した多世代交流を重視した政策を推進する。

（市に求められる取組）

1. 地域負担軽減策：自治会活動やイベント運営の効率化（ペーパーレス化、外部委託など）。
2. 若者と子育て世帯の支援拡充：公園整備、子育て支援や地域イベント参加促進策。
3. 多世代交流促進：高齢者の知識や技術を活用した地域活動の創設。
4. 住民との繋がり強化：人と人との関わりを形成できる、柔軟かいコミュニティ運営の提案。

11-2 情報発信、広報・広聴

1 意見の件数

いただいた意見は 48 件 でした。

2 主な意見

1	加西市の魅力の発信	● 加西市の良さを SNS で発信すべき ● 地域の文化的財産をもっと PR してほしい ● 加西市でお金を使ってもらうための広報が必要	12 件
2	若者や住民の声をとり入れる工夫	● 若者の意見をもっと集めて反映してもらいたい ● 意見交流の場を増やして欲しい ● 個別の意見をもっと取り入れてほしい	10 件
3	情報発信方法の改善	● 市政の内容をもっと分かりやすく配信して欲しい ● 広報が届かない家庭がある ● アンケート結果を公表して欲しい	9 件
4	タウンミーティングの改善	● タウンミーティングが報告の場になっている ● 記名の必要性を見直し意見を言いやすい環境にするべき ● 規模を小さくし気軽に意見交流ができる場を希望	6 件
5	市政の情報公開	● 市民が市政の方針をもっと理解できる情報を発信 ● もっと公開を進めてほしい ● 住民の意識に寄り添った行政を目指して欲しい	5 件
6	多様な人材の採用による情報発信力強化	● 広報力に長けた多様な人材を採用してほしい ● 若い世代や女性の視点を取り入れて欲しい	3 件
7	加西市の良い点を住民が自然に発信	● 住民自身が発信できる環境を作ってほしい ● 隣の芝生を比べるのではなく加西の良さを市民が広めるべき	3 件

3 属性（年齢・性別）による意見の違い

（年齢による意見の違い）

➤ 若年層（19 歳以下～29 歳）

SNS やアピール施策への関心が高く、加西市の認知度向上に注力すべきとの意見が多数。

➤ 中年層（30 歳～49 歳）

若者意見の反映や情報共有方法への改善を強調。子育て世代視点での広報改善案が目立つ。

➤ 高齢層（50 歳以上）

タウンミーティングの改善や市政方針の情報公開への意見が中心。記名意見に関する懸念が顕著。

（性別による意見の違い）

- 女性は特に住みやすさを発信する方法や子育て世代への情報発信環境整備を重視。一方で、男性は加西市の魅力を市外へ発信する施策や広報方法の効率性に関する意見に集中していました。

4 まとめ

（市政の方向性）

- 加西市の魅力を外部に発信し、多くの人々に認知してもらう取り組みが必要。
➤ 若者や住民の声に耳を傾け、市政や情報発信への反映を図る仕組みを強化するべき。

（市に求められる取組）

1. 加西市の魅力発信施策

SNS やデジタル技術を活用し、文化財や地域特産品を PR する広報活動の強化。住民にも「加西市の良さ」を自然に発信できる環境作りを促進。

2. 住民参加型情報発信プロジェクトの創設

若者や子育て世代を含む住民の意見を取り入れる仕組みを導入し、市政の透明性を向上。

3. 広報手段の見直しと改善

配信されない家庭や世代差による情報格差を埋める取り組み。また記名不要な意見交換の場やタウンミーティングの質向上なども必要。

4. 広報人材の多様化

多様な職種や経験者を広報チームに加えることで、市内外への情報発信力を強化する。

12 多様性社会

1 意見の件数

いただいた意見は 58 件 でした。

2 主な意見

1	外国人との共生・対応	● 外国籍の子が増えすぎて対応が困難 ● 外国人の犯罪への懸念 ● 外国人の増加で市の治安が悪化しないような制限を検討してほしい	12 件
2	地域の閉鎖性・排他性	● 昭和的な雰囲気や排他的な地域コミュニティを改善すべき ● 外部の人の意見をもっと取り入れるべき ● 閉鎖感を減らし若者が活躍できる町にするべき	11 件
3	多様性への配慮	● 全ての市民が平等に扱われる市政を目指してほしい ● 子供、高齢者、障害者、外国人も偏りなく支援してほしい ● みんながいきいき生活できる市を	10 件
4	高齢者や女性の活躍推進	● 各町で女性目線の意見を反映させる役員ポストを設置 ● 高齢者も活躍できる社会、まちづくりが求められる ● 若者や女性の意見をもっと聞いてほしい	8 件
5	子育て・ひとり親環境の整備	● ひとり親への支援やサービス環境をもっと整備すべき ● 若い世代が住みたいと思えるような子育て支援を進めてほしい	6 件
6	伝統行事の自由参加化	● 伝統行事の強制参加をやめるべき ● やりたくない人に無理に押し付けることで町が衰退する可能性がある ● 自由参加型の文化継承の仕組みを願う	4 件
7	言葉の壁問題	● 外国人の医療機関受診時の通訳対応を充実してほしい ● 言葉の壁があるせいで外国人にはわからないことが多すぎる ● 外国人との共生を容易にする工夫を	3 件
8	賃金格差解消	● 男女間の賃金格差を無くし、子育て中の対応が整った環境を作してほしい ● 既婚者と独身者の区別なく公平に扱われるような市を目指してほしい	2 件

3 属性（年齢・性別）による意見の違い

（年齢による意見の違い）

➤ 若年層（19 歳以下～29 歳）

閉鎖的な地域性や若者の意見を取り入れるべき、SNS や新しい仕組み導入が求められる意見が多い。

➤ 中年層（30 歳～49 歳）

子育て支援や女性の役割拡充が中心。地域コミュニティの排他性や伝統行事改革についても関心高い。

➤ 高齢層（50 歳以上）

外国人との共生問題や治安の改善、高齢者自身の活躍推進を求める意見が主体。

（性別による意見の違い）

➤ 女性は特にひとり親支援や子育て環境整備に関する要望が多い傾向。一方、男性は地域の閉鎖性問題や外国人共生における懸念事項を挙げる意見が多かった。

4 まとめ

（市政の方向性）

➤ 若者や外国人など、多様な人々が活躍できる環境を作ることが急務。特に外国人との共生を円滑にする仕組みと対応策が必要。

➤ 地域の閉鎖的な風土や古い慣習を少しずつ緩和し、新しい価値観を取り入れることで、すべての市民が暮らしやすい環境を目指す。

（市に求められる取組）

1. 外国人との共生支援

言葉の壁を越えるための通訳サービス提供、共生リソースの整備、治安維持の取り組みの強化。

2. 閉鎖的地域コミュニティの改善

地域コミュニティ改革の促進、新しい意見や仕組みを取り入れる機会の拡充。

3. 多様性の尊重と公平な市政

高齢者、女性、若者、障害者、外国人を分け隔てなく支援する政策の推進。

4. 子育て支援の充実

ひとり親家庭への拡充施策、新しい世代が住みたくなる環境整備を具体化する。

5. 伝統行事の改革

自由参加型の文化継承を目指し、負担感なく地域に貢献できる仕組み作りを検討する。

13 財政運営、施設整備

1. 意見の件数

意見は 154 件 でした。

2 主な意見

1	箱物行政批判	● 税金の無駄遣いで箱物ばかり建てるのは腹立たしい ● 新庁舎や競技場は不要、既存施設を改修すべき	42 件
2	既存施設の有効活用 要求	● 空いた校舎を介護や子育て支援施設に利用してほしい ● 閉鎖された公共施設を再利用したほうが良い	33 件
3	財政健全化・税金の透 明化	● 無駄遣いを減らし財政を健全化してほしい ● ふるさと納税を市民に還元してほしい	28 件
4	子育て支援・若者への 投資希望	● 子育て環境をもっと良くしてほしい ● 若者が加西市に戻りたいと思える町にしてほしい	21 件
5	高齢者支援充実	● 高齢者が住みやすい交通手段を整備してほしい ● 介護施設が不足している	10 件
6	医療施設への批判・提 案	● 医師不足の解消を最優先すべき ● 新病院建設の費用対効果は疑問	9 件
7	インフラ整備要望	● 街灯をもっと作ってほしい ● 災害避難所として体育館の整備を優先すべき	6 件
8	公共投資における優 先順位批判	● スポーツ施設より地域の安全性を考えて予算を使ってほしい ● 必要性を丁寧に考えた上で整備してほしい	4 件
9	意思決定プロセスの 見直し要望	● 市民の意見を吸い上げた意思決定をしてほしい	1 件

3 属性（年齢・性別）による意見の違い

（年齢による意見の違い）

➤ 若年層（～39 歳）

子育て支援や若者定住に関する意見が多く、「未来への投資」を訴える声強い傾向。

➤ 中高年層（40 歳～）

無駄な箱物建設への批判や財政健全化への関心が高い。特に「維持管理費の負担」や「税金の透明性」を求める意見が目立つ。

（性別による意見の違い）

➤ 性別の違いは特段見られませんでした。

4 まとめ

（市政の方向性）

➤ 箱物行政の見直し

市民ニーズに基づき現存施設を最大限活用し、無駄な建設を減らすことで財政健全化を図るべき。

➤ 長期的な視点で投資を計画

短期的な建設ではなく、維持管理費も含めた長期的な採算を検討する必要がある。

（市に求められる取組）

1. 市民の声を反映した意思決定プロセスの構築

アンケート結果を基に優先課題を整理し、それを議会や施策に反映する仕組みを強化。

2. 世代を超えたバランスの取れた政策の実施

子育て支援と高齢者支援の両面を大切にし、すべての世代にとって住みやすい都市づくりが求められる。

3. 財源の透明性向上

市民が納得できる税金使用の説明と定期的な報告を行い、信頼関係を構築する。

13-2 デジタル活用

1 意見の件数

いただいた意見は 32 件 でした。

2 主な意見

1	デジタル化の推進と 利便性強化	● 戸籍謄本などの証明書をコンビニ発行可能に ● 行政手続きや納税のデジタル化の推進 ● 市内での無料 Wi-Fi 化を進めてほしい	8 件
2	高齢者への配慮とデ ジタル化支援	● 高齢者世帯にわかりやすいデジタル化を ● デジタル化に対応できない高齢者を置き去りにしない策を 取り入れるべき ● 老夫婦世帯の不安を減らしてほしい	7 件
3	アナログとデジタル の共存	● アナログとデジタルの両立から進めるべき ● 紙ベースでの選択肢も検討してほしい ● デジタル化が不向きな場合は柔軟に対応してほしい	6 件
4	スマホ・アプリ対応 の見直し	● 健幸アプリや子育てアプリが使いにくい ● アプリ利用を促すスマホ機種変更推奨は負担が大きい ● もう少し気軽に簡単な取り組みにしてほしい	5 件
5	村社会や地域の仕組 みのデジタル化	● 村の放送などのアナログな仕組みをデジタル化すべき ● 地域への負担を減らしデジタル化を進めたい ● 地域の改善に市が支援をもっと行ってほしい	4 件
6	デジタル化の悪影響 に対する懸念	● 無理に進めると負担が増える世代が出る ● 現状の施策で矛盾している点を解消してほしい	2 件

3 属性（年齢・性別）による意見の違い

（年齢による意見の違い）

➤ 若年層（19 歳以下～30 歳代）

デジタル化に肯定的な意見が多く、利便性・効率性の強化を求める傾向が見られる。アプリや Wi-Fi 化などの技術活用への期待が強い。

➤ 中高年層（40～60 歳代）

高齢世代やデジタル不慣れな層への配慮を求める声が目立つ。アナログとの共存や簡易化への意見が多い。

➤ 高齢層（70 歳以上）

全てデジタル化することへの懸念や置き去りにされる不安が顕著。地域内のコミュニケーションや情報伝達方法の改善希望が強い。

（性別による意見の違い）

- 性別による意見には大きな違いは見られませんでした。ただし、一部女性回答者は子育て世代が負担を抱えないデジタル活用やアプリの使いやすさ改善に関心を示しています。

4 まとめ

（市政の方向性）

- デジタル化を推進する一方で、市民一人ひとりが利便性を享受できる包括的な取り組みが必要。デジタル化が進む中で影響を受ける世代に配慮し、柔軟な施策を導入することで、若者から高齢者までが住みやすい環境を実現できる。

（市に求められる取組）

1. 行政サービスのデジタル化推進と簡易化

戸籍謄本や納税手続きのデジタル対応を早急に進める。また、簡単で効率的なシステム設計を取り入れ、特定層へのデジタル化負担を軽減する。

2. アナログとデジタルの共存モデルの構築

高齢者やデジタル不慣れ層が利用可能なアナログ対応と、若年層に向けたデジタル施策を並行して運用する仕組みを設計する。

3. 地域改善のデジタル化支援

村社会や地域の情報伝達方法にデジタル技術を活用し、地域負担を減らしつつ効率的な運営体制を構築する。

4. 高齢者への支援強化

高齢者向けの研修やサポート体制を充実させ、デジタル化への適応を促進する。置き去りになっている層への対応は重要課題として継続的に検討する。

99 その他

1 意見の件数

いただいた意見は 82 件 でした。

2 主な意見

1	定住促進と若者・人口増への取り組み	● 若者が加西に帰ってくれる市に ● 外部からの人口流入が必要 ● 次世代が住みたいと思う街づくり	18 件
2	市政の透明性・議会の改革	● 市議会議員の数を減らすべき ● 公務員としての資質に疑問 ● 議員給与の見直しが必要	16 件
3	暮らしやすさ・安心の向上	● 誰もが安心して暮らせるまち ● 住民に負担をかけない行政 ● 穏やかに暮らせる環境であってほしい	14 件
4	子育て世代への配慮と支援	● 子育て支援に感謝 ● 子供たちが喜ぶ施策を ● 電気代や物価への支援が必要	12 件
5	地域活性化と魅力発信	● 加西市の魅力を伝える努力を ● 大きな起爆剤的取り組みが必要 ● 田舎の良さを生かし新しい価値を生むまちづくり	8 件
6	市役所や議員の対応改善	● 市職員の接遇改善が必要 ● 市民に迅速な対応を ● お役所仕事にしないように	7 件
7	過度な物価上昇への対応	● 物価高騰による公共料金への助成 ● ガソリン料金の支援が必要 ● 経済的負担を軽減してほしい	5 件
8	シニアや弱者への配慮	● アンケート字が小さくて読めない ● 高齢問題への配慮	2 件

3 属性（性別、年齢）による意見の違い

（年齢による意見の違い）

➤ 若年層（19 歳以下～30 歳代）

若者や子育て世代が暮らしやすい街を求める意見が多く、次世代への関心が強い。定住や地域活性化への期待が顕著。

➤ 中高年層（40～60 歳代）

議会改革や公務員の資質に疑問を持ち、行政の効率性と住民への公平性の向上を求める声が見られる。

➤ 高齢層（70 歳以上）

暮らしやすさや安心できる環境の維持を要望。シニア世代への配慮を求める意見が一部で見られる。

（性別による意見の違い）

➤ 性別による意見には大きな違いは見られませんでした。アンケートにおいて女性は子育て支援・暮らしやすさに関する具体的な提案を行う傾向が見られました。

4 まとめ

（市政の方向性）

➤ 加西市が持続的に発展するためには、人口増を可能にする魅力的で安心な街づくりが必要。また、議員や職員が市民の声に真摯に向き合い、市政の透明性や市民サービスの向上を図るべき。定住促進が街の活力を支える重要な要素となる。

（市に求められる取組）

1. 若者定住促進策

若者や子育て世代が「帰りたい」「住みたい」と思える環境整備を行い、人口増加と地域活性につなげる。

2. 市政改革と透明性

議員数や給与、職員の対応の質など、公務運営の効率化と改善を通じ、市民の声をより反映する市政を目指す。

3. 暮らしの安心確保

暮らしに負担をかけない行政を進めるとともに、経済的支援を通して物価上昇への対応を行う。

4. 市の魅力の発信と支援強化

地域資源を最大限に生かし、定住者や移住者が誇れる街となるような施策を拡充する。